令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

医療福祉分野における専門学校と高等学校の先端技術を活用した
キャリア教育連携プログラムの開発に関する実証研究事業

事業成果報告書

令和８年３月

学校法人智帆学園
琉球リハビリテーション学院

目次

１．事業の取り組み内容 2
1.1. 事業の趣旨・目的 2
1.2. 学習ターゲット・めざす人材像 2
1.3. 事業の実施体制 3
1.3.1 構成機関 3
1.3.2 実施委員会 4
1.3.3 分科会 4
1.3.4 コーディネータ 4
1.3.5 事務局 4
1.4. 高専連携による実証講座の実施体制 4
1.4.1.実証講座を実施した高等学校・学科 4
1.4.2. 高専連携による実証講座の進め方 5
1.5. 開発した教育プログラムの概要 7
1.6. 計画の全体像 9
２．今年度における開発報告 12
2.1. カリキュラム設計 12
2.2. 教材開発 14
2.3. 高専連携基盤システムの整備・運用 19
3. 今年度における高専連携授業の実施概要 20
3.1. 陽明高等学校（総合学科） 21
3.2. 中部農林高等学校（福祉科） 25
3.3. 沖縄県立嘉手納高等学校（総合学科） 29
3.4. 東北高等学校（普通科） 31
3.5. 琉球リハビリテーション学院 35
3.6. 実証講座の成果（生徒の受け止め） 38
４．次年度の実施計画 38
５．今年度の取り組みまとめ 39
巻末資料 40

１．事業の取り組み内容

1.1. 事業の趣旨・目的

本事業では高等学校総合学科・福祉科などと連携して、高等学校３年間と専門学校作業療法学科３年間、計６年間の一貫型教育プログラムの開発と実証を推進する。

進路選択の段階で職種に関する最低限の理解は必要不可欠だが、リハビリテーション専門職に関しては高校生が日常的に接する機会が少ないこともあり、その認識が十分とは言い難いのが現状である。職業・職種への理解を深めることは、適切な進路選択に有効であり、入学後の目標設定や学習成果、成長につながっていく。

また、リハビリテーションの専門性に関しても入学時点で一定の認識が必要である。養成課程での学習内容の一部は高等学校での学びを土台としており、生徒がそれを認識してしっかりと学習することができていれば、入学後の専門的な学習は加速的に促進されていく。

そこで本事業では、専門学校と高等学校が連携し、適切な進路選択のためのキャリア教育を高校生に対して実施する。さらに医療福祉分野への進学を希望する生徒に当該分野の基礎的な職業教育を実施し、専門学校進学後は専門性の向上や国家資格取得のフォローアップなど継続的に支援する。この一貫型職業教育プログラムを沖縄県・宮城県で実施することで広域展開の実効性を実証し、各地域に貢献できる医療分野の専門職業人の育成を図ることを目的とする。

1.2. 学習ターゲット・めざす人材像

本事業で開発する一貫型教育プログラムの対象者は、高等学校（総合学科・福祉科など）及び専門学校（作業療法士養成課程）の生徒である。

６年間の教育を通してめざす人材像は、リハビリテーション実践力、対人援助実践力、人間関係力や自己管理力等の基礎的・汎用的な能力を備えた専門職業人である。

1.3. 事業の実施体制

1.3.1 構成機関

本事業に参画している構成機関は以下の通りである。

図表 0-1　構成機関

	名称	所在地
高等学校	沖縄県立中部農林高等学校	沖縄県
	沖縄県立真和志高等学校	沖縄県
	沖縄県立嘉手納高等学校	沖縄県
	沖縄県立陽明高等学校	沖縄県
	宮城県立登米総合産業高等学校	宮城県
	学校法人南光学園東北高等学校	宮城県
	沖縄県立南風原高等学校	沖縄県
	沖縄県立中部商業高等学校	沖縄県
	沖縄県立名護高等学校	沖縄県
	沖縄県立宜野座高等学校	沖縄県
	沖縄県立与勝高等学校	沖縄県
行政機関	沖縄県教育庁沖縄県教育委員会	沖縄県
	宮城県教育庁宮城県教育委員会	宮城県
専門学校	学校法人智帆学園琉球リハビリテーション学院	沖縄県
	学校法人仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校	宮城県
	学校法人敬心学園職業教育研究開発センター	東京都
企業等	株式会社　らそうむ	福岡県
	KIN スポーツ整形クリニック	沖縄県
	ごきげんリハビリクリニック	沖縄県
	発達支援センターぎんばるの海	沖縄県

1.3.2 実施委員会

琉球リハビリテーション学院を代表機関とする実施委員会を組織した。実施委員会は本事業の推進機関として、一貫型職業教育プログラムの開発・実証に関わる計画立案や重要事項の意思決定などを行った。また、実施委員会の下部組織として設置した分科会の活動進捗や成果などについて評価し、助言なども行った。

1.3.3 分科会

一貫型職業教育プログラムの開発及び実証に関わる実務を遂行する組織として、連携する高等学校の学科別に分科会を設置した。具体的には、「福祉科分科会」「総合学科分科会」「普通科分科会」の３つを編成し、各分科会において、学科それぞれに応じた高専連携による職業教育プログラムの開発と実証について検討し実施した。また、活動の進捗や成果などについては実施委員会にて報告し改善等を図ることとした。

1.3.4 コーディネータ

コーディネータは全体調整、進捗管理、体制構築、効果検証、高等学校と専門学校、教育委員会等の橋渡し、広報を担当した。

1.3.5 事務局

実施委員会・各分科会の開催、運営や事業実施全般に係る事務的な業務及び連絡調整等の業務を担当した。

1.4. 高専連携による実証講座の実施体制

1.4.1.実証講座を実施した高等学校・学科

本事業では、琉球リハビリテーション学院と仙台リハビリテーション専門学校が地域（沖縄県・宮城県）の高等学校と連携し、職業キャリア教育の実証講座を実施した。専門学校は、各高等学校のカリキュラムや教育ニーズに応じたオリジナルのカリキュラムを編成し、各高等学校の教員の協力・支援の下で授業を実施した。

以下に、今年度において専門学校と連携し実証講座を実施した高等学校を一覧で示す。

図表 0-2　実証講座を実施した高等学校・学科および専門学校

沖縄県	沖縄県立陽明高等学校　総合学科 沖縄県立中部農林高等学校　福祉科 沖縄県立嘉手納高等学校　総合学科 専門学校　琉球リハビリテーション学園
宮城県	学校法人南光学園東北高等学校（泉キャンパス）　総合コース

今年度は、高等学校 1～3 年生および専門学校 1 ～ 2 年生を対象とする実証講座の実施を主たる活動とした。

なお、沖縄県の高等学校に対する実証講座は、琉球リハビリテーション学院が各高等学校の教員と協力し合いながら共に担当した。一部の講座については、学習テーマを専門とする職業人などを招いて実施した。

宮城県の東北高等学校での実証講座は、仙台リハビリテーション専門学校と琉球リハビリテーション学院が各高等学校の教員と共に講師を担当して実施した。

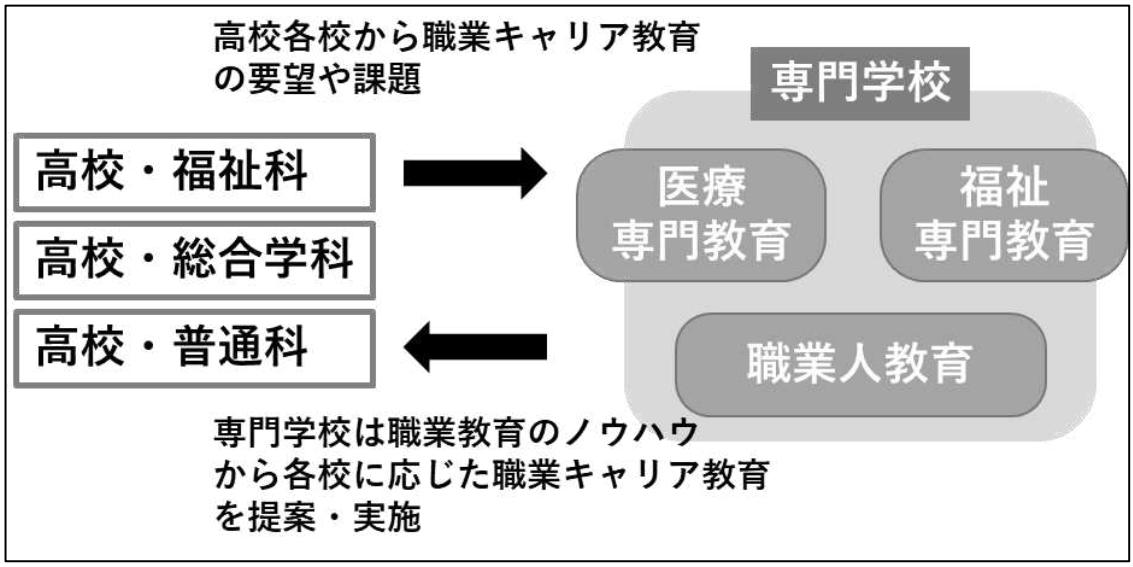
1.4.2. 高専連携による実証講座の進め方

実施委員会の意思決定の下、高専連携による実証講座の実施は、以下の手順・方法を基本として実務的に進めていった。

○ 琉球リハビリテーション学院、仙台リハビリテーション専門学校の教員が、担当となる高等学校に訪問し、高等学校サイドの要望や課題などを聴取。専門学校が提供可能な教育内容などを説明。
○ 聴取した内容に基づき、学内担当メンバーが協議し、実証講座のテーマやカリキュラムを策定。
○ 高等学校に対して提案の内容について説明し協議。
○ 高等学校との協議内容を持ち帰り、学内にて、各校の要望や状況に応じた改善案の検討・策定。
○ 再度、高等学校に対して改善案を説明し協議の上、決定。
○ 実証講座の実施日程、担当講師等の調整。
○ 実証講座の実施。

○　実証講座の実施結果を評価・検証し、内容・実施方法等の見直し。

図表 0-3　高専連携の進め方



各回の実証講座について、上記の手順を各校と繰り返し行い、高等学校の要望に沿ったカリキュラムの提供を図ることとした。

各高等学校と専門学校教員による個別協議などにて、高等学校のそれぞれの教育現場の実状や要望などを詳らかに把握することは、効果的で高い実効性のある高専連携教育の実現には不可欠の要件となる。

本事業で連携した高等学校は、総合学科、福祉科、普通科だが、学科それぞれに応じた教育目標やカリキュラムが設定されており、各校に対応した講座の調整が必要となるからである。

また、これら一連の個別ヒアリングの実施は、高等学校の教員と専門学校の教員の相互理解という意味でも重要な意味をもつ。個別ヒアリングは、各回の実証講座について繰り返し行われることがあり、双方にとって時間的にも労力的にも負担は大きい。しかしながら、こうした協議を重ねることで互いの理解が深まり、結果として高等学校側も明確な要望を提示できたり、専門学校側も実状に応じた提案ができたりするようになっていったことの意義は大きい。

今年度のこうした関わりで構築された関係性や蓄積された知見・ノウハウはたいへん貴重な資産であり、これをベースとして次年度以降の高専連携教育をさらに発展させていく考えである。

1.5. 開発した教育プログラムの概要

本事業では、高等学校 3 年間と専門学校 3 年間（作業療法士養成課程)、計 6 年間の「高等学校・専門学校の連携による医療分野の一貫型教育プログラム」を開発すると共に、高専連携教育を支援する基盤システムを整備・運用する。

以下、それぞれの概要について説明する。

■高専連携による一貫型職業教育プログラム

高等学校では、様々な職業や社会の動きなど職業キャリアの基礎について、先端技術を活用した疑似体験や職業人による講話、企業・施設等訪問などを通して学習する。様々な職業では、医療福祉だけでなく、高等学校の要望等を踏まえて幅広く、多様な分野を対象とする。その際、当該分野の専門学校の協力を得るなどしてプログラムを実施する。

また、社会人としての心構えや態度といった基礎的能力や基礎学力を育む内容も取り入れる。

医療福祉分野への進路を望む生徒に対しては、当該分野の基礎知識や専門職について学習するプログラムを実施する。

専門学校（作業療法士養成課程）進学後は、養成課程内外にて、専門的なキャリア教育および他学年との協働学習、国家試験のフォローアップなどを実施していく。

■高等学校 3 年間のカリキュラム全体像

高等学校 3 年間の学習内容を以下に示す。

事業としては 4 年目となる今年度は、1～3 年生を対象とする教育プログラムを開発し、それらを実証講座として実施した。

下表の内容は、今年度までと同様に各高校などと協議を継続し、事業期間終了後の実施も見据え、必要に応じて追加や修正などを行っていく。

図表 0-4　高等学校 3 年間のカリキュラム全体像

学年	主な学習内容
１年生	分野共通の職業キャリア（職業・社会に関する学習） 〇コミュニケーション・マナー

	○社会の現状・課題（超高齢化社会、Society5.0、現代社会と健康など） ○職業人講話・企業訪問（様々な企業・組織等） ○上級学校による講座（様々な専門分野） ○金銭教育 ○先端技術を活用した職業の疑似体験 医療分野の職業キャリア（福祉科） ○医療福祉分野の専門職 ○リハビリ専門職 ○介護技術　など
2年生	○医療分野の専門基礎知識と実技 ○福祉分野の専門基礎知識と実技 ○リハビリ専門職の専門基礎知識と実技 ○作業療法の体験 ○施設見学　など
3年生	○医療分野の専門基礎知識と実技 ○作業療法士の専門基礎知識と実技 ○作業療法の基礎知識と実技 ○施設見学 ○職場体験　など

■専門学校 3 年間のカリキュラム全体像

専門学校 3 年間の学習内容は、今年度において高等学校の教員や就職先となり得る企業へのアンケートや意見交換会などの実施を通して設計した。次年度以降も継続的に協議し、実証講座を実施しながらブラッシュアップを行う予定である。

図表 0-5　専門学校 3 年間のカリキュラムの全体像

学年	主な学習内容
1年生	○作業療法に関するキャリア教育（基礎） 作業療法士におけるキャリア、作業療法士へのインタビュー等 ○協働学習（基礎） 作業療法に関連した内容での協働学習（1，2年生合同）
2年生	○作業療法に関するキャリア教育（発展①）

	作業療法士におけるキャリア、作業療法士との意見交換等 〇協働学習（発展①） 作業療法に関連した内容での協働学習（１，２年生合同）
３年生	〇作業療法に関するキャリア教育（発展②） 作業療法士におけるキャリア、作業療法士の経営者との関わり 〇協働学習（発展②） 現役作業療法士との協働学習

1.6. 計画の全体像

以下に本事業計画の全体像を示す。専門学校の対象学科（作業療法士養成課程）が３年課程のため事業活動は令和９年度までを想定している。

図表 0-6　計画の全体像

年度	取り組み内容
令和３年度	１．事業実施体制の構築 〇実施委員会・分科会の組織化・開催 ２．職業教育に関する調査の実施 〇高等学校生徒対象調査　〇高等学校教員対象調査 ３．一貫型教育プログラムの開発 〇カリキュラム設計　〇高等学校１年生対象の教材開発 ４．高専連携基盤システム構築 ５．実証講座の実施準備 〇プレ実証の実施 〇実証講座実施計画 ６．事業成果の公開
令和４年度	１．実施委員会・分科会の開催 ２．一貫型教育プログラムの開発 〇カリキュラム設計 〇高等学校２年生対象の教材開発 〇高等学校１年生対象教材の改訂 ３．高専連携基盤システム構築・運用 ４．実証講座の実施（高等学校１年生対象） 〇連携体制整備・準備　〇実施 〇実施結果の評価・検証　〇次年度実施計画

	○プレ実証の実施（高等学校 2・3 年生対象） 5．事業成果の公開
令和 5 年度	1．実施委員会・分科会の開催 2．一貫型教育プログラムの開発 ○カリキュラム設計 ○高等学校 3 年生対象の教材開発 ○高等学校 2 年生対象教材の改訂 3．高専連携基盤システム構築・運用 4．実証講座の実施（高等学校 1・2 年生対象） ○連携体制整備・準備　○実施 ○実施結果の評価・検証　○次年度実施計画 ○プレ実証の実施（高等学校 3 年生対象） 5．事業成果の公開
令和 6 年度	1．実施委員会・分科会の開催 2．一貫型教育プログラムの開発 ○カリキュラム設計 ○専門学校 1 年生対象の教材開発 ○高等学校 1～3 年生対象教材の改訂 3．高専連携基盤システム構築・運用 4．実証講座の実施（高等学校 1 ～ 3 年生対象） ○連携体制整備・準備　○実施 ○実施結果の評価・検証　○次年度実施計画 5．事業成果の公開
令和 7 年度	1．実施委員会・分科会の開催 2．一貫型教育プログラムの開発 ○カリキュラム設計 ○高等学校段階対象教材の改訂 ○専門学校 2 年生対象の教材開発 ○専門学校 1 年生対象教材の改訂 3．高専連携基盤システム構築・運用 4．実証講座の実施（高等学校 1 ～ 3 年生、専門学校 1 ～ 2 年生対象） ○連携体制整備・準備　○実施 ○実施結果の評価・検証　○次年度実施計画 5．事業成果の公開
令和 8 年度	1．実施委員会・分科会の開催

	２．一貫型教育プログラムの開発 〇カリキュラム設計 〇専門学校生対象の教材改訂・追加開発 〇専門学校２年生対象教材の改訂 ３．高専連携基盤システム構築・運用 ４．実証講座の実施（高等学校１～３年生、専門学校１～３年生対象） 〇連携体制整備・準備　　〇実施 〇実施結果の評価・検証　　〇次年度実施計画 ５．事業成果の公開
令和９年度	１．実施委員会・分科会の開催 ２．一貫型教育プログラムの開発 〇教材の改訂 ３．高専連携基盤システム構築・運用 ４．実証講座の実施 ５．事業成果の公開

２．今年度における開発報告

2.1. カリキュラム設計

これまでの取り組みで策定してきた各高校での実施事項を整理し、事業終了後において、継続した協議や他校への展開を図る際の提示資料としての活用を想定し、高校の学科ごとに分類し、合計４つのカリキュラムを作成した。

「福祉系学科校」「総合学科校」「普通科校」「その他」の４つである。

以下にて、開発したカリキュラムの例を提示する。詳しくは付録で紹介する。

図表 2.1-1　高校段階カリキュラム　福祉系学科校

福祉系学科校　連携授業カリキュラム案　（実証講座実績をもとに作成）

実施対象科目		実施形式	チームティーチング形式
実施対象学年	1年生／2年生／3年生	実施場所	各高校、琉球リハビリテーション学院、関連施設
到達目標	本カリキュラムは、高校段階において設定されている学年／科目／単元ごとの到達目標に沿い、その達成に向けた外部専門機関としての支援を行うことを想定している。高校段階全体としては、学年の進行に応じて以下のような学びの段階をイメージしている。 **1年生段階**：分野共通的な基礎理解を通して、福祉・医療・リハビリ分野への関心を高め、職業キャリア意識の形成を図る。 **2年生段階**：医療・福祉・リハビリ分野における専門職の役割や支援の視点を学び、基礎知識・基礎技能の定着と向上を図る。 **3年生段階**：学んだ知識・技能を応用し、実習や演習を通して実践力を高めるとともに、進路選択につなげる。 なお、キャリア教育や職業理解に関する内容については、全学年を通して横断的に実施することを想定し、各学校の教育課程に応じて柔軟に位置づけるものとする。		

主な連携授業の実施例

※学年や学校の実情に応じて調整可

No.	対象学年	科目	テーマ	授業の概要	主な実施時期	実施コマ数
1	1年生	コミュニケーション技法	対人関係の基礎となるコミュニケーションの理解	・コミュニケーション	5月	2コマ想定
2	1年生	介護福祉基礎	介護福祉の基礎としての コミュニケーションと リハビリテーションの理解	・リハビリテーション(OT/PT) ・リハビリテーションの技法 ・コミュニケーション(SSTなど) ・障害者の生活支援とリハビリテーション（作業療法）	7月～11月	各2コマ想定
3	1年生	コミュニケーション技法	対人援助に活かすコミュニケーション技法の活用	・SSTなどのコミュニケーションスキル ・作業活動を用いたコミュニケーション	7月～12月	各2コマ想定
4	1年生	社会福祉基礎	医療・介護福祉施設の役割としくみの理解	・医療・介護福祉施設について	9月	2コマ想定
5	1年生	生活支援技術	生活支援における作業療法・理学療法の視点の理解	・福祉用具について ・リハビリテーション ・障害者の生活支援と作業療法 ・作業療法（体験学習希望） ・作業療法・PTの視点からみた介護 ・作業療法（コミュニケーション技術） ・PT視点からの介護技術（生活支援技術）	10月～12月	各2コマ想定
6	1年生	職業理解	福祉・保健・医療分野における職業理解	・職業理解について①②　福祉・保健・医療関係職についての概要	10月～12月	各2コマ想定
7	2年生	社会福祉基礎	福祉現場における多職種連携の考え方の理解	・多職種連携について	5月	2コマ想定
8	2年生	介護実習	介護実習に必要な対人援助コミュニケーションの活用	・対人援助職に求められるコミュニケーション技法	5月～7月	3コマ想定
9	2年生	介護総合演習	介護実習に向けた身体理解・介助技術・専門職理解の基礎	・実習対策　～人のからだについて～ ・移動介助について（車いす・杖） ・リハビリ関係の専門職(連絡講話含む)	9月～12月	各2コマ想定
10	2年生	社会福祉基礎	福祉分野における専門職理解と多職種連携の理解	・リハビリ関係の専門職（連絡講話含む） ・多職種連携について ・リハビリテーション技法紹介（アロマ）	9月～12月	各2コマ想定
11	2年生	生活支援技術	対象者理解とリハビリテーション技法の実践	・ビジョントレーニングについて ・ユグトレについて ・対象者の理解（事前学習） ・リハビリテーション技法（デジリハ） ・施設見学　＊ ・施設見学振り返り・発表	7月～12月	各2コマ想定 ＊施設見学は5コマ想定
12	2年生	介護実習	介護現場におけるアセスメントの基礎	・介護現場（現場実習時）におけるアセスメント	11月	2コマ想定
13	2年生	コミュニケーション理解	自己理解・他者理解を通したコミュニケーションスキル	・コミュニケーションスキルとしての自己理解・他者理解	11月	2コマ想定
14	3年生	キャリア教育	多様な働き方と将来のキャリアを考える	・さまざまな働き方	7月	1コマ想定
15	3年生	生活支援技術	障害者支援における福祉用具とリハビリテーションの活用	・障害者の生活支援とリハビリテーション ・専門職の視点から見た介護支援技術 ・福祉用具と福祉のIT化について ・福祉用具とリハビリ（PT/OT）	9月～11月	各2コマ想定
16	3年生	生活支援と技術	医療・福祉現場における仕事と他職種理解	・医療福祉現場の仕事(他職種理解)	9月、10月	8コマ想定
17	3年生	介護実習	実習現場で求められる対人援助コミュニケーションの実践	・対人援助職に求められるコミュニケーション技法①②③	9月、10月	各2コマ想定
18	1、2年生	キャリア教育	働くことと生活を支えるお金の基礎知識	・労働と生活費に関する話	7月	1コマ想定
19	全学年	キャリア教育	医療・福祉現場の仕事と専門職の役割の理解	・医療福祉現場の職業紹介	7月	1コマ想定

また、今年度から実証講座を開始した専門学校 1 年生用のカリキュラムについては、「キャリア教育」と「協働学習」の 2 項目であり、それぞれ実証講座の実施とともに調整をおこなった。

以下に、「協働学習」のカリキュラムを提示する。キャリア教育については、付録にて紹介する。

図表 2.1-2　専門学校段階カリキュラム　「協働学習」

年度・期	2025度　前期
学科・学年	作業療法学科　1年生
科目名	協働学習
担当	
単位数	

●学習目標
2年生は1年生を教え・育てる力を身につけ、1年生は聞く力を身に付け基礎知識を教わる。また、医療人として必要な他職種連携の基礎・そして患者様との関わり方の基礎となるコミュニケーション能力を獲得する。

●学習方略（講義計画）	
（第1回）	オリエンテーション①
（第2回）	オリエンテーション②
（第3回）	協同制作①
（第4回）	協同制作②
（第5回）	新入生歓迎大会①
（第6回）	新入生歓迎大会②
（第7回）	カルタ①（骨）
（第8回）	カルタ②（筋）
（第9回）	骨学① 口頭試問対策
（第10回）	骨学②口頭試問対策
（第11回）	評価学練習①～関節可動域測定・バイタル測定・形態測定～
（第12回）	評価学練習②～関節可動域測定・バイタル測定・形態測定～
（第13回）	評価学練習③～徒手筋力検査・上肢機能検査・腱反射～
（第14回）	評価学練習②～徒手筋力検査・上肢機能検査・腱反射～
（第15回）	まとめ

2.2. 教材開発

今年度の教材開発については、令和 4 年度から実施している高校での実証講座で活用した教材の整理･改訂と次年度の専門学校 1～2 年生用の実証講座にて活用する予定の教材の新規開発である。以下に、それぞれの開発概要などを記す。

2.2.1. 高等学校１～３年生対象教材の整理・改訂

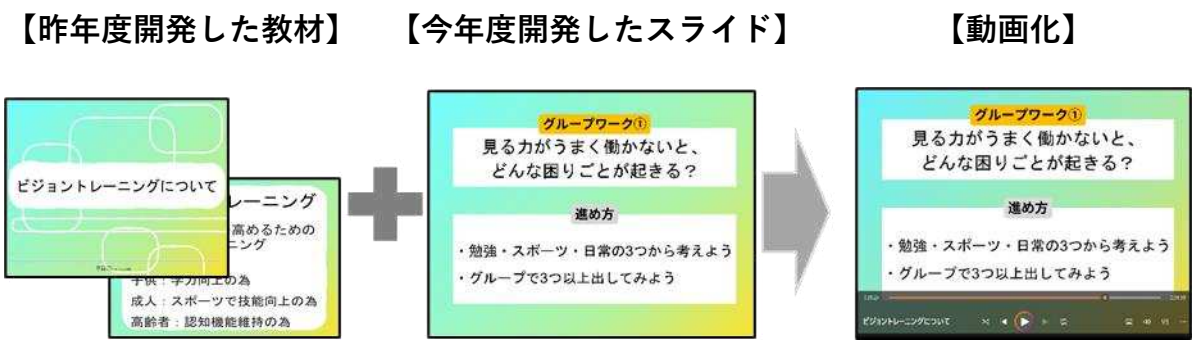
これまでの実証講座および令和 7 年度の実証講座をもとに高等学校段階における教材について評価を行い、整理や改訂などを行った。

各高校や学院内の担当者の意見などを基に、改訂を順次実施してきた。高校教員のアンケート結果から、体験やグループワークのスライド追加に関した希望があり、追加開発として体験やグループワークのスライドを追加開発し、そのうえで動画化を行った。

追加対象の教材は、これまで各高校で実施してきた実証講座の中でも比較的需要度が高く、事業終了後も活用が見込まれる 6 教材である。追加開発したスライドは合計１８スライドである。

以下に、整理した高校段階の教材の一部と動画化した教材の例を提示する。

図表 2.2.1.-1　高校段階活用教材の例



2.2.2. 専門学校１年生対象の教材開発

今年度は、昨年度に開発した「キャリア教育」におけるワークシートの追加および「協働学習」の演習版と指導ガイドの開発を行った。

「キャリア教育」のワークシートについては、実際に実証講座を実施する中で、教員が追加で作成した資料をもとに開発を行った。

以下が、追加開発したワークシートである。

図表 2.2.2.-1　追加開発した専門学校１年生用教材「キャリア教育」の例



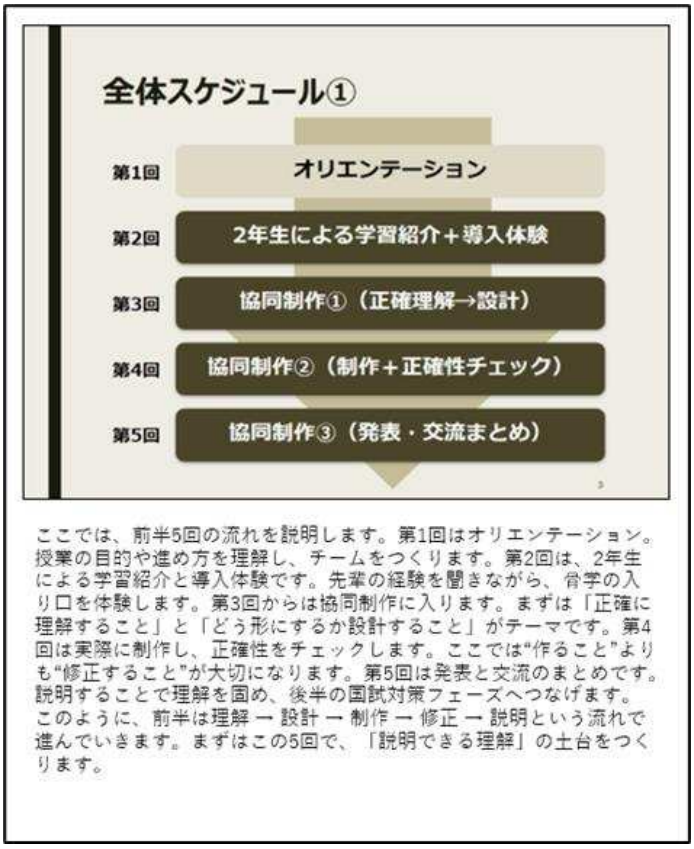
「協働学習」は、全１０回で構成され、講座で活用する演習用スライドを１４８ページ、講師が実際に講座を進めていく際のガイドとなる指導ガイドを３６ページ開発した。

また、演習用スライドについては、授業時での活用なども想定して、ノート部分にナレーションの原稿を追加し、動画化も行った。

次項に、開発した教材の一部を紹介する。教材全体については、付録にて紹介する。

図表 2.2.2.-2　開発した専門学校 1 年生用教材「協働学習」の例

【演習用】



【指導ガイド】



【動画】



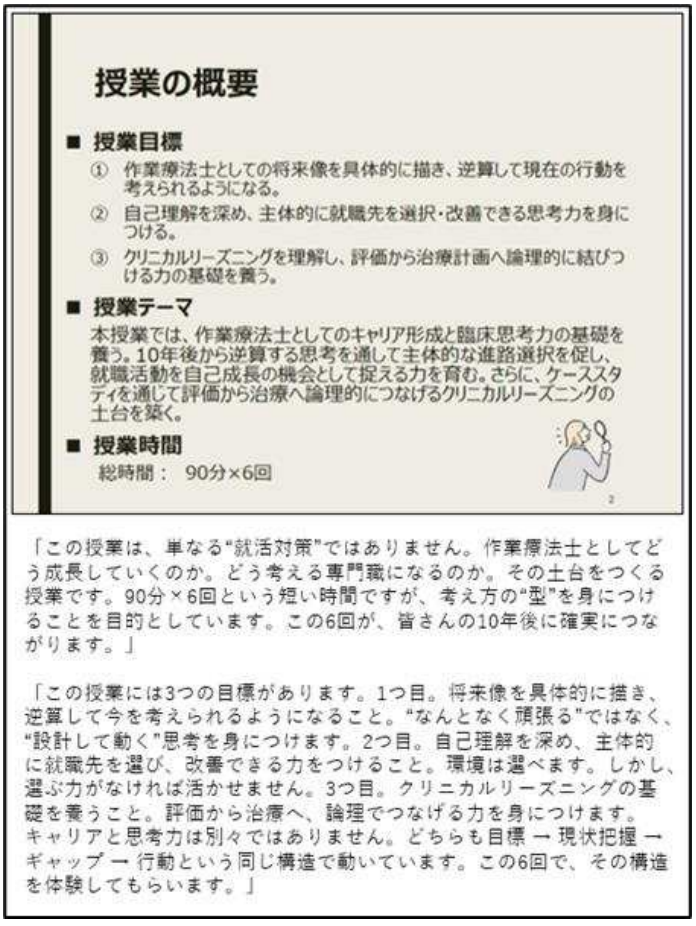
2.2.3. 専門学校 2 年生対象の教材開発

令和８年度に２年生となる学生を対象とした「キャリア教育」と「国家試験に向けた学習方法の基礎」の２教材を開発した。

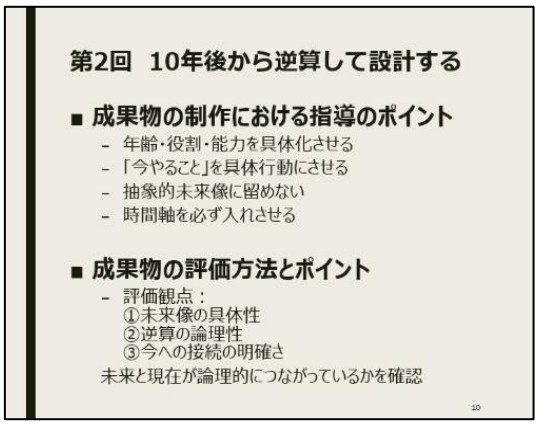
「キャリア教育」は、今年度に実施した実証講座で行った内容を基に全６回構成で開発を行った。演習用スライドとして８０ページ、講師が実際に講座を進めていく際のガイドとして指導ガイドを２３ページ開発した。また、演習用スライドについては、1 年生用の教材と同様にノート部分にナレーションの原稿を追加し、動画化も行った。

「国家試験に向けた学習方法の基礎」については、現場教員からのこれまでの指導経験などをもとに構成した。スライドは２８ページである。こちらも動画化した。以下に、開発した教材の一部を紹介する。教材全体については、付録にて紹介する

図表 2.2.3.-1　専門学校 2 年生用教材「キャリア教育」の例



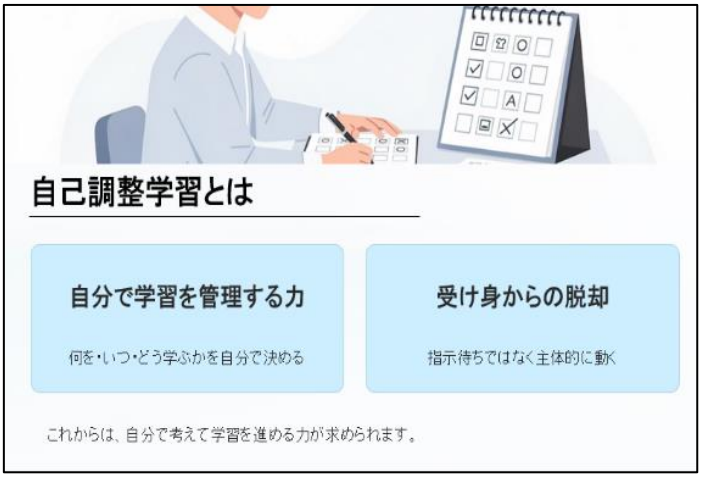
【指導ガイド】　　【動画】





図表 2.2.3.-2　専門学校 2 年生用教材「国家試験に向けた学習方法の基礎」例

【スライド】



【動画】



2.3. 高専連携基盤システムの整備・運用

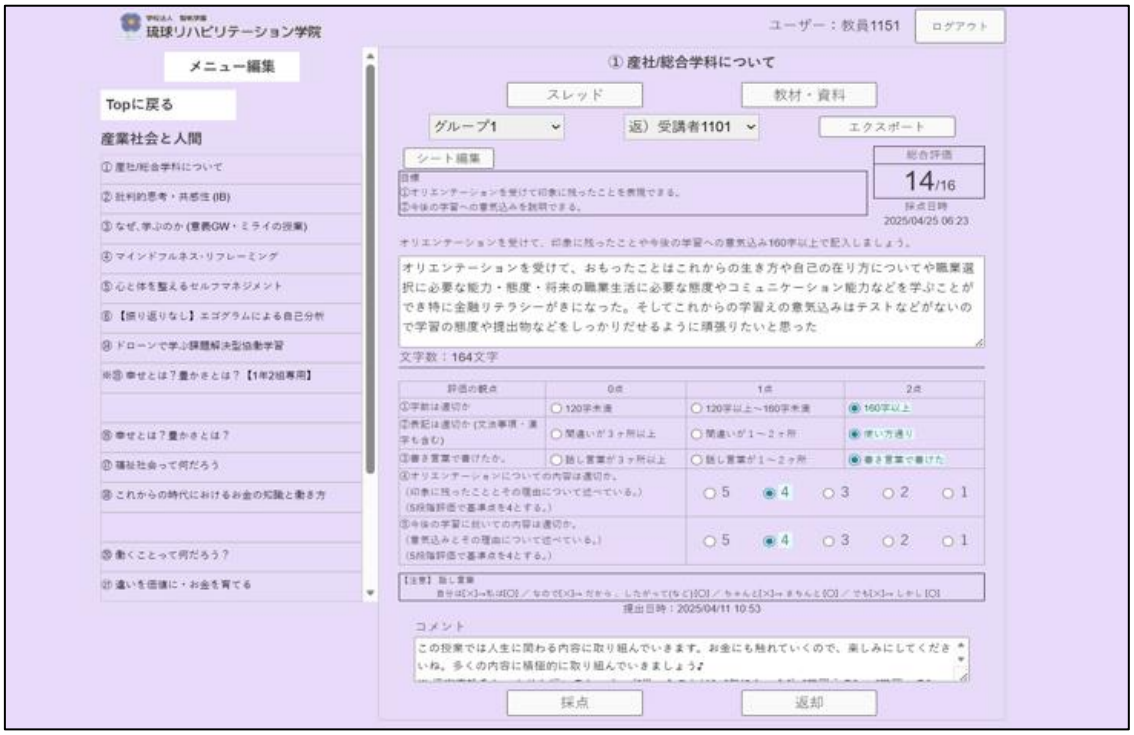
昨年度までに構築した基盤システムについての機能追加や運用を継続して行った。事業期間外の４月からも含めて１５単元の合計７０コマにて活用された。

今年度は、県立陽明高校１年生対象の科目「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」での実証講座にて、令和７年４月から令和８年１月末の期間において配布資料の共有や、振り返りシートの記入・提出、グループワークの支援機能を活用した。

具体的には、メニュー・目標・振り返りシート説明・評価項目を高校教員側にて随時編集可能とする追加機能である。学校現場における急な変更などにも対応可能とすることが目的である。その結果、活用した現場教員からは、昨年度以上にスムーズにかつようでき、より効果的な授業運営が実現できたとの評価を得た。

以下に、構築したシステムの画面を提示する。

図表 2.3　高専連携基盤システム画面



3. 今年度における高専連携授業の実施概要

実証講座の実施については、これまで通り、沖縄県と宮城県の高等学校の生徒を対象に実施した。

沖縄県では、総合学科、福祉科、普通科の高校１年生～３年生を対象に、本校が各高等学校の教員と連携して講座を実施した。その一部については、本学院の関連施設などの協力を得ながら行った。

宮城県では、昨年度までと同様の形式で実施した。普通科の高等学校を対象に、仙台リハビリテーション専門学校と東北高校、本校の教員が連携して講座を実施した。

以下に、今年度実証講座を実施した高等学校、学年、合計コマ数を提示する。

図表 3　実証講座を実施した高等学校の一覧

高/専	所在地	高等学校名	学年	合計コマ数
高校	沖縄県	沖縄県立陽明高等学校　総合学科	1～3 年生	94
		沖縄県立中部農林高等学校　福祉科	1～3 年生	34
		沖縄県立嘉手納高等学校　総合学科	1～3 年生	21
	宮城県	学校法人南光学園東北高等学校（泉キャンパス）総合コース	1～3 年生	24
専門学校	沖縄県	琉球リハビリテーション学院	1～2 年生	24
			合計	197

3.1. 陽明高等学校（総合学科）

陽明高校では、高校 1 年生は「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」にて実施し、2 年生では、「スポーツトレーニング」、「スポーツ健康学科」「社会福祉基礎」にて実施した。3 年生では「こころとからだの理解」、「スポーツＶ」「介護入門」「介護総合演習」において授業を実施した。

実証講座は合計 94 コマである。

以下は、陽明高校において今年度に実施した学年ごとの実施スケジュールや授業時の様子、アンケート結果の一部である。

図表 3.1.-1　陽明高等学校（1 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	総合的な探求の時間	コミュニケーション	4 月	2
2		マナー講座	6 月	2
3	産業社会と人間	科目選択に向けて①（ガイダンス室紹介／職業の業種を知る）	5 月	6
4		心と体を整えるセルフマネジメント	5 月	12
5		福祉社会って何だろう？	10 月	12
			合計	34

※6 クラスすべてに実施。

図表 3.1.-2　陽明高等学校（2 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	スポーツトレーニング	トレーニングについて	4 月	2
2		トレーニングの実際	5 月	2
3		トレーニングの実技紹介	6 月	2
4		サプリメントとトレーニング	7 月	2
5		研究の方法について	9 月	2
6		研究発表	10 月	2
7	スポーツ健康	熱中症	5 月	2

8	科学	障害（パラ）スポーツについて	7 月	2
9		メンタルトレーニング①	11 月	1
10		メンタルトレーニング②	11 月	1
11	社会福祉基礎	コミュニケーションについて	4 月	2
12		アントレプレナーシップ	11 月～2 月	16
			合計	36

図表 3.1.-3　陽明高等学校（3 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	こころとからだの理解	認知症の理解	7 月	6
2		デジリハ体験	9 月	2
3		ビジョントレーニング	9 月	2
4		身体障がいについて	10 月	2
5		精神・知的障がいについて	10 月	2
6		精神・知的障がいについて	10 月	2
7	スポーツⅤ	海洋リハビリテーション	7 月	2
8	介護入門	カイゴ教室について①	10 月	2
9	介護総合演習	カイゴ教室について②	10 月	2
10		介護教室	10 月	2
			合計	24

図表 3.1.-4　実証講座の様子



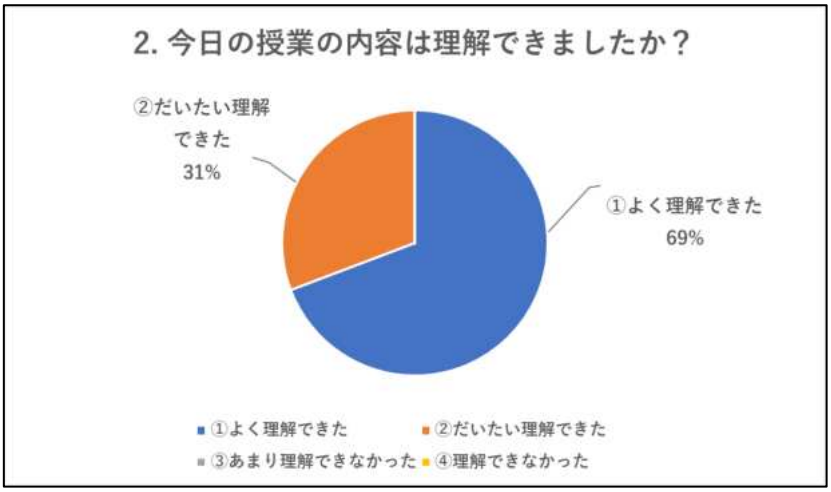


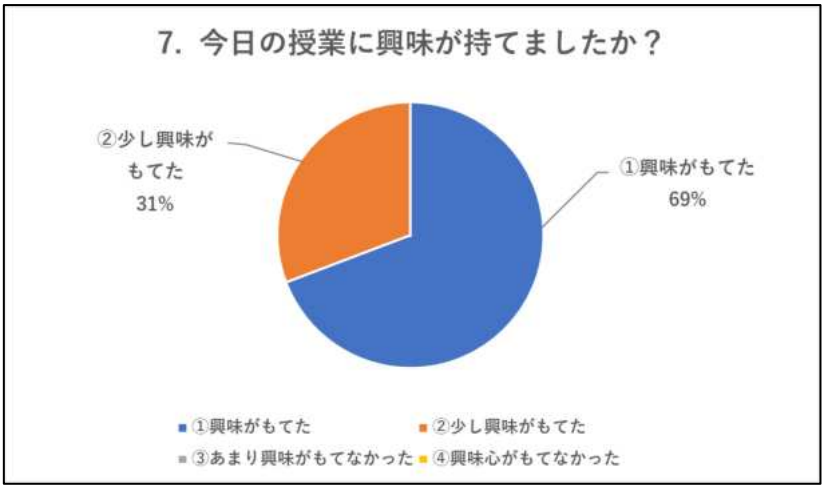




図表 3.1.-5 実証講座におけるアンケート結果の一部

【3 年生：認知症の理解】





感想（自由記述）：

- 認知症を抱えてる人への適切な対応の仕方が具体的にわかった。自分目線ではなく相手の視線で物事を見ていきたい。
- 人それぞれ、何ができないかなど違ってくるから，その人にあった方法で支援していくことが大切だとわかった。
- 認知症の人と過ごしていく中で私たちが支えていけるような工夫が必要で、それも認知症の人に負担にならないような工夫をしてあげることで支えになっていくと考えたので、これからも自分なりに考えていけたらいいです。
- 認知症患者の事例を聞いて、どうしたらいいかグループの人と話し合ったり、他のグループの意見が聞けて、どうした方がいいのかよくわかりました。

3.2. 中部農林高等学校（福祉科）

中部農林高等学校では、福祉科の 1～3 年生を対象に実施した。1 年生では「介護福祉基礎」「コミュニケーション技法」の科目で連携し、 2 年生では「介護総合演習」「生活支援技術」で実施した。3 年生では「生活支援技術」「介護総合演習」の科目内で連携し、授業を行った。講座数は 34 コマであった。

図表 3.2.-1　中部農林高等学校（1 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	介護福祉基礎	リハビリテーションの技法	9 月	2
2		リハビリテーションについて（理学・作業）	2 月	2
3	コミュニケーション技法	コミュニケーションについて	7 月	2
4		コミュニケーションについて（SST など）	10 月	2
			合計	8

図表 3.2.-2　中部農林高等学校（2 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	介護総合演習	実習前対策　～記録について～	6 月	2
2		実習対策　～人のからだについて～	9 月	2
3		対人援助職に求められるコミュニケーション技法	9 月	2
4		移動介助について（車いす・杖）	10 月	2
5		リハビリに関する専門職について(進路講話を含む)	12 月	2
6	生活支援技術	リハビリテーションの技法（アロマ紹介）	11 月	2
7		リハビリテーションの技法（デジリハ説明・体験）	1 月	2
8		リハビリテーションの技法（コグトレ	2 月	2

		説明・体験）		
			合計	16

図表 3.1.-3　中部農林高等学校（3 年生）

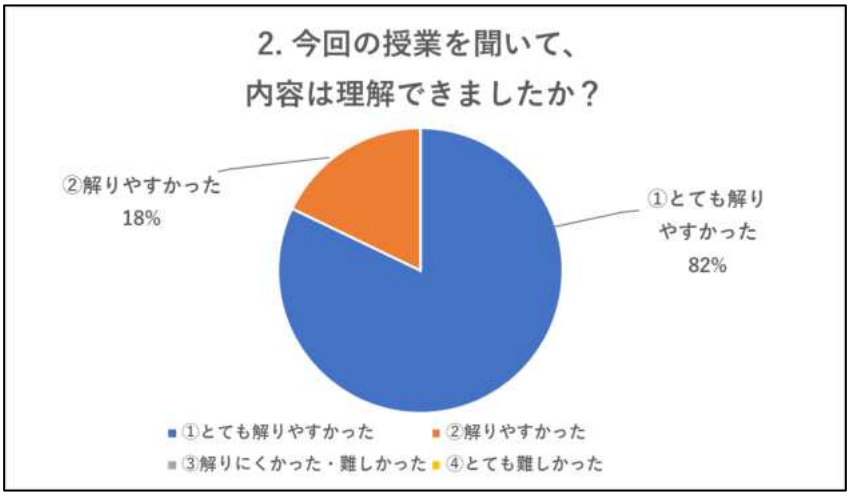
No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	生活支援技術	専門職の視点から見た介護	7 月	2
2		専門職の視点から見た介護	9 月	2
3		障害者の生活支援とリハビリテーション	10 月	2
4		福祉用具と福祉の IT 化について	10 月	2
5	介護総合演習	移動介助について（杖・車椅子・車両への乗降）	7 月	2
			合計	10

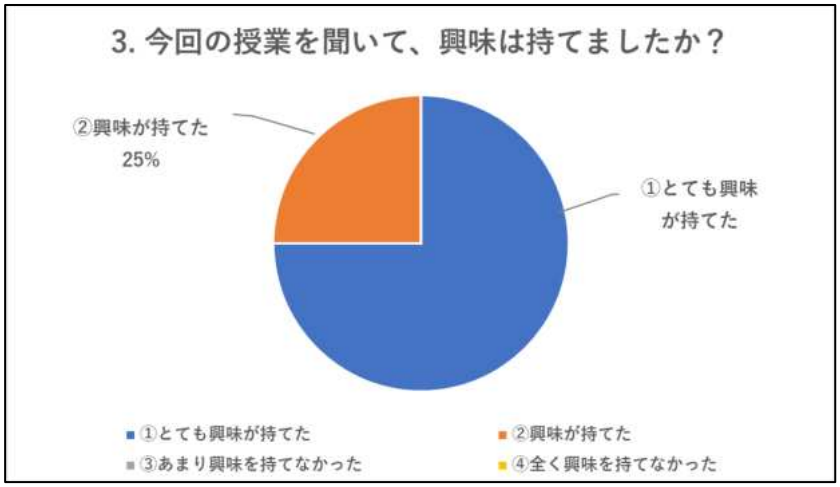
表 3.2.-4　実証講座における授業の様子





図表 3.2.-5　実証講座におけるアンケート結果の一部
【２年生：リハビリテーション技法　～デジリハ～】





感想（自由記述抜粋）：

- 今日はお忙しい中ありがとうございました。精神機能分野と他分野の違いについても沢山知ることができました。
- 今回の授業内容は初めて聞く内容だったので、面白かったです。精神的な障がいを持っている人に対しての支援方法はたくさん工夫しないといけないことや周りの協力が必要とわかりました。
- 今日の授業を通して、その人に対して、期待し過ぎないことやできることを見つけていくなど、患者さんに負担がないようなリハビリをすることが大切なのだと学べました。とても楽しい授業でした。ありがとうございました。

- 事例を見てから支援方法を考えるというのが苦手なのでグループで意見を交換することで色んな考えを知ることができました！
- 今回の講和でリハビリテーションは自分を基準に考えるのではなく、相手がしたいことをしっかり聞きいれ、それができるようにサポートしていくことだと学べました。今回の講話で学んだことを今後に活かせるよう努力していこうと思います。本日は本当にありがとうございました。

3.3. 沖縄県立嘉手納高等学校（総合学科）

嘉手納高等学校では、今年度は総合学科１年生を対象に「保健体育」、２～３年生の生徒を対象に「こころと体の理解」において講座を実施した。合計コマ数は 21 コマである。

図表 3.3.-1　嘉手納高等学校（1 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	保健体育	脳と心のはたらき	6 月～7 月	5
2		心の健康と精神疾患		5
3		精神疾患の予防と回復		5
			合計	15

図表 3.3.-2　嘉手納高等学校（2 年生）

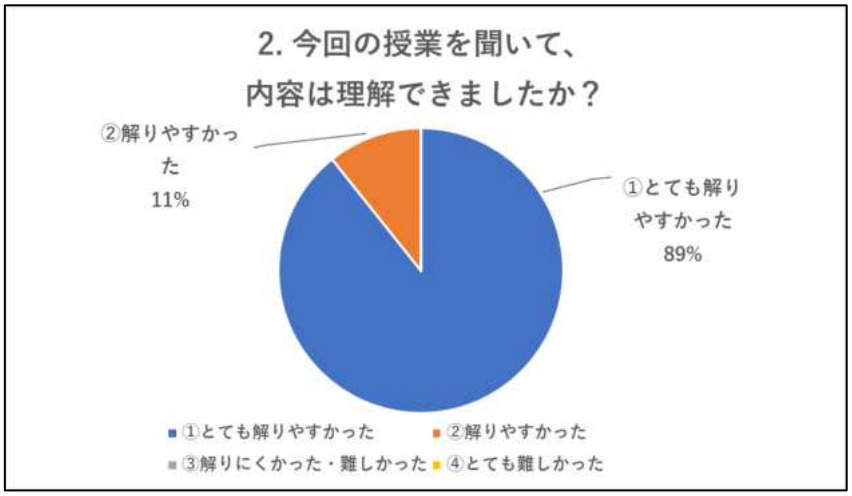
No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	こころと体の理解	救急救命について、JT について	9 月	2
			合計	2

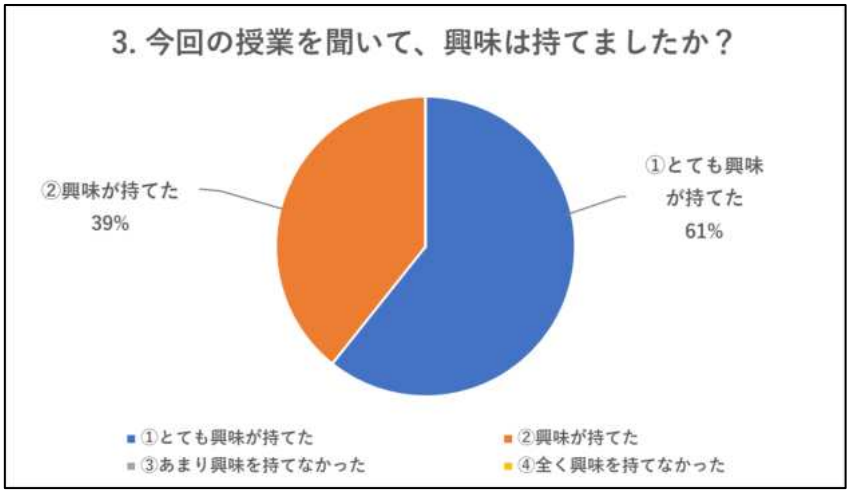
図表 3.3.-3　嘉手納高等学校（3 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	こころと体の理解	救急救命について、JT について	9 月	4
			合計	4

図表 3.3.-4　実証講座におけるアンケート結果の一部

【３年生：救急救命について、JT について】





感想：

- AED の使い方や、倒れている人を見つけた時の対応の仕方を学べとても勉強になりました。
- 実際に現場で自分がやるということは全く想像できないけど、この学びを活かせれるなら頑張ってみたいと思った（もしこのようなことが起きた場合）少しでも人を助けたいと思った。
- 道で倒れている人が居たら、困らないように今日練習ができてよかった。また、大事なこともたくさんしれてよかったです。
- わかってたことを復習の形でもっと詳しく知ることができたので良かった。

3.4. 東北高等学校（普通科）

東北高等学校の選択科目（1～3 年生）である「キャリア実習」（半期で完結）にて高専連携の授業を実施した。対象は泉キャンパス総合コースの生徒、実施場所は仙台リハビリテーション専門学校などである。

前期 12 回（4～9 月）、後期 12 回（10～2 月）のカリキュラムを構成し、合計 24 回 24 コマ実施した。

図表 3.4.-1　東北高等学校（前期）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	キャリア実習【前期】	オリエンテーション「リハビリテーションってなに？」	5 月	1
2		骨について知ってみよう	5 月	1
3		関節や筋肉について知ってみよう！	5 月	1
4		カラダを流れる血液「血圧、脈拍を測ってみよう！」	6 月	1
5		ストレッチ体験「カラダが柔らかくなったか感じてみよう！」	6 月	1
6		効果的な筋力トレーニングを知って、夏を乗り切ろう！	7 月	1
7		部活動で役立つインソール（足底板）とは？	8 月	1
8		部活動で役立つテーピングとは？	9 月	1
9		スポーツにおける応急処置 RICE を学びましょう！	9 月	1
10		運動中に急に心肺停止したら…正しい AED の知識を学びましょう！	9 月	1
			合計	10

図表 3.4.-2　東北高等学校（後期）

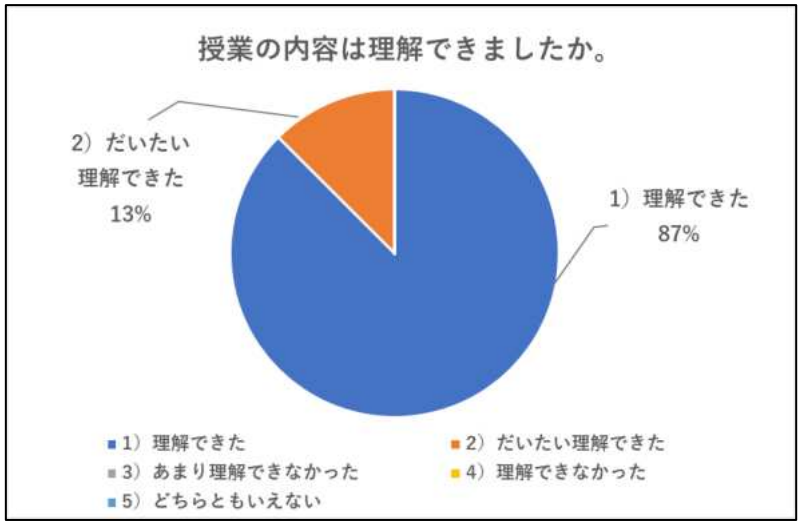
No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	キャリア実習【後期】	職業理解①～未来の医療・介護職像とは～（グループディスカッション）	10 月	1
2		職業理解②～理学療法士、作業療法士～（実技有）	10 月	1
3		職業理解③～柔道整復師、鍼灸師、トレーナー～（実技有）	10 月	1
4		職業理解④～医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、介護士など～（実技有）	11 月	1
5		筋トレ､ストレッチの最新知識と実践（実技有）	11 月	1
6		柔道整復師が実践する徒手療法（マッサージ）体験	11 月	1
7		理学療法士が実践する徒手療法（リラクゼーション）体験	12 月	1
8		スポーツ選手に用いる技法（テクニック）を体験しよう①	12 月	1
9		スポーツ選手に用いる技法（テクニック）を体験しよう②	12 月	1
10		コミュニケーション能力向上トレーニング体験①	1 月	1
11		部活動で役立つインソール（足底板）とは？①	1 月	1
12		医療の実践体験①	2 月	1
13		医療の実践体験②	2 月	1
14		まとめ	2 月	1
			合計	14

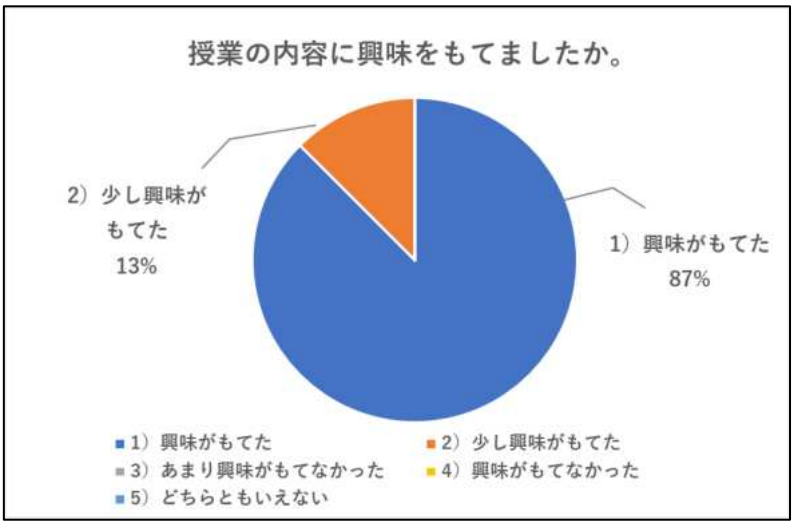
図表 3.4.-3　実証講座における授業の様子





図表 3.4.-4　実証講座におけるアンケート結果の一部





感想（自由記述抜粋）：

- 授業を受けて将来医療系(介護や理学療法)の仕事に就きたいと思った。
- あまり興味のない職業だったけど、今回のキャリアで面白そうだなと感じ、他にも調べてみようと思いました。
- マッサージについて学びたいです。
- 毎週とても楽しかったです！鍼灸とインソールは絶対にやりたいと思いました。
- 筋トレの授業が楽しかったです。試合中の体のケアが知りたいです。

3.5. 琉球リハビリテーション学院

専門学校段階として、当学院にて高専連携の授業を実施した。対象は作業療法学科に在籍している 1 年生および 2 年生である。1 年生は、「協働学習」を 9 コマ、「キャリア教育」を 8 コマ実施した。2 年生は、1 年生と同じく「協働学習」9 コマに加えて、キャリア教育として「作業療法管理学」「作業療法技術論Ⅰ」の 2 科目で計 7 コマ実施した。

図表 3.5.-1　琉球リハビリテーション（1～2 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	協働学習	オリエンテーション・施設案内・骨指標の確認・関節運動について	4 月	1
2		制作(臓器パズル)	4 月	1
3		交流会（新入生歓迎スポーツ大会）	5 月	1
4		筋・骨かるた大会	5 月	1
5		骨学①	6 月	1
6		骨学②	6 月	1
7		作業療法評価①関節可動域計測・バイタル測定・形態測定	7 月	1
8		作業療法評価②筋力検査・筋反射・上肢機能検査	7 月	1
9		まとめ・振り返り	8 月	1
			合計	9

図表 3.5.-2　琉球リハビリテーション（1 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	キャリア教育	キャリア教育について①	10 月	1
2		キャリア教育について②	10 月	1
3		キャリア教育について③	10 月	1
4		キャリア教育について④	10 月	1

5		先輩 OT のキャリアを聞く（講義）	1 月	1
6		履歴書を書こう	1 月	1
7		先輩 OT へのインタビュー（外部訪問）	1 月	1
8		先輩 OT へのインタビュー（外部訪問）	1 月	1
			合計	8

図表 3.5.-3　琉球リハビリテーション（2 年生）

No	科目	学習テーマ	時期	コマ数
1	作業療法管理学	キャリア教育について	9 月	1
2		10 年後の自分のキャリアをプランニング	9 月	1
3		就職説明会への参加	10 月	1
4	作業療法技術論 I	ケーススタディ　～対象者全体像の把握から評価計画立案まで～	1 月	2
5		ケーススタディ　～治療計画立案とまとめまで～	1 月	2
			合計	7

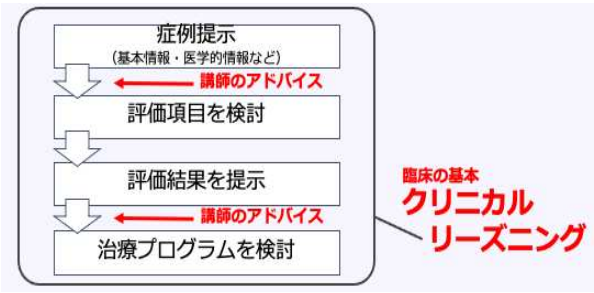
図表 3.5.-4 実証講座における授業の様子





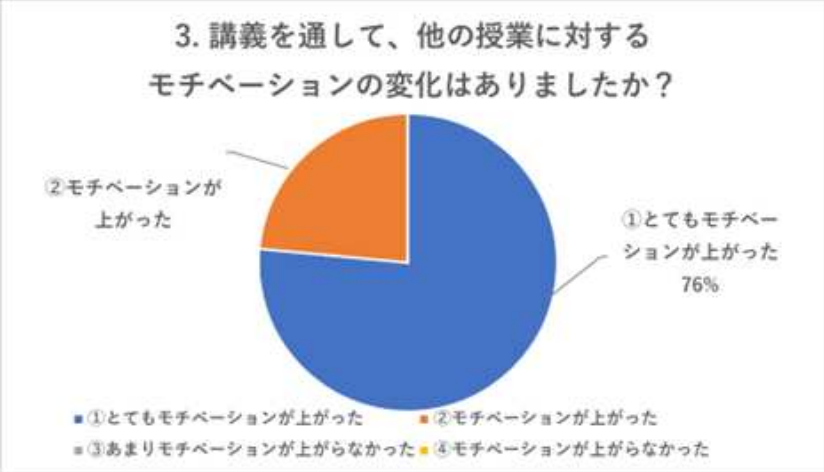








図表 3.5.-5 実証講座におけるアンケート結果の一部



自身が成長したと感じる部分（自由記述抜粋）：

- 最初は先輩に話しかけるのがあんまり出来なかったのが、最近だと分かんない事があれば聞けるように自分から動けるようになりました。
- 勉強の取り組み方がかわったなと思うのと、自分がわからないことを先輩方に聞けるようになったのが成長したなと思います。
- 共同学習以外でも先輩たちに話しかけれるようになった。
- 最初の授業の時よりも積極的に質問することができた。

3.6. 実証講座の成果（生徒の受け止め）

今年度も各実証講座では、実施後のアンケートや授業内外にて生徒および教員へのヒアリングなどの手法により、生徒の学習成果、職業意識の変化、講座への満足度などを検証し、講座の改善を図りながら実施した。

アンケートは、昨年度までの実証講座と同様に、講座の内容について「理解できたか」「興味がもてたか」「今後役立つと思うか」などの基本的な設問で構成している。その他に講座の内容に応じて質問項目を設定した。また、自由記述欄も設けて、講座に対する意見や感想も求めている。

アンケート結果から高校段階では、理解度、興味関心度、役立つ可能性についていずれも非常に好評であり、多くの生徒が講座に対して好意的な結果となっている。また、感想などを記入する欄では、作業療法士も含めた専門職に対して興味の喚起や、関心が深まった生徒も見受けられ、実証講座の効果を伺える結果となっている。

専門学校段階においても、他授業へのモチベーションの向上や、自身の成長を感じられる結果となった。

4．次年度の実施計画

令和 8 年度は、今年度と同様に高校段階および専門学校段階の実証講座の実施が計画されている。

高校段階では、これまでの実証講座の実績を基に、各高校の担当者と協議し、実施することになる。教職員の異動が 2 月の中旬であり、科目担当者の決定が 3 月である背景から本格的な協議については事業期間終了後となる。

専門学校段階については、今年度の実績を基に学科内で検討を継続し、次年度の実施に向けた準備を進めている。また、事業期間終了後の展開も踏まえて、他学科での実施も検討をしている。

５．今年度の取り組みまとめ

事業としては５年目であり、高校段階での実証講座を開始してから４年目であった。高校の担当者の異動に加え、当学院内での担当者調整もあり、取組内容に関してコミュニケーションが必要な場面はあったが、個別協議やこれまでの実績があったため、今年度も事業を円滑に進めることができた。

実証講座は、令和７年４月から令和８年２月まで、沖縄県と宮城県の高等学校・専門学校で合計 187 コマ実施した。当学院や仙台リハビリテーション専門学校が中心となり、高校１年生～3 年生、専門学校１年生～2 年生を対象に行った。実施内容によって、企業などの外部の支援も得ながら実施した講座もある。

高校段階での授業後のアンケート結果では、好意的な反応を多く得られ、今年度もこれまでと同様に、専門職への興味・関心度を喚起や生徒の職業意識の向上にも寄与していることが確認できた。

専門学校段階においても、他授業へのモチベーション向上や、自身の成長を感じられる結果であった。

開発に関しては、カリキュラム、教材、高専連携基盤システムの３つを予定通り進めた。

カリキュラムについては、事業期間終了後において展開を図る際にも活用可能な仕様としている。

高校段階の教材については、教員に行ったアンケートから追加開発項目を選定し、スライドの追加および動画化を行った。専門学校段階に関しては、１年生向けに「キャリア教育」の追加開発、「協働学習」の新規開発である。また、２年生用として、「キャリア教育」と「国家試験に向けた学習方法の基礎」の２教材を新規で開発した。

次年度以降についても引き続き、実証講座の連携校などと協力し合いながら着実に事業を推進する予定である。

巻末資料

巻末資料　目次

① 実証講座アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

② カリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76

③ 高校段階追加開発教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

④ 専門学校 1 年生用教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105

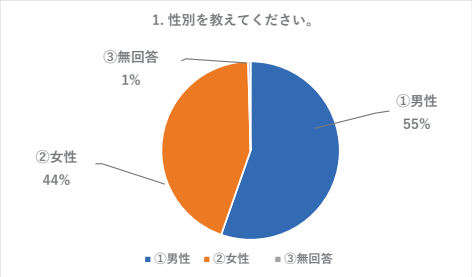
⑤ 専門学校 2 年生用教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・152

R7 年度アンケート集計結果

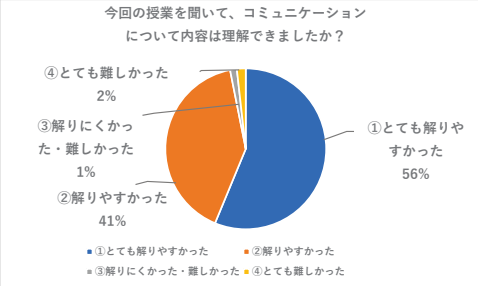
1　陽明高校

0428　陽明高校　1 年生　コミュニケーションについて

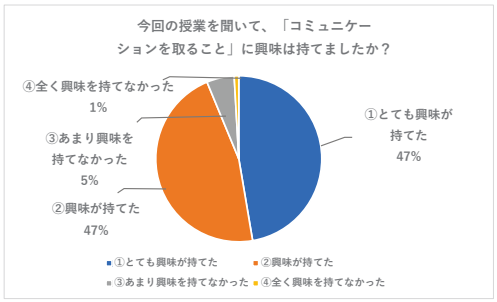
【質問 1】性別を教えてください。



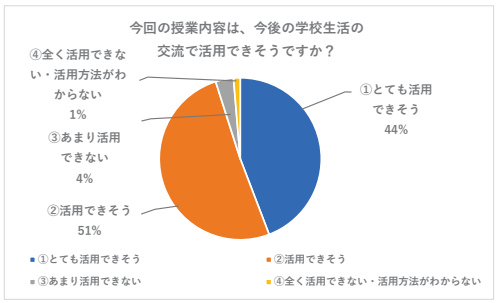
【質問 2】今回の授業を聞いて、コミュニケーションについて内容は理解できましたか？



【質問 3】今回の授業を聞いて、「コミュニケーションを取ること」興味は持てましたか？

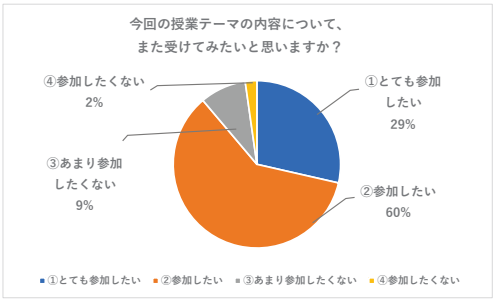


【質問 4】今回の授業内容は、今後の学校生活の交流で活用できそうですか？



【質問 5】今回の授業テーマの内容について、また受けてみたいと思いますか？

【質



問 6】ブルーシートを使ってボールを高く上げる時に、クラスのみんなでどんなコミュニケーションが有効でしたか？（例；合図の方法、ビニールの貼り方の相談など）

（自由回答）

- しゃがんで代表者が合図をしてみんなで立ち上がる時がよかった
- 楽しかった
- 代表が合図をする
- 掛け声をやることでできた
- 隣の人と話せる
- せーのという掛け声
- ボールを高くあげるタイミングを一緒にしたりすること
- 一旦ブルーシートを地面まで下げてから勢いをつけて一気に上げることや掛け声など
- 地面につけてはった
- せーの
- ブルーシートを上にあげる合図などを声を揃えてやること
- とくになし

- 高くあげる方法
- 1 人が合図してみんなであげた
- HR 長を中心に、「せーの」などの声出しとビニールを低い位置から始める
- 合図を出してやったりした
- 上腕二頭筋
- 最初はしゃがんで代表がせーのって言ってからみんなで立って上にあげると高く上げることが出来ました。
- 高くボール上げるの難しいねーとか
- 合図の方法、ビニールの貼り方の相談
- HR 長がせーのって言って上にあげる
- せーので上にあげた
- HR 長が中心となって、指示を出したり、声出しをしてくれたりした。
- みんなで合わすためにせーのって言う
- HR 長の合図が良かった
- ブルーシートを膨かせる時にみんなで掛け声をする
- ブルーシートを上げる時の声かけ
- せーのという合図に合わせてビニール袋を動かした
- みんなでいっせーのーで声を合わせた。
- タイミング合わせる事
- 「せーの」というみんなの合図
- 合図を合わせること
- タイミングあわせる
- 声かけ
- 合図
- 合図の仕方、どんな風にするか
- せーので息を合わせた
- 面白かった
- うえあげてしたさげる
- タイミングを合わせる
- 作戦的な話
- 合図の方法、ボールの位置、掛け声
- どんな風にしてやろーか話した
- せーのって言う
- タイミングを合わす声かけ
- 合図のタイミングなどを話し合った

- 誰の掛け声でボールを上げるか
- タイミングをみんなであわせること
- 声を合わせて一緒に上げる
- 掛け声
- 息を合わせる
- 掛け声とかして一気に下に下げた
- せーのでブルーシートを上に上げた
- せーのって一人の人が言って、高くあげて下に下げるをみんなで声を掛け合いながらやりました。
- 力を合わせる
- せーのとか言って息を合わせてた
- みんなで声を掛け合ったり、こうした方がいいんじゃない？とかの意見を出し合ったりしたことが有効的だったとおもう
- リーダーを作って話し合う
- どのタイミングであげるかや息を合わせるときにコミュニケーションがあった
- ブルーシートをあげるタイミング
- 1 人の人の声かけに合わせてできた
- 掛け声をする
- みんなでタイミングを合わせるためにせーのといって合図したこと
- せーのでみんなでブルーシートを上げた
- やる時に合図をする
- 合図のやり方
- みんなで上に上げて下に下げようとかみんなで目を合わせていっせーのせと言ってボールを投げた
- コミュニケーションはあまりできなかった
- タイミングを合わせる時の声掛けなど
- 皆でせーのと声掛けをする。
- 誰かが合図をとって、それにみんなが反応することで思った以上に高くボールを上げられた。
- めっちゃ良かったチーム一丸って感じ
- せーのと言ってみんなで同じ動きをした
- ビニールの操作方法
- 楽しいという気持ち
- みんなでせーの！って言ったときにボールをあげる
- 掛け声が必要でした
- ビニールの操作方法
- はい
- せーので高く上げた手を下げる

- みんなでどうやったら高く飛ばせるか相談し合った
- 合図など
- 1 人が合図を出してみんなで一斉にブルーシートを上げた。ボールを中心に止まらせてからあげる
- 良かった
- 有効でした
- どうやったら上に飛ぶかのコミュニケーション
- みんなで合図と同時に飛ばす
- ブルーシートをどう活用するか
- せーのの声かけをしたりした
- 合図の仕方
- せーのなどの掛け声が大事だと思いました。
- 合図の方法がわかった
- みんなで一致団結するために声掛けとかできた
- 下にさげたり誰かがせーのってゆった
- しゃがむ
- 合図のタイミングを合わせること
- せーので声を掛けてあげる
- 誰かの合図であげた
- みんなの掛け声が有効だった
- 持ち上げるタイミング
- 相談すること
- ビニールの最初の位置を話し合ったこと
- せーのって声かけする
- たいみんくま
- 上から下にビニールを降ろす
- 仲良くなったと思う
- 全員でブルーシートを下げる
- 合図の方法、ビニールの位置など
- あげる時の掛け声
- 行ってないからわかりません
- みんなで声かけ
- みんなでどうすればいいか提案し合ったりとてもいい雰囲気だった
- 有効だった
- やり方をみんなで話ながらやった
- どんな体制からどんな体制に移るか

- せーのでタイミングを合わせた
- どうすればいいか声をかけてくれる人がいたので、よかった
- 誰かひとりが合図を出してボールを高く上げることができた。
- ブルーシートをみんなでしたに下げて声かけをしてボールを高く上げた
- いっせのせーの声かけでクラスみんなのコミュニケーションを取った
- おもいっきりみんなでビニール袋をあげた
- 高く飛ぶ工夫の意見の出し合い　合図の方法
- みんな協力して高く上げようとしていた
- ブルーシートをあげたりするときの合図
- みんなで同時にブルーシートを動かした
- 特に
- 3.2.1 の掛け声
- せーのであわせる
- 話し合いをした
- 掛け声で一斉にあげる
- 掛け声やどうやったら高くあげれるかの相談などが一致団結に繋がると思った
- アドバイス
- ブルーシートを持ち上げる時の声を揃えたこと
- 全員で声をかけ一度下に下がりそのあと思いっきり上にボールをあげた
- 言葉、いつもまとめてくれる人が合図など言ってくれた
- タイミングを合わせるとき
- ブルーシートを上に上げたり下げたりする統率が取れていた
- 誰かが代表して掛け声をして、その声の合図で一斉に下に下げたり、上にあげたりしてコミュニケーションをとった。
- 上手でした
- みんなでコミュニケーションをとれた
- シートの上げ下げの合図とか、！
- 合図の方法
- みんなで声を出して息を合わせる
- 1 人がカウントして 0 になった瞬間上げてまた下げる
- タイミングを合わせて一気に持ち上げた
- 息を合わせて、みんなの考えを実行する事ができたので、相手の考えを聞く。または相手に話すという物か良かったと思います。
- 協力
- 1 人がせーのといって下に下げて上に上げたりしていた

- せーのって言ったりした
- いっせーのーで
- どうやったら高くあげられるかなどの方法
- とてもクラスの仲が深まり一致団結してブルーシートでボールでどんなしたや高く上げれるのかとかを考え男女の仲も深まったのでとてもよかったです
- 321 で、ボールを上げる合図が分かりやすかった
- 声出し
- 競い合う形でやったことでみんなで協力して頑張ろうと団結できて楽しかったです。こうした方がいいと意見を言い会えたのもよかったです
- 合図の方法、どうやったら高く上がるかの相談
- ブルーシートをどのような方法で上に上げたらボールが上に高く上がるのかなどの相談がみんなでできて、コミュニケーションが取れた！
- せーのとタイミングを合わせたこと。
- いっせーの！
- ビニールシートを下に下げていっせーのでで上にあげるっていうコミニュケーションが有効でした
- みんなでせーのっていった
- 誰がボールを上げる時に声を出すかや、どんなやり方だったらより高くボールが上がるのかなどのコミニュケーションを取ることが有効だった。
- みんなで声を合わせた、下まで引っ張って上げた
- みんなでタイミングを合わせる
- 一人が声をかけて、それにみんなが合わせる
- 上げる方法
- タイミングを合わせるために代表がせーの！といって掛け声をすることと、意見を出し合うこと。
- クラスの中心的な人達が合図をしたりその場を仕切ったりしてた
- パッと思いついたアイデアをその場に出すこと
- 案の出し合い、合図を出す時にみんなが聞いているかなど
- 1 人の子が提案してそれをどんどん試していって意見を言い合うとコミュニケーションが上手くとれた
- こうした方がいいんじゃないとかのアドバイスとか相談
- 大丈夫だった！みんなで息を合わせてできたから、意思疎通はできてるはず、、、
- みんなに意見を共有して声掛け
- 合図（声掛け）どんな工夫をしたら高く飛ぶかをクラスのみんなで考え行動する
- みんなと一緒にビニールを上げたりした
- どうやって高くとぶか
- 上げるときにみんなで声を合わせる

- どのタイミングで引くかを皆で声を掛け合った
- 一番下からせーので一気に上まで上げた
- 受けていない
- 声をかけ合ってみんなで同じ動きをした
- 合わせるために掛け声などをしたり　これより違う方がもっと飛ぶんじゃないとかはなしあった
- みんなでこうすれば高く飛ぶのではないかと、意見を交換しあった
- どんなってやったら高く上がるかの相談
- 誰かが案を出して皆がいいと思ったら合図をする人を決めてそれを実行する時に有効だった
- 1 人がリーダーシップをもって一致団結したこと
- どういう飛ばし方にすればいいか
- せーので合わせていた
- 一番下までブルーシートを下げて「せーの」で皆で上まで上げた。
- 1 人の「せーの」の合図に合わせて、行動を取る。　練習で一回「こうやってやろう」と声をかけてくれた人に合わせて、何回か試してこれいいと思うのを選んだ。
- みんなでいきを合わせることと、ブルーシートを高めにするか低めにするか相談した。
- 有効でした
- [いせっいのーで]の合図
- 皆で揃えよう
- どんなふうにしたらボールが高く上がるかなと級長をとうしてコミュニケーションをとることができた
- 相談　合図
- 声掛け合う
- 掛け声が有効でした
- あまりコミュニケーションが取れなかったように感じたのでもっとクラスの団結力を高めたいです
- 「せーの」という合図を送ったり、ビニールの動かし方を話し合ったことが良かった
- みんなで意見を言い合って、ブルーシートを低い位置まで下げてみんなで声を出しながら思いっきり上げた
- いきを合わせること
- ブルーシートを下げボールをブルーシートの真ん中に置き、ブルーシートを思いっきり上に押し上げると共にボールも勢いよく飛んだ
- 合図が良いと思った
- どうやったら高くボールが飛ぶのかをみんなで相談してボールを高く上げれました

【質問 7】 授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？（自由回答）

- ドッチボール
- バレーが楽しかった
- 色んな人と交流することが出来たし、自分と共通点がある人と話せたりしたので良かったです。
- コミュニケーションを通して相手を知ることができたので大切なことだと思いました。
- 楽しかった
- みんなでコミュニケーションを取りながら行うことが出来て楽しかったです。
- ずっと聞いてるだけじゃなくて遊びもあって楽しかったです。
- あまり無い
- コミュニケーションをとれるようにしたいと思った
- 授業では、新しい友達ができたりしたり楽しかったので、もっと 4 問選択するのを増やして欲しいです‼
- また同じようなやつをしてほしい
- 授業のクイズで色々な人とコミュニケーションが取れた事が思いに残ってます。
- あんまりコミュニケーションが得意じゃなかったけど大切なことがわかったからよかったです。
- コミュニュケーションについて
- 色々学べた
- みんなで協力してコミュニケーションを取りながら授業を楽しく受けることができました！！
- 右脳と左脳のタイプについてもっと知りたい
- 琉リハについて
- もっとコミュニケーションに関する授業をして欲しい！
- 眠らないように体を動かしたりするのがすごくいいなと思いました。
- 学年レクの前にコミュニケーションとかについてきいて友達とより仲が深まったと思う
- 最初の話題作りなど
- コミュニケーションは大事だと分かった。これからもコミュニケーションを取っていきたい。
- 皆で声を合わせて破ることによってクラスの仲が深まったと感じたのでよかったなと思いました。
- もっと右脳左脳のやつをやりたい
- ゲーム楽しかったです
- 自習とか欲しいです
- もっと動きたい
- 今回の授業で学んだことをこれからに活かしていきたいです。
- 今回やった 3 つ、4 つに分かれたやつをもっと細かく分けてほしい
- みんなで協力してこれからも頑張ろうと思った
- 自分はこんな感じかなと思いながらも楽しい事ができた
- 体験することなどがあり話すことだけじゃなくてとても楽しく、今後のコミュニケーション能力を

高めるためにもよかったと思いました。
- 思いつかない
- もっと実践的なことを学んでみたいです
- みんなで協力するやつ
- ブルーシートを使ってボールを高く上げる遊び
- クラスのみんなで協力してボールを高く上げようと努力したことで交流を深めることができた。
- 活動が楽しかった
- とてもわかりやすかったし楽しかった
- 不審者
- ドッチボール
- みんなとのコミュニケーションを活かして今後もみんなと積極的に話をかけていきたいと思いました。
- 今までわからなかったコミュニケーションの取り方などがわかった。話題の広げ方や人と長く関わる方法をしりたい
- 知らない人でも共通の物が見つかったりして、面白いと思った。
- 大学進学について
- めっちゃ楽しくて普段あんまり話さない人と話せたからまたやりたいとおもった
- ボール上げ
- もう一回ブルーシートを使って遊びたいコミュニケーション力を高めたい
- 会話の方法を知ることでコミュニケーション能力を高められると思った。
- 遊ぶ感じのが楽しかったです
- まだ新しいクラスに少し緊張している場面が今まであったけど今回のブルーシートのやつとか質問のやつで喋る機会が増えて良いコミュニケーションをとることが出来ました。
- とてもよかった
- 自分の得意なコミュニケーションの仕方を調べてみたい
- 楽しかったからもっかいやりたい
- 話を聞いておくだけではなく、実際に自分がクラスの人とコミュニケーションを取ることで団結力が上がった。
- おもしろかった！
- 警察官になりたいので、応募の動画を見た時、とてもわくわくしました
- ただ、コミュニケーションをとるだけではなく(せーの)などの掛け声をする事でクラスの中での団結力が高まると思いました。
- とても楽しかった。またやりたい。
- みんなと仲良くブルーシートでボールをあげられてコミュニケーション能力がとれて楽しかったです

- みんなと仲が深まった
- めっちゃこれからに繋ぐようなことを学ぶ事が出来て良かったし、これからに活かしていきたいです
- 色々みんなと活動できて楽しかったのでまたこうゆうみんなで楽しくできる内容を入れてほしい
- コミュニケーションが大切だと言うことがよくわかった
- 面白かった
- コミュニケーションがどれくらい重要なことなのかがわかった。これからはこの授業で学んだことを活かしていろんな人たちと仲を深めたいです。
- 高校初めてだったからみんなと喋れていい機会と思いました。
- 私はあまり積極的に話せないタイプなので今回の講話を聞けてよかったです。
- ブルーシートを使ってボールを高くあげるやつでクラスの仲が少し深まったから良かった。
- 今まで考えていなかったのでいい経験になったまた同じような授業をして欲しい
- スポーツなどやらないのがとても良いと思いました
- この授業を通して仲が深まって良かったと思う
- 授業をして、コミュニケーションについてたくさんの話が聞けてコミュニケーションを取れるように頑張って行けたらいいなと思いました。また言霊についての話も聞いてほんとにあるんだなとびっくりしました。
- 今回授業を受けてコミュニケーションをとることはとても大切で社会に出てもとても必要なものだと思いました。
- 人間が生きる理由について
- 作業療法士には生活に必要な人と関わるコミュニケーションの育成があり私たちの生活には欠かせないお仕事なのだと感じました。コミュニケーションには話し手、聞き手、それぞれ育む方法があり、大切な事もありました。友達とコミュニケーションをとる際にも言霊など相手のことも意識していきたいです。今回の授業を通して作業療法士の仕事を具体的に知りたいと思いました。
- 自分が好きな方に言ってまわりの人と話したり、クラスの人とボールを高くあげるときに作戦をたてたりとコミュニケーションができたから楽しかったです
- めっちゃ楽しかったし、クラスの仲がもっと良くなったと思います！
- いいえ
- 学校生活の中でした方がいいことやクラス皆で楽しめるようなことを教えて欲しい
- とても楽しかったです
- こんな内容をやってほしい！などはないけど楽しかったし、わかりやすかったからまたやってほしいなと思いました。
- 今回の授際を通してコミュニケーションの大切さがよくわかった
- 改めてコミュニケーションを取り合うことの大切さを理解できたのでよかった。
- コミュニケーションの大切さがわかった

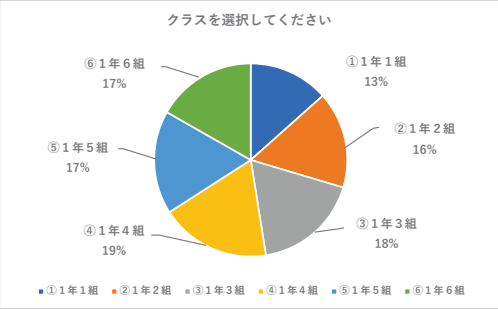
- 選択とかのやつで「これ好きだったんだ！？」とか驚くことが多かったので楽しかったです！クラスとの仲が深まったと思います！
- 右脳左脳の話
- 今回の授業で自分の将来に必要な力が身についたと思うのでこれからも身近で使っていきたいと思いました。
- 人とコミュニケーション取ったり団結力を上げる方法として良いと思った
- 話を聞くだけじゃなくて色んなことを実際にやってみるのが楽しかった
- 自分の好きなもののところに移動するコミュニケーションはとても良いと思いました。自分との共通点があると話しやすかったです
- 誰がどのラーメンの味が好きなのかなど４択から選んだりするのが楽しかった
- 理科の実験みたいで楽しかった
- 新学期だったけどみんなと交流することができた
- コミュニケーションをとることでどんなものが得られるのかについて詳しく学ぶことが出来た。
- 今後こういうのを増やして団結力を深めたいです
- コミュニケーションについて学べて楽しかった
- みんなでひとつの事をするのを増やしていきたい
- 動く授業沢山したいです
- 授業で、クラスのみんなや他クラスのみんなとコミュニケーションが取れたので、これからも様々な方法でコミュニケーションを取り仲を深めていきたいと感じた！
- コミュニケーションについて色々知ることができた。
- 僕は自分から人に話しかけるってことが無いからコミニュケーションのとり方がわかった本日はありがとうございました
- いろんな人と話せて楽しかった。
- 楽しい授業
- ブルーシートを使ってボールを高く上げる
- 高校入学してまだ少ししかたってないからコミュニケーションがまだ上手くできてなかったからこの時間を通して関わり方とかゲームを通して楽しくできてよかった。
- コミュニケーションを広げるために色んな人と関わっていく事が大切だとわかった。今後も楽しみながらできる授業を取り入れて欲しいです
- 診断とかまたしてみたい
- 👍
- クラスのみんなで協力する事を増やす
- 生きていく中でコミュニケーションが大切になっていく
- 仲間とのコミュニケーションの大切さをしり、まずは少しでも話してみるということを大切にしました。

- 腕の組み方・指の組み方で右脳・左脳がわかり、性格もわかるのが面白かったです
- クラスのみんなとコミュニケーションを取ってタイミングを合わせることができた
- 右脳と左脳のやつが面白いなー。と思った
- 熱が出て授業に参加することができなかったので、今後この様な休みがない様に、日々の体調管理を気を付けていきたい
- みんなでコミュニケーションをとりながらできるあそびをしたい
- コミュニケーション力を育むには共感や肯定的な見方で良い聞き手になろうと思いました。
- コミュニケーションについてよく知ることができた。コミュニケーションにタイプが色々あることを知った。自分は「さう脳」タイプだとわかった。
- とても今の自分にあっている講和だったなと思いました。もっとコミュニケーションを取ろうと思います
- 他の人達との共通点を探すことで新しい人と会うことができて楽しかった
- コミュニケーション能力の大切さがわかった。
- 今回の授業は、各々が交流を深めるのにいい授業だと思いました。
- コミュニケーションタイプみたいな診断と、ラーメンは何味が好きか等をまたやりたいです。
- 男女の間に見えない壁があるような感じがあって、接しなくいい部分があるから、それをどう解決したらいいのか
- みんなで意見を出し合ってできたりして楽しかったです。協力できてコミニケーションが良くなった
- 今は特にありません
- コミュニケーションについて
- 体育祭したいです
- めっちゃ楽しかったです！またして欲しいです！
- 人との関わりかた
- 性に関連すること　障害者に関連すること
- 今回の授業を通して、一致団結をしたらより高くボール上げることぐわかりました。
- このような授業を通すことでより人との関わり方が分かるのでとってもいい授業だと思います！
- コミュケーションのとり方は沢山あることを知った。もう１回この授業はあっていいと思います。
- コミュニケーションについて楽しみながら理解することが出来ました。これからも様々なことを楽しみながら学びたいです。
- コミュニュケーションの大切さがわかった
- この授業をうけていろいろなことを学べた
- 改めてコミニケーションの大切さが理解出来たし、授業で学んだことをじせんしたいと思いました。

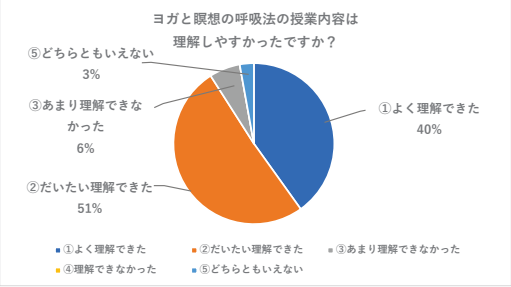
以上

R7.5.14～　陽明高校　１年　産業社会と人間　心と体を整えるセルフマネジメント

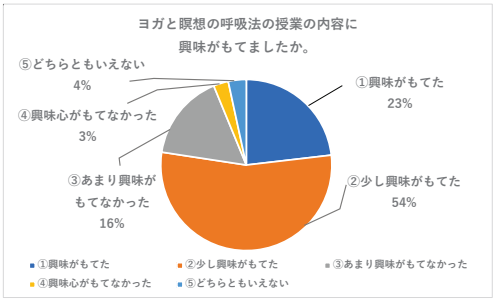
【質問１】クラスを選択してください



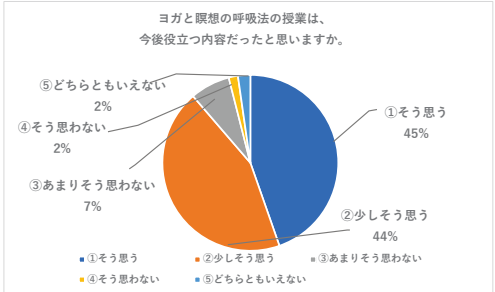
【質問２】ヨガと瞑想の呼吸法の授業内容は理解しやすかったですか？



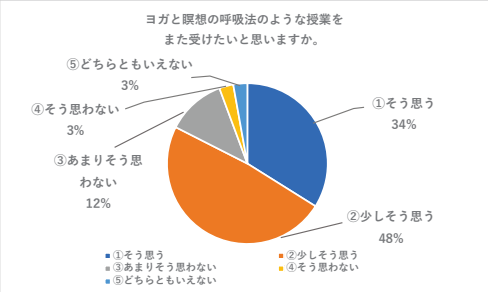
【質問３】ヨガと瞑想の呼吸法の授業の内容に興味がもてましたか。



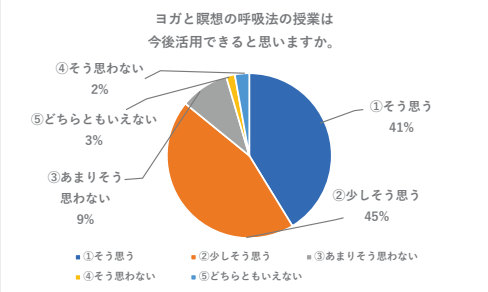
【質問４】　ヨガと瞑想の呼吸法の授業は、今後役立つ内容だったと思いますか。



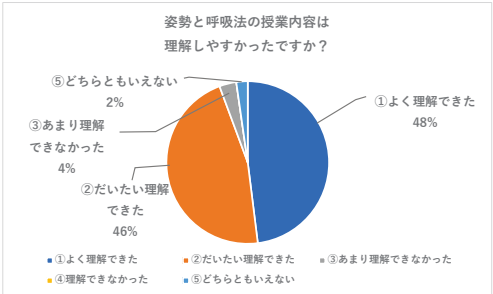
【質問５】　ヨガと瞑想の呼吸法のような授業をまた受けたいと思いますか。



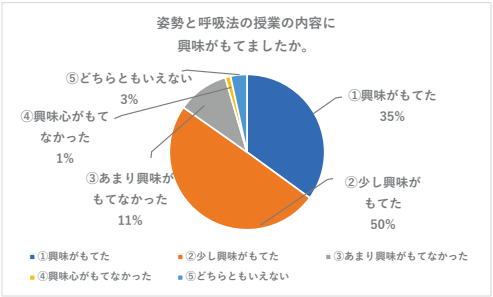
【質問６】　ヨガと瞑想の呼吸法の授業は今後活用できると思いますか。



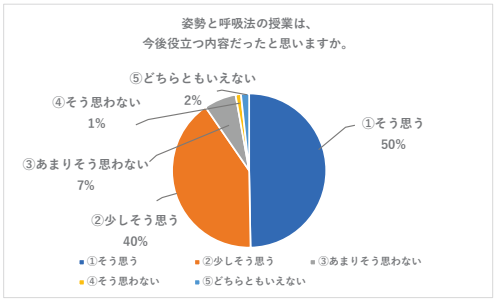
【質問７】　姿勢と呼吸法の授業内容は理解しやすかったですか？



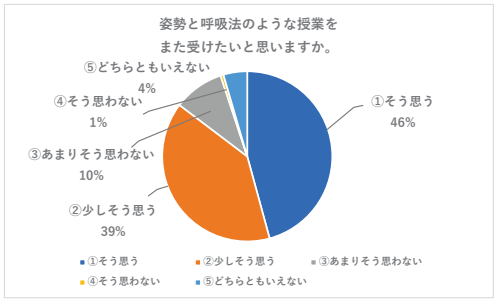
【質問８】　姿勢と呼吸法の授業の内容に興味がもてましたか。



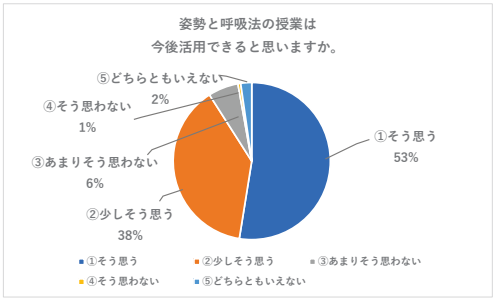
【質問９】　姿勢と呼吸法の授業は、今後役立つ内容だったと思いますか。



【質問１０】　姿勢と呼吸法のような授業をまた受けたいと思いますか。



【質問１１】　姿勢と呼吸法の授業は今後活用できると思いますか。



【質問１２】授業の感想

- 今回の授業を行って思ったことは、ヨガをすることでとても代謝が良くなった気がするし、ヨガを行ったあとに体を動かしてみたりしたらとても軽く動きやすくなった気がするから今後もヨガをやってみたいと思った
- 心を落ち着かせることができた
- ヨガの仕方や感じ方などいつもしない体の動かし方ができてよかったです
- ヨガは姿勢の維持が辛かった。姿勢と呼吸法は、今後も活用できるから、ためになる授業だと思った。
- 呼吸法などで、リラックスしたり、心身を落ち着かせることができ、いいと思った。
- すごく楽しかったです。
- 呼吸法で体が熱くなって言って呼吸法だけでこんな変わるんだと思い面白かった
- 今回のセルフマネジメントを受けてみて姿勢についてのことを学んだりして普段の自分の姿勢を見直したり呼吸法だったりして体全体を使ってヨガをして疲れはしたけど落ち着いた気がした。あと気持ちの問題も関わっているとわかり実際にポジティブ思考だったりネガティブ思考で考えて起きていることが真逆だったので１日の始まりにポジティブ思考は大事だと思った。
- 呼吸法や思考などで様々な違いが出てきて面白かった

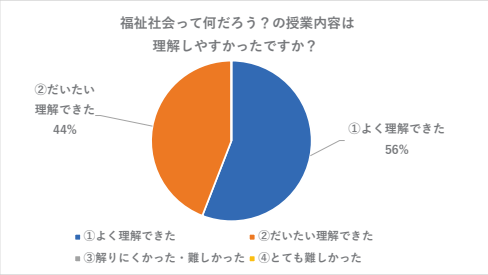
- 鼻炎で鼻呼吸ができなくてヨガはあまりできなかったけど鼻炎が発症してないときに取り入れてみたいと思いました
- やってないのでどんな内容なのかもわからないけど、きっといろんなことに役立つのかなと思いました
- 人前に出るときに緊張したときに今回習った呼吸法を使いたいです
- 自分の心を整えるのにいい時間だったと思います。結構効果も感じられたので、家などでも実施してみたいなと思いました。鼻が少し詰まっていてあまりいい呼吸ができなかったけど、次またやる機会があったらいい呼吸ができるようにしたいです。
- 呼吸法を勉強してイライラしたときなどに活用できたらいいなと思った
- 呼吸法を意識することでこんなにも変わるんだと気づくことができました。普段意識していないことに目を向けることで様々な視点で考えることができると知り、これからも挑戦しようと思いました。
- 自分のその時の心の状態に合った呼吸法を学ぶことができ、学んだことを活かしこれから使っていきたいと思いました。
- 姿勢とか今後にも役立つと思いました。
- 呼吸方や姿勢について勉強をして、これからもつかえそうな気分が変わる方法について学ぶことができたので活用していこうと思いました。
- 今回、呼吸法を学んでみて、自分の気持ちを落ち着かせるためにどのよな呼吸を行ったらいいのか知ることができました。３つの呼吸法の中で「腹式呼吸」を使い、テスト前や緊張しているときに行いたいと思いました。今回学んだことをこれからの私生活で活かしていきたいです。
- ヨガや色んな呼吸の仕方、姿勢について学んで、「体を整えると心も整う」ということや「呼吸は深くした方がいい」ということが分かりました。今の私に必要なことだと思ったので、今回学んだことを今後に活かしていきたいです。
- ヨガの授業はあまり理解できなかったが呼吸法に関しては今後の授業で活用できそうと思いました。
- また瞑想では止まって瞑想することができれば呼吸を意識できたと思うが、動く瞑想では動くことだけに頭を持っていかれ、呼吸を意識することができませんでした。
- 2 時間目に行った授業では実際に身体と呼吸、感情、思考がつながっていることを実感できました。嫌なことを頭で考えると姿勢が崩れることを体感して気持ちは姿勢に影響するんだと発見できました。
- ヨガと瞑想の呼吸法の授業では、リラックスした体制でできる瞑想や体を動かしながらできる瞑想の方法を学んだ。その中で、体を動かしながらする瞑想は結構きつくて呼吸ができてるか心配だったけど、リラックスした状態の瞑想は他のことを考えずに呼吸に集中してすることができた。
- また、姿勢の授業では、姿勢と呼吸によって脳が危険や安全と判断したりしていることが分かった。この授業を通して、姿勢や呼吸の大切さを知ることができた。
- 今回のリフレーミングや体・心の状態による姿勢の変化を体験してみて人間の呼吸・思考・体・感情はすべてつながっているんだと実際に体感することができました。はじめは呼吸が浅かったけれど回数を重ねるにつれて 20 秒行うことができました。また、先のことを考えず今を感じることで

気が楽になることができました。リフレーミングを行うことで体が整い、心が整うことは日常生活の疲れにも活かすことができると感じました。そのため一日の中で３回ほど行い骨盤をたてる意識をしたいと思いました。

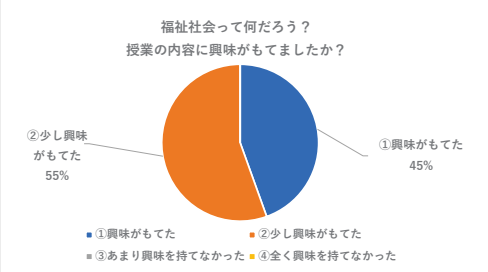
以上

R7.10.3　陽明高校　１年　産業社会と人間　福祉社会って何だろう？

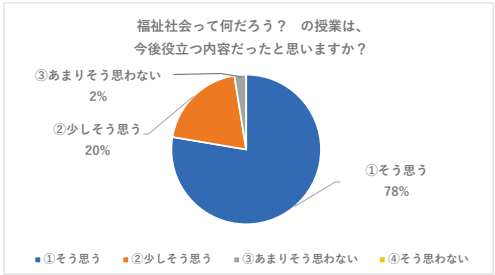
【質問 1】福祉社会って何だろう？の授業内容は理解しやすかったですか？



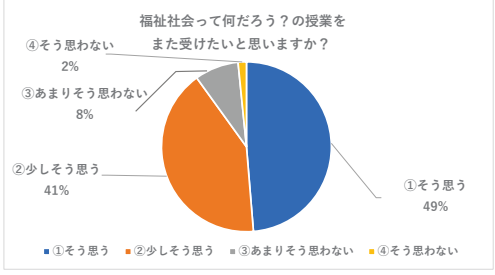
【質問 2】福祉社会って何だろう？授業の内容に興味がもてましたか？



【質問 3】福祉社会って何だろう？の授業は、今後役立つ内容だったと思いますか？



【質問 4】福祉社会って何だろう？の授業をまた受けたいと思いますか？



【質問 5】今回の授業について感想などをお聞かせください。

- 福祉の意味を理解することができた。
- 福祉についてあまりわからなかった事が多かったけど今回体験などを通して少し関心が持てました。
- 自分でできることがたくさんあることを知った
- 今までは福祉は高齢者や障害者というイメージを持っていたけど、児童福祉や地域福祉などがあると知ることができました。
- 福祉関係の仕事は自分が思っているよりも多く、AI に仕事を取られなさそうでいい仕事だなと思った。
- 福祉は身近にたくさんあることがわかりました。その身近なもので自分たちにできることは、点字ブロックや道に落ちているごみを拾うことができると思いました。
- 福祉について知ることができた。福祉はみんなが行うことだとわかった。
- 今回の授業を受けて今まであんまり詳しく知らなかった福祉のことなどについて詳しく理解することができた。また体験を通してこんなしたら足の筋力が弱い人でも立ちやすくなるんだなとか新しい発見があったのでよかったです。
- いろいろな人々が生涯のある人たちとも助け合っていくことも大切だと思いました
- 福祉について知れたし、地域についての視野が広がったから良かった。
- 今まで知らなかったことをこの授業でる学ぶことができました。ありがとうございました。
- 見える範囲で自分ができそうなボランティアや人助けは積極的に参加したり助けたりして地域のためにたくさん行動したいと思った
- いろんな事が学べました。
- 福祉は誰かがやるのではなく、みんなでやるという言葉に響いた
- とても学びになり自分のこれからの人生にとって大事な授業だったと思う。
- これからはボランティアに参加していきたいです。
- 将来働きたい職業に整体師が入っているので勉強になった。整体師は楽しいことだけだと思ってたけど、きつい部分もちゃんとあって苦労してるんだと思った。
- 福祉についてのことがよくわかり、よりよい社会を作るためにできることを考えるきかけとなった
- 最初は福祉について知らなかったけど福祉の意味について知ることができた
- どの仕事もそうだけど福祉の仕事は欠かせない仕事だと感じた。
- これからの自分がどのような行動をすればよいのか、考えることができた。
- tanosikatta
- 福祉と聞いてただ介護であったり、人を支える職としか想像していなかったけど幸せと関係していると知り、もっと詳しく知りたいと思いました。
- 福祉社会について詳しく知ることができた。自分自身ができることを行動に移していこうと思う機会となった。
- 今日の授業で、今までは福祉に少し興味があり来年の選択にも福祉モデルを取ったけどイメージが曖昧だったけど意外と見の周りにあり福祉はみんなでしていくものだと感じた。
- 福祉とは、幸せをより良くすることで福祉関連のしごとは人の人生を支えることができる専門職と

いうことがわかった
- 最初は福祉についてのことがあまり認識がなくて福祉には高齢者や障害を持っている人を手助けすることだと思っていたけど他にも子どもたちを見る保育園だったりもあり福祉には幅広い仕事だと感じた
- 福祉の様々なことを知れた。だけど今福祉社会でどのような問題起こっているのか知りたいい
- 知らなかったことをたくさんしれてよかった
- 福祉に関わる仕事は老人ホームとかデイサービスしか分からなかったけど、他にも保育も福祉に関わることだと知って新しい発見がありました。もっと福祉のことについて学びたいと思いました。
- 授業の中で体験があったのが楽しかった姿勢を良くする方法を知ることができて良かったです。家でも試してみたいと思いました。福祉について詳しく知ることができて良かったです
- 今回の授業を通して今の時代高齢社会になっているためこういった福祉社会の知識入れておくべきだと思いました。
- また、福祉という言葉を聞いてリハビリや介護としか思っていなかったのが今日の授業で福祉という言葉を聞いて様々なワードが浮かび上がるようになりました。"
- とてもわかりやすかったです。
- 私は、この授業を受ける前は福祉に少し興味があったくらいだったけれど、今回のこの授業で、「福祉は(誰か)がやるものではなく、(私達みんな)が担うもの。」という言葉が私的にすごく心に刺さり、福祉に興味を持つことができました。この授業を受けて本当に良かったなと思いました。
- 福祉の仕事は難しくて自分にはできないものだと思っていたけど、自分でもできそうなことがあると知って興味を持つことができた。また今回の授業で学んだことを今後の自分の生活で活かしていきたいと思った。
- 福祉についての勉強になった
- 立ち方矯正のものや相手の手を掴んであげて立たせる授業をした。
- 他にも福祉とはなにかの質問でペアと話したりしまなびを深めることができた"
- 今まで浅い知識でしか、福祉というものを理解していなかったが、今回の授業を通して福祉社会について学ぶことができた。
- 福祉とは何かがわかった。90 歳前半のひいおばあちゃんが軽い認知症で施設にいるから他人事じゃないなと思った。これからは率先して困ってる人を助けたいと思った
- 福祉について、授業を受ける前は介護や看護のイメージしかなかったけど、授業を通して理学療法士の仕事の大変さやすばらしさを知ることができた。授業の進め方もわかりやすくて聞きやすかった。
- 福祉とは障害者だけでなく高齢者、障がい者、子どもなど支援を必要とする人々が安心して生活できるよう、身体的・精神的・社会的なサポートを行うことというかとがわかった。
- ストレッチが楽しかったです。
- 一人ひとりが支え合う世の中にしていきたい"
- 福祉についてよく理解できました。
- 福祉社会は、障がい者や高齢者の人たちに関わる仕事の人たちのことだと思っていたけけれど、自分らしい生活を送れるように周りのすべての人が支えていくだという事が分かりました。

- 自分より立場が弱いひとたちにできることは、声掛けることや小さなことですが、その小さなことを大切にしようと思えました。福祉の世界はとても広くて大変な世界だなと思えました。
- 福祉という言葉を指定はいたが意味までは理解してなかったので、この授業でどのようなものか知ることができて良かったこれから自分にできることをして、社会に貢献していきたい
- 福祉に対して深く理解することが出来た。
- 福祉はすべての人が心と身体が健康に、人間らしい生活を送れるようにすべての人間で支える制度で、主に生活の身体的サポートや治療、訓練、精神のサポートなどを行うと知りました。福祉に関わる仕事をしている人だけでなく、普段からみんなで支えて行くことが大切だと思いました。よりよい社会をつくっていくために一人ひとりが福祉社会について興味、理解を持つ姿勢が必要だと思いました。
- 授業の前までは、福祉は介護士などの資格を持っている人が関係することだと思っていたけど、今回の授業で福祉はすべての人でみんなを支えていくことだとわかりました。
- 私は、福祉系の職業になりたいと思っているので、今回の授業で福祉社会はみんなが笑顔になるようなことと言っていたので、その言葉を思い出して、社会福祉をめざしていこうと思いました。
- 福祉社会についての理解を得ることができました。
- 今後のもしものときのために何をしておくべきかを考えることができた。また、高齢者や障害者など関係なくみんなで助け合うことがとても大切だと気付いた。
- 福祉は老人ホームなどの印象しかなかったけどいろんなものに福祉が関わっていることがわかった
- 理学療法士にもともと少し興味があったので今回の話が聞けて良かったです。勉強になりました。
- 福祉のことについて学び、福祉とはすべての人が心と身体が健康に人間らしい生活を送れるように支えるための制度ということがわかった。
- ストレッチをする時にただするのではなく、今やっているのがどこの筋肉を伸ばしたり、柔らかくしたりしているのか知りながらやることが大切と分かった。
- 福祉と聞いて今までは老人ホームやバリアフリーを思い浮かべていたけど、授業を受けてそれ以外のことも沢山あることがわかった
- 福祉の仕事に携わることで、いろんな人をたすけられるということをしった。
- 自分はスポーツトレーナーになりたいので、卒業したら専門学校に行って理学療法士を取りたいと前から考えていたので、今日の授業はとても勉強になりました。卒業後の職業とか収入の安定さ、福祉とは何かについて知れたし、ストレッチなどをして怪我した人を治すだけでなく体に不便がある人の補助をするということもわかって、福祉の業界の大切さにあらためて気がつきました。
- 福祉って、身体的なことって思ってたけど、みんなができることで、困っていること全般を手助けすることも福祉なんだなって思いました。
- 福祉についてわかった
- 訪問介護やデイケアの意味がわかった
- 福祉とは身体が不自由な人たちや障がい者の人たち、高齢者の人たちを支援したりすることだと思っていたけど、講義を受けて福祉とは全ての人が生活の安定や充実。また、人々の幸福で、安定した生活を公的を手に入れるためだと分かりました。
- みんなで支えながら生活することで福祉が成り立つということがわかったので、私も周りを支えら

れるように頑張っていきたい。
- 福祉社会は誰かが作るものではなく私達が作っていくものという言葉が心に残り、自分もとても共感できました
- 立花さんの話で福祉とはすべての人で支え合うと聞いて、僕も福祉社会に貢献できるように高齢者が困っていたら声をかけようと思った。
- 福祉のイメージとしては介護してくれる人だけがやっているものだと思っていたけど、今回の講話を聞いてみて福祉というのは皆でするものなのだなと改め直すことができました。もし体の何処かが不自由な人がいたとしたら、その人が生活しやすいようにつきそっていきたいです。
- 福祉で家で過ごしたい人を手助けしたりできる
- 私の将来の夢が社会福祉に関することで、とても興味をもてる授業内容でした。社会福祉士は臨床心理士や医師、看護師などの職業何だと思ってましたが、社会福祉は他にも今日習った理学療法士も社会福祉に入ってることに初めてわかりました。最初の福祉とは？でペアと話し合って思ったことが、理解しているようであまり理解していませんでしたが、今日の授業で、福祉について少しでも知れてよかったです。
- 人を幸せにする職業と聞いて、とてもすばらしい仕事だと思った。
- 今後の福祉社会に対する自分たちができる事がわかった
- 今後に活かしていこうと思います
- 福祉のことについてよく知ることができ、今後どう接していけば良いか考える事ができました
- 福祉について改めて意味などを理解できました。
- 福祉について理解することができた
- 今まで福祉についてあまり興味を持たずただリハビリとかだけなのかなーとか思っていたけどいざ習ってみると児童クラブなのも福祉に入っていてとてもびっくりした。
- こーゆーのに興味を持つと世界がひろがってどーゆー時に習ったことを活かせることとか考えられてからこーゆー習って実践したりするのもとても良いとおもった。
- おばあちゃんとかの立つサポートとかもしてあげたい"
- よりよい社会を作るために、地域福祉に参加したり、日頃から福祉について考えたり関わったりすることができると思った
- より良い社会のために私達ができることがわかった
- 福祉という点で自分が知らないところを今日は知ることができたのでとてもいい授業になりました。また、途中で行った姿勢のところで高校生のうちから姿勢を良くするクセを付けていきたいなと思いました。
- 社会福祉の説明を聞いて少し興味がもてた。
- 介護の仕方や姿勢の直し方をしれてよかった
- 福祉について知ることができ、自分の福祉社会での役割について考えることができた。
- 理学療法士もスポーツやいろんな仕事に関わっていることがわかった。
- 今回の福祉の授業を受けてみて福祉は社会のいろいろなものと結びついていて、これからの社会においてとても必要なことだと思いました。福祉と関わっている職業はたくさんあるということにもびっくりしました。

- 福祉についてたくさん学べてよかった。
- 福祉とは主に幸福で安定した生活を公的に達成しようとするということがわかりました。また、福祉にもたくさんの種類があり、それに関わっている仕事は保育士だったり、看護師だったり心理士といった仕事があるということも分かりました。福祉社会において、地域のボランティアに参加したりイベントに関わったり、今の自分にできることを率先してやっていきたいと思いました。
- 保育も福祉に含まれるとはじめてしりました。わたしは、手話に興味があるので将来使っていけるように勉強をしていきたいです。
- 福祉についてあまり知らなかったのですが、今回の授業を通して色々なことがしれて良かったです。福祉には高齢者福祉や障害福祉などの仕事があることがわかりました。
- より良い社会を作るために、自分にできることは、募金活動や困っている人のサポートなどができると思います。また、モノレールやバスで席を譲ったりできると思います。
- 今日の授業をして、福祉の大切さが改めてわかりました"
- 福祉とは介護とかだけではなくて、幸福だということがわかりました。また、福祉の仕事は、主に５つあって１つ目は、高齢者福祉で２つ目は障害者福祉、３つ目は児童福祉で４つ目は児童保護、５つ目は地域福祉だということがわかりました。福祉にはいろいろな福祉があるってことがわかりました。自分ができることは困っている人を助けることだということにも気づくことができました。
- 私達は福祉社会のなかに生きているからしっかり周りに目を配り、今の自分が貢献できることを探して行こうと思った。
- 福祉社会は最初資格を持った人などが中心でいろんな人たちを救っていくと思っていたけど誰にでもできるということを知りました。また、福祉にはいろんなことがあり福祉の中にもいろんなことがあることをしりました。これからの自分ができることは相手が困っていたら助けてあげたり周りの目を気にせずに行動できるようになりたいとおもいました。
- 福祉社会について様々な役割や職業、どのようなことを得られるか知ることができました。また、福祉社会についてまだまだ知りたいことがたくさんあるのでこれから福祉社会についてたくさん調べて知識を増やしていきたいです。
- 福祉とは何なのか福祉業界にはどのような仕事があるのか知れた。実際に使っている立ちづらい人を立たせやすくする方法なども身を持って体験できてよかった。今日学んだことを今後何かに活かしていきたいと思った。
- 医師の方が患者さんに病名や今後できなくなることを伝えることが苦痛だということは初めて考えられた。いくら仕事とはいえ、人間である以上身体の健康基準は同じであるから、まだ何も知らない患者本人を眼の前にして、どれだけ正確に、かつメンタルケアをしながら伝えなければならないということが大切なのだろうと思った。
- 福祉がどういうものかや、福祉の業界や仕事についていろいろなことを知ることができた。また、介護をするときの、座っている人が起きるときの補助の仕方などのちょっとした知識が身についた。
- 私の母も高齢者の介護の仕事をしてるので、とても興味深かった。また、福祉の仕事でも色んな種類があり、高齢者福祉だったり障害者福祉があったりなど他にもたくさんある。特に私は、児童保

護というものに興味が湧きました。なのでこれについて授業以外にも自分で知識を得られたらいいなと思いました。また将来に役立ちそう。
- わたしは、今回の福祉社会に関する授業を受けて、人を助けてあげることの大切さについて深く理解することができました。なぜなら、福田先生が授業の中でおっしゃっていた、「家族や身近な人が、歩けなくなったり、足がなくなったり、ひどく苦しんでいたら助けてあげたいと思い、それを実現できるのが理学療法士であった。」という言葉に深く共感したからです。これからは、自分のできる範囲の中で人を助けていきたいです。
- 理学療法士という職業は聞いたことはあったけどどういうことをするかはわからなかったので新しい職業を知るいい機会になれたと思いました。
- 今回の授業で福祉にもいろいろな仕事や種類があることを知った。地域福祉もあることを知って私もボランティアなどにチャレンジしてみようと思った。児童福祉は児相とかだけだと思っていたけれど保育園なども児童福祉に入ることを知れて良かった。
- 福祉に関わっていくことが大事だとわかりました
- 福祉社会の授業を受けて、福祉は私達の幸せをいきるためにあるんだとわかりました。
- これからは福祉団体のボランティアやイベントに参加して交流を増やしたいと思った。
- 福祉とは幸福という意味だとわかった
- 福祉はとても幅広いもので、色々な人と関わっていく仕事とわかった
- 人と人との仕事だから、信頼関係や安心、安らぎなどが大切だとわかった
- 福祉について少しだけ言葉で表せられるようになってよかった
- 今回の話を聞いて福祉のことについてもっと調べたいと思いました。
- "人間は椅子に座った状態で頭を抑えられると立ちにくいと分かった。
- ほかにも福祉はどんなことなのかをこの授業で知ることができた
- 自分はまだ知識や技術があるわけではないからまずは、自分のおばあちゃんなどの身近な人に今日習ったことを実践したい。また、わからないことがあったら、インターネットなども活用しながら理解を深めていきたいと思った。
- 福祉は医療系のことだと思っていたが、保育や地域なども関わっていることがわかった。
- 今まで福祉について詳しく知れていなかったけど、今日の授業で業界や仕事について詳しく学ぶことができたのでよかった
- 福祉にも色んな種類があるとわかった。
- 福祉とは色々なことが混ざってできていることがわかったのとその中でおも柔道整復師、ナース、医師、医療事務などが福祉の仕事や業界があることがわかりました
- この授業を通して今後の社会への関わり方を改めて学ぶことができました。
- 今回の授業をして社会福祉にはたくさん種類があって特に作業療法士に興味をもった。
- 今まで社会福祉のことがよくわかっていなかったけど今日の授業で社会福祉とはどういうことをしているのかについてわかりました。社会福祉はいろんな人をささえていることがわかりました。もっと知りたいとおもいました。
- 福祉とはなにか考えて知ることができた
- 「福祉＝障害者、高齢者」って考えてたけど、児童も必要としてるってことに新しく気づけた。

- より良い社会にするために自分ができることを考えることができた。
- 福祉に全然興味なかったけど少し職業の内容など聞けて理解できました。
- 福祉に興味があったけど今回の講話を聞いてより一層興味が持てました。
- 今回の授業で福祉は生活の安定や充足、また人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとすることや福祉に関わる職種について知ることができた。また、理学療法士は体に障害のある人に治療、訓練を行なって基本的な運動能力の回復をはかる仕事をしているとわかった。
- 今回、琉球リハビリテーションから福田総史先生が来てくれました。福祉社会には高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、児童保護、地域福祉の５つがあることを知りました。私は話を聞いてみて、より良い社会にするために今の自分でもできることはあるなと感じました。私は地域での行事ごとに参加することが一番直ぐにできそうだし、ボランティアをすることで地域の人とも仲を深めることができるのでこれからは地域の行事には積極的に参加しようと思いました。ペアで話し合って福祉のことについてより深く考えることができたのでまた考えたり来たりしながら授業をしたい。
- 今日の授業で、理学療法士とは体に障がいがある人に治療、訓練を行い、基本的運動能力を図ることだと知った。手が上がらなかったりするとどうすると上がるのかなどその人の体の原因を探って治していくという取り組みはほんとにすごいと思った。
- そして、からだの障がいを治した際にも相手にも感謝されるのは仕事としてやりがいを感じていることもス素晴らしいと思った。"
- 誰かがやるんじゃなくて自分からやることが大切だとわかった。
- 今回の授業で、知ることができたのは福祉という言葉です。最初福祉は健康だったりなどよくわからなかったけど、福祉とは幸福であり人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとすることということがわかった。
- 福祉の業界や仕事は高齢者福祉、障害者福祉、育児福祉、育児保護、地域福祉があるとわかりました。私のおばあちゃんとおじいちゃんは今は健康だけど今後どのようなことが起きるかわからないので、福祉についてもっと知っときたいと思いました。また私の将来の夢は保育士で、私には４歳の妹がいるので育児保護、育児福祉についてももっと勉強したいと思いました。
- 福祉について学ぶことは難しいことだけど福祉は高齢者だけでなく幼児や児童などみんなにいい影響があるのかなと思いました。
- ちゃんと福祉社会のことを知らなかったので今回、詳しくしれてとても良かったです。これから自分たちができることを考え頑張りたいです。
- 福祉について知っているものだと思っていたけど、今回の授業を受けて、私が思っている福祉とは違っていることがわかってとても良かったです。
- 今回の授業で、福祉は、幸福のことで、特に生活の安定や充足、人々の幸福で安定した生活を公的の達成しようとすることだと知れました。また、福祉には高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、児童保護、地域福祉があることが分かりました。理学療法士は、体に障害がある人に治療、訓練を行い、基本的運動能力の回復をはかる仕事だということが分かりました。
- 今回の授業で、強く印象に残ったのは、「福祉」は幸福・幸いという意味を持つことです。
- 私の弟たちは障害を持っていて、学校での差別やいじめなど起こらないか、私達の両親や学校・デイサービスの先生と相談しながら不安になることが多かったですが、福祉の漢字に「幸福」という

意味が込められていると知り、すごく印象に残りました。私は福祉の道に進みながら知らないことをもっと知って、周りの人に伝えていきたいです。
- いままで「福祉」と言う言葉を聞いたら、高齢者の介護や健康状態の維持の手伝い、健康管理ぐらいの意味や仕事だと思っていましたが、今回の授業を受けて「福祉」とは、幸福を表していて、特に、（公的扶助による）生活の安定や充足。他に、人々の幸福で安定した生活を公的に達成することなどの意味が込められているとわかりました。福祉の業界や仕事では、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、児童保護など、自分の知らないところには様々な仕事があるとわかりました。とても勉強になるお話でした。
- 実際に介護の体験を少しやったり、子供のリハビリとかでやる遊びをやってみて、普段できないことだから楽しかった。
- 今日授業を聞いてみて、体験は見方を変えることが出来るというのを学ぶことができました。また理学療法士は人の人生を支えるので、責任が重い仕事なんだと初めて学びました。
- 理学療法士などについて知れてよかった
- 話の中に具体例とかがあってわかりやすかった
- ペアで活動したりするが多くて楽しかった。分かりやすかった。
- 今回の授業を聞いて福祉社会においてこれから募金活動や清掃ボランティアに参加したりして自分のできることをしっかりとやろうと思いました。
- 福祉は人々の幸福で私達はすでに福祉社会の一員だとわかりました。困っている人がいたら、積極的に声をかけて助けていきたいです。
- 福祉は高齢者や障害者などだけでなく児童の福祉などもあり人々の生活に深く関わっていてしれてよかった。
- 勉強になった
- 福祉について考え方が変わりました。福祉は高齢者とか障害のある人だけだと思っていたがみんなだと知って驚きました
- 福祉とはどういうことなのかを知ることができたから良かった。
- 自分で体験することができるのがいいとおもった。
- 福祉は人を幸せにすることだとっ知ったし、福祉にもいろいろな種類があって人を幸せにするだけではなく自分が人に味方を変えるきっかけにもなるとわかった。
- 今回の講習で福祉というものは、人々の幸福で安定した生活を公的に達成することだと知り、新しい知識が色々あって良かった。
- 福祉について最初はあまり知らなかったけど、今日の授業を受けて福祉のことについて詳しく理解することができました。福祉は幸福で安定した生活を公的に達成しようとすることだとわかりました。また、話し合ったり立ち方などの体験をしていろいろな新しいことを学べたので良かったです
- 初めて知ることが多かったので良かった。（地域福祉、児童にまつわる福祉等）
- 福祉の意味とその業界について学べて、幼稚園などの施設も福祉に含まれる事に驚いた福祉についてまだ知らないことが今回の授業を通して自分なりに理解ができたので良かったです
- 福祉は幸福という意味が込められていた事がわかりました。福祉の仕事だけでもいろんな種類があるということを知りました。これからも福祉について知っていきたいです。

- 福祉社会についての授業を通して福祉のイメージが変わり、とてもいい経験になった。
- わたしが思っていたことよりも多くのことが社会福祉に結びついているとしれて良かったです
- 今日の授業をとおして福祉は老人ホームや高齢者のイメージが強かったけど幸福ということをはじめてしった。福祉社会で自分にできることを考えていこうと思った。
- 福祉の職種について理解することができました。また、高齢者や障害者を椅子から立ち上げるやり方や、姿勢の直し方などためになることを学べて良かったです。
- 福祉の仕事は思っていたよりも多くあることがわかりました。小学生のときは学童とかこども食堂とか利用していたのでこれは福祉のおかげだったことが知ることができました。地域の幸せになれるようにお手伝いやサポートしていきたいです。
- 福祉は高齢者や障害者だけでなくみんなが幸福に暮らすことだとわかった。福祉の業界は高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、児童保護、地域福祉に分けられると知り、保育分野に興味を持った。理学療法士は小児科やスポーツ、内科などいろんな分野に関わると知った。福祉社会において私は、祖父母の家の掃除を手伝うことができるかなと考えた。
- 今回の授業は、福祉についてやった。最初、福祉のイメージで介護とか高齢者などがあったんだけど、福祉は幸福や幸せで安定した生活だと知った。また、理学療法士のことも知れた。福祉の仕事に保育も含まれているのは初めて知ったし、他にもたくさん学べたので良かったです。
- 足腰が不自由な人とあったり関わったりする際は、自分から歩み寄り、立ったり座ったりするときに手を貸してサポートしたい。また、体験は見方を変えるきっかけになる。福祉は、誰かはやるものではなく、私達一人ひとりから始めるものだと気付かされた。
- 今日の授業を通してよりよい社会を作るためには、自分が福祉業界に対して進んで行動し貢献していくことが大事だとおもいました。福祉の業界の仕事でもある地域福祉は、その専門の方だけだはなく私達でも協力して参加出来ると思いました。地域の自治会のイベントだったり清掃活動・高齢者との交流を自分から意欲的に参加し幸せに生きてく社会を作って行きたいです。
- 福祉は介護や高齢者のお手伝いだけだとおもっていたけど保育が入っているのにびっくりしました。また、福祉の業界や仕事には５つあることを知り児童保護、児童の生活支援、児童のクラブの運営なども福祉業界に入ると知って凄いなと思いました。
- 今回の授業では福祉社会についてたくさんのことを学んだ。福祉は幸福を意味し、主に５つの業界や仕事がある。私は前まで、福祉は高齢者、障がい者を支援すること、だと思っていたけど児童福祉、自動保護があり保育園も福祉の中に入ることは初めて分かった。医療、福祉は辛い仕事だと思っていたけど、患者さんやその家族から感謝をもらう素敵な仕事だと分かった。今からでも私たちにできることを考えることが大切だと考えた。
- 今回の授業を聞いて福祉について理解することができた福祉には保育なども入り障害者や高齢者だけではないことがわかった、今までの考えていた事全然違っていたので今回学んだことで福祉について興味を持てたし今自分にできることを考えることができたので良かった。
- 今回の福祉社会について、私は医師や看護師だけでなく、保育士なども福祉に関係しているんだなと思いました。今後のより良い社会を作るために、困っている人を助けたり、家の手伝いやゴミ拾いのボランティアなどにも積極的に参加していきたいです。まずは小さなことからはじめてだんだん大きくしていきたいと思いました。また、高齢者や障害者を助けるためにももっと福祉について

の知識を得たいと思いました。
- 福祉とは人々を幸福にするという意味を持っているとわかりました。福祉社会に関する仕事は医師や看護師だけでなく私が知らなかった保育士などがありました。私が今後福祉社会でできることは身近な家でできることだけではなく、地域ボランティアにも参加することだと思いました。ボランティアに参加できなくても道などに落ちているゴミを拾う、ポイ捨てをしないという簡単なことを当たり前にするようにしたいです。看護師に少し興味があったので人の手助けのために今回の授業を受けられて良かったです。
- 福祉とは、誰もが暮らしをより豊かにするため相互補助システムである事がわかった。
- 福祉の職や業界にも種類があり、高齢者福祉：ご高齢の方の生活サポート、障がい者福祉：障がいのある方の様々な支援、児童福祉：子どもの成長のサポート、児童保護：子どもを一時的に預かり、楽しく時を共に過ごすサービス、地域福祉：地域で相互サポート⇒共助や公助、自助、互助、公助などがあるという以上のことがわかりました。
- また、福祉の職は、責任感があり、常に社会から必要とされるのでやりがいがあることがわかりました。
- お忙しい中、ご講授下さりありがとうございました。
- たのしかった
- 福祉とはなんなのかや福祉社会の中で自分にはなにができるのかなどを考える事ができた。
- 福祉について元々のイメージと同じこともあったり、こんなこともしているんだとびっくりすることもありました。お話を聞けてよかったです。
- 福祉は仕事が少ないと思っていたがめちゃ種類があって仕事も大変そうだった。
- 今まではあまり福祉について考えることは無かったのですが、今回の授業を受けて福祉がどうゆう物なのか改めて知ることができました。介護以外にもリハビリやスポーツのサポートもすることを初めて知りました。私も地域のお祭りやイベントにも積極的に参加したいと思います。
- とても深かった
- 普段あまり関わらない職業のはなしをきいて、意外と身近にある職業なんだなと感じた。
- 前までの自分よりこの職業に興味をもてたので、また機会があれば詳しく聞きたい。
- 福祉とは、人々が幸福で安定した生活を公的に達成しようとすることだと知りました。福祉社会における私ができることは、困っている人に声をかけたり、ボランティア活動を行い、近所付き合いを深めることだと思ったのでこれから頑張りたいです。
- 周りの人同士で助け合い幸福で安定した生活を達成するのが福祉ということがわかった
- 今回の授業を受けて、福祉について理解することができました。福祉には色々な仕事があり高齢者福祉・介護のお仕事、障害者福祉のお仕事、児童福祉のお仕事、相談援助のお仕事、医療福祉のお仕事と５つのがあって自分たちの身近にもあるということに気付けました！
- 今回の授業で身近にどんな福祉があるのか知れたり、福祉の種類やその仕事についていろいろとわかりました。他にもどんな福祉があるのか知らべてみたいです
- 今回福祉についての授業を受けて思ったことは、福祉は色々やることがたくさんあると分かりました。そして今日はじめて福祉の正式な意味について深く知ることができてとても嬉しかったです。福祉はこれからも私たちの生活を支えていくことが分かったので、私も社会に対して福祉的なこと

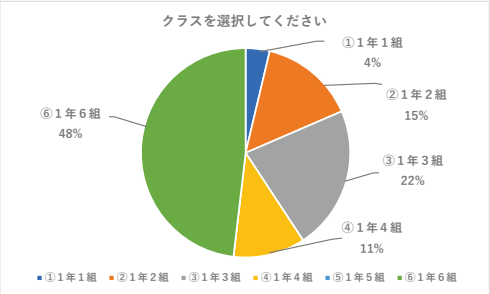
ができるようになりたいです。
- 最初は福祉とはって聞かれたとき、介護とか高齢者のためとかって思ってたけど、今日授業してみて、全然違ってスポーツしている人を支えたり訪問リハなどをしていることがわかりました。ほかにも、高齢者だけじゃなくて児童福祉のお仕事をしたり、相談援助のお仕事や、障害福祉のお仕事などをしていることがわかった。
- 福祉の人たちがどんなことしてるのかを知った
- 福祉は私達の身近なことにも関係していて誰でも必ず助けてもらっているものなんだと知ることができた。私も学校や地域で皆が安定して幸せな生活を送れるような行動をして過ごしたいなと思った。
- 福祉に関係する仕事は自分とはあまり関わりのないと思っていたけど、保育士やソーシャルワーカーのような意外と身近なものも福祉に関係することを知って、他にもいろいろ関わりがあるのかなと思いました。人体の少し不思議なところにも触れられて楽しかったです。
- 今日は大城先生がわざわざ陽明高校に福祉について教えてもらうことになりました。今回は今までの授業であまり触れてこなかった福祉について、福祉社会についてなど、いろいろなことを学ばせていただいたのでとても良い機会になったと思います。今回の授業を機に福祉について考え、僕は福祉とは身の回りに困っている高齢者や子供を助けることだと思っているので、身の回りで困っている高齢者や子供を見つけたら進んで助け、地域に貢献して行きたいなと思った。
- 福祉に関連する職業はあまり詳しくなかったので、スライドやお話で聞けて良かったです。福祉社会における自分の役割も考える機会になりました。
- 今回の授業で、理学療法士は高齢者の介護や障害者のサポートなどが主の仕事と思っていたけど、病院で怪我した人のサポート、リハビリ、保育施設などでも仕事ができたり、医療関係の仕事だからやすみや、プライベートが充実していることなどがわかった。
- 福祉社会は高齢者だけでなく、誰かの手助けが必要な人を支える仕事であると学びました。人間の体の仕組みについてもいろいろ知れてとても面白いなと思いました。
- 福祉とは、人々が幸福で安定した生活を公的に達成しようとすることだと分かった。
- 福祉にも色々あり、介護のお仕事、障害者福祉のお仕事、児童福祉のお仕事などがある。
- より良い生活を送る上で私達はボランティアをしたり、募金など助け合いをすることが大切。
- 福祉について深く知り、福祉社会における自分の役割を考えることができた。あと、福祉社会に関わっている人の話を聞いて学びを深めることができた。
- 軽いアクティビティもしながらの授業で楽しかった。福祉というものがどんなものなのか理解ができた。
- 福祉の定義にそって様々な福祉の業界、活動があることがわかった。誰かの幸福の実現のために自分の力を使う福祉の活動に少しですが興味が湧きました。"
- 福祉について学び、福祉にもたくさんの種類があり大きく分けて５つもあってびっくりしました、その中でも相談に関する福祉で人の心をサポートすることも大切なことであり、今の自分だけが過ごしやすいでは、だめなんだと気づくこともでき誰もが過ごしやすく、不便のない福祉社会を作っていくためにも自分が良ければいいではなく、困っている人をみんなで支え合うことを目標として今後もっとみんなが過ごしやすくするために、どしたらいいのか考えて行きたいです。

- 福祉は高齢者の介護だけではなく障害者や児童の関わっていることがわかりました。授業では実際に体を動かしながらやることでどこを使っているのかがわかりました。
- 福祉は、自分の視点を変えるだけで自分は陽明生として何ができるのかや地域のために何ができるのしることができました。今後は地域のためにボランティア活動に参加したり積極的に挨拶をして小さいことの積み重ねだと思いました。"
- "福祉社会について学んで、福祉は「誰か」がやるものではなく「私たちみんな」が担うものだと知ることができた。
- より良い社会を作るために私たちができることは、困っている人がいたら助ける・挨拶をするなどと小さな事や自分にできることからやることが大切だと思いました。"
- 福祉とは公的扶助などによる生活の安定や充足によって幸福を得ることができることがわかった。また高齢者、介護のお仕事、障害者福祉のお仕事で病院・子供の施設などで困っている人のサポートをしていることがわかった。この授業で学んだ福祉社会における私の役割・できることは、募金や困っている人を見かけたときにサポートをしたいと思った。
- 今日の授業で、福祉社会についてよくわかりました。福祉の業界や仕事は、大きく５つに高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、相談援助、医療福祉と別れていて、福祉社会は、沢山の種類があるとわかりました。僕も地域のためにボランティアなどで頑張りたいと思いました。
- 社会福祉は、全ての人が心と身体が健康に、人間らしい生活を送れるように支える事が分かりました。また、福祉の仕事では、高齢者の介護や児童福祉などいろんな仕事があることも分かりました。実際に体を動かしてみて、私達の体についていろいろ知ることができたしボールを使って体を動かすときも楽しかったです。より良い社会を作るために、みんなで助け合ったり、笑顔で相手と接していきたいと思いました。
- 今回の授業を受けて、福祉がなぜあるのかを知ることができたが、自分が予想していた答えと違っていたことに共感を得ることができました。最初の頃は、高齢者や障害を持つ人たちの援助を目的とした人達が関わる言葉だと考えていたのですが、学生である私も県民として日本人として福祉に関わる人間なんだと知れて、見て見ぬふりをして身の回りの環境をそのままにするわけにはいかないなと感じることが出来た。
- 今まで福祉のことをちゃんと理解していなかったから、福祉 = 高齢者、介護しかイメージがなかったけど今日の授業で理学療法士になって高校の部活のトレーナをする方もいると知り福祉ってさまざまな場面で利用されていてたくさんの人と関わりを持ててたくさんの人の手助けをし感謝されている素敵なお仕事だと分かりました。理学療法士ってすごいなと思ったし興味が湧きました。
- よく理解できた

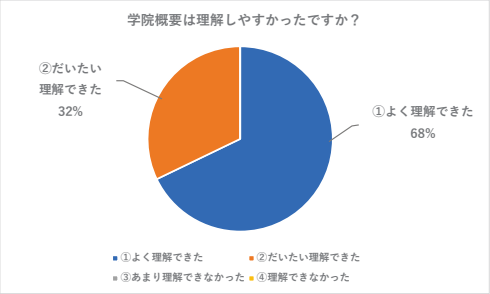
以上

陽明高校１年生　総合的な探求の時間　上級学校訪問

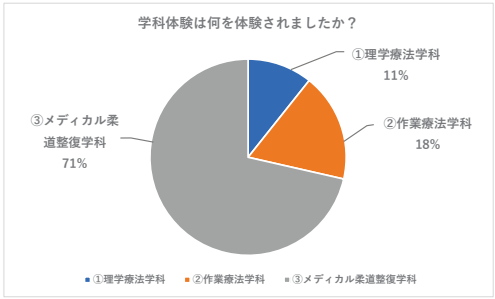
【質問 1】 クラスを選択してください



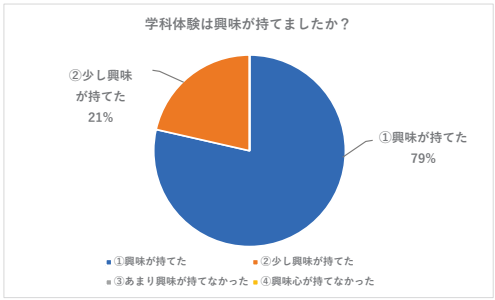
【質問 2】 学院概要は理解しやすかったですか？



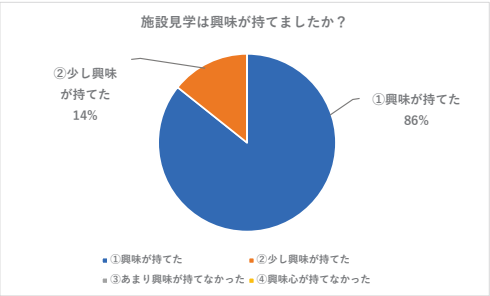
【質問 3】 学科体験は何を体験されましたか？



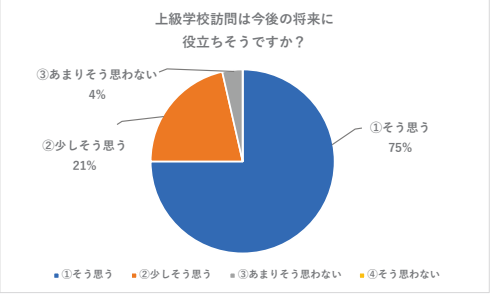
【質問 4】 学科体験は興味が持てましたか？



【質問 5】 施設見学は興味が持てましたか？



【質問 6】 上級学校訪問は今後の将来に役立ちそうですか？



【質問 7】 今回の上級学校訪問について感想などをお聞かせください。（自由回答）

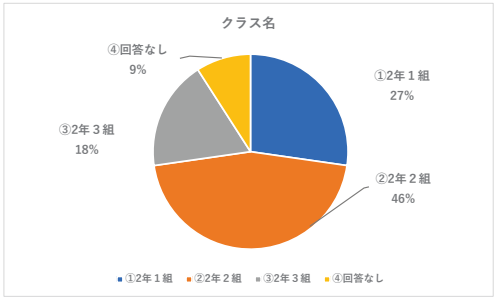
- 優しく丁寧に教えてくれた
- 実際に治療を体験してみてとても凄かった。
- 上級学校訪問をして、体のしくみについて少し理解することが出来ました
- 楽しかったです
- いろんな授業のところがみれてよかった
- 色んな所歩き回ったり講堂の中入ったりして見てみたり、テーピング体験とか色々して楽しかった
- とても楽しい人たちでおもしろかったです
- 作る体験が楽しかったのと道案内みたいなのわかりやすかったです
- 学科を体験できてテーピングの巻き方を知れて楽しかったです。
- 上級学校の方達も優しく分かりやすく話してくれて分かりやすかったです。
- １人１人優しく接してくれてとても楽しかったです！
- 包帯やテーピングを巻いてもらったり、様々な施設を見て回ったりたくさんのことを知れてとても楽しかった。入学してみたいと思った。
- テーピングの体験学習で素早く巻いていてすごいと思った
- 琉球リハビリテーション学院は介護などが主なものだと思っていたけど柔道を使って応急処置ができると知って驚いた
- 楽しかった
- "学校の雰囲気よかったです。
- メディカル柔道整復学科の在校生も喋りやすくて楽しかったです！"
- 自分は福祉系に進もうと思うが、福祉にもいろいろな種類があって、メディカル柔道整復学科ではテーピングや体の使い方を学べてとても良かったです。
- メディカルスポーツ柔道整復学科の体験をして楽しく感じました。興味を持ちました。自分もやってみたいと思いました。
- "とてもイメージが持てた。
- 体の仕組みなど分かりやすく知れて資格の取った後などのことについてわかった。
- とても楽しかった。"
- 生徒や先生も優しく校舎も綺麗で楽しかった
- "校内の設備が充実していて過ごしやすい環境だと思った。
- 先輩方のテーピングの指導や印象が良くてとても分かりやすかった。"
- 私は前から怪我などを治すということに少し興味があったため包帯やテーピングを巻いて貰う体験をしてさらに興味をもちました。テーピングの巻き方は片足だけを巻くので比較的簡単な方だと思いました。包帯は片腕からもう片方の脇下を巻くのでテーピングよりも難しく感じました。
- 学生や先生方の雰囲気も良くて明るく温かい場所だと思った

- 分かりやすくて実際に体験もできて楽しかったです。将来についても役立てると思いました。
- 作業療法士と理学療法士の違いがわからなかったけど、今回の上級学校訪問で作業療法士は精神的についてのことだとわかりました。そして、無料送迎バスや学生寮など学生に手厚いサポートがあってよかったです。
- "琉球リハビリテーション学院に行ってみて、それぞれの学科でどういう事を勉強するのかということなどがわかりました。
- また、作業療法士の学科での体験もわかった事が多かったし楽しかったです。"
- 琉球リハビリテーション学院では 4 つの科目から選ぶことができ、今回の訪問でどのような勉強をするのか知ることができてよかったと思いました。
- 先生が話しやすくてとても良かったです

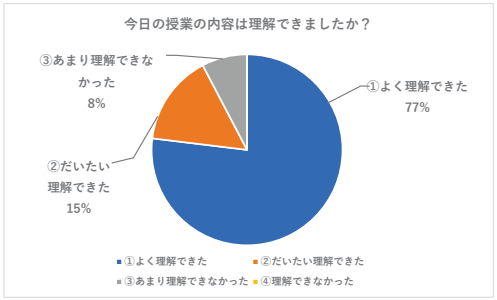
以上

陽明高校２年　社会福祉基礎（6_6）

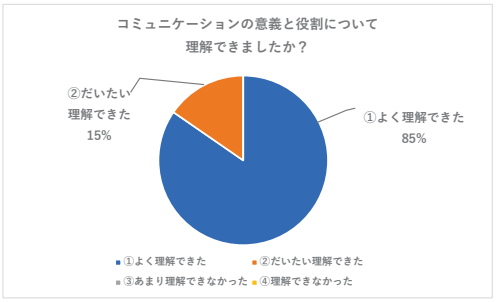
【質問 1】 クラス名



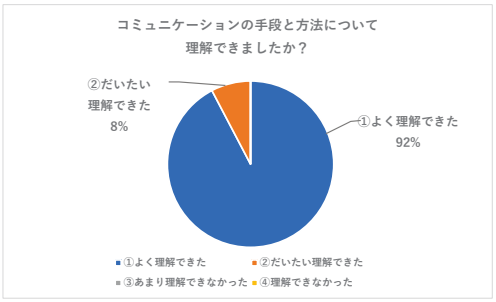
【質問 2】 今日の授業の内容は理解できましたか？



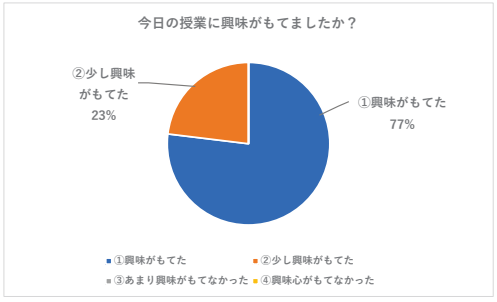
【質問 3】 コミュニケーションの意義と役割について理解できましたか？



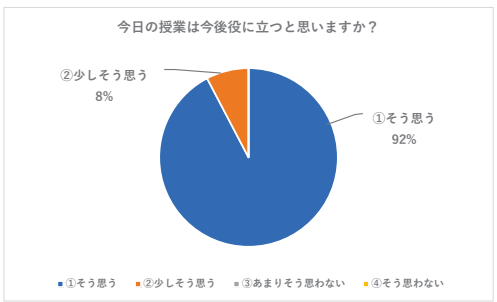
【質問 4】 コミュニケーションの手段と方法について理解できましたか？



【質問 5】 今日の授業に興味がもてましたか？



【質問 6】 今日の授業は今後役に立つと思いますか？

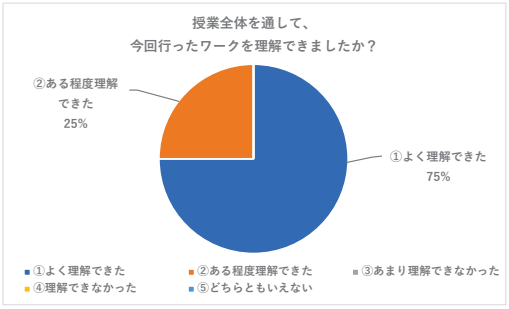


【質問 7】 今日の授業について感想を記載してください（自由回答）

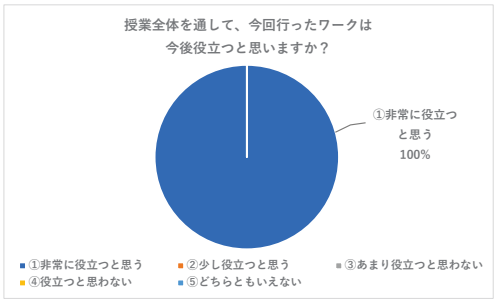
- コミュニケーションの良さをしれました。
- みんなでゲームとかもできたから楽しく学べました！
- コミュニケーションは会話のキャッチボール
- コミュニケーションが社会福祉士にどれだけ大切かを知ることが出来た
- コミュニケーションは日本語で伝達。それは、様々なメッセージをやり取りし、その情報を共有し合う事や、このやり取りを通して【相好関係を深める事】この文の意味には信頼や、人と人が共有しあうという事が理解できました。
- 手話を習っていてなんとなくの感覚だったけどここ最近聾者の人と関わっていたりして重要性を感じていたタイミングでちょうどコミュニケーションについての授業を持ってもらってしかも手話もコミュニケーションの一つだと紹介を受けたので今後とも人と関わるときのためにいろんな言語や相手に伝えやすい動きについて考えるようになりました。ありがとうございました。
- 自分は人とのコミュニケーションを取るのが苦手であまりとらないことが多いけど、この授業で人とのコミュニケーションを取ることは大事だなと感じました。
- 今回の授業を通して、コミュニケーションには様々な方法がある事や、コミュニケーションの大切さについて知ることが出来ました。また、実際にジェスチャーをしないでコミュニケーションをするととても難しく、今まで当たり前にできていたコミュニケーションのありがたさを実感しました！
- 私はコミュニケーションが苦手だけどちょっとした会話でもコミュニケーションは取れることがわかったし会話だけではなくて手話や言葉などがあると分かりました。ゲームも楽しくて自然にコミュニケーションをとる事が出来ました。
- 手話や点字はコミュニケーションに当てはまると知りました。最後の時間でコミュニケーションのゲームをし、ジェスチャーを使わないで言葉だけで説明するのがとても難しかったです。コミュニケーションのむずかしさとたのしさを知りました！　ジェスチャーだけではなく、ちゃんと話し言葉を使ってコミュニケーションしていきたいです！
- 分かりやすくて楽しかったです
- コミュニケーションについて知ることが出来た。
- お互いだったりみんなで話して会話しているだけがコミュニケーションじゃないこと、コミュニケーションが当たり前に感じていたけど改めて人と関係するときにとても大切なことだと思いました。最後のゲームも楽しくて、とても楽しい授業でした。

以上

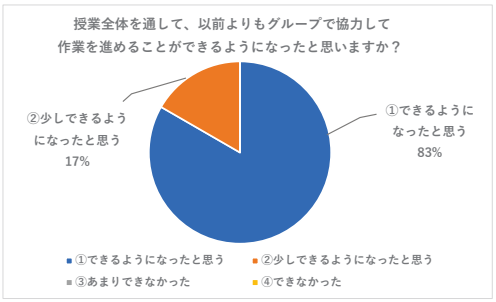
【質問 1】 授業全体を通して、今回行ったワークを理解できましたか？



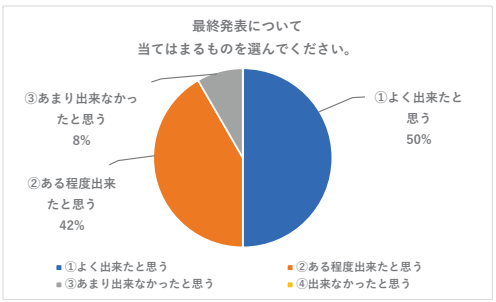
【質問 2】 授業全体を通して、今回行ったワークは今後役立つと思いますか？



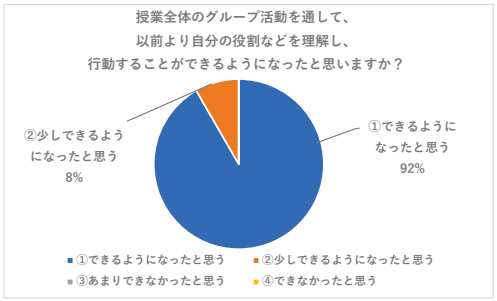
【質問 3】 授業全体を通して、以前よりもグループで協力して作業を進めることができるようになったと思いますか？



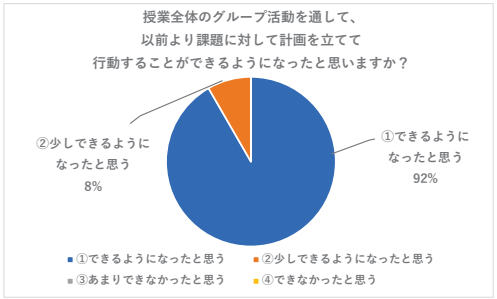
【質問 4】 最終発表について当てはまるものを選んでください。



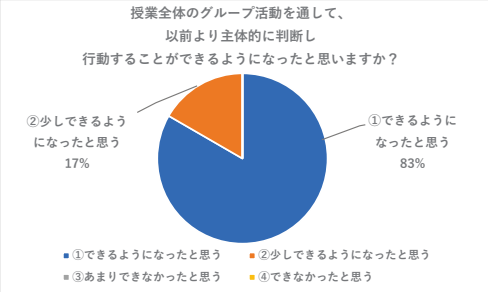
【質問 5】 授業全体のグループ活動を通して、以前より自分の役割などを理解し、行動することができるようになったと思いますか？



【質問 6】 授業全体のグループ活動を通して、以前より課題に対して計画を立てて行動することができるようになったと思いますか？



【質問 7】　授業全体のグループ活動を通して、以前より主体的に判断し行動することができるようになったと思いますか？



【質問 8】　授業全体を通して、質問や感想などをご記入ください。（自由回答）

- 最初は課題についての考えが難しかったです。グループで相談したり、Gemini にきいたり、講師の方や先生に助けを貰い、ここまで完成することができました。発表会をして、緊張をしてしまってもっと具体的に説明できない所があってしまった＆声が震えるなど悔しいことがあったけど、グループで協力して良い発表ができたんじゃないかなと思ってます！いい経験をありがとうございます！長かったアントレお疲れ！
- 中間発表の時より上手くできたので良かったけどもっとよく調べた方が良かったなと思いました。みんなのまとめ方やアイディアがすごいなと思いました。
- 最初は大丈夫か不安だったけど、中間発表とかを通して友達のスライドの工夫も見ながら自分たちのにも取り入れて最終発表では完璧に出来たのでとても達成感がありました。楽しかったです！褒められてうれしかった
- ひとりひとりがパワーポイント作成に協力して発表できたからよかったとおもった！
- 今回の発表を通したことで浦添市の貧困の状況がどうなっているのか知ることができたし、他のグループの発表を聞いて、みんながどういったアイデアを出して課題を解決していくのか聞くのがとても楽しかった！ スライド作りも今回の授業で上手くなれたと思うから、めっちゃ楽しかった！！！！
- 社会福祉基礎の授業で今社会で起こってる現状について考えることなど学習できて良かったと思い

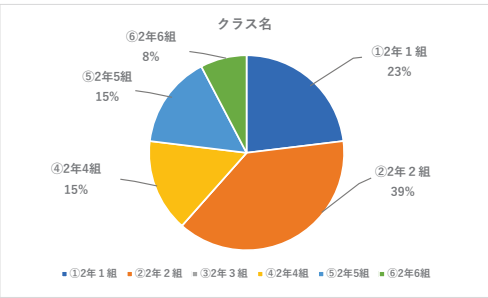
ました。

- 今回この授業をして、初めてのパワーポイントを使ってのプレゼンでどのようなスライドを作れば見る側は見やすいのかとか、文字の大きさなどいつも気にしないところまで気にして作ってみて、これだけでも大変なんだなと感じました。将来会社とかでプレゼンはいっぱいあると思うので、いい経験になりました。
- "やっぱりお偉いさん達の前で発表するのは緊張したし、シナリオ無しのアドリブだったから噛んだり早口だったのでシナリオ作ったほうがいいなと後悔した。
- でも、私達グループが課題にした「勉強場所の提供」。私は受験生のとき塾には行けなかったのでもし実現出来たら受験生等のきっと誰かの役に立つだろうと思ったからまた良い機会があるのなら企業さん達の話を聞いたりなどをして、いつか実現出来たらいいなと思った。"
- 図や表などを入れれば、もっとわかりやすく作れたと思いました
- 発表だったり、パワーポイントだったり、聞き手のみなさんの顔色を伺いながら前に出て話を進めるのが難しかったと思いました。また情報(数字)を調べきれてなかったのも反省点です。
- "最初は、何を課題にするかメンバーと考えながら色々調べて「誰でも利用できる自習室を作りたい」という課題になりました。そこから競合を調べたり、誰に向けて考えたのかなどを役割分担をしてスライド作りをしました。しかし、先生からは「もっと具体的に誰に向けて考えたのか。どの年代に注目して提案しているのか」と言うアドバイスを貰って、主なターゲットを決め、その次いでに地域の人を巻き込めたらいいなという方向に持っていきました。
- 発表までにスライドをまとめる事は難しかったけど、チームの皆で協力して良いスライドができて良かったです。
- みんなで現状から課題を見つけそれを解決するために協力できたことがとてもよかったです。難しい授業でしたが、発表を聞いてみんなよくできていてすごいなと思いました。これからいかしていきたいとおもいました。

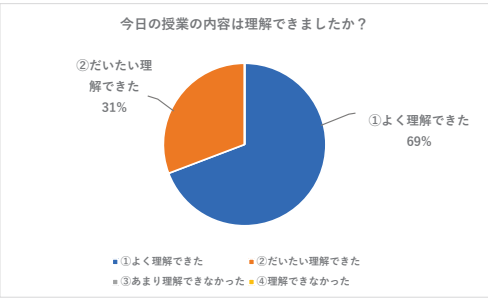
以上

陽明高校　３年　認知症の理解（6_16）

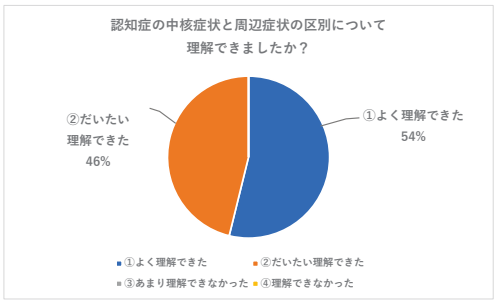
【質問 1】　クラス名



【質問 2】　今日の授業の内容は理解できましたか？



【質問 3】　認知症の中核症状と周辺症状の区別について理解できましたか？

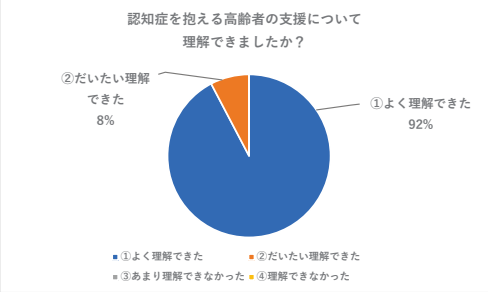


【質問 4】　認知症の周辺症状を３つ答えてください。

- 幻覚,徘徊、異食
- 妄想，徘徊、異食
- 不安感　不快感　ストレス
- 妄想、徘徊、異食
- 徘徊　異食　ケアへの抵抗
- "妄想
- 徘徊
- 異食"
- "妄想
- 徘徊
- 異食"
- 幻聴　徘徊　異食
- アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症
- 妄想、異色、不潔行為
- 妄想、徘徊、異食
- 妄想、徘徊、抑うつ
- 記憶障害、見当識障害、実行機能障害

- 徘徊　興奮・攻撃性　幻覚・妄想
- 妄想　徘徊　異食
- 道が分からなくなる、柄物の服が多い、わからない
- 妄想、幻覚、徘徊
- 不安・抑うつ、妄想・幻覚、徘徊
- 不安・徘徊・暴力
- 妄想、徘徊、攻撃的言動
- 物忘れ　見当識障害　判断力障害
- 記憶障害、見当識障害、理解・判断力の障害
- 物忘れ　見当識障害　判断力障害
- 徘徊、妄想、幻覚
- 暴言・暴力　異食　徘徊

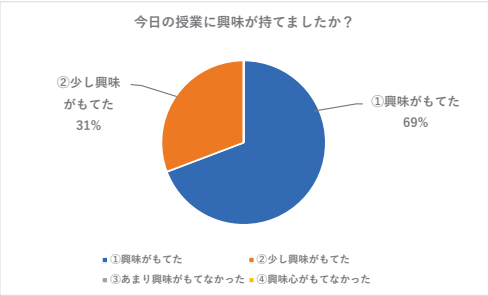
【質問 5】　認知症を抱える高齢者の支援について理解できましたか？



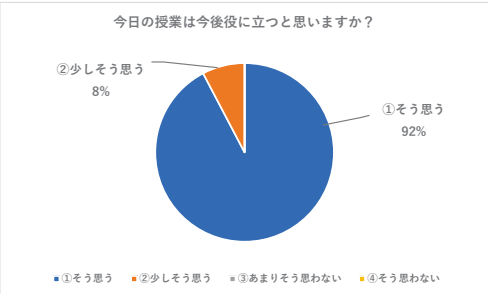
【質問 6】　認知症を抱える高齢者を支える工夫について１つ答えてください。

- 前できたものが全部できなくなったとマイナスな方面を本人に伝えるのではなく～はできているからこの役割はお願いしたいとできる役割を強調させる
- その人の行動を否定しない
- 話しかける時は、しっかり大きな声で見えるところから話しかける。
- 否定をしない。子供扱いしない。
- 自分の時間を削って、相手との時間を作る
- 優しい言葉をかけてあげる。成長できるようなやる気の起こる手助けをしてあげる。
- 「あなたはできないからやらないほうがいい」などの人格否定をするのではなく「こうしたらいいかも」など支えるような言葉を使って支える
- 不安を和らげる・尊厳を守る
- 生活の中のヒントを活かす
- 安心できる言葉かけや雰囲気を作る
- 些細なことでも一緒に行動する
- 1 人で抱え込まない
- 不安を和らげる、尊厳を守る
- 認知症高齢者本人の意見を尊重し、出来ることはやらせてあげる
- その人らしい生活を大切にする。
- カレンダーに日程を書く
- 場所ごとに張り紙を貼り、分かりやすくする。また、予定などを見える形にする。
- 一緒に行動する
- サービスを使う
- できることは止めないでできないことを手伝う
- 意見を否定しない、寄り添う
- 朝の散歩を一緒に行く
- 環境をわかりやすく整える
- 高齢者の立場に必ず一度は立ってあげる。
- 相手の気持ちを理解してあげて優しく接する
- 声かけを沢山行なう
- 否定せず、本人の気持ちを少しでも尊重する

【質問 7】　今日の授業に興味が持てましたか？



【質問 8】　今日の授業は今後役に立つと思いますか？



【質問 9】　今日の授業について感想を記載してください。（自由回答）

- 認知症を抱えている人への適切な対応の仕方が具体的にわかった。自分目線ではなく相手の視線で物事を見ていきたい
- 行動心理症状でひきおこる生活の困りごとが分かった
- 人それぞれ、何ができないかなど違ってくるから，その人にあった方法で支援していくことが大切だとわかった。
- 人によって、認知症状が違くて認知の人を変えるのではなく、環境を変えることだということがわかった。
- 認知症の人と過ごしていく中で私たちが支えていけるような工夫が必要で、それも認知症の人に負担にならないような工夫をしてあげることで支えになっていくと考えたので、これからも自分なりに考えていけたらいいです。
- その人のできることを見つけできない事も否定しないで支えることが出来たら患者さんの心も守れるとわかった。
- せいさんのお話とてもわかりやすくて、グループワークも楽しくたくさんアイデアでてたくさん理解できました。
- 今日のグループ学習で、みんなと意見が意外と違くてまとめるのが少し難しかった。だけど、めいさんが上手くまとめてくれて、助かりました！
- 支援方法の仕方や今回の講演で認知症の理解が深まった
- 認知症とは症状のことでそれぞれ個人差があることがわかった
- 今日の授業を通して、認知症の支援で私にできることは、時計やカレンダーを大きくはっきりと表示して予定を見てわかる形にすることと、できるだけいつもの時間にいつもの手順で行動できるように支援することだと思います。また、行動をルーティン化することは安心感や自信の回復にもつながることがわかりました。
- 認知症患者の事例を聞いて、どうしたらいいかグループの人と話し合ったり、他のグループの意見が聞けて、どうした方がいいのかよくわかりました。
- 認知症だからできないじゃなくて、認知症でもできることを見つけてそれをみんなで尊重してあげることが、BPSD の回復にも少しはつながることがわかったので、見方を変えて自分なりに接してあげたいです。
- 病気ってなるとなんでもやってあげないこととか、何もできないと思ってしまうけどその人にまだできることはあるからその経験を通して自信をつけてもらうことも大事だとわかりました。人それぞれ支援のかたちも違うことがわかった。
- ひかりさんと 3 人分の意見が出せるように頑張りました。色んな支援法を考えたので実践する機会があったらしてみたいです
- 自分目線では分からない相手の気持ちを理解し、その心に寄り添った対応が必要だと学びました。周辺症状についても、対応によって抑える工夫はできるので、将来対人援助をする際は今回学んだ

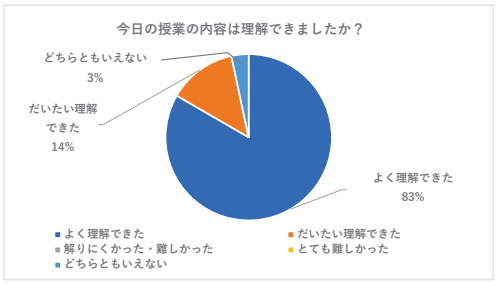
ことを活かして支援をしていきたいと思いました。

- 自分たちができることを考えることができた
- 思ったより認知症の世界は広い
- 認知症の人に声かけるのは大事だけど、できることを止めるのはダメということがわかった
- 認知症の方への対応はその時の場面によって変えて、よりよい支援の方法を考えることが大切だと知りました。
- 認知症の人に厳しく対応すると認知症の症状が悪化するとわかった。認知症の人に対しては、相手のやりたいことを尊重して思いを受け取ることが大切だとわかった。これから、親戚や家族が認知症になってしまう可能性があるから、もっと症状や対応方法を知って行きたい
- 認知症には個人差があり、できることはやってもらってできないことは助けたりして相手を尊重することが大切だと思いました。
- 今日の授業を受けて、認知症の人への支援の仕方を知らなかったことに驚きました
- 今日の話を聞いて自分のおじいちゃんおばあちゃんがそうなったらと考えたらとても怖いと思ったもしそうなった時のためにも認知症を理解していこうと思った
- 認知症の高齢者に声かけするといいことは分かったが徘徊では理由があると知ったのでそれを理解した上で話しかけたりしていこうと思いました。
- 自分のおばあちゃんも少しアルツハイマーで、これから、症状が進行するかもしれないけど、今日学んだことを活かして、周辺症状が少しでも起こらないようにしたい

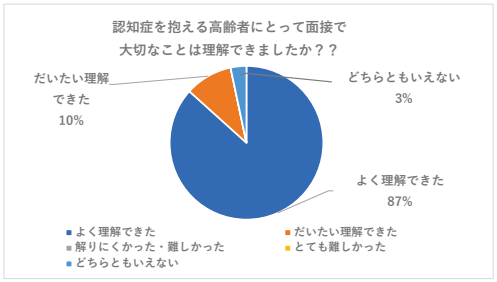
以上

R.6.6.19 陽明高校 3年生 認知症の理解

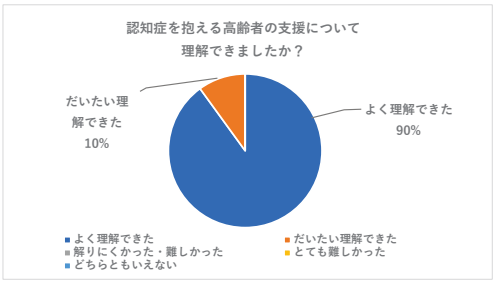
【質問 1】今日の授業の内容は理解できましたか？



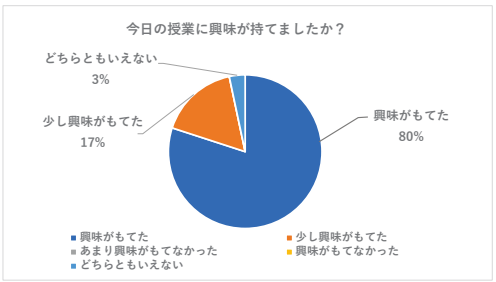
【質問 2】認知症を抱える高齢者にとって面接で大切なことは理解できましたか？



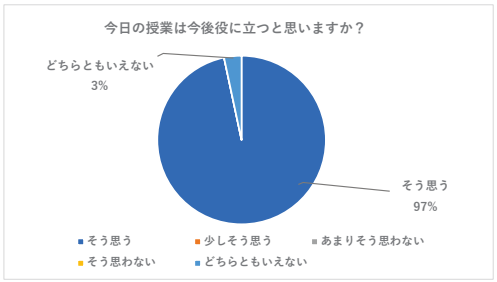
【質問 3】認知症を抱える高齢者の支援について理解できましたか？



【質問 4】今日の授業に興味が持てましたか？



【質問 5】今日の授業は今後役に立つと思いますか？



【質問 6】今日の授業について感想を記載してください

- 認知症の高齢者の相手は難しいという考えは変わってないけれど、自分が相手をするときに相槌を増やしたり、指示したいときは細かくいうなど相手に対しての気遣い方はわかった
- 認知症になるとどうしようもないって思っていたけど、相手を受け入れることによって改善も見つかっていくってことがわかった
- 患者さんの長所を生かしてできることをさせるようにして、できたら褒めることが大事だとわかりました。
- どういう支援が効果的なのかが分かった
- 今日の授業では作業療法士の動きや教え方と野村さんのことを肯定してるところを見る事ができました。認知症は人ぞれぞれ違うところがとても難しいし、自分だったらどうするかを考える事ができました。
- 今回の授業は高齢者かつ認知症患者を支えるために、必要な心構えや精神を安定させるための言葉かけなどを学ぶいい機会になったと思います。親戚やおじいちゃん、おばあちゃんが認知症になった時に活かせたらよいなと思いました。
- 作業療法士さんはたくさんの認知症患者をみてきて、色々な工夫をされているんだなと思いました。それを生かして自分にもできることはたくさんあるなと気づいたので、良い接し方で愛されるような接し方で接していけるといいです。
- 認知症を支えることも大切だけど、本人の得意を生かして、さらに、パートナーの負担を軽減することも大切ということもわかりました。

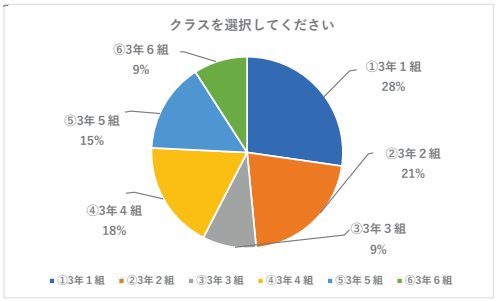
- 動画を見て、野村さんの奥さんの声掛けが徐々に変わっていく姿や、野村さん自身の行動の変化などがすごくわかり作業療法士のひとやデーサービスの人たちの存在がどれほど大切かがとてもわかりました。
- 関わり方や言葉かけを変えるだけで認知症の方の行動も変わると分かった。
- 休んでました。
- ボランティアというていでリハビリに通ってもらうという発想が、凡人にはできないし色んな試行錯誤を重ねた結果だなと感心しました。その人を尊重することは、認知症の周辺症状を抑えることにもなるし、介護するがわの負担を減らすことにもなるのでとても大切だなと思いました。素敵な講義ありがとうございました
- グループ活動を用いて、認知症や高齢者との関わり方についてシェアし、考え合うことができた
- 認知症患者との関わり方について考えられてよかったです
- 認知症のひとは怒りやすくて、すぐヒステリックになってしまうから、周りの人の認知症の方の主体性を理解して危険なことがないか見守ったりすることが大事だと思った。もし間違えても怒ったり否定したりしないで、わかりやすいようにゆっくりと説明することが大事だとわかった。
- 認知症は、誰にでも起こりうる「身近なこと」なんだという実感を持ちました。 忘れてしまう、迷ってしまう、感情が揺れやすくなる。 それは「できなくなった人」ではなく、「助けがあればできる人」。 知ることで、優しさや接し方が変わり、 そして何より、「その人らしさを守る支え方」が大切だと気づかされました。
- 今回の授業で、認知症の理解について深まった。認知症の方との接し方や支える工夫などの知識を得られ今後に活かしていきたい。
- 認知症の人でもできることはあるので否定せずに褒める
- 最後のせいさんの授業でとてもわかりやすくていろんなことが知れました。実際の認知症の方の動画を初めて見たのでとても為になりました。これから何が起こるかわからないのでしっかりまた学びたいと思います。せいさんありがとございました。
- 今日のビデオを見て認知症の大変さがよく分かった認知症でも改善できることは少なからずあるから諦めずに頑張ることが大切だと分かった
- 認知症の人でも諦めないでサポートをしたら良くなる。認知症の人の職歴とか、性格を理解して対応を変えることが大事だと思った！これから認知症の方と合ったら今日の授業でならったのをいかしてサポートしていこうと思う
- OT(作業療法士)という仕事で認知症患者のサポートすることはとても素晴らしいと思いました
- 作業療法士さんが認知者のおじいちゃんの家に訪問している動画を見て、人はやっぱり褒められると嬉しいだなと思った。グループワークでなぜ作業療法士さんは野村さんに掃除をかけるのをお願いしたのかを考えるのが難しかったが他のグループの意見やグループの人の意見を来て確かに！と思う意見が多くて勉強になった。
- 自分が認知症になったときとかに、今回の授業のようなのがあったらめっちゃいいし自分の特技を思い出させてくれいい支援だなと思った
- 今日は動画を視聴してる時授業で習ったようなことがほんとんどでていてリアルにあるんだなって感じた。自分が支える側だったら初めは感情的になって怒ってしまうなと感じたけどちゃんと認知

症のことを理解して認知症患者の気持ちが自分の気持ちより最優先に考えることが重要だなと思った。
- めっちゃたのしかった
- 分かりやすくて聞いてて楽しかった
- 否定はしないということを意識して関われるようにしたいと思いました。
- 認知症の高齢者と接する時には、否定せず肯定することが大切だとわかった。身近な人が認知症になった時どう対応したら良いのか今回の授業で接し方を学ぶことができて良かった。
- 認知症を患った高齢者とのかかわり方や接するときのポイントを学ぶことができた

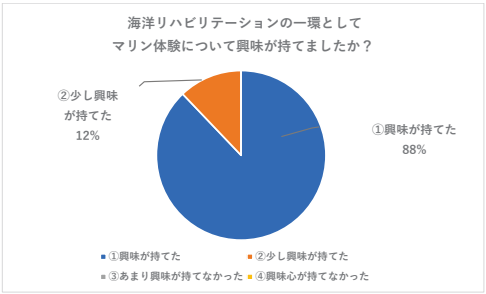
以上

陽明高校　３年　スポーツⅤ　マリン体験

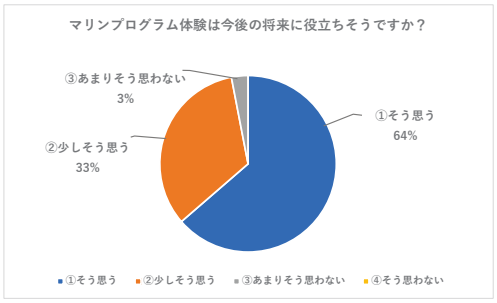
【質問１】　クラスを選択してください



【質問２】　海洋リハビリテーションの一環としてマリン体験について興味が持てましたか？



【質問３】　マリンプログラム体験は今後の将来に役立ちそうですか？



【質問４】　今回のマリンプログラム体験について感想などをお聞かせください。

（自由回答）

- 楽しかったです
- 海が楽しかったです
- 初めて乗ってとても楽しかったです
- あんまりない経験ができて楽しかった。
- とてもいい経験になり、とても楽しむことができました！
- あんまり海でマリンスポーツなどをやったりしないのでいい体験ができたなと思いました。
- マリンプログラム体験を通して、とても楽しめたし、クラスの人と楽しみながら交流を深めることが出来てよかった
- 普段経験しないような経験をして、貴重な体験を授業でできてとても良かったです。
- また、マリン体験を通して、障害のある方でも普段の行動が良くなると分かりました。
- 今回マリン体験を通して友達との思い出もできてとても楽しかったです。"
- こんな楽しいのにリハビリになるのがとても衝撃的で驚きました。
- 友達と一緒に出来たから本当に楽しかったです！
- 楽しかった

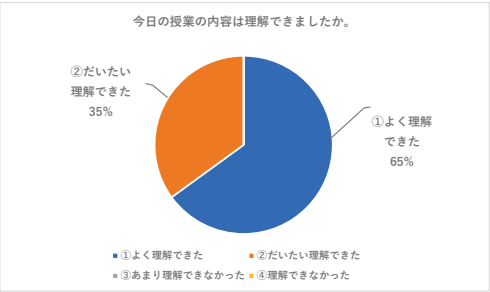
- 普通に楽しむだけでなく障害のある方の支援など将来のためになる取り組みが行われていることを知ってより興味が持てて楽しく実習ができました。
- とても楽しくいい機会だった、また初めて乗る乗り物などがあって良い体験だった
- マリンスポーツを楽しみながら職についても知ることができた
- スーパーマーブルが楽しかった
- マリンプログラム体験をして、体に不自由がある人などに向けて楽しくリハビリする目的でやっていてとても良かった。また、初めての経験ができて楽しかった。
- とても楽しい体験がすることができた。障害を持っていてうまくコミュニケーションとることはできない人とかでも一緒に楽しめていいなとおもった。
- ただ楽しむだけではなく、ちゃんとした意味があってとてもやりがいを感じた。
- こうしたことを通して、色んな人が興味を持って取り組むことはとても大事だと思いました。
- 私は将来インストラクターになりたいと考えていて高齢化が進む中運動で健康寿命や健康な身体を築くためにもいいなと思った。
- とても楽しかった
- こんなにも楽しくリハビリができるなんてとてもいいなと思ったし体験できてよかった
- 同じ班の人ととても楽しめたので、発達の遅れている人やコミュニケーションの苦手な人の心を開くことができる理由がわかった。
- マリンプログラムを通して、障害を持った人達のリハビリをしているとしうことを知りました。また、それを体験することで体幹を鍛えることもできると言うことを知りました。
- あまりこういう体験をしたことがなく、実際にやってみてとても楽しかったし、もう一回やってみたいと思いました
- 楽しく体感も鍛えることができた。
- マリンプログラムをしてみて、小型ボードはスピード感があって楽しかったし、バナナボートは迫力があってすごかったしもう一回やりたいと思った
- ボートに乗ったリアトラクションみたいなのに乗れて楽しかった
- もうちょっと長い時間やりたい
- 今回のマリンプログラムの体験を通して、琉リハの海洋リハビリテーションでは普段どのようにして発達をもっている人たちの発達をうながしているのかを身をもって体験することが出来て良かったです。また、思ったより勢いがって楽しかったです。
- "今回のマリンプログラム体験をして、単純に楽しかったです
- 小型ボートとマーブルを乗って落ちそうだったけど落ちないスリルや、海に接することでマリンプログラムを通して海と触れ合うことが出来ました。今回はこのような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。"
- マリンスポーツを通して、ただアトラクションとして、楽しむ乗り物だと思っていたけど、それだけではなく、マリンスポーツがリハビリの一貫になると聞いて、体験を通しているのを考えたら、

力を無意識に強くしていたら、体感が勝手に、使えていたりと自然と体が動くような受け身になっていて、こういくアクティビティをリハビリにしているといくのがとても面白い機会だったと思いました。
- 初めて乗ったけど楽しかった

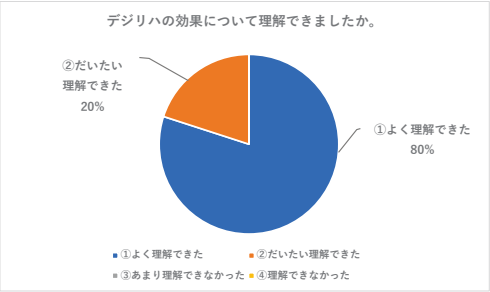
以上

3年生　R7.9.8 陽明高校　デジリハ体験

【質問 1】 今日の授業の内容は理解できましたか。



【質問 2】 デジリハの効果について理解できましたか。

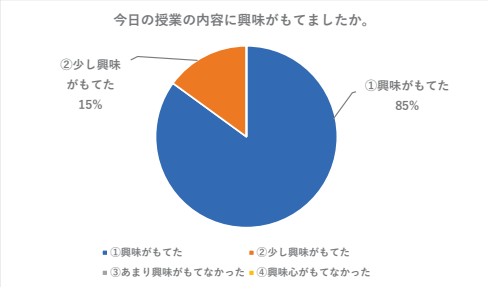


【質問 3】 デジリハの効果にはどんな効果があるか教えてください。（自由回答）

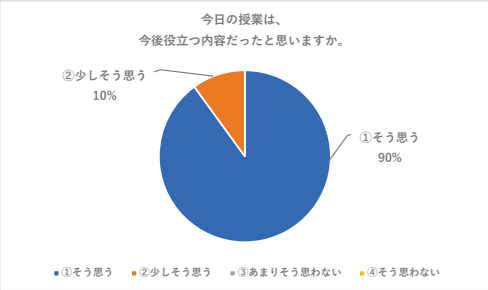
例）認知力の向上　etc...

- 判断力や早く動ける力が上がる
- 生まれつき病気の小児たちのリハビリを楽しくする
- 意欲の向上
- 観察力の向上
- 腕などの運動可能の範囲を広げる
- 少しでも体を動かす運動になる、認知症の向上、老若男女楽しめる
- 体力が上がるかも、気分転換
- 手足が不自由な方でも楽しく遊べる
- 精神的や身体的に障害を持っている人のための機能向上や楽しみながらプレイできる
- 運動機能の発達や知的機能が働く
- リハビリに対する意欲を伸ばす
- 身体を楽しく動かそうとすること
- 音に対する反応速度、空間認識能力の向上
- 脳に良い影響を与えることができる
- 立つことを拒む子供達にゲームを通して立たせる練習をさせる効果
- 認知力の向上
- 子供達のリハビリとして，ゲームを取り入れることで，遊びながらリハビリする方ができる。
- 耳が聞こえなかったり脳の発達だったりと障害を持ってる子供なども学習できる効果があると思う
- 目しか動かせない人でも、視線のセンサーを使ってリハビリをすることができる
- 手先の感覚、足や腕の筋肉のトレーニング
- 認知機能の向上

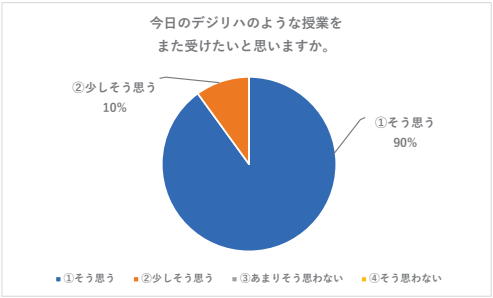
【質問 4】　今日の授業の内容に興味がもてましたか。



【質問 5】　今日の授業は、今後役立つ内容だったと思いますか。



【質問 6】　今日のデジリハのような授業をまた受けたいと思いますか。



【質問 7】　今日の授業の感想や、デジリハについて学んでみたいことなどがあれば、入力してください。（自由回答）

- どんくらいの重度の障害の方がこのゲームを使用してるか
- 次は、目線でできるゲームなどもやってみたいです！ありがとうございました。
- 自ら動いて体を動かして知識や認知症の向上に力を入れていて楽しかったです
- 今日は 2 度目のデジリハ体験で前回知ることが出来なかった、感度の調整ができることや前回体験できなかったゲームもあってとても面白かったです。
- 視線、腕、手以外に、どんな操作方法があるかと、今日使った以外の物の使い方を知りたい
- 楽しかった、これは大平養護学校も取り入れてるので自分の家にもほしい
- 初めてデジリハを知ってこういうリハビリ方法だとみんな楽しくリハビリできると思いました。
- 手が不自由な方でも視線などでできるゲームがあったのがすごいと思いました。
- 実際にプロジェクターなどを活用してゲームをやってみていつもやってる授業とは違う新鮮な感覚や友達と楽しみながら取り組むことができた
- 今日のこのような体験ができて貴重な体験でとても楽しかったです。また、これらを活かして楽しみながら知的機能や運動機能が働き成長に繋がっていくことが出来ると思うととてもすごいと思いました。私達ももっと障害者のことについて理解し支え合っていける社会が作っていきたいと思いました。

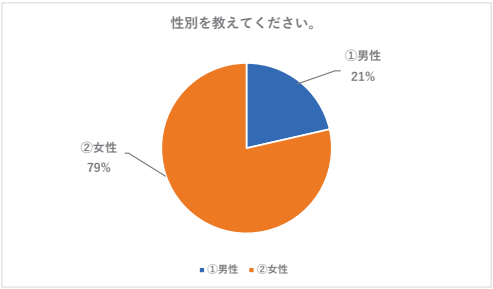
- 無理にリハビリを強要するのではなく、ゲーム等を通して患者自身が主体的にリハビリを行えるように工夫されていました。デジタルとリハビリは関係ないように見えますが、状況や目的に応じて繋がってくるという点から、発想の転換で無限の可能性があることを実感しました。楽しかったです。
- 初めて体験をしたけど、楽しく身体を動かせるゲームで楽しかった。身体の動かせ方、それぞれに合わせて難易度を変えてやることを知った
- 実際にデジリハを行っている利用者の声を聞いてみたいです
- デジリハを初めて受けたが、すごく工夫されてて面白いなって思った。障害者だからできないことは多い世の中だからこそデジリハでは障害者だからこそ出来るゲームを作り上げてるのかなと強く思った。
- 一般的なリハビリなどではなくこう言ったゲームを通して楽しくリハビリに励むことができる方法があるとわかりとても勉強になった。
- 去年は休んで開けられなかったから今回受けれてよかったです。人に合わせて，感度を変えたり，五感を使うことができたので，とても便利だなと思いました。
- 目の瞳孔を使って視線だけで動くことに感動したしどういう仕組みになっているのか気になった。目や体を動かす以外にもほかの身体の部分を使うようなデジリハがあるのかも気になった
- 今日の授業で、ふつうのリハビリではなく、デジリハ、ゲームを通して楽しく、障害の重さに応じてリハビリができることがわかりました。
- 実際にセンサーを使ったデジリハを行い、講師の方に話を聞いてみて、手先の感覚も人それぞれ違うので人によってセンサーの感度を変えたりすることも出来、一人ひとりに寄り添ってデジリハを行えるのだと知ることが出来た。
- 認知機能に適した迷路や間違い探しなどを久々にやって、いつもお家でもやってることと似ていたので、スラスラできました。これからもおばあちゃんやお母さん、友達や身近な人と一緒にやっていきたいなと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

以上

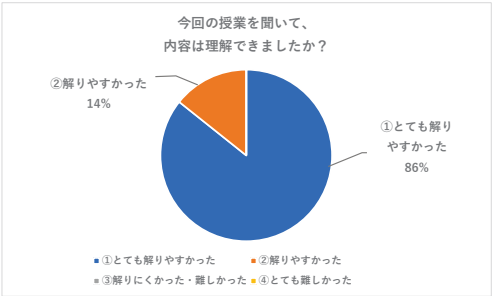
2　中部農林高校

中部農林　1 年生　0709

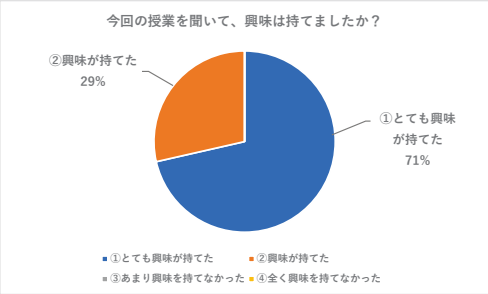
【質問 1】　性別を教えてください。



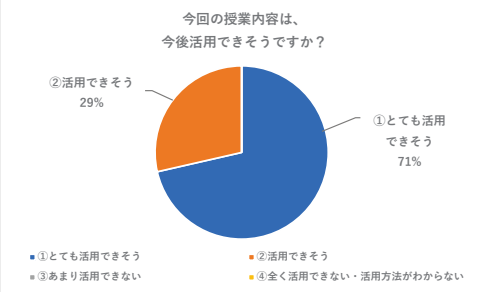
【質問 2】　今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？



【質問 3】　今回の授業を聞いて、興味は持てましたか？



【質問 4】　今回の授業内容は、今後活用できそうですか？



【質問 5】　今回の講義を通して、コミュニケーションに大切なことは何だと感じましたか？（自由回答）

- 皆で教え合いながら笑顔でコミュニケーションをしたのが楽しかったので、友達と笑顔でコミュニケーションを取ることが大切だと感じました。
- 楽しいが大切
- コミュニケーションで大切な事は相手と関わり、助け合いをすることだと思う
- 優しい心、思いやりの心
- 一緒に楽しく作業したりするのも、大事なことなんだなと知った
- 寄り添うことや、無理に話に行かないことが大切だと感じました。でも、定期的に少しずつ話をしたり、心を開いてくれるようにすることが大切だと分かりました。
- 手作りのものとか活動を通して、コミュニケーションをとったり、することが大切だと思いました。
- 手芸や工作などは難しくて、好き嫌いがわかれるものだと思うけどコミュニケーションをとってできないところは助けてもらって、友達が出来てないところは教えてあげて上手に組紐が作れて楽しかった。コミュニケーションに大切なことは相手の話をちゃんと聞き、何を考えているかを理解してあげることかなと思った。
- 話すことと相手の立場に立って話すことが大切だと思った
- お互いが楽しく気楽であること
- どのようなコミュニケーションをした方がいいかや相手の目をみて話すことや分からないところをちゃんと教えきれるようにした。
- わからないことは聞いたりするところ
- コミュニケーションに大切なのは言葉だけではなく行動することだと思いました。
- 言葉だけでは通じるもののもあれば通じないこともあるってことがわかった

【質問 6】　授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？　（自由回答）

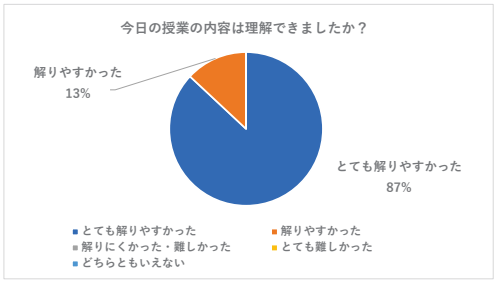
- 作業療法士の名前は聞いたことがあったけど、仕事内容は知らなかったので、仕事内容を知れて良かったです！また、物作りをやってみて、みんなとコミュニケーションを取りながら作るのが楽しかったです！
- ものづくりがめっちゃ難しかったです
- ミサンガみたいの楽しかった（編むやつ）
- 色々なことをしれてとても嬉しかったです将来に向けて頑張りたいです
- また何か物作りがしたいです！
- 作業活動を通して手や身体などを動かすことは大切な作業な事だということがわかりました。
- みんなでうまくコミュニケーションをとって大きな絵を描く

- ない
- とくになし
- 特にない
- めちゃめちゃ可愛いのが作れて嬉しかった。
- 今日授業をして作業療法士という仕事を知ることができてこんな仕事もあるんだなと思いました。
- 作業療法士の人がきてくれて私も作業療法士がきになるのでよかったです。初めて作ったものだらけなので分からなかったけど友達と教えあったらできました。

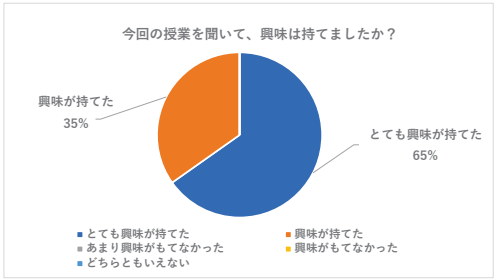
以上

R.7.02.17 中部農林高校 1 年生

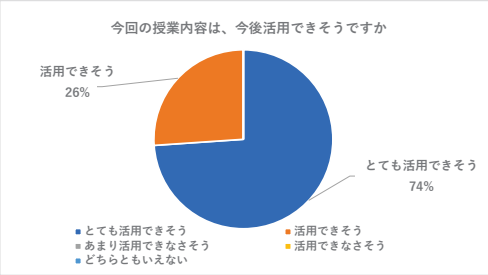
【質問 1】今日の授業の内容は理解できましたか？



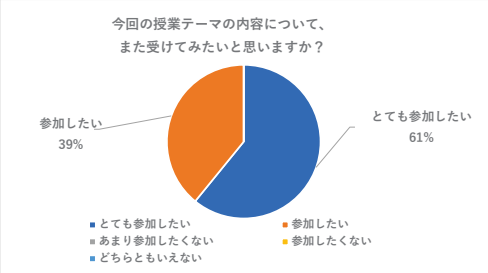
【質問 2】今回の授業を聞いて、興味は持てましたか？



【質問 3】今回の授業内容は、今後活用できそうですか？



【質問 4】今回の授業テーマの内容について、また受けてみたいと思いますか？



【質問 5】リハビリテーションとはなんですか？

- 再び適する
- 再び適する
- 再び適する事
- 再び適する
- 再び適するようにすること
- re＝再び　habiris＝適する
- できることをもう一度なおす
- 再び適する
- 再び適すること
- RE 再び　ハビリス　適応する
- 再び適する
- 再び適する
- 治すことではなく、その人に人生を取り戻すこと
- 再び適する姿
- 再び適する。自分の人生を取り戻すこと
- 再び適する姿
- 再び適応できる状態にする
- 再び適応できるようにする
- 再び適する行動を取り戻すこと
- 再び適する
- また社会に適用できる体にすること
- 再び社会に適用できる体にすること

【質問 6】授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？（自由記載）

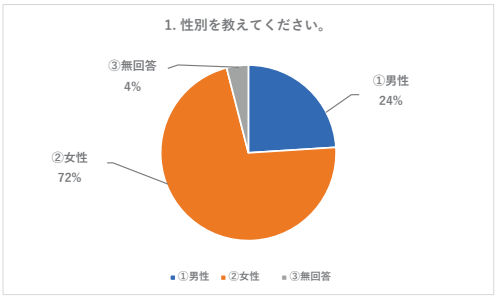
- リハビリテーションについてとても詳しく教えてくれてありがとうございました
- ない
- リハビリでは治す事はできないけど、その人の人生？を取り戻すっていう事がわかった
- 色んな気づきとかいままで分からなかったのがしれて良かったです。
- 作業療法士と理学療法士が連携してやることが大事で、言語聴覚士は、どのように関わっているのかきになった
- とっても楽しくてべんきょうになった
- 手が使いにくくなったり、うまく歩けなくなると、日常に不便を感じることをたくさん考えることが出来ました。今回の授業を生かして、障害の人を助けられるように勉強していこうと思いました！
- 作業療法士と理学療法士は 2 人でひとつみたいな事があることがわかりました
- リハビリの意味や不自由な足の不便さがわかった

- 左利きになりたいと思っていたので、今日の授業の内容は普段の生活でも活かせそうだと思いました。歩く速さを競うのは、普段歩くのが遅い私にとっては大変だったけど勝負するの面白かった。おもしろかった。
- 今回の授業で歩くだけでこんなにも学べるとは思ってなかったのでとても楽しい授業になりました！
- 授業をして、リハビリテーションのことや理学療法、作業療法について知ることができてよかったです。
- 今日の授業を通して分かったことは、リハビリの名前が分かりましたし、リハビリや作業療法士のことがより詳しく分かりました。
- 体験して理解することができてよくわかったし、楽しかった。
- 今日は、利き手と非利き手を使って文字やキャラクターを書いてみて利き手の大切さがよくわかりました。そして非利き手も使えるように毎日あのマッサージをしてみるのもいいなと思った。作業療法士のことについてもっと知りたい
- 非利き手で綺麗な文字が書けるようになったのがすごかった。
- 今日の授業では左手で自分の名前を書いたり、絵を描いたりなどのゲームを通して、たくさんのことを知ることができました。
- もっと作業療法や理学療法のリハビリをしたいです
- 作業療法士と理学療法士が繋がっている事を知り、手のリハビリをすることで足につながり、足のリハビリをすることで手のリハビリになることが分かり、私もこの学びを通して普段から足のリハビリを少しずつしていきたいと思いました。
- 今日やってみて一番すごかったのは、手を押す際、足を踏んだ後ジャンプをすると押す力が自分でも無意識に上がるというのがすごいなと感じました。そしてリハビリテーションについて今日は深く学び、普通の授業では体験できない記憶に残る印象的な授業でした。今度の授業ではもっと手足に関連した脊髄反射のような自然なものを学びたいです。
- 今日はリハビリテーションの話を詳しく実践してみながら出来て楽しかった。今度授業をやるなら心理の授業をやってみたいです！

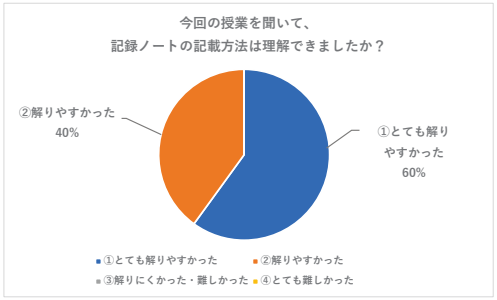
以上

中部農林　2 年　0630

【質問 1】性別を教えてください。



【質問 2】今回の授業を聞いて、記録ノートの記載方法は理解できましたか？

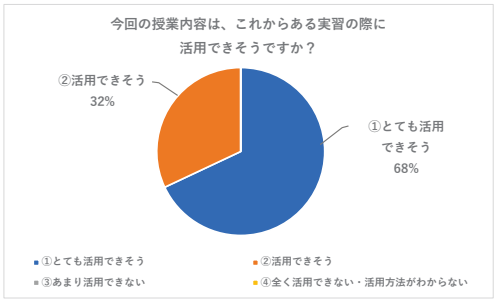


【質問 3】今回の授業の中で特に印象に残っているものはどんな内容ですか？ または学んだことは何ですか？ （自由回答）

- 利用者について否定的な味方をせずにどのように支援に工夫が必要かという考え方が印象的だった。
- ダメな例を触れたことで、気づかされました
- 私がいつも書いている実習記録簿の書き方にはたくさん工夫が必要だと感じることができました。
- 言葉の使い方表現がとても印象に残りました。言葉を丁寧にしないと行けないんだなと思いました。
- 具体的に書くこと
- 書き方について深く学べた
- 文章を書く際は全部具体的に書くことが大切だということが分かりました。
- 普段から話し言葉を文章に書いているなと思ったので、実際に記録簿を書く時は話し言葉ではなく書き言葉で書けるように注意していきたいと思いました。
- 話し言葉ではなく、書き言葉にして書く練習が(無視された気がした等)最後難しかったです。
- 印象に残ったのは、必ず具体的に書くことが大切と言うことが印象に残りました。具体的に書くことで誰にでもわかってもらうことができるので具体的に書くことを心がけたいです。
- 記録の書く理由や記録のポイントについてが印象に残っています。
- 話し言葉が良くないこと
- ネガティブなことをできるだけポジティブに書く
- 普段使うような話し言葉ではなく相手が対象者となって読みやすく理解しやすいようなである調や言葉の言い回しに気をつけることが大切だと分かりました。
- 赤ペンで修正するのが印象に残った。学んだことは言葉使いと表現の仕方
- 結構色々な言葉が間違っていることが分かった。普段使っている言葉が癖で出てきて書いてしまったり、自分が思っている以上に間違って書いていることが多いなと気づくことができました。
- 記録の悪い例から良くないところを見つける際に、自分が見つけたところ以外にもあったので、しっかり気をつけていきたいと思った。
- 土曜日・日曜日のエピソードで自分の事実を語り実際に書いてその文がどのようになっているか、改めて自分の文や書き方や書き換え方などを学ぶ事が出来ました。
- エピソードはその人が読んだ時に情景が浮かんでくるようにすること
- 文字の正しい使い方
- 記録をする際に避けたい言い回しの中でも、「ご飯を食べさせた」であったり、「無視された気がした」など当たり前のように使っていた言葉が NG だと気づけてよかった。
- 悪い例で普通だと思っていたけど実際は間違っている表現がとても沢山あったので今回学んだ具体的に書いて初めて読む人でもわかるような記録を書けるように実習までしっかり覚えておきたいと思いました。

- 初めて日誌を呼んだ人にも分かるように書かないといけないことが分かりました
- 「色々」や「全体的に」とかではなく、「～ことが」とか「こういうところを」のように、感想や記録では抽象的な言葉を使わず、具体的な言葉を用いることが大切だということが、一番印象に残った

【質問 4】今回の授業内容は、これからある実習の際に活用できそうですか？



【質問 5】実習前対策ではどんな内容があると、安心して実習に臨めますか？

（自由回答）

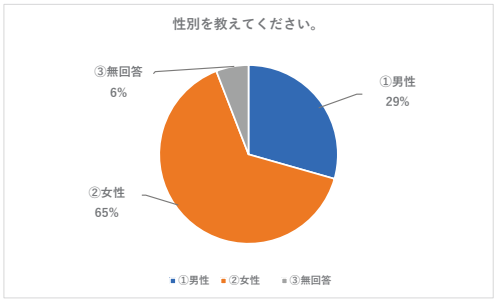
- 利用者との接し方
- はい
- バイタルチェックの方法
- 感想、まとめを書く時に文を丁寧にかけているのか意識をする。
- ない
- 実際のプリントなどがあるとわかりやすい
- 実習で何を意識し、取り組むことがいいのか。

- 記録とコミュニケーションについて
- 高齢者や職員さんとのコミュニケーション方法があれば安心できると思います。
- コミュニケーション
- 実習記録の書き方やレクリエーションの取り組み方や高齢者とのコミュニケーションのとり方の対策講座があると安心します
- 昨年とは違い話し言葉に気をつけて今年の実習記録を書きたいと思います
- その施設の関係者の方とのミーティング
- 現場実習で気をつけること、行った方がいいこと
- 利用者と会話の方法
- どうやって細かく書くのか、実習先では去年お昼ご飯を食べながら書いたので午前中のことを思い出しながら書くことが難しいと感じました。
- 利用者とのコミュニケーションの方法
- 利用者さんの様態や、今日学んだ事を意識してこれからの実習も記録書く時も今日学んだ事を活かして記録書いて離れる時は記録簿を閉じるなど羞恥心への配慮も学ぶ事が出来ました。またこれからの実習も頑張って行きたいです
- 今まで習ってきたことを思い出しながら実習に臨みたい
- はい、頑張っていきたいです。
- 高齢者の方とコミュニケーションを取る際に気をつけること等
- 高齢の方が掴んで離してくれなかったり、叩こうとしてくる時の対応とかを学べたらいいなと思いました。
- 利用者さんとのコミュニケーション
- 今回行った「記録」についてや、少し傷つくようなことがあったときの「メンタルケア」など

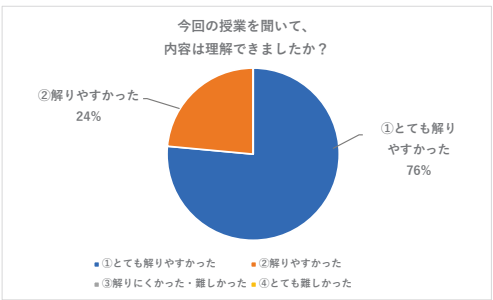
以上

0917　中部農林　2 年生

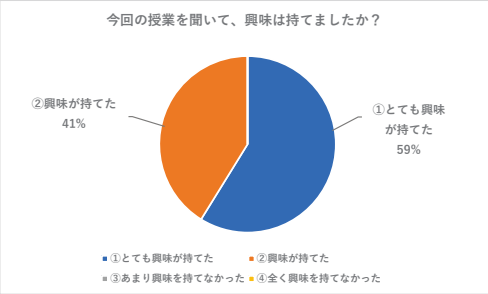
【質問 1】 性別を教えてください。



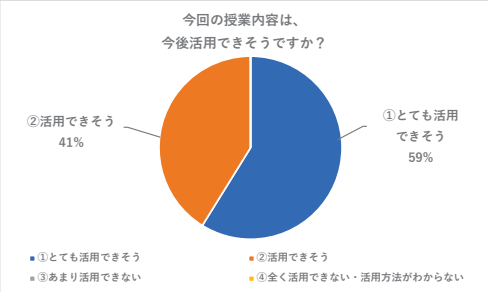
【質問 2】 今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？



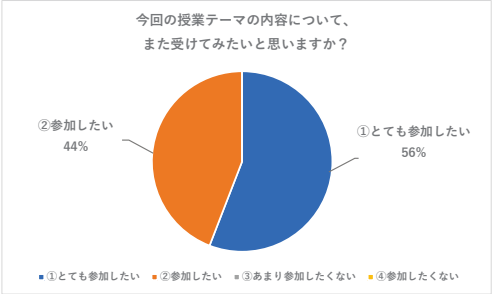
【質問 3】 今回の授業を聞いて、興味は持てましたか？



【質問 4】 今回の授業内容は、今後活用できそうですか？



【質問 5】 今回の授業テーマの内容について、また受けてみたいと思いますか？



【質問 6】 対人援助職に求められるコミュニケーションの技法には何がありましたか？

1 つお答えください。 （自由回答）

- 趣味を一緒にする
- どうしたらその人の生きがいになるかなどその人が自信つけるコミュニケーションをとることも
- why その人らしさを支える How コミュニケーション・スキル What マニュアル
- 昔の生活と今をリンクしないようにする
- 成功体験を持たせる
- 相手の楽しめる物を見つける
- 傾聴
- その人の自信を持たせるために小さなことから取り組んでいく
- cl を否定しないで信頼関係を築く。
- 利用者の意見を否定しないこと
- 対人援助技法
- その人のやる気を起こすコミュニケーションをこころがける
- 利用者さんとの対等でいること
- 利用者さんの困っていることややりがいを見つけたりコミュニケーションを取ったりなど。

- 少しずつ段階を踏んで信頼関係を築く
- その人がやりたい事を叶えていく
- コミュニケーション能力
- ある程度絞って利用者さんに質問し、配慮すること
- 目標を達成するための、細かい目標を決めたり、相手の趣味や感情、状況をしっかり把握できるような会話をどこかしらで挟む必要がある
- 利用者さんと対等な関係でいること。
- 自信をつけさせる
- まずは、身の回りの小さなことから始めていく
- 最初は直接的な失敗経験にならないように指導者になってもらったりする
- すぐゴールへ行くのではなく、少しずつ自信をつけさせながらゴールに近づけていく！
- その人の自信を持たせるためのコミュニケーションがある
- その人にどうなって欲しいか考えたり細かく・少しずつステップをする。身近なところから
- その人自身の今の状態や怪我の状態をどうしていくかも大切だけどいちばんは本人の人生に触れてみたり興味など聞いたりして支援してくことも大切だと思った。
- 利用者本人が自分のやりがいを見つけ、自分でやるようにすることが大切
- 利用者さんの意欲を引き出すような会話
- 本人の「やりたい！」という意欲につながるようにまずは身の回りの小さなことから自分で出来るような工夫を行なっていく。
- 相手の意見を聞いて実践してみる
- cl の自信やできるという希望を持たすこと
- その人のやる気や自信をつけさせるため
- 利用者さんの気持ち・意見を取り入れる

【質問 7】 授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？ （自由回答）

- 作業で何か作る
- ST の講話を聴きたい
- ある
- とても良かった
- とても分かりやすかったです
- 今日も授業してくれてありがとうございました。色々考えることができてよかったです
- cl と関わっている上で意味ある行動しかなくてとてもすごいなと思った。
- 利用者と関わっていく中で大切な考え方や接し方の工夫を知ることが出来たので来月の現場実習や学校行事に活かして行きたいです

- コミュニケーション技法
- 講師の方の考えが自分にはないようなことだったのでいい学びになりました
- 障害者について
- 現場実習のこと。コミュニケーション
- 小さな問題から大きな問題へと段階を踏んで利用者の自信をつけたり信頼関係を築くことがわかった
- 人との向き合い方が知れて良かったです。今回の授業がこれからのことで活用できたらなと思いました。
- 児童のことや保育のことや心理系の授業して欲しいです
- 今回の講話を通して利用者さんが主体的に取り組めるように利用者さんの好きなことをさせて教える側にする事で自信を持つことに繋がるのだと気づきました。新しい色々な視点を知ることが出来てとても勉強になりました。今日はありがとうございました。
- 僕は今まで、利用者の目標を達成することばかり考えてたけど、利用者のやりたいを叶えるためには、小さな成功体験をどんどん積んでもらいらい意欲を向上させることが必要と必要としれてとても良かった。
- 利用者さんは戻れるなら昔の健康な頃の身体に戻りたいと思っているけど無理だと諦めている人がほとんどでどうやったら昔の身体に戻ることができるか一緒に考えて意欲を湧かせることが大切だと思いました。
- 自信がない利用者さんに対して OT は一緒に解決していくことが大切だとわかりました
- とてもいい機会になりました。
- 自信に繋げることが大切だと分かった
- 今回の授業を受けて、実際にあったことをもとに学ぶ事ができてよかったです。また、作業療法士の方がなぜこの行動を取ったのかをなぜこの行動を取ったのかをグループの人やクラスで考える事ができたのがとても楽しかったです。もっと色々な事例をやってみたい！！
- 自分の意思でやりたいや達成したいと思ってもらうことが大切だと学びました。
- コミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーションを取る中でもこの人にどうなって欲しいかを考えることが大切だと知った。
- 今日の授業で、目標を作ってやる気を上げさせることや、前向きに関わりその場の成功体験をひとつに他のことも色んな挑戦をしてみると自尊心を高めることも大切だと学び、今後現場実習でもコミュニケーションをとる機械があれば趣味話とかで生きがいを作ることをやってみたいなと思いました。今日はありがとうございました！またこの授業を受けたいです
- 発表が多くて自分が考える時間がありすごく考えさせられる講話で良かったです
- 自分の考えを考える時間があって良かったです。
- 本人がやりたいと思ったことを、工夫して自分でできるようにして、達成感や成功体験につなげていくことがつなげていくことが大切だと学びました。
- 利用者さんの自信につながるように相手の意見をしっかり聞いて実践してみたり、助けてもらう側

になることになってみたりすることが大切とわかった

- 現場実習でこれを活用できるようにしたいなと思った
- 授業をして、相手の気持ちに寄り添っていくと生きがいや自信がつくと知れた。
- 動画を通して利用者さんの状況や気持ちに合わせた適切なコミュニケーションの取り方を知る事ができました。特に大事だなと思った事は、機能が使えなくても、自信がなかったとしても相手の意欲を高められるような興味をそそられる会話をしてあげる事が大切なんだなーと分かりました。

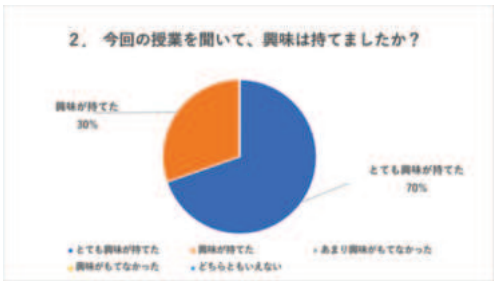
以上

R.7.01.20 中部農林高校 2年生

【質問 1】今日の授業の内容は理解できましたか？



【質問 2】今回の授業を聞いて、興味は持てましたか？



【質問 3】今回の授業内容は、今後活用できそうですか？



【質問 4】今回の授業テーマの内容について、また受けてみたいと思いますか？



【質問 5】デジリハで使用する「センサー」にはなにがありましたか？一つ答えてください。

- Tobii
- 視線　腕　手指
- びしょびしょバニック(？)
- ホクヨ、
- 目線を感知するセンサーがあって、体が動かない人でもゲームがで生きる物がある
- MOFE
- moff
- トビー
- 目で操作するやつ
- 手指の動きに反応するリープモーション
- mofu
- リープモーション
- 視線センサー
- リープモーション
- 視覚センサー
- 壁のセンサー　モフ
- モフ
- hokuyo
- MOFF
- 視線センター
- 視線センサー
- 視覚センサー
- 目線で操作するセンサー
- リープモーション、トビーアイ、モフなど体のどこかの部位を使って動かすことができるものがあった
- Leap Motion（手指センサー）Tobi Eye Tracker（視線センター）MOFF（手や腕、足につけるセンサー）HOKUYO（壁の映像をタッチできるセンサー）PC 内蔵マイクラ（マイクで使えるセンサー）
- Leap Motion　手、指の動きを感じる
- Moff
- Leap motion
- TOBII
- 視線センサー
- 視線センサー
- TOBII 目線を感知するセンサー！

【質問 6】授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？（自由記載）

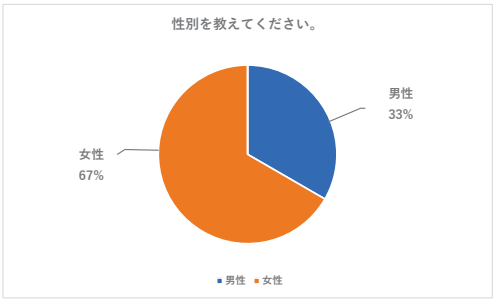
- 実際にデリリハを体験できて楽しかったです。
- とてもためになりました
- 児童系の授業
- リハビリには AI も活用できるということと、楽しくリハビリができる良さを知れて良かったです
- 理学療法士のお話を聞きたい。
- ただゲームを楽しむだけでなく、身体のリハビリや感情をコントロールする練習にもなるとわかることができました。
- すごく面白く、またやりたくなるゲームばかりでした。
- ゲームができたりしながらリハビリできるのがとても良いと思いました。オリィもとてもすごくて良いと思いました。
- 人型ロボットのについてもう少し知りたい
- デジリハのことを知れてよかった
- デジリハで子供も楽しみながらリハビリできることが分かりました。
- たくさんのセンサーを通して、障がいのある方でも楽しみながらリハビリができる、すごく良いものだと感じました。
- ALS や寝たきりの人などの難病の方でもセンサーでロボットを使うことによって代わりに動いて社会的欲求を満たせるとわかりとてもすごいなと思った。とても難病の方に寄り添った技術だと思った。
- わかりやすい授業で、2 時間楽しかったです。デジリハなど沢山の単語を学ぶことができました。
- でじりは
- 作業療法士は作業を通してのリハビリだと思っていました。だけど作業だけではできないこともあるため、デジリハを使うことによってできないができるよう見なると初めて知りました。今後、このような体験を通して学べる授業がしたいです。
- デジリハは、リハビリをするのが苦手な子に対し、遊び感覚でできるリハビリがあることが今回の授業でわかりました。面白かったです。
- またセンサーのお話をして欲しいです
- 今回の授業を通して感じたことはロボットを活用することでできなかったことができるようになると利用者自身の喜びになることを知ることができました。
- 今日の授業を通して寝たきりで辛い日々を送っていた方でもオリィーのおかげで自分のしたいこともできたり、社会の役に立てるような自分の生きがいにも繋がってるなとわかり AI 化してこれからの未来でデメリットも沢山ある中オリィーが変えてくれたって言えるくらいこれからの介護でも活躍してほしいなと思いました。またこの授業やりたいし今日使えなかったセンサーも体験して見たいなと思いました。本日はありがとうございました。
- 今日は初めてデジリハについて知ることができました。本格的で少し苦痛になるリハビリではなく遊び感覚でリハビリすることができてとてもいいなと思いました。また、分身ロボットでは重度の障害のある人の可能性ややりたいことを叶えることができてすごいなと思いました。とても分かりやすくて楽しかったです。

- 今日の授業を聞いてオリでは、病院や障害の壁で出来なかったことが出来るようになったと聞いて良かったなっと思いました
- 授業をして、体が不自由な人が分身のロボットでやりたいことができるということがすごいと思いました。ゲームの体験をしたりいろんな話を聞いて楽しかったです。
- 実際にセンサーの体験をしてみて人によって感度を下げたり上げたりすることでな難易度を変えてその人にあったことをすることがわかりました。またおもりを付けることで負荷をかける方法も知れてよかったです。
- 説明の仕方がわかりやすくて、頭にとても入ってきました。もっと深くデジタル作業療法について知りたいと思いました。
- 寝たきりの方でも気楽にパソコンのセンサーでオリィを動かして仲間たちと共に働くことができること知ることができたり、それぞれの人達にあったコントローラでゲームができるんだなと今回の講話を聞いて知ることができました。とても勉強になりました
- リハビリは大変だし苦労がかかるものだと思っていたけれど、現代のデジタル技術を通して、ロボットやゲームを連携させることで身体に障害を抱えていてもいても職場で働けたり、e スポーツのように障害有無関係なくゲームを楽しめつつリハビリを行える場を作っていることが素晴らしく感じたし、障害を抱えている人にも自分でやっている実感を持てるので自信がついていいなと感じました。
- ASL などの人達が動かすことのできるロボットがあると知れたし、センサーを使ってリハビリに感じさせないリハビリが凄かった。
- 琉リハで行っている授業
- 寝たきりの状態の方が視線などを使ってコミュニケーションを取る事が出来るようになっているとわかりました
- デジリハは最初何のことか分からなかったけど、リハビリをしたくない子供とリハビリをしたくなくて泣かれたら嫌な親の気持ちを考えてから遊びながら楽しんでリハビリができるものだということとうことを知れたし、うことを知れたし、寝たきりで行きたい場所とかにも行けない時の為にオリイといった機械を使ってしたいことをしたり、視線センサーを使って車椅子を動かしたり体に麻痺があって動く事が出来ない車椅子を使っている人でも出来るようなゲームもあるとしれた
- 今日の授業では、オリィの話がとても印象に残りました。病気や障害、介護・育児などのさまざまな理由により、動きたいけど動けない人の代わりに動いてくれることで声や目線で自分の意思で自分の言葉で伝える事ができるのはとてもいいなと思い、もっと広がって欲しいなと思いました。また、「寝たきりでも仲間と共に働けるカフェ」ニュースで見た事があり、行ってみたいなと思いました。また、リハビリと気付かず楽しみながらできる「デジリハ」は、やらされるではなくやりたい！が増えるのでとてもいいなと思いました。

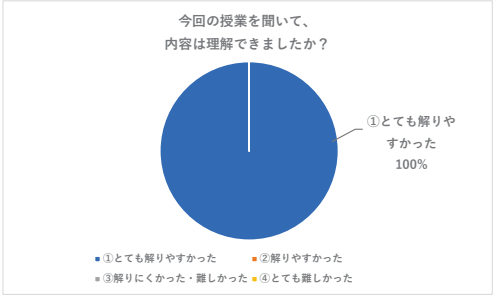
以上

中部農林　3 年生　0704

【質問 1】性別を教えてください。



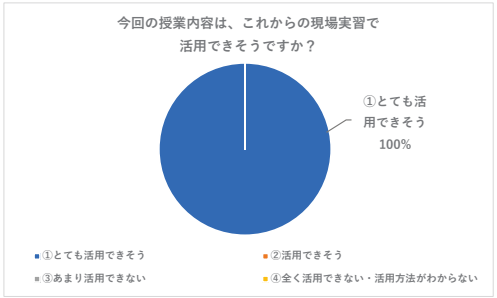
【質問 2】今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？



【質問 3】今回の授業の中で特に印象に残っているものはどんな内容ですか？ または学んだことは何ですか？ （自由回答）

- 改めて車椅子の乗り方や高齢者の動きなど、を知ることが出来ました
- 車椅子にも色々な種類があって自分に合った形にもできるものがあると言うことが印象に残った。車椅子の種類や杖のことや高齢者体験をしたりしました。
- 車からの乗り降り
- 車からの降ろし方
- 車椅子の注意点について深く座ることの大切さや坂の上り下りの工夫の仕方などなぜそのように行うのかの説明があってとても理解しやすく印象に残りました。
- 車椅子の移動の仕方とどう注意するかや車椅子を回す時に後輪を軸にして回すことを習った！

【質問 4】今回の授業内容は、これからの現場実習で活用できそうですか？



【質問 5】実習前対策ではどんな内容があると、安心して実習に臨めますか？

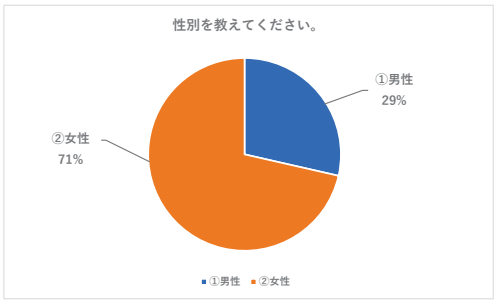
（自由回答）

- コミュニケーション方法などあったらいいと思います
- 利用者さんとのコミュニケーションで気をつけた方がいいこと
- 習ったことを思い出しながら実習に臨む
- 食事介助
- 高齢者とコミュニケーションをとるコツ
- 自分的には介護の練習やコミュニケーション取るなどの練習で介助もいままでやってきた介助のまとめをしたりレクの練習をしたりして実習前に授業まとめていきたいです

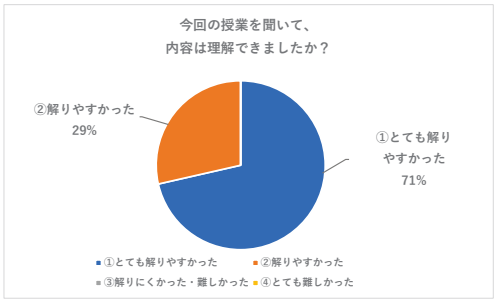
以上

中部農林　３年生　0708

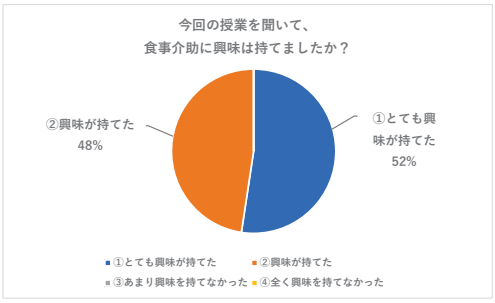
【質問 1】 性別を教えてください。



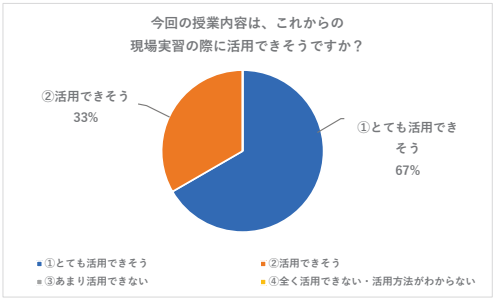
【質問 2】 今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？



【質問 3】 今回の授業を聞いて、食事介助に興味は持てましたか？



【質問 4】 今回の授業内容は、これからの現場実習の際に活用できそうですか？



【質問 5】 食事介助の際に、学んだことを教えてください。 （自由回答）

- 声かけをしながら、食事をあげやすい位置で介助をする。
- 少量ずつ口に運ぶ
- 指 4 本分が飲み込みやすい
- 指 4 本分が首に入るぐらいの角度で飲み込みがしやすい事
- 自立支援、利用者さんに合わせたスプーンなどを使う
- スプーンの大きさが食事をしやすくするためにとても大切になってくるとわかりました。
- 食べ物を利用者さんの口に運ぶ前に今から何を食べるのかを説明したり、食感などについても軽く説明すると安心して食事をすることができる。
- 利用者さんの立場になって安心安全に食べることができるように心掛けることが大切だとわかりました。
- 指 4 本分顎を下げて嚥下する
- 利用者さんが食べやすいように工夫した事や、気をつけた方がいいことを学ぶ事ができました
- スプーンの大きさとかが関わってくるってゆうこと
- 食べこぼしがないように皿を近づけて食わす
- すくう大きさなどを誤嚥に気をつけてやった。
- 相手のペースに会わせることと指四本位開けた方が良い
- 食器の大きさや一口で食べさせる量の調節など食事介助の際に考えるべきことを学ぶことができた
- どの状態でご飯を食べるかで食べやすさが変わると言うことを知れて良かったです
- 利用者のペースに合わせること。次何を食べるかを本人に聞いて選んでもらうことです。
- 食事介助をする際は真正面からあげるということが分かりました。
- 食べ物をあげる時は上からあげない
- 利用者さんは胸元から指 4 本分くらいが飲み込みやすいと知った
- 食べるときには、利用者のペースに合わせ顎を指四本分の幅を取って食べさせると良いこと

【質問 6】 授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？ （自由回答）

- 作業療法士がどんな所で活躍しているのか、どのような職業なのかが知れて良かったです。
- 言語聴覚士の話を聞きたい
- とてもわかりやすかったですありがとうございました。
- 作業療法士は大変なイメージがあると思ったけどやりがいも凄くあるなーと思った
- 手話、白杖
- スプーンの大きさでこんなに食べやすさが変わるんだなということが知れました。今後の現場実習などで活かしていきたいです。
- 利用者さんが安心できるような介助をすることが大切だと分かりました。スプーンの大きさや種類

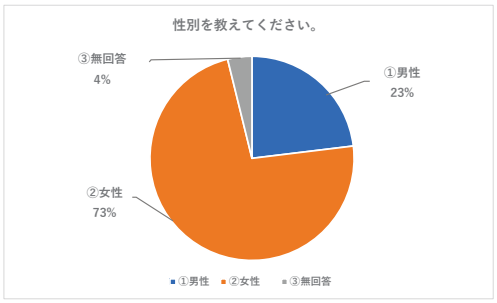
など利用者さんに合ったものを使うなど、利用者さん個人に合わせた介助も大切だと知りました。

- わかりやすくて楽しい授業でした！
- 特にありません。
- とても、わかりやすくて勉強になりました
- プリンとか食べ物を食べながらの実習も楽しくて集中しやすかった
- もっとこういう授業してほしい
- 介護を行う上で大切な気持ちいい
- 作業療法士の仕事内容を詳しく学習したい
- 講師の人に来てもらって心理学とかの授業について学びたいです
- 作業療法士について学ぶことが出来ました。また、食事介助の際の利用者さんの顔の角度について改めて知ることが出来て良かったです。
- 今回食事介助の方法を学ぶことが出来ました。コツは上からあげず利用者と平行になるようにあげるといいということを学ぶことができました。
- 顎を上げたり下げた状態では、利用者さんは飲み込み辛かったり、誤嚥する可能性が高くなると知ることが出来た
- 今回の授業は本当にためになる話を聞けて良かったです。なのでこれからも専門職の話を聞いていきたいです

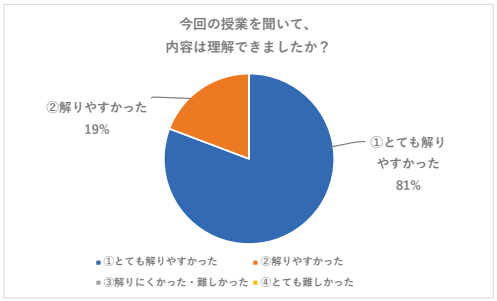
以上

中部農林　３年生　0912

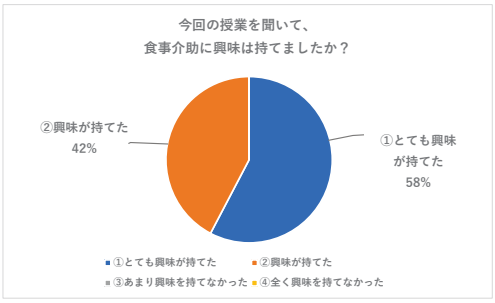
【質問 1】 性別を教えてください。



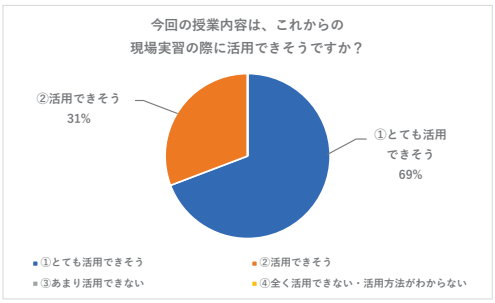
【質問 2】 今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？



【質問 3】 今回の授業を聞いて、食事介助に興味は持てましたか？



【質問 4】 今回の授業内容は、これからの現場実習の際に活用できそうですか？



【質問 5】 食事介助の際に、学んだことを教えてください。 （自由回答）

- 角度やスプーンだけでこんなにも食べやすさが変わるんだと知った
- 声掛けとあげる位置が大事だと学びました
- 利用者が食べやすい方法で食べるのがいい
- スプーンなどを変えたら食べやすくなること
- 角度を変えてあげることで食べやすくなるし、あげやすくなることがわかった。
- 声掛けや解除する時の角度が大切と学んだ
- 大きいスプーンより小さいスプーンの方が上げやすい
- 利用者さんから見て 90 度の位置で同じ目線で食べさせることが分かりました。
- あげやすい向きと食べやすい向きがあった
- 座る角度や声掛け、位置によって介助される側のご飯の楽しみ方が変わってくることがよくわかった
- 利用者さんに食べさせる時の方法などまなべた
- 食べる側が安心して食べられるようにするには、１つ１つの声掛けや、相手のペースに合わせることが大切だと学びました。
- 利用者さんのことを考えて角度や声掛けを大切にする
- 固形物が、形を崩してやった方が食べやすくなる
- 利用者様が食べやすい方で介助をしてあげることを学びました。
- 90 度の角度で利用者さんの高さに合わせてあげることが大切だと学んだ。
- 真横から食事かいじょするととても食べづらいこととかぎゃくに真っ直ぐからやると目があってきまずいしやりづらいと分かった。
- 食事介助をする時は、相手のペースに合わせること、声かけをしながらゆっくり食べさせないと利用者の方は不安になってしまう、美味しく食事をしてもらう為に必要な事だと分かった。
- 目をつぶった何も言われずに口に入れられるとちょっと嫌だったので、自分が介助する側になったときは声掛けを大事にしたいと思いました。
- 正面や真横や 90°Cのあげ方でやって食事のあげやすさや難しさを学ぶことが出来ました。
- 90 度の方があげやすいことがわかった
- 横からの食事介助は介護者役でもやりにくく感じたし、利用者役でも食べづらく感じた。90 度だと利用者さんの顔も見えるし、嚥下の確認もできるのでやるやすく感じました。
- 正面や斜め後ろからではなく横から上げると食べやすい
- 急に食べさせられたりとか、何かわからない状態で食べるのは、怖いし美味しく食べられないと思ったから、何を食べるか目視することや、食べる角度が大事だと思いました
- 食事介護をするときは、利用者に合わせて道具を変えたり、向きを意識することが大切だということ
- 食事のあげ方を変えるのではなく、スプーンなどを変えるのも必要だということ

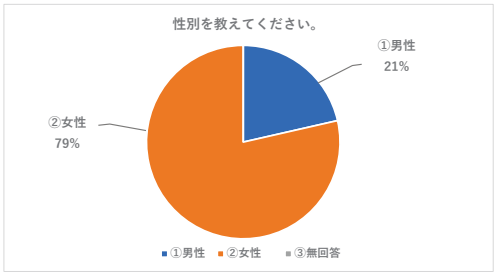
【質問 6】 授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？ （自由回答）

- 食事介助の仕方について改めて振り返りすることが出来たので嬉しかったです！またやって欲しいです！
- 実践してやったから分かりやすかった
- 楽しかった。
- 認知を持ってる人との関わり方を学んでみたいです
- 療法の種類をやって欲しい
- 今日は支援についてなどをして歩く時にフラフラする人を援護する時は横に立ち支えることがわかりました。
- とくに無し
- 作業療法を、実際に体験したい
- とてもいい事を知れた食事介助について知識を深めることができた
- とても授業がわかりやすかったです
- ゼリーが美味しかったし、介護する側がもっと力を抜いて良いんだとわかった。
- 同じような授業をして欲しいです。
- 食事介助についてわかりやすかったです
- 今回の授業を通して食事介助の介助技術や今後の介護する時に活かして行きたいです
- 食事介助のことをしっかり学べた 90 度と、正面の 2 種類あることにきづいた
- 字を書く時の支援やスプーン以外のものを使う支援方法
- とてもわかりやすかったです
- 食事介助について知れて良かったです
- 食事介護のやり方にも、向きや道具などで解除のしやすさが変わるのが驚き
- 座学だけでなく実践形式で学べたので楽しかった。

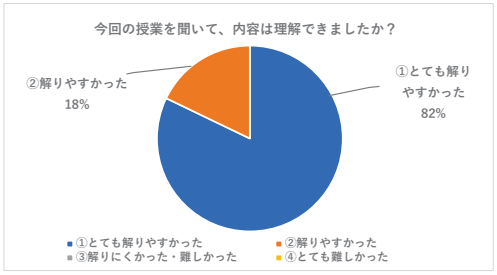
以上

1010　中部農林　3 年生

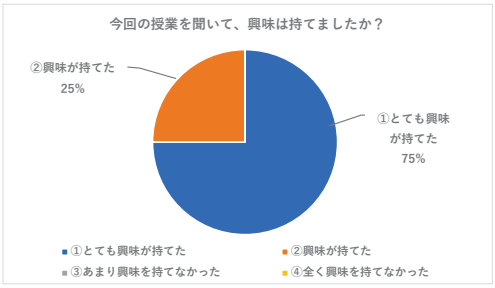
【質問 1】 性別を教えてください。



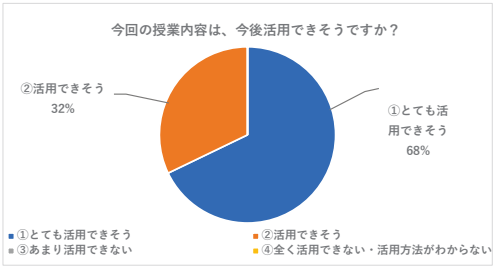
【質問 2】 今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？



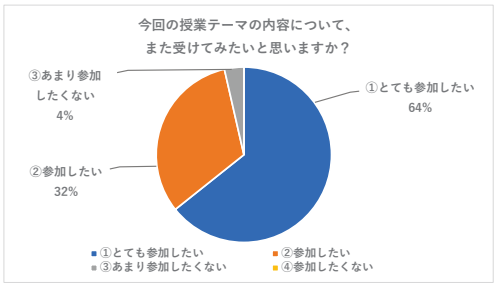
【質問 3】 今回の授業を聞いて、興味は持てましたか？



【質問 4】 今回の授業内容は、今後活用できそうですか？



【質問 5】 今回の授業テーマの内容について、また受けてみたいと思いますか？



【質問 6】 障害者の生活支援の方法にはどんなものがありましたか？（自由記載）

- その人にあった支援方法
- さまざまな支援の方法があった。
- 相手の意見を聞いた上でその人ができることを伸ばす(園芸とか)
- どんな生活をしたいかお話を聞く
- 1 人でも生活できるように訓練をしてあげたりする
- 利用者様にあった介護をする
- なぜこうしようかを一緒に考えるという支援法があった
- 期待しすぎないこと、そしてペースに合わせること
- 好きなものを知る
- その方の希望に沿った支援を行うことが大切。
- 相手の意見をきちんと聞き、その方にあったリハビリを提供する。生活訓練施設等を利用する
- 障がい者の意見ややりたいことを傾聴して聞くこと
- 障害者のお話を聞いて一人でも生きていけるようにしていく
- 寄り添うこととかも大事
- 生活訓練などの日常生活を行えるような支援や、その人のことを知り、その人に合ったリハビリを行なっていく

- 話を聞いて支援を行う
- その人がやりたいことを尊重してリハビリを行う。
- 自分で考えを伝えられない人もいるから、その人のことを少しづつ知って考えを読み取れるようにしたらいいとしれました。
- コミュニケーション その人が何を望んでいるのか、またそれに合わせて自立を目標とした支援をする
- 園芸や手工芸などを通しての訓練
- 相手のことをよく知ること、話を聞くことが大切だと思いました。
- 家族と過ごしてもらうとか一人で生活できるように訓練するとなぜ退院したいか聞くと言ったＡさんの状況にあった支援を考えることが出来ました
- その人がもし入院してて、退院したいと言い出した時になぜ退院したいかを聞いて、それに合ったリハビリをしていく。
- ペースを合わせること
- コミュニケーションをとり､その方にあった支援方法を探していく。
- その人がしたいことを聞きできるようにサポートする
- その人がやりたいことを支援したり、その人について知って内容を考えたりなどする。
- その人にあった支援(コミュニケーションによる精神的なケア)

【質問 7】 授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？（自由記載）

- 今日はありがとうございました
- まずはお話を聞くのが大事なことなんだなと分かりました
- 今日はお忙しい中ありがとうございました。精神機能分野と他分野の違いについても沢山知ることができました。
- 精神的なことが聞けて楽しかったです
- 精神障害の方の支援方法
- 作業療法以外に職種についても知りたい
- 今日の授業を聞いて、初めて知ったことが沢山あり、とても勉強になった
- ないです。
- 生活とは何かというのを今回の授業で学ぶことができました。
- 楽しかったです
- 生活について深く知ることができたので生活の質を上げたいと思う
- 今回の授業内容は初めて聞く内容だったので、面白かったです。精神的な障がいを持っている人に対しての支援方法はたくさん工夫しないといけないことや周りの協力が必要とわかりました。
- 今回の話を聞いて生活支援をするにはその人のことを聞くことが大切ということがわかりました。

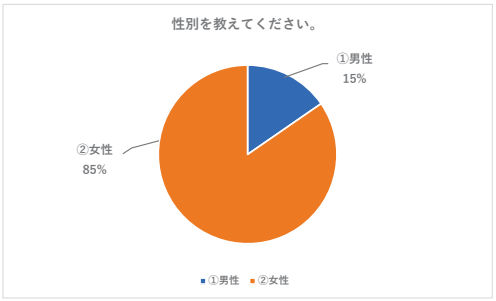
支援をする時は、必ずできると思わないことがいいと学びました。

- 今日の授業を通して、その人に対して、期待し過ぎないことやできることを見つけていくなど、患者さんに負担がないようなリハビリをすることが大切なのだと学べました。とても楽しい授業でした。ありがとうございました。
- グループワークとかも多くて楽しく授業に参加できたので良かったです
- 先生の話がおもしろかった。
- 実際にいた利用者さんの話があって分かりやすかったです
- わかりやすかったです。精神障がいの方の接し方なども学ぶことが出来ました。
- 今回の授業を通してわかった事は生活の質や生活について分かることができ、自分の今の生活を振り返り人の生活や障害者への支援の方法を学ぶことが出来ました。
- リハビリってよく聞く言葉で深く考えたことなかったし、簡単な意味でしか捉えていなかったけどリハビリや作業療法士は広くて色んなやりがいがあるとわかった
- 目で見て分かりにくいことだと知れて、とてもいい授業になりました。ありがとうございました。
- 生活についてわかりやすく知れてよかったです。
- 本日はお忙しい中講和をして下さりありがとうございました。今回の講和でリハビリテーションは自分を基準に考えるのではなく、相手がしたいことをしっかり聞きいれ、それができるようにサポートしていくことだと学べました。今回の講話で学んだことを今後に活かせるよう努力していこうと思います。本日は本当にありがとうございました
- プレゼンの内容や、実際の利用者についてのお話しなど、とても興味のある内容でした。
- 事例を見てから支援方法を考えるというのが苦手なのでグループで意見を交換することで色んな考えを知ることができました！

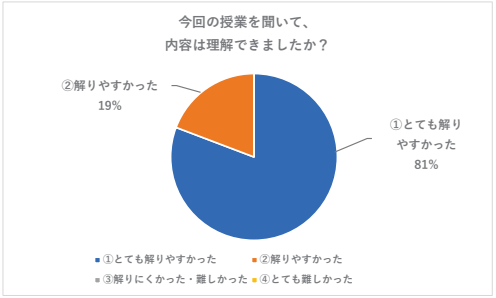
以上

中部農林高校

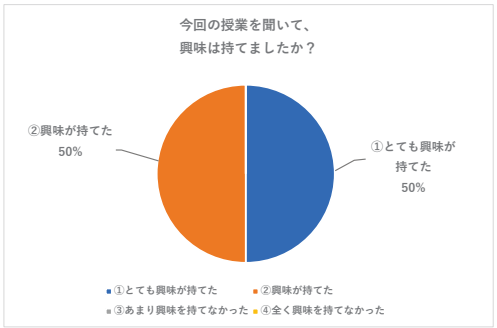
【質問 1】 性別を教えてください。



【質問 2】 今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？

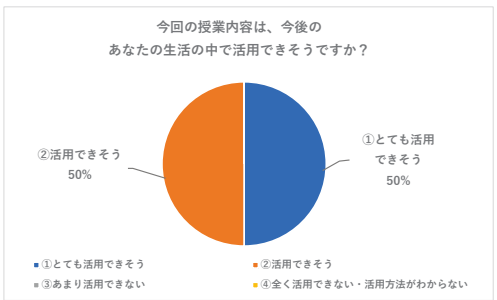


【質問 3】 今回の授業を聞いて、興味は持てましたか？

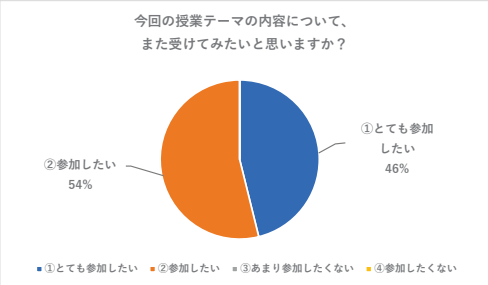


【質問 4】 今回の授業内容は、今後のあなたの生活の中で活用できそうですか？

」



【質問 5】 今回の授業テーマの内容について、また受けてみたいと思いますか？



【質問 6】 コミュニケーションの種類は 2 つあります。何でしたか？ （自由回答）

- 言語的コミュニケーション　非言語的コミュニケーション
- 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
- 言語コミュニケーション、悉言語コミュニケーション
- 言語的コミニケーション、非言語的コミニケーション
- 言語コミュニケーション　非言語コミュニケーション
- 言語、非言語

【質問 7】 授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？ （自由回答）

- みんなで喋らないでゲームする
- グループワークとか色んな人の性格とかがしれておもしろかった。
- 楽しかったです
- コミュニケーションをとる上でどのようなことを気をつけたらいいか再度確認することができた。
- とても、よくわかって受けて良かったと思いました
- グループ学習が楽しかった
- コミュニケーションは人と関わる事では大切で、なんか難しそうだった

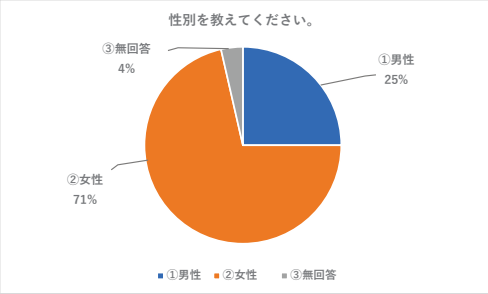
- グループになって話し合うことがとても楽しくて授業しやすかった
- いつもは話したりしてコミュニケーションを取ってるけど、ジェスチャーや表情だけでも相手の気持ちがわかった。
- 無いです！
- 授業をしてみてコミュニケーションのやり方はたくさんあることがわかりました。自分も習ったものを活かせるようにしたいです。
- 自分の性格や特徴を 20 個書く活動で、グループで誰が誰なのかを考えてみんなでコミュニケーション取れたのが楽しかったです！
- ゲームがとても楽しかったし、ゲームを通してコミュニケーションをたくさん取ることができました！
- 自分の特徴を書くのが楽しかった。
- 自分の性格を人に誰かを当てるゲームでみんなのことを知っているとは思っていたけど全然知らなくて相手をもっと知ろうと思いました。
- 楽しかった、誰か当たるやつだったりジェスチャーも楽しかった。
- いろんな事を学び相手の事をより知ることができ、コミュニケーションについて深く考えることができた。
- 特になし
- グループのみんなと話し合いや活動が多かったのでやりやすかったしいろんなこと知れて楽しかった！
- 今度は、もう少し深い考え方もできるようなのもしてみたいです！
- 自分の事を白紙に書いた時はあまり思い浮かばなかったけど他の人たちの意見も聞いてたしかに〜と共感することが出来たので、次もしこういう機会があったら自分のことも相手のこともちゃんと知っていきたいと思いました
- 言葉では伝わらないこともあるので感情や手話で伝えるのが大事だと思いました。
- 私はコミュニケーションが苦手で、コミュニケーション能力を上げるために中部農林高校に来たので、今日の授業はとても勉強になりました！今後の授業でも、これから役に立ちそうなことを教えてくれる授業をしてほしいです。
- 自分について考える機会はあまりないので難しかった

以上

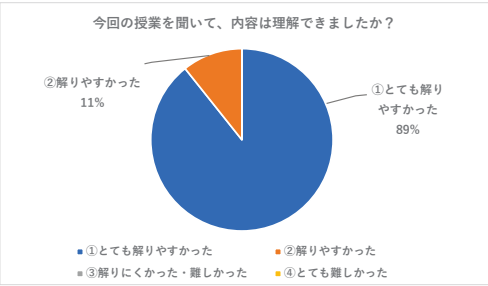
3 嘉手納高校

学年不明　0910〜0912 嘉手納高校

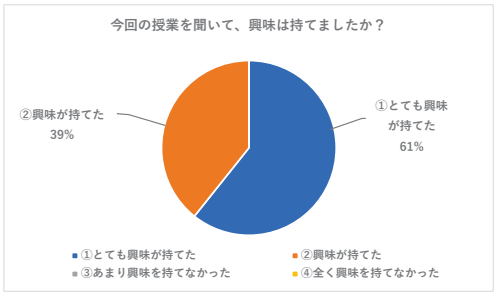
【質問 1】 性別を教えてください。



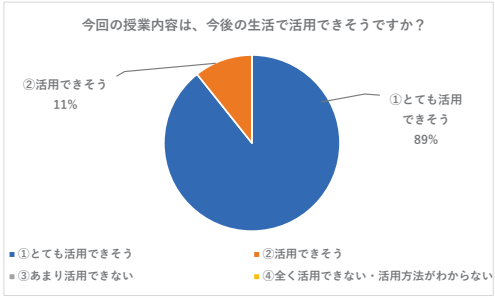
【質問 2】 今回の授業を聞いて、内容は理解できましたか？



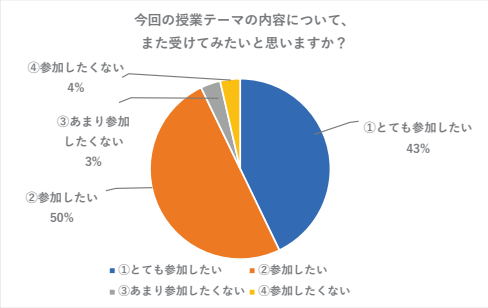
【質問 3】 今回の授業を聞いて、興味は持てましたか？



【質問 4】 今回の授業内容は、今後の生活で活用できそうですか？



【質問 5】 今回の授業テーマの内容について、また受けてみたいと思いますか？



【質問 6】 心肺蘇生法における胸骨圧迫の際の、３つの原則は何か？（自由記載）

- 強く　速く　たえまなく
- 強く、速く、たえまなく
- 肘伸ばす　強く　救急車くるまで
- 周囲の確認、助けを呼ぶ、心臓の動きの確認
- 強く、速く、たえまなく
- 強く、早く、たえまなく
- 早く　強く絶え間なく
- 早く、強く、絶え間なく
- 強く　早く　絶え間なく
- 強く　早く　絶え間なく
- 早く、強く、絶え間なく
- 膝たち、足閉じない、肘曲げない
- 肘曲げない、足開く、膝立ち
- 速く、強く、たえまなく
- 強く早く絶え間なく
- 強く　一定のリズム　元も位置に戻す

- 絶え間なく、一定に、続ける
- 強く早く一定
- 強く早く絶え間なく
- 強く　早く　一定
- 強く、一定に、圧迫解除
- 強く早く絶え間なく
- 強く、早く、たえまなく
- 強く、早く、絶え間なく
- 5cm 沈める、一分間に 100 から 120、絶え間ない圧迫
- 膝曲げる 心臓に手を当てる 腕を真っ直ぐにする
- 強く、早く、絶え間なく
- 強く、早く、絶え間なく

【質問 7】 授業の感想、また今後授業して欲しい内容がありますか？（自由記載）

- 特に無い
- 心肺蘇生法がわかった
- ない
- 心肺蘇生はしたことがなかったので、とても勉強になりました。
- 人が倒れてから救急車が来るまでの間に心配蘇生を 100 回ほどやるのは大変だと思った。足を開いたら手を曲げないなどとコツを掴んだからもし活用する場面があれば人を助けてみたい。
- 心肺蘇生法のお話を聞いて、ペットボトルで実際にやっている感じを経験してみて、まず周りを確認する、119 番に電話する、周りを見るというのを行動にうつしていきたい。
- AED についてよくしれました
- 脳のこと
- 道で倒れている人が居たら、困らないように今日練習ができてよかった。また、大事なこともたくさんしれてよかったです。
- 胸骨圧迫のやり方がよくしれたし、何分以内に助けないといけないかもわかった。
- わかってたことを復習の形でもっと詳しく知ることができたので良かった
- とても分かりやすくて良かったです。動画を見ることで、どんだけ重要か分かりました。
- 実際に現場で自分がやるということは全く想像できないけど、この学びを活かせれるなら頑張ってみたいと思った（もしこのようなことが起きた場合）少しでも人を助けたいと思った。
- 自分で知っているのと知らないのでは全然違うと思ったからなんかあったら役に立ったと思った
- 助産師関係の授業
- とてもわかりやすくて今後活用できるように忘れずに、周りにも教えて行けたら良いなと思いまし

た

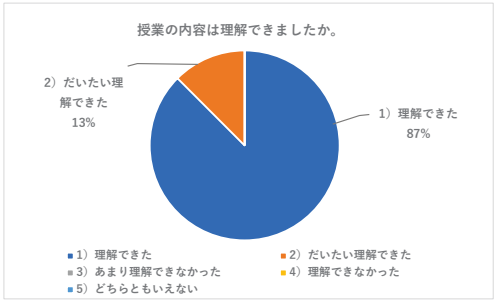
- 今日の授業は将来突然の事態にとても役立つと思いました
- 実際に AED を使ってみたい
- とくにない
- 若年層アルツハイマー
- AED の使い方や、倒れている人を見つけた時の対応の仕方を学べ、とても勉強になりました
- 救急車の呼び方
- 心配蘇生はとても疲れた
- 心肺蘇生法を学んで突然何かあった時に対応していきたいと思った
- 筋肉について
- 胸骨圧迫が思ってたより強くやらないといけなかったのが分かった

以上

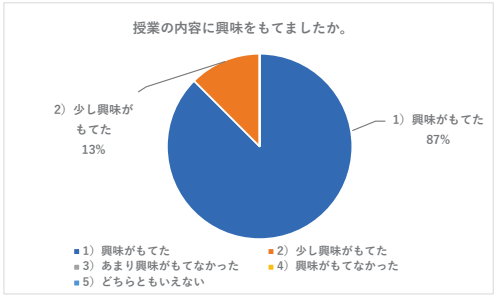
4 東北高校

1～2年　東北高校

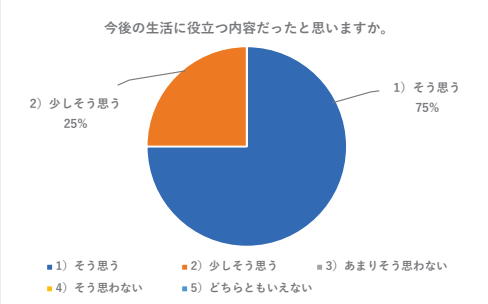
授業の内容は理解できましたか。



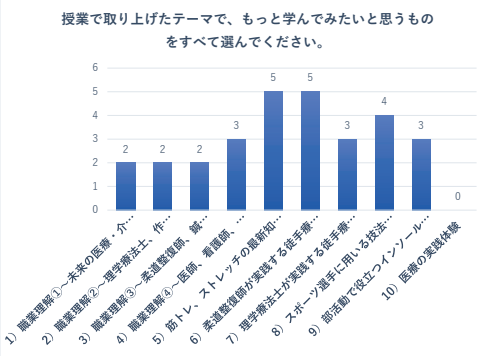
授業の内容に興味をもてましたか。



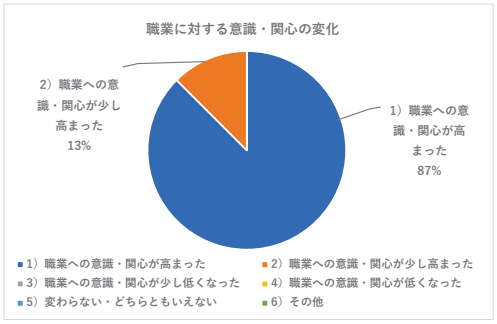
授業で学んだことは、今後の生活に役立つ内容だったと思いますか。



授業で取り上げたテーマで、もっと学んでみたいと思うものをすべて選んでください。



授業を受けてみて、あなたの職業に対する意識・関心の変化について、あてはまるものを１つだけ選んでください。



感想

- 授業を受けて将来医療系(介護や理学療法)の仕事に就きたいと思った。
- あまり興味のない職業だったけど、今回のキャリアで面白そうだなと感じ、他にも調べてみようと思いました。
- マッサージについて学びたいです。
- マッサージについて学んでみたい
- 毎週とても楽しかったです！鍼灸とインソールは絶対にやりたいと思いました。
- 今後は筋肉の仕組みについて学びたい。
- うまい体の使い方。体の痛みのとり方。
- 筋トレの授業が楽しかったです。試合中の体のケアが知りたいです。

以上

5 琉球リハビリテーション学院

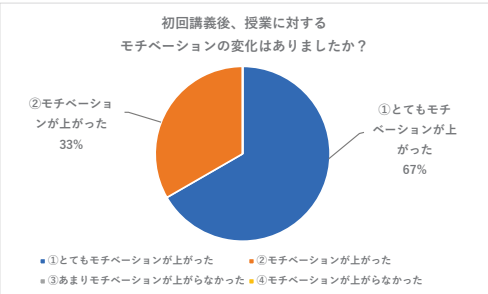
琉球リハ　「協同学習」事前アンケート（1 年生向け）

【質問 1】「協同学習」で期待することはなんですか？

（自由回答）

- 協力して頑張る
- 先輩方と仲良くなりたいです
- 2 年の先輩と仲良くなって情報交換し、自身の成績を伸ばす事。
- 先輩から直接教えてもらえること
- 2 年生さんと交流することと今から習う知識をわかりやすく教えてもらうこと。
- 先輩との交流と知識の向上
- 今日みたいに先輩と関わって楽しくやるのがこれからあると嬉しいです
- 先輩方から勉強を教えてくれること
- 先輩たちから勉強の仕方とかならうこと、コミュニケーションを取る

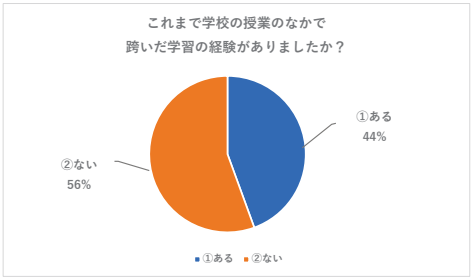
【質問 2】初回講義後、授業に対するモチベーションの変化はありましたか？



【質問 3】講義予定（シラバス）で楽しみにしている回はどれですか？　（自由回答）

- 新入生歓迎球技大会
- あまり備わってない
- カルタ
- かるた
- カルタ
- カルタです
- かるたが楽しみにしています
- 評価学練習
- 評価学練習

【質問 4】これまで学校の授業のなかで跨いだ学習の経験がありましたか？



【質問 5】「ある」と回答した人に質問です。どんな授業で取り組みましたか？

（自由回答）

- 解剖生理学で少しやった
- 基礎総合
- 基礎総合で取り組みました。
- 公務員教養の授業でテストを受けに行った！

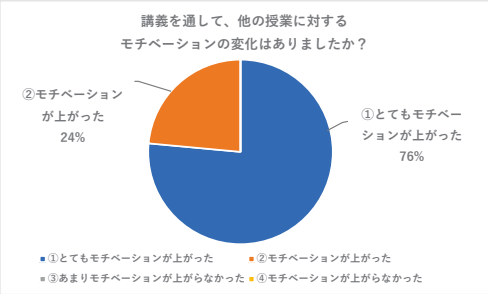
以上

「協同学習」事後アンケート（1 年生向け）

【質問 1】「協同学習」で期待していたことはなんですか？　（自由回答）

- 先輩との交流
- 先輩と楽しかった
- 先輩との交流
- 学力向上と 2 年生との交流
- 2 年生との合流で、仲良く出来る
- 先輩方との交流
- 先輩たちと仲良くなれる
- 先輩の方からどのように勉強していったらいいのかやアドバイスをもらうこと。交流をすることで話しやすい環境や積極的に聞く力をつける。

【質問 2】講義を通して、他の授業に対するモチベーションの変化はありましたか？



【質問 3】先輩たちとの交流で学んだことはなんですか？　（自由回答）

- 勉強の仕方や関節の動きなど学べました！
- 勉強のやり方やいろんなこと
- 骨や筋肉、関節可動域などを学べた
- 骨の名称　ROM 評価
- 2 年生の雰囲気とか、これから重要になる部分を学べました。
- それぞれの講義の勉強方法やどんなことを中心に学んだらいいのか、ポイントを教えてもらうことができた
- 勉強方法
- 基本的な人間の構造や血圧の測り方（評価学）、stef、rom、を学んだ。

【質問 4】自身が成長したと感じる部分はどこですか？　（自由回答）

- 積極的に行動できるようになった
- 反射とか体にたいしての知識
- 全体的に知識がついたと思う
- 学力が上がったと感じました
- 最初は先輩に話しかけるのがあんまり出来なかったのが、最近だと分かんない事があれば聞けるように自分から動けるようになりました
- 勉強の取り組み方がかわったなと思うのと、自分がわからないことを先輩方に聞けるようになったのが成長したなと思います
- 共同学習以外でも先輩たちに話しかけられるようになった
- 最初の授業の時よりも積極的に質問することができた。

【質問 5】今後どんな場で、この学びが活かせそうですか？　（自由回答）

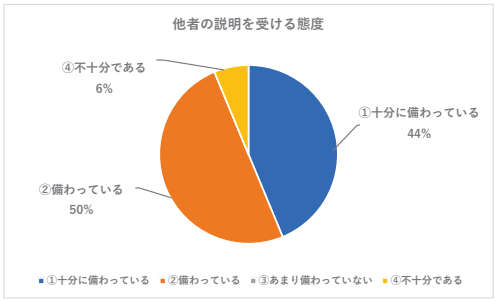
- 臨床の時積極的に分からないところは聞きたいです
- いかせそう
- 今後の授業全部で生かしていけると思う
- 実習先での OT の先輩方への質問で活かせそうです
- 共同の授業は、年上の方と関わったり話したりするのは職場でも絶対に関わってくるので、そう言った部分で、自分で声かけて行動できるものは今後活かせると思います
- 自分が困ったときに先輩方に聞きにいけるし、みんなそれぞれ先輩にポイントポイントを聞いているから聞いたことを自分たちで教え合えるし、自分が先輩の立場になったときどんな風にアドバイスしたほうがいいのかとかを知ることができて次に活かせるなと思いました

- 来年また共同学習があっても後輩たちにアドバイスができそう
- 自分が医療職の一員として病院で働くようになった時に人に質問する力や聞く力がこの学びで活かせそうだと思った。

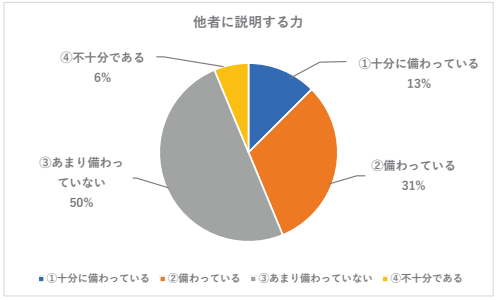
以上

「協同学習」事前アンケート（2 年生向け）

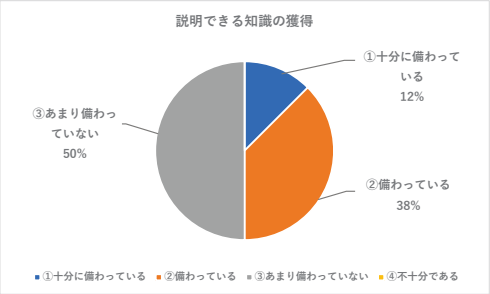
【質問 1】　他者の説明を受ける態度



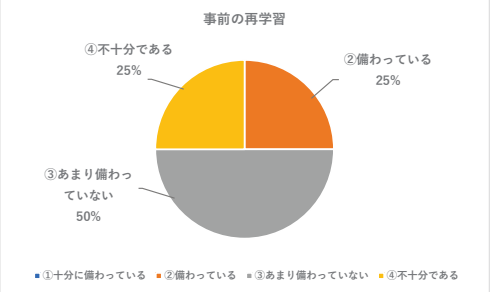
【質問 2】他者に説明する力



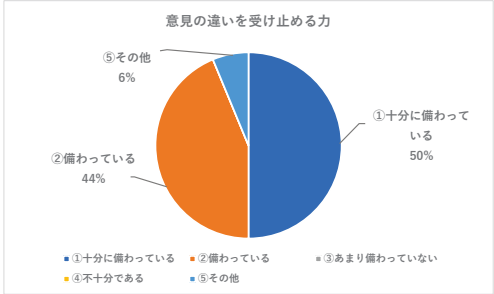
【質問 3】説明できる知識の獲得



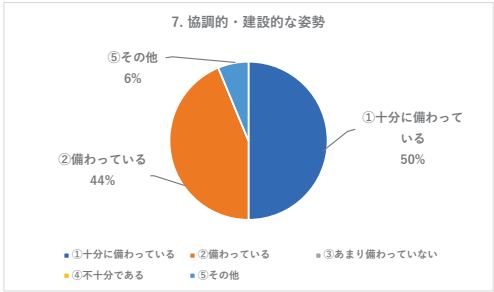
【質問 4】事前の再学習



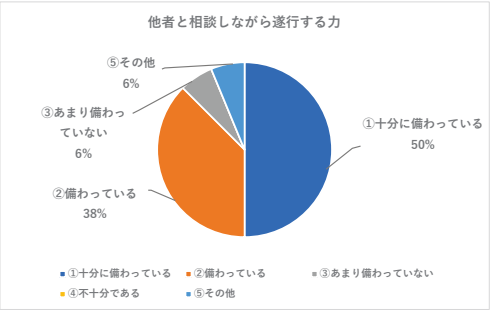
【質問 5】意見の違いを受け止める力



【質問 6】協調的・建設的な姿勢



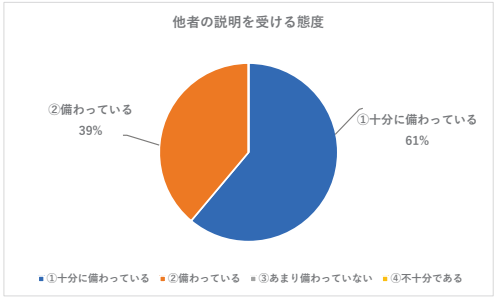
【質問 7】他者と相談しながら遂行する力



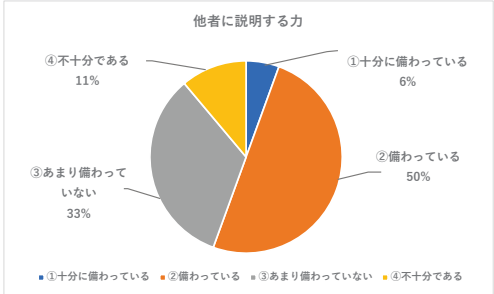
以上

「協同学習」事後アンケート（2 年生向け）

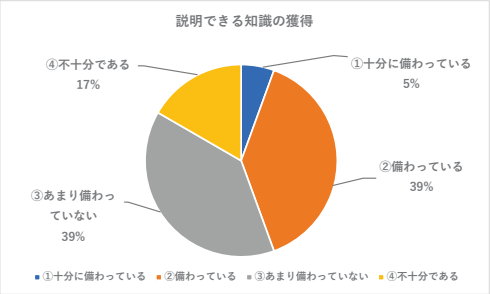
【質問 1】 他者の説明を受ける態度



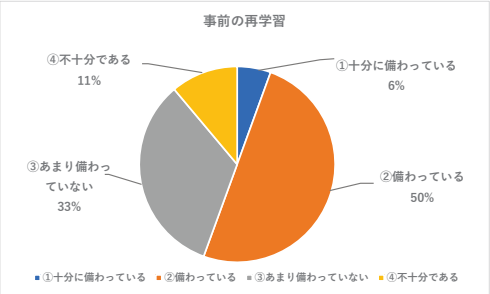
【質問 2】他者に説明する力



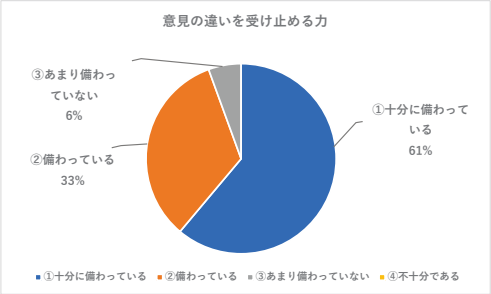
【質問 3】説明できる知識の獲得



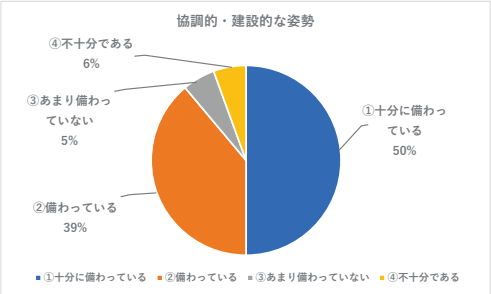
【質問 4】事前の再学習



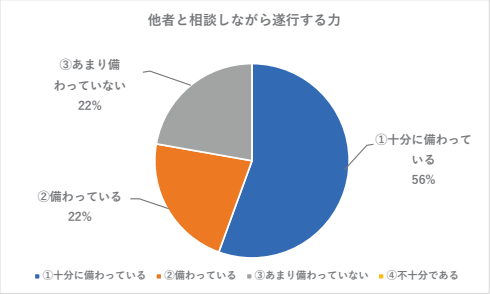
【質問 5】意見の違いを受け止める力



【質問 6】協調的・建設的な姿勢



【質問 7】他者と相談しながら遂行する力



以上

福祉系学科校　連携授業カリキュラム案　（実証講座実績をもとに作成）

実施対象科目		**実施形式**	チームティーチング形式
実施対象学年	１年生／２年生／３年生	**実施場所**	各高校、琉球リハビリテーション学院、関連施設
到達目標	本カリキュラムは、高校段階において設定されている学年／科目／単元ごとの到達目標に沿い、その達成に向けた外部専門機関としての支援を行うことを想定している。高校段階全体としては、学年の進行に応じて以下のような学びの段階をイメージしている。 **１年生段階**：分野共通的な基礎理解を通して、福祉・医療・リハビリ分野への関心を高め、職業キャリア意識の形成を図る。 **２年生段階**：医療・福祉・リハビリ分野における専門職の役割や支援の視点を学び、基礎知識・基礎技能の定着と向上を図る。 **３年生段階**：学んだ知識・技能を応用し、実習や演習を通して実践力を高めるとともに、進路選択につなげる。 なお、キャリア教育や職業理解に関する内容については、全学年を通して横断的に実施することを想定し、各学校の教育課程に応じて柔軟に位置づけるものとする。		

主な連携授業の実施例

※学年や学校の実情に応じて調整可

No.	対象学年	科目	テーマ	授業の概要	主な実施時期	実施コマ数
1	１年生	コミュニケーション技法	対人関係の基礎となるコミュニケーションの理解	・コミュニケーション	5月	２コマ想定
2	１年生	介護福祉基礎	介護福祉の基礎としてのコミュニケーションとリハビリテーションの理解	・リハビリテーション(OT/PT) ・リハビリテーションの技法 ・コミュニケーション(SSTなど) ・障害者の生活支援とリハビリテーション（作業療法）	7月～11月	各２コマ想定
3	１年生	コミュニケーション技法	対人援助に活かすコミュニケーション技法の活用	・SSTなどのコミュニケーションスキル ・作業活動を用いたコミュニケーション	7月～12月	各２コマ想定
4	１年生	社会福祉基礎	医療・介護福祉施設の役割としくみの理解	・医療・介護福祉施設について	9月	２コマ想定
5	１年生	生活支援技術	生活支援における作業療法・理学療法の視点の理解	・福祉用具について ・リハビリテーション ・障害者の生活支援と作業療法 ・作業療法（体験学習希望） ・作業療法・PTの視点からみた介護 ・作業療法（コミュニケーション技術） ・PT視点からの介護技術（生活支援技術）	10月～12月	各２コマ想定
6	１年生	職業理解	福祉・保健・医療分野における職業理解	・職業理解について①②　福祉・保健・医療関係職についての概要	10月～12月	各２コマ想定
7	2年生	社会福祉基礎	福祉現場における多職種連携の考え方の理解	・多職種連携について	5月	２コマ想定
8	2年生	介護実習	介護実習に必要な対人援助コミュニケーションの活用	・対人援助職に求められるコミュニケーション技法	5月～7月	3コマ想定
9	2年生	介護総合演習	介護実習に向けた身体理解・介助技術・専門職理解の基礎	・実習対策　～人のからだについて～ ・移動介助について（車いす・杖） ・リハビリ関係の専門職(進路講話含む)	9月～12月	各２コマ想定
10	2年生	社会福祉基礎	福祉分野における専門職理解と多職種連携の理解	・リハビリ関係の専門職（進路講話含む） ・多職種連携について ・リハビリテーション技法紹介（アロマ）	9月～12月	各２コマ想定
11	2年生	生活支援技術	対象者理解とリハビリテーション技法の実践	・ビジョントレーニングについて ・コグトレについて ・対象者の理解（事前学習） ・リハビリテーション技法（デジリハ） ・施設見学　＊ ・施設見学振り返り　発表	7月～12月	各２コマ想定 ＊施設見学は5コマ想定
12	2年生	介護実習	介護現場におけるアセスメントの基礎	・介護現場（現場実習時）におけるアセスメント	11月	２コマ想定
13	2年生	コミュニケーション理解	自己理解・他者理解を通したコミュニケーションスキル	・コミュニケーションスキルとしての自己理解・他者理解	11月	２コマ想定
14	3年生	キャリア教育	多様な働き方と将来のキャリアを考える	・さまざまな働き方	7月	1コマ想定
15	3年生	生活支援技術	障害者支援における福祉用具とリハビリテーションの活用	・障害者の生活支援とリハビリテーション ・専門職の視点から見た介護支援技術 ・福祉用具と福祉のIT化について ・福祉用具とリハビリ（PT/OT）	9月～11月	各２コマ想定
16	3年生	生活支援と技術	医療・福祉現場における仕事と他職種理解	・医療福祉現場の仕事(他職種理解)	9月、10月	8コマ想定
17	3年生	介護実習	実習現場で求められる対人援助コミュニケーションの実践	・対人援助職に求められるコミュニケーション技法①②③	9月、10月	各２コマ想定
18	1、2年生	キャリア教育	働くことと生活を支えるお金の基礎知識	・労働と生活費に関する話	7月	1コマ想定
19	全学年	キャリア教育	医療・福祉現場の仕事と専門職の役割の理解	・医療福祉現場の職業紹介	7月	1コマ想定

総合学科校　連携授業カリキュラム案　（実証講座実績をもとに作成）

実施対象科目		**実施形式**	チームティーチング形式
実施対象学年	１年生／２年生／３年生	**実施場所**	各高校、琉球リハビリテーション学院、関連施設
到達目標	本カリキュラムは、高校段階における各学年・科目の到達目標に沿い、その達成に向けた支援を行うことを想定している。 実証講座の実施内容をもとに、学年の進行に応じて以下のような学びをイメージする。 **１年生段階**：自己理解やコミュニケーションを通して、社会や仕事への関心を高め、進路を考える基礎を育成する。 **２年生段階**：医療・福祉・スポーツ・健康分野に関する知識や視点を学び、心身の理解を深める。 **３年生段階**：学んだ知識や体験をもとに、実践的な学びを通して進路選択につなげる。 なお、キャリア教育や職業理解、健康・安全に関する内容は、全学年を通して横断的に実施することを想定する。		

主な連携授業の実施例

※学年や学校の実情に応じて調整可

No.	対象学年	科目	テーマ	授業の概要	主な実施時期	実施コマ数
1	1年生	キャリア教育	これからの人生とキャリアを考えるための自己理解	・夢にも見なかった幸せな人生を歩み続ける	4月	２コマ想定
2	1年生	総合的な探求の時間	自分を知り、相手に伝えるためのコミュニケーションとマナー	・コミュニケーション（自分を知ろう、伝えよう） ・マナー講座　＊	4月～6月	各2コマ想定 ＊は1～6コマ想定
3	1年生	保健体育	心の健康と精神疾患を理解し、予防と回復を考える	・脳と心のはたらき ・心の健康と精神疾患 ・精神疾患の予防と回復	6月～7月	各5コマ想定
4	1年生	産業社会と人間	社会と仕事を知り、進路を考えるための基礎理解	・ 科目選択に向けて①（ガイダンス室紹介／職業の業種を知る） ・心と体を整えるセルフマネジメント　＊ ・福祉社会って何だろう？　＊ ・高齢社会と対人援助職　＊ ・上級学校訪問　＊ ・Society5.0（アントレプレナーシップ）＊ ・プレゼン作成について　＊ ・企業訪問	4月～11月	各6コマ想定 ＊は各12コマ想定 *は各2コマ想定
5	1年生	キャリア・健康教育	現代社会における心の健康・リハビリ職理解・お金の基礎	・リハビリ職の説明 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防と回復 ・現代社会と健康（ディスカッション） ・金銭教育 ・金銭教育①使う編　②稼ぐ編	10月～12月	各1コマ想定
6	2年生	スポーツトレーニング	スポーツトレーニングにおける身体理解と実践的応用	・トレーニングについて ・トレーニングに必要なメディカルチェック ・トレーニングの実際 ・トレーニングの実技紹介 ・プレゼンバトル　デジリハ × トレメニュー ・サプリメントとトレーニング ・研究の方法について ・研究発表	4月～10月	各２コマ想定
7	2年生	スポーツ健康科学	スポーツと健康を支える身体・栄養・メンタルの科学	・スポーツトレーニング ・筋力トレーニング ・トレーニングの実際 ・熱中症　＊ ・障害(パラ)スポーツについて ＊ ・メンタルトレーニング① ・メンタルトレーニング② ・スポーツ栄養学講習　＊	4月～11月	各1コマ想定 ＊は各2コマ想定
8	2年生	社会福祉基礎	対人援助職に必要なコミュニケーションと福祉理解	・コミュニケーションについて ・コミュニケーション技術①② ・対人援助職の仕事内容と役割・魅力（COMの意義と役割） ・障害者支援の意義と方法（基礎知識OT） ・VR体験とコミュニケーション ・デジリハの理解及び体験 ・特別支援学校の児童に合わせたデジリハ体験のGW ・インクルーシブ保育と保護者支援の必要性 ・医療・福祉分野におけるアントレプレナーシップ　＊ ・琉リハキャリアスクール	4月～2月	各2コマ想定 ＊は4～コマ想定
9	2年生	こころと体の理解	命を守るための救急救命と心身の理解	・救急救命について、JTについて	9月	２コマ想定
10	2年生	社会福祉基礎	理学療法士・作業療法士の役割とリハビリテーションの理解	・理学療法士・作業療法士の仕事と役割について ・リハビリテーションとは ・理学療法士、作業療法士の仕事体験	6月～12月	各1コマ想定
11	2年生	生活支援技術	けがの予防と応急手当を含むリハビリテーション実践	・理学療法士の仕事内容、なぜ専門学校への進学が必要なのか、デジタルリハビリテーションの体験 ・① ケガをしやすい場面と部位　② それぞれの応急手当とテーピング方法【知識】　③ 応急手当とテーピング【実践】 ・スポーツの化学（OTの仕事内容、コグトレ体験、メンタルトレーニング）　＊	10 月	各6コマ想定 ＊は3コマ想定
12	3年生	こころとからだの理解	こころとからだの特性を理解し、支援につなげる視点	・認知症の理解、認知症高齢者の行動と支援者の役割について＊ ・デジリハ体験 ・ビジョントレーニング ・身体障がいについて ・精神・知的障がいについて① ・精神・知的障がいについて②	6月～10月	各２コマ想定 ＊は6コマ想定
13	3年生	スポーツＶ	自然環境を活かした海洋リハビリテーション	・海洋リハビリテーション	7月	２コマ想定
14	3年生	スポーツ健康科学	生活機能障害の理解と健康支援の視点	・生活機能障害の理解	7月	２コマ想定
15	3年生	介護実習	デジタル技術を活用した介護実践の体験	・デジリハ合同授業	7～10月	11コマ想定
16	3年生	「介護入門」 「介護総合演習」	介護の基礎理解と実践的学び	・カイゴ教室について① ・カイゴ教室について② ・介護教室	10月	各２コマ想定
17	3年生	こころと体の理解	救急救命を通して学ぶ心と体の理解	・救急救命について、JTについて	9月	4コマ想定

普通科校　連携授業カリキュラム案　（実証講座実績をもとに作成）

実施対象科目		**実施形式**	チームティーチング形式
実施対象学年	１年生／２年生／３年生	**実施場所**	各高校、琉球リハビリテーション学院、関連施設
到達目標	本カリキュラムは、高校段階における体育・スポーツ系科目の到達目標に沿い、その達成に向けた支援を行うことを想定している。実証講座の内容をもとに、学年の進行に応じて以下のような学びをイメージする。 **１年生段階**：スポーツに取り組む意義やモチベーションについて理解し、生涯にわたって運動に親しむ姿勢を育成する。 **２年生段階**：専門職の視点からスポーツを捉え、身体の使い方や健康との関わりについて理解を深める。 **３年生段階**：動作分析などの体験を通して、スポーツパフォーマンスを客観的に捉え、学びを自己の実践に活かす力を養う。 なお、生涯スポーツに関する内容は、学年を超えて繰り返し扱うことで、理解の深化を図ることを想定する。		

主な連携授業の実施例

※学年や学校の実情に応じて調整可

No.	対象学年	科目	テーマ	授業の概要	主な実施時期	実施コマ数
1	全学年	スポーツⅠ・Ⅱ	スポーツに取り組むためのモチベーション理解	・モチベーション	5月	2コマ想定
2	1年生	生涯スポーツ探究	専門職の視点から考える生涯スポーツの理解	・専門職の考える生涯スポーツ	1月	２コマ想定
3	2年生	生涯スポーツ探究	専門職の視点から考える生涯スポーツの理解	・専門職の考える生涯スポーツ	1月	２コマ想定
4	3年生	生涯スポーツ探究	専門職の視点から考える生涯スポーツの理解	・専門職の考える生涯スポーツ	10月	２コマ想定
5	3年生	スポーツⅠ・Ⅱ	動作分析を通して考えるスポーツパフォーマンスの理解	・VICONにて動作観察	12月	２コマ想定

キャリア実習　実施校　連携授業カリキュラム案　（実証講座実績をもとに作成）

実施対象科目		実施形式	チームティーチング形式
実施対象学年	１年生／２年生／３年生	実施場所	各高校、琉球リハビリテーション学院、関連施設
到達目標	本カリキュラムは、高校段階におけるキャリア教育や専門分野理解の到達目標に沿い、その達成に向けた支援を行うことを想定している。 実証講座の内容をもとに、以下のような学びをイメージする。 **基礎理解段階（主に前期）：**からだのしくみや運動・健康との関わりについて理解し、安全に活動するための基礎的な知識と意識を身につける。 **専門職理解段階（主に後期）**：医療・介護・スポーツ分野における専門職の役割や仕事について、体験を通して理解を深め、将来の進路や職業選択への関心を高める。 なお、対象学年については学校の実情に応じて柔軟に設定し、キャリア教育の一環として位置づけることを想定する。		

主な連携授業の実施例

※学年や学校の実

No.	対象学年	科目	テーマ	授業の概要	主な実施時期	実施コマ数
1	全学年	キャリア実習【前期】	からだのしくみを知り、運動と健康を支える基礎理解	・オリエンテーション「リハビリテーションってなに？」 ・骨について知ってみよう ・関節や筋肉について知ってみよう！ ・カラダを流れる血液「血圧、脈拍を測ってみよう！」 ・ストレッチ体験「カラダが柔らかくなったか感じてみよう！」 ・効果的な筋力トレーニングを知って、夏を乗り切ろう！ ・部活動で役立つインソール（足底板）とは？ ・部活動で役立つテーピングとは？ ・スポーツにおける応急処置RICEを学びましょう！ ・運動中に急に心肺停止したら…正しいAEDの知識を学びましょう！	5月～9月	各1コマ想定
2	全学年	キャリア実習【後期】	医療・介護・スポーツ分野における専門職理解と実践体験	・職業理解①～未来の医療・介護職像とは～（グループディスカッション） ・職業理解②～理学療法士、作業療法士～（実技有） ・職業理解③～柔道整復師、鍼灸師、トレーナー～（実技有） ・職業理解④～医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、介護士など～（実技有） ・筋トレ、ストレッチの最新知識と実践　（実技有） ・柔道整復師が実践する徒手療法（マッサージ）体験	10月、11月	各1コマ想定
3	2、3年生	キャリア教育	理学療法士・作業療法士の役割と仕事の理解	・理学療法士・作業療法士の職業紹介	11月	2コマ想定

年度・期	2025度　前期
学科・学年	作業療法学科　1年生
科目名	協働学習
担当	
単位数	

●学習目標

2年生は1年生を教え･育てる力を身につけ、1年生は聞く力を身に付け基礎知識を教わる。また、医療人として必要な他職種連携の基礎・そして患者様との関わり方の基礎となるコミュニケーション能力を獲得する。

●学習方略（講義計画）

（第1回）	オリエンテーション①
（第2回）	オリエンテーション②
（第3回）	協同制作①
（第4回）	協同制作②
（第5回）	新入生歓迎大会①
（第6回）	新入生歓迎大会②
（第7回）	カルタ①（骨）
（第8回）	カルタ②（筋）
（第9回）	骨学① 口頭試問対策
（第10回）	骨学②口頭試問対策
（第11回）	評価学練習①～関節可動域測定・バイタル測定・形態測定～
（第12回）	評価学練習②～関節可動域測定・バイタル測定・形態測定～
（第13回）	評価学練習③～徒手筋力検査・上肢機能検査・腱反射～
（第14回）	評価学練習②～徒手筋力検査・上肢機能検査・腱反射～
（第15回）	まとめ

年度・期	2026年度　後期
学科・学年	作業療法学科　２年生
科目名	キャリア教育
担当	
単位数	

●学習目標

就職後の作業療法士としてのキャリアを考えるとともに、就職活動の準備を進める。
そのうえで、ケーススタディで実践力も身につける。

●学習方略（講義計画）

（第1回）	作業療法士としてのキャリア
（第2回）	10年後のキャリア設計
（第3回）	就職活動準備
（第4回）	就活PDCA
（第5回）	ケーススタディ①（対象者全体像の把握から計画立案）
（第6回）	ケーススタディ②（治療計画立案）

介護福祉基礎
～リハビリテーション技法～

リハビリテーションの技法

アロマセラピーについて

今回の講座では、リハビリテーションの一つであるアロマセラピーについて解説します。

リハビリテーションの技法

リハビリテーションとは…
Re：再び　　Habiris：適する

リハビリテーションには…
① 医学的リハビリテーション
② 職業的リハビリテーション
③ 社会的リハビリテーション
④ 教育的リハビリテーション
⑤ リハビリテーション工学

リハビリテーションとは、「Re＝再び」「Habiris＝適する」という意味を持ちます。

リハビリテーションには、主に、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、リハビリテーション工学の5つの分野があります。

これらの支援を通じて、より良い生活の実現を目指します。

アロマセラピーについて

人間には、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の5つの感覚があります。
アロマには、人間の五感の中の「嗅覚」を通して、香りの信号が直接脳へと伝わり、それによって自律神経の働きが整えられるという効果がある。
香りを嗅ぐことで、楽しい記憶が呼び起こされたり、落ち着く空間を作ることができる。

アロマの効果を利用したリハビリのこと
アロマセラピーという

アロマセラピーという言葉を聞いたことがありますか。

アロマセラピーとは、アロマの効果を利用したリハビリのことです。

人間には、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の5つの感覚があります。

アロマは五感の中の「嗅覚」を通じて香りの信号を脳へ直接伝え、自律神経の働きを整える効果があります。香りを嗅ぐことで、楽しい記憶が呼び起こされたり、リラックスできる空間を作ることができ、心身の回復をサポートします。



アロマオイルの種類を見てみましょう。

アロマの香りは種類ごとに異なる特徴があります。

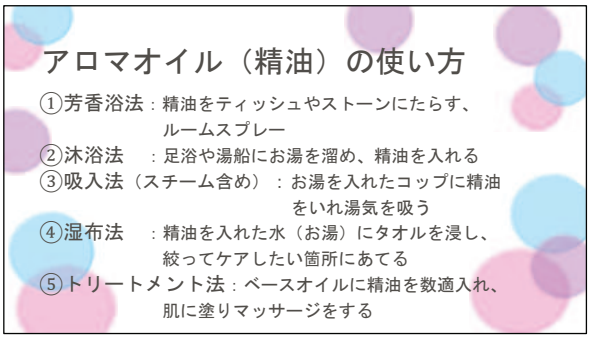
フローラル系はラベンダーやローズなど、優しく華やかな香りが特徴です。

柑橘系はオレンジスイートやレモンなど、爽やかでリフレッシュ効果があります。

ハーブ系はティーツリーやユーカリなど、すっきりとした香りでリラックスや抗菌作用が期待できます。

エキゾチック系のジャスミンは、甘く濃厚な香りで心を落ち着かせる効果があります。

目的に応じて使い分けることが大切です。



アロマオイルの使い方を紹介します。

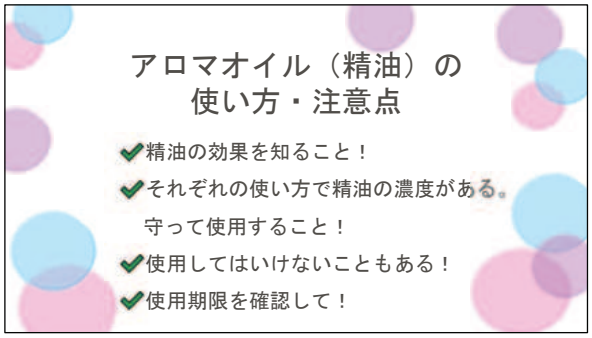
芳香浴法は、精油をティッシュやストーンにたらしたり、ルームスプレーで香りを楽しむ方法です。

沐浴法では、足浴や湯船に精油を入れ、リラックス効果を高めます。

吸入法は、お湯を入れたコップに精油を加え、湯気を吸うことで呼吸器を整えます。

湿布法は、精油を加えた水にタオルを浸し、患部に当てます。

トリートメント法では、ベースオイルに精油を加え、マッサージに使用します。

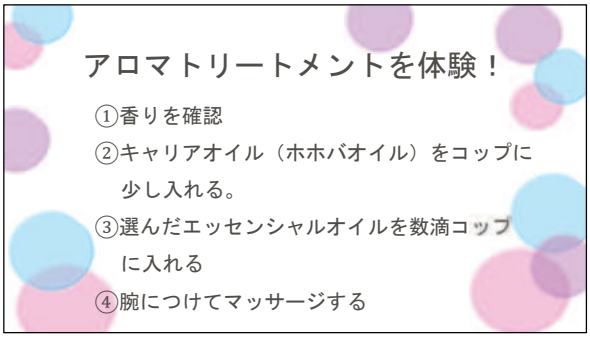


アロマオイルの使い方と注意点を確認しましょう。

アロマの効果を理解し、適切な濃度を守ることが大切です。

また、すべての人に適しているわけではなく、使用を避けるべき場合もあります。

必ず使用期限を確認し、安全に活用しましょう。



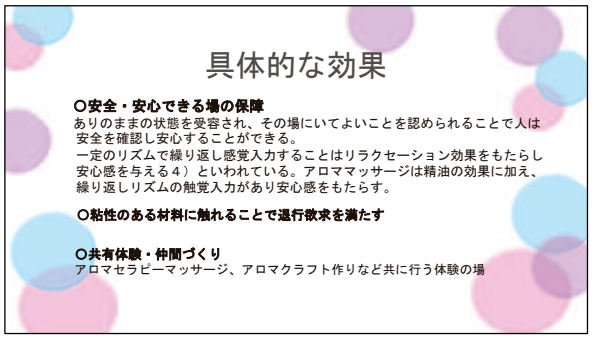
アロマトリートメントを体験してみましょう。

まず、香りを確認します。

次に、キャリアオイル（ホホバオイル）をコップに少し入れます。

選んだエッセンシャルオイルを数滴加え、よく混ぜます。

腕につけて優しくマッサージし、香りとリラックス効果を楽しみましょう。



アロマの具体的な効果についてまとめます。

まず、安全・安心できる場の保障です。

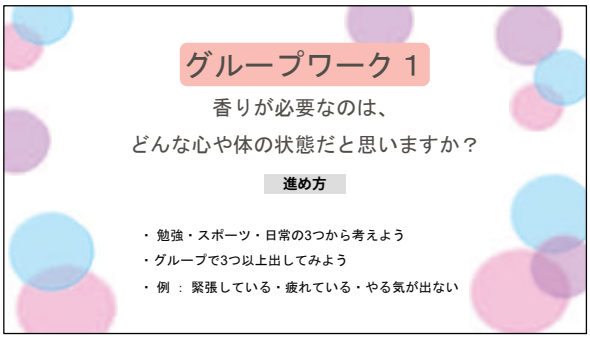
人はありのままを受け入れられ、その場にいてよいと認められることで安心感を得ます。

一定のリズムで繰り返し感覚入力を行うことは、リラクセーション効果をもたらし、心を落ち着かせます。

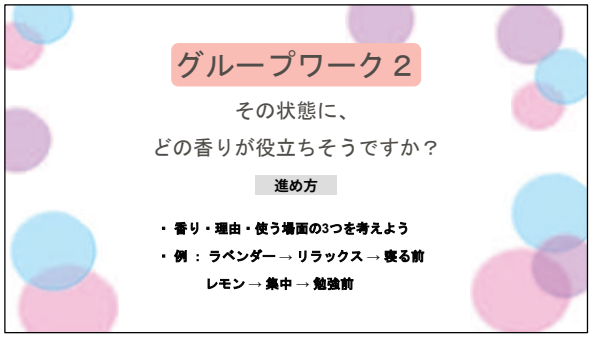
アロママッサージは、精油の効果に加え、リズミカルな触覚刺激が安心感をもたらします。

また、粘性のある材料に触れることで退行欲求を満たし、心を安定させる効果もあります。

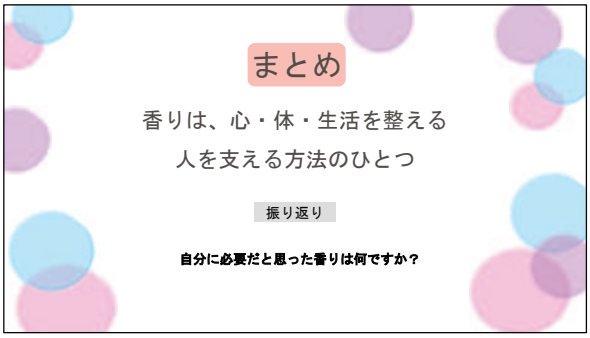
さらに、アロマセラピーマッサージやアロマクラフト作りなど、仲間と共に行う体験は、共有の喜びを生み、社会的なつながりを深めることにつながります。



ここからグループワークです。
香りが必要なのはどんな心や体の状態だと思いますか。勉強やスポーツ、日常の三つの場面から考えてみましょう。
緊張している・疲れている・やる気が出ないなど、さまざまな状態が考えられます。
一人一つは考えて、グループで三つ以上出してみましょう。
グループで３つでたら、それぞれの案について話し合ってみてください。
まずは5分程度で案を出し合ってください。



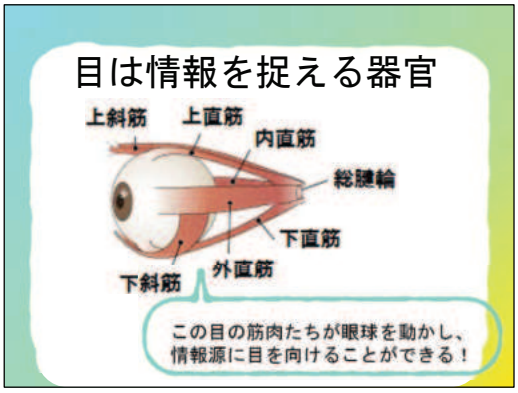
では、グループワーク２つ目です。
その状態に、どの香りが役立つと思いますか？
香り・理由・使う場面の三つの視点から考えてみましょう。
リラックスしたい時や集中したい時、気分を切り替えたい時など、目的によって選ぶ香りは変わります。
グループでどの香りがどの場面で役立つのか話し合ってみましょう！



それでは最後にまとめです。
香りは、心・体・生活を整え、人を支える方法のひとつです。香りは気分を落ち着かせたり、集中を助けたり、生活の質を高めたりする力を持っています。
今日の学びを思い出し、自分に必要だと思った香りは何か、一つ考えてみましょう。
時間があれば理由も考えてみてください。



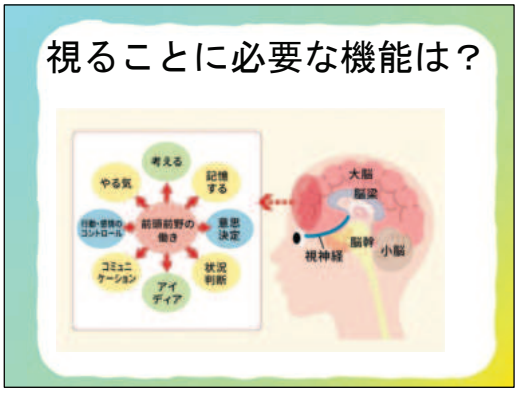
今回の講座では、ビジョントレーニングについて解説します。



目は情報を捉える大切な器官です。

眼球を自在に動かすには、上斜筋、上直筋、内直筋、下斜筋、外直筋、下直筋、総腱輪の7つの筋肉が協調しています。筋肉が協調することで、必要な情報に正確に視線を向けられます。

これにより、周囲の状況を把握し、迅速な判断が可能となり、日常生活を支えています。



見ることに必要な機能は何でしょうか。

視神経を通して情報が前頭前野に伝達され、そこで考える、記憶する、意思決定、状況判断、アイディアの創出、コミュニケーション、行動・感情のコントロール、やる気が生み出されます。

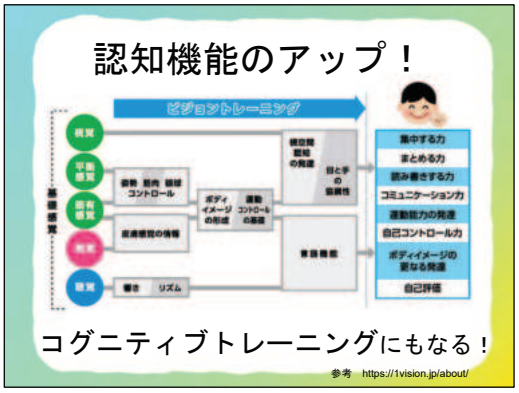
このプロセスは、日常の判断や行動の基盤となり、未来への可能性を広げる鍵です。



ビジョトレーニングは発達・成長に合わせた段階的プロセスです。

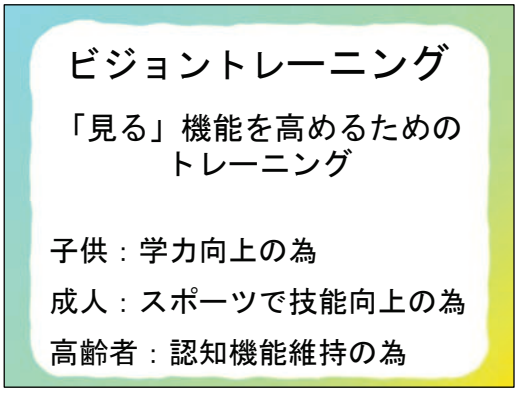
まず、基礎となる感覚機能が整うと、次に目や手の体の動作、そして手先や身体の動作へと発展します。

基礎となる感覚機能、目や手の体の動作、手先や進退の動作、診知覚・認知、言葉・理論、意味・理解、学習・思考の段階があります。



ビジョントレーニングには、認知機能を高める効果が期待できます。

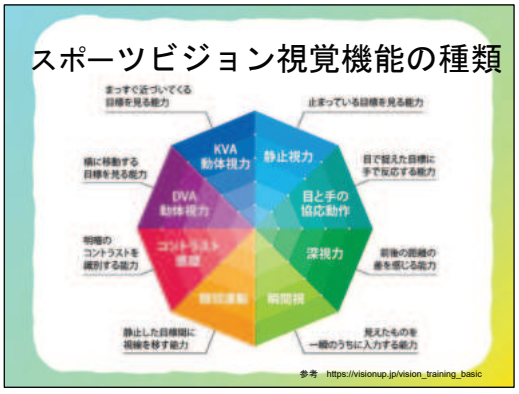
集中力、情報をまとめる力、読み書きの力、運動能力、自己コントロールなど、様々な能力が向上し、脳全体の活性化を促すコグニティブトレーニングとしても注目されています。



ビジョントレーニングは、「見る」機能を高めるトレーニングです。

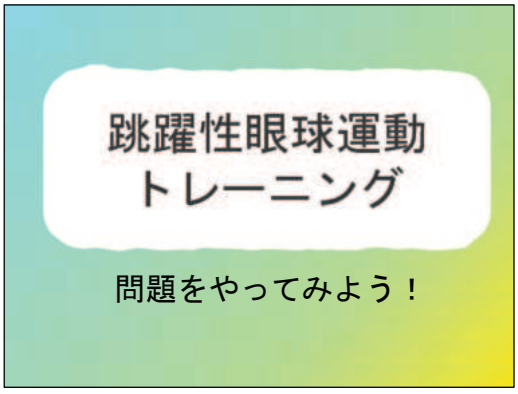
子供は視覚を通じた学力の向上、成人はスポーツでの技能の向上、高齢者は認知機能維持に効果的です。

各世代に合わせたトレーニングで生活の質も向上し、集中力や反応速度がアップします。



スポーツビジョン視覚機能の種類を見てみましょう。

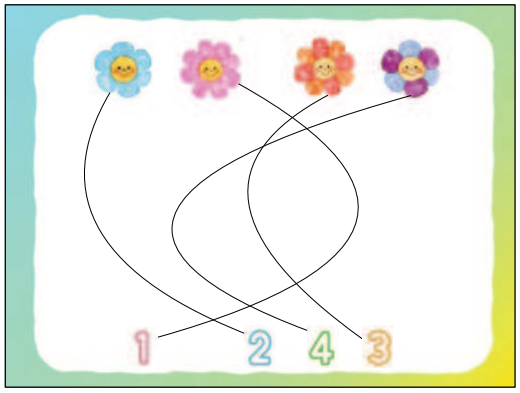
主に、静止視力、目と手の協応動作、深視力、瞬間視、眼球運動、コントラスト感度、DVA動体視力、KVA動体視力の８機能があり、競技中の視覚判断や反応速度に大きな影響を与えます。



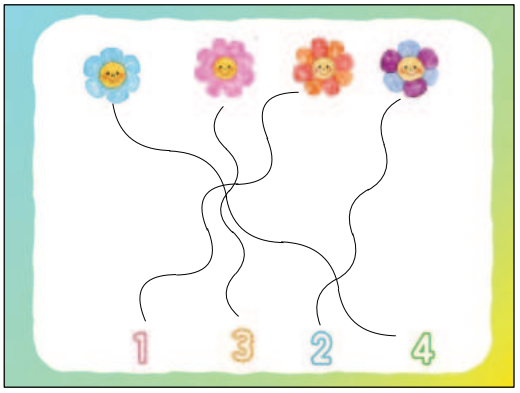
跳躍性眼球運動トレーニングをやってみましょう。

これは、ある一点から別の一点へ視線を瞬時にジャンプさせ、対象物を素早く捉える眼球運動です。初めはゆっくりと行いましょう。徐々に速さを上げることで視覚反応力が向上し、スポーツや日常生活に役立ちます。

毎日の積み重ねが成果を生み出します。



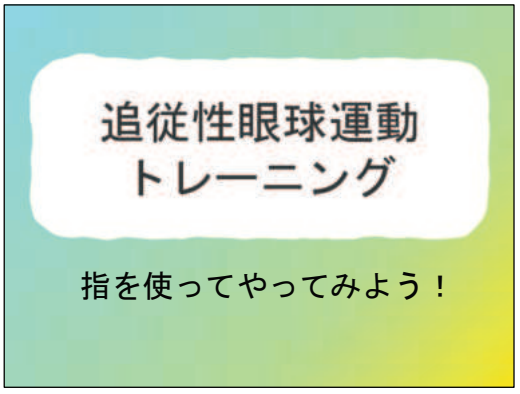
素早く眼を動かして対象物を捉えましょう。



少しずつ複雑になります。

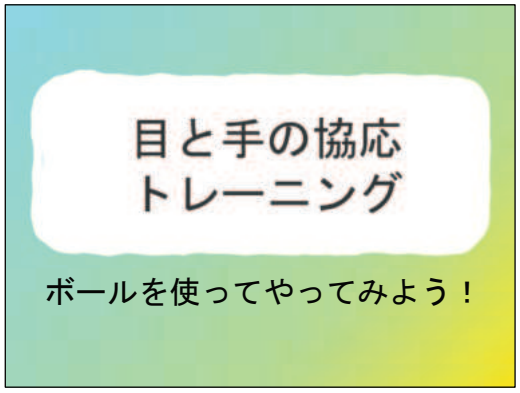


集中して、視線を瞬時にジャンプさせましょう。



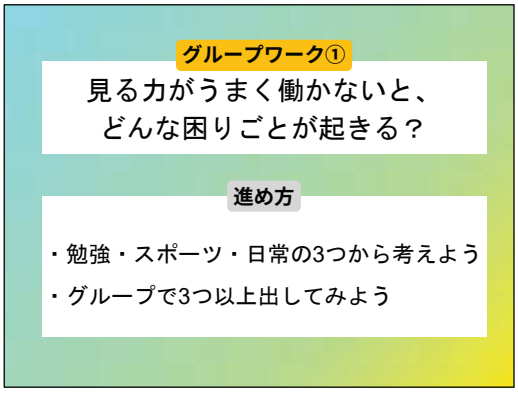
続いて、追随性眼球運動を実践してみましょう。

これは、見たい対象を正確に捉え、動く物体に合わせて目を同じ速さで追う運動です。まずは指を使い、ゆっくりと練習してみてください。

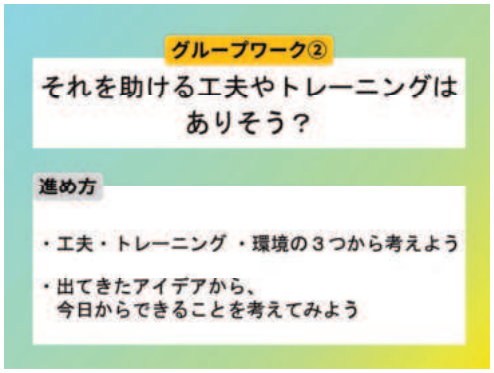


最後に、ボールを使って、目と手の協応をしてみましょう。

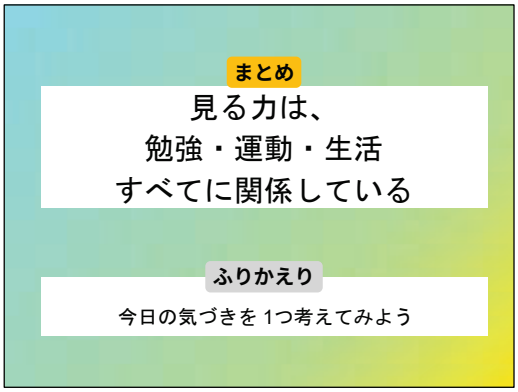
視覚と運動の連動が強化され、正確な動作と瞬発力が養われ、スポーツや日常生活に役立ちます。このトレーニングは、反射神経や集中力も高め、勉強や競技の成果につながります。ぜひ挑戦してみてください。



ここからグループワークです。もし「見る力」がうまく働かなかったら、どんな困りごとが起きるでしょうか。
勉強や運動、日常生活の三つの場面から具体的に考えてみましょう。
文字が読みづらい、距離感がつかみにくい、物にぶつかりやすいなど、さまざまな困りごとが考えられます。
一人一つ考え、グループで三つ以上出しあってみましょう。
それでは、はじめてください。

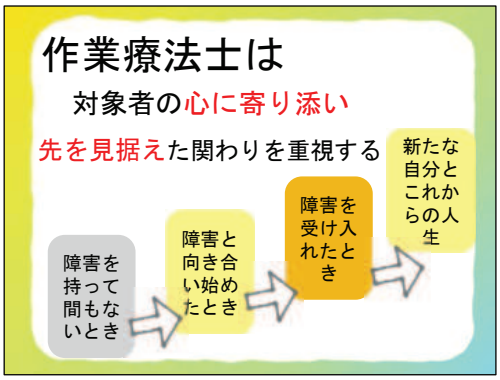


では次のグループワークです。
グループワーク①で挙げた困りごとを助ける方法を考えてみましょう。
助けるための工夫やトレーニング、環境の三つの視点から整理してみてください。
見やすくする、目を動かす練習をする、周りの環境を整えるなど、さまざまな方法が考えられます。
グループで話し合い、今日からできそうなことを考えてみましょう。



グループワークお疲れ様でした。
最後に、まとめです。
今日のグループワークを通して、見る力が勉強・運動・生活のすべてに関係していることが分かったと思います。
見る力は、周りの情報を正しくとらえ、行動を支える大切な力です。
振り返りとして、今日の気づきを一つ思い出し、自分の生活とどのようにつながるかを考えてみましょう。
時間があれば理由も考えてみてください。





今回の講座では、作業療法士の仕事について紹介します。

作業療法士は、対象者の心に寄り添いながら、その人の未来を見据えた支援を行います。

障害を持って間もないときは、不安や戸惑いが大きいですが、作業療法士は寄り添いながらサポートします。やがて対象者は障害と向き合い始め、少しずつ受け入れていきます。そして、新たな自分として人生を歩んでいくために、作業療法士が心と体のリハビリを通じて力強く支えていきます。



作業療法士は、対象者の心に寄り添いながら、日常生活や仕事に関わる様々な作業を支援します。ケガや病気、障害によってできなくなった動作を改善し、自立した生活が送れるようサポートするのが役割です。

リハビリだけでなく、対象者の気持ちに寄り添いながら、その人に合った作業を提案し、充実した生活を送れるよう支援します。



作業療法士は、私たちの身近な場所で活躍しています。

病院やクリニックではリハビリをサポートし、学校や保育園では発達支援を行います。さらに、出版社では専門知識を活かした書籍の制作にも関わることがあります。さまざまな場面で人々の生活を支える、重要な役割を担っています。

作業療法士としての仕事

①回復期病院での仕事

20代前半～半ば

対象：50歳代～90歳代

- 手が動かない人のリハビリ
- 記憶力や注意力が低下してしまった人のリハビリ
- 半身麻痺の人のリハビリ
- 生活（家事育児）や仕事をするためのリハビリ

作業療法士としての仕事を見ていきましょう。

回復期病院で働く作業療法士は、さまざまなリハビリを通じて対象者の生活を支えます。

手が動かない人には道具を使った訓練を、記憶力や注意力が低下した人には脳トレや日常生活訓練を行います。半身麻痺の人には動作の回復をサポートし、家事や育児、仕事ができるよう実践的なリハビリを提供します。

1日の仕事の流れ

7:45～　出勤・着替え・環境整備など
8:30～　朝礼
8:45～　リハビリ時間調整・前日の内容確認
9:00～　リハビリ開始（AM3～4名）
※リハビリ終了時にはリハ内容の記録をする
12:00～　お昼休憩
13:00～　リハビリ開始（PM4～5名）
17:00～　明日のリハビリ担当者確認、書類作成
18:00～　退勤

作業療法士の一日は、出勤後の環境整備やスケジュール調整から始まります。

午前は前日の内容を確認しながら3～4名のリハビリを行い、終了後は記録を残します。

午後も4～5名のリハビリを実施し、その後は翌日の担当者確認や書類作成を行います。対象者一人ひとりに向き合いながら、最適なサポートを提供するのが作業療法士の仕事です。

作業療法士としての仕事

②通所リハビリ（維持期）での仕事

20代半ば～後半

対象：50歳代～90歳代

- 病院でやっていたリハビリ内容を継続する
- 家の構造と生活様式の確認・必要に応じて改修提案
- 装具の状態確認・必要に応じて調整の提案
- 趣味活動の開発と再開の手助け

通所リハビリ（維持期）で働く作業療法士は、病院で行っていたリハビリを継続し、生活の質を維持・向上させる支援を行います。

自宅の構造や生活様式を確認し、必要に応じた改修を提案することもあります。また、装具の状態を確認し、調整が必要なら提案します。さらに、趣味活動の開発や再開をサポートし、対象者が楽しみながら生活できるよう支援します。

作業療法士としての仕事

③学校での仕事（教育現場）

20代後半～今

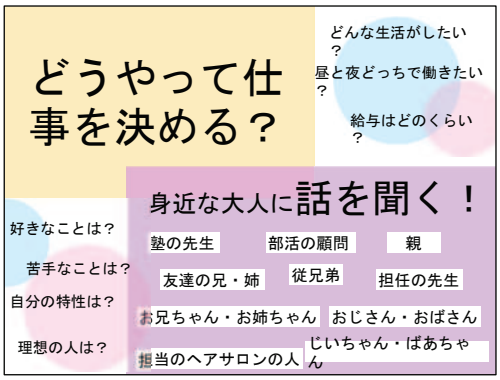
対象：高校卒業した～30歳代

- 作業療法士になりたい人に教える（講義をする）
- 小中高校生に作業療法士を知ってもらうための活動
- 地域貢献活動（小中学校巡回訪問事業）

教育現場で働く作業療法士の仕事は多岐にわたります。

作業療法士を目指す学生に講義を行い、専門知識を伝えます。また、小中高校生に作業療法士の役割を知ってもらうための活動も実施します。

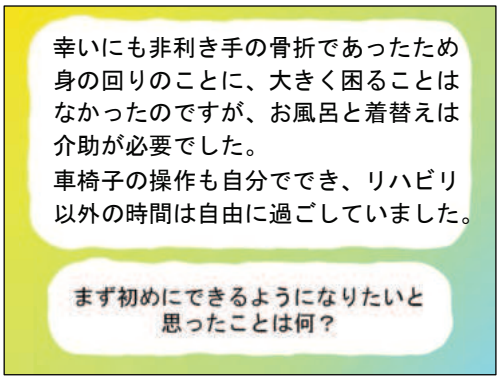
さらに、地域貢献として小中学校を巡回し、子どもたちの発達支援や学習環境の調整を行うなど、幅広く活躍しています。



将来の仕事を決めるときは、自分がどんな生活をしたいかを考えてみましょう。

昼と夜どちらの時間に働きたいか、給与はどのくらい必要かなど、具体的に考えることが大切です。

また、実際に働いている身近な大人に話を聞くと、仕事のリアルな面が見えてきます。自分に合った働き方を見つけるために、いろいろな情報を集めてみましょう。

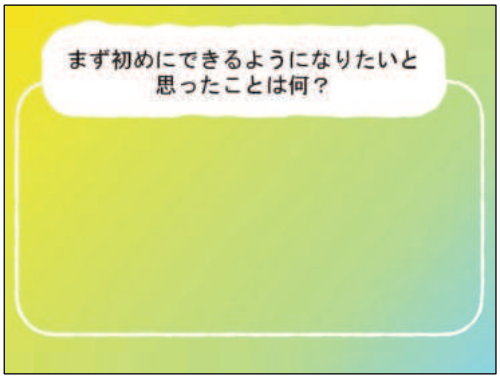


例えば、次のような状況にある場合、どうでしょう。

「非利き手の骨折」により、身の回りのことはある程度できても、お風呂や着替えには介助が必要な状況です。また、車椅子の操作は可能で、自由な時間もあります。この場合、まず何ができるようになりたいかを考えてみましょう。

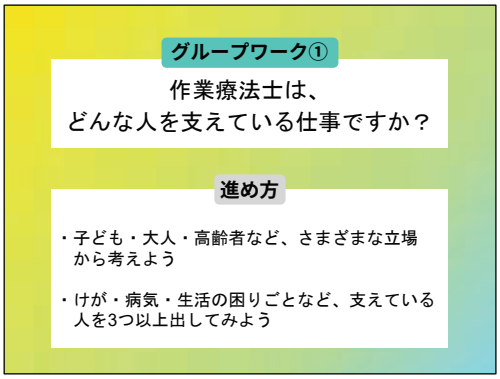
例えば、片手でできる着替えの工夫や、自分でお風呂に入るための方法を学ぶことが挙げられます。

まず初めにできるようになりたいと思ったことはなんですか。



まず、できるようになりたいと思ったことは何でしょうか。

できるようになりたいことをするには、どのような支援がほしいでしょうか。
また、あなたが作業療法士ならどうサポートできるか想像してみましょう。



ここからグループワークです。
作業療法士は、どんな人を支えている仕事だと思いますか？
子どもや大人、高齢者など、さまざまな立場から考えてみましょう。
けがや病気だけでなく、生活に困っている人にも目を向けてみてください。
一人一つは考えて、グループで三つ以上出してみましょう。

グループワーク②

その人の生活のどんな場面を、
助けていますか？

進め方

・生活の場面・困りごと・支え方の3つを考えよう

・食事・着替え・勉強・仕事・趣味など具体的に話し合おう

では次のグループワークです。
グループワーク①で挙げた人の生活のどんな場面を助けていると思いますか？
生活の場面・困りごと・支え方の三つを考えてみましょう。
食事や着替え、勉強、仕事、趣味など具体的な場面から話し合ってみてください。
まずはグループで対象を1人選び、話し合ってみてください。
そのうえで、共有できるようにまとめましょう。

まとめ

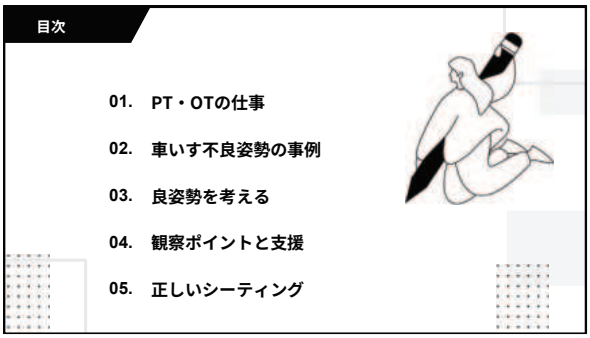
作業療法士は、
心と体のリハビリを通して、
その人らしい生活を支える仕事

ふりかえり

作業療法士が支えている人と、
生活の場面を1つ思い出してみよう

それでは、まとめです。
作業療法士は、心と体のリハビリを通して、その人らしい生活を支える仕事です。
食事・着替え・学習・仕事・趣味など、一人ひとりの大切な生活の場面を支えています。
最後に、ふりかえりです。今日の学びを思い出し、作業療法士が支えている人と生活の場面を一つ思い出してみましょう。
時間があれば、その支えの意味も考えてみてください。





今回の講座の目次をご覧ください。

①PT・OTの仕事、②車いす不良姿勢の事例、③良姿勢を考える、④観察ポイントと支援、⑤正しいシーティングです。

第１回は、PT・OTの仕事について解説します。

前半のルール

対象者の課題を知り，解決する．

クラスの半数者は車いすに座って授業を受けてください．

ルールはひとつだけ．

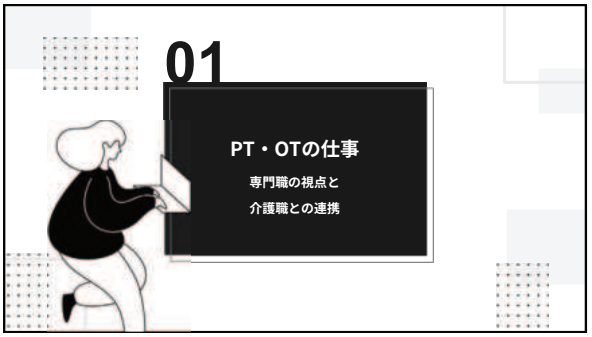
手足と身体を動かさないこと．



講座前半のルールを説明します。

授業の目的は、対象者の課題を正確に把握し解決策を見つけることです。前半では、クラスの半数は車いすに座って授業を受けてください。

皆さんの協力で円滑な授業進行を実現しましょう。



理学療法士（PT）、作業療法士（OT）は、リハビリの専門家として患者の運動機能や生活動作の回復を支援します。

専門職と連携するとは、医師、看護師、PT、OTなど、異なる分野の専門家が情報や技術を共有し、患者の健康と生活の質向上を目指して協力することです。

各専門の強みが補完され、最適な支援が実現します。

理学療法士

運動機能，動作の改善や質を向上

病気やケガで失った機能を回復する運動療法や温熱によって痛みを和らげる専門職．歩行動作や生活動作の向上に向けて訓練する．



理学療法士は、病気やケガで低下した運動機能を回復し、動作の質を向上させる専門職です。

運動療法を用いて筋力や柔軟性を高め、温熱療法で痛みを和らげます。

また、歩行や生活動作の訓練を通じて、患者が自立した生活を送れるようサポートします。

作業療法士

生活動作や役割の獲得に向けて方法や道具を工夫する

障がいやケガによって支障のある動作や活動ができるように支援する専門職．

家事，趣味，仕事ができるように，心と体を支える．



作業療法士は、障がいやケガで困難になった生活動作を支援する専門職です。

家事、趣味、仕事ができるように、方法や道具を工夫し、心と体の両面からサポートします。

患者が自分らしい生活や役割を取り戻せるように支援します。

連携

介護士との連携

常に利用者のことを考えて，

ひとつの目標に向かって多職種で協業する

OUR MISSION

理学療法士や作業療法士は、介護士と連携しながら利用者を支援することが重要です。

多職種が協力し、一つの目標に向かって働くことで、より良いケアを提供できます。

常に利用者の生活を考え、心と体のサポートを行います。

連携

- 「私は何もできない。やらない」

OUR MISSION

「私は何もできない、やらない」という方がいた場合、どのようにしたら良いでしょうか。

考えてみましょう。

連携



OUR MISSION

まずは気持ちを理解し、寄り添うことが大切です。

無理に促すのではなく、小さな成功体験を積み重ね、自信を持てるよう支援します。

一人ひとりに合った方法で、できることを増やしていくことを考えていきます。

連携

生活行為向上プラン

		実施・支援内容	基本的プログラム	応用的プログラム	社会適応的プログラム
生活行為向上プラン		達成のためのプログラム	①物品操作練習 ②歩行器歩行練習 ③生活における手の使用状況を確認する	①更衣動作練習 ②調理動作練習	①自宅で更衣 ②自宅で調理
	いつ・どこで・誰が実施	本人	①～③を週に6回、各20分ずつOT、介護士と実施	週休で①～③を週に6回実施	自宅で家族の介助によって調理する生活が習慣化する
		家族や支援者			
	実施・支援期間		年 月 日 ～ 年 月 日		
	達成		□達成 □概ね達成 □未達成（理由： ）		□中止

OUR MISSION

多職種が連携し、生活行為向上プランを立てます。

プログラムは基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応的プログラムの3つに分かれ、目標達成のための流れを明確にします。

いつ・どこで・誰が実施するかを具体的に計画し、利用者の生活の質を高める支援を行います。

連携

3ヶ月後

FIM
79点→102点/126点

MAL
0.5点→1.45点/5点　＊(QOM)

OUR MISSION

3ヶ月間、プログラムに取り組んだ結果はどうなったでしょうか。

機能回復を評価する検査結果を見てみましょう。

FIMは79点から102点に、MALは0.5点から、1.45点にアップしました。

連携

ADOC

トイレができる　1点→2点/5点
手を上手く使う　1点→2点/5点
園芸ができる　1点→2点/5点

OUR MISSION

ADOCはどう変化したでしょうか。

ADOCとは、作業療法で目標とする作業を決めるときに、患者さんと作業療法士とのコミュニケーションを支援するアプリでしたね。

トイレができる、手をうまく使う、園芸ができるが、それぞれ1点から2点へ向上しています。

連携



OUR MISSION

多職種が連携することで、一人では難しかった目標も達成しやすくなります。

支援を受けながらできることが増え、自信を取り戻すことで、人生が大きく変わることもあります。

協力し合うことで、より良い未来を築くことができるのです。

連携

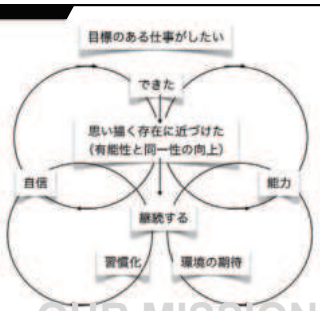


OUR MISSION

「私はもっとできるようになる」と思う気持ちはとても大切です。

その前向きな意識が、新しい挑戦や成長につながります。
支援をすることで少しずつできることを増やし、自信を深めていくことができます。

連携



支援する側として目標のある仕事をするには、対象者の方の成長を実感しながら関わることが大切です。

「できた！」という成功体験が自信につながり、能力を高めます。

継続することで習慣化し、環境への期待も生まれ、より良い支援が可能になります。

車いすの座り方で、何が変わる？

グループワーク❶

姿勢が崩れたままだと、何が起きそうですか？

進め方

- 体・気持ち・生活の3つの視点から考えよう
- 例：痛みが出る・疲れやすい・動きにくい・集中できない など
- グループで3つ以上出してみよう

ここからグループワークです。
姿勢が崩れたままだと、どんな変化が起きるでしょうか。
体・気持ち・生活の三つの視点から考えてみましょう。
痛みが出る・疲れやすい・動きにくい・集中できないなど、さまざまな影響が考えられます。
姿勢が不安定になると活動のしやすさや生活の質にも関係してきます。
一人一つ考え、グループで三つ以上出してみましょう。

車いすの座り方で、何が変わる？

グループワーク❷

少しでも楽になる工夫や支援は、何が考えられますか？

進め方

- 生活の場面・困りごと・工夫や支え方の3つを考えよう
- 例：クッションを使う・姿勢を支える・座り直す・環境を整える など
- グループで話し合おう

では２つめのグループワークです。
少しでも楽になる工夫や支援にはどのようなものが考えられますか？
生活の場面・困りごと・支え方の三つを考えましょう。
クッションを使う、姿勢を支える、座り直す、環境を整えるなど具体的に話し合ってみてください。
出てきた考えを、グループでまとめてみましょう。

まとめ

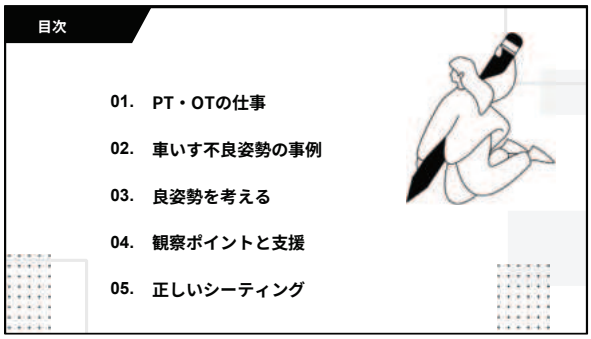
座り方を整えることも、その人を支える大切な支援

ふりかえり

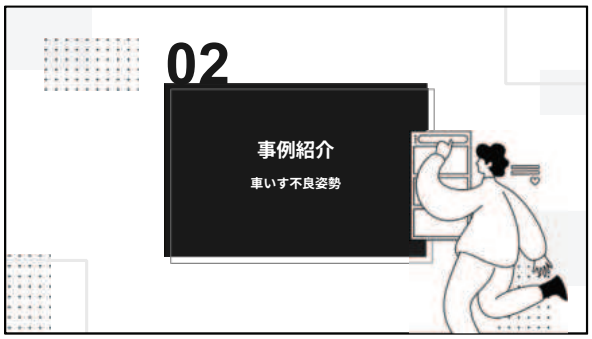
姿勢と生活の関係で、気づいたことを1つ考えてみよう

まとめです。
座り方を整えることは、その人の体を守り、生活を支える大切な支援の一つです。
姿勢が安定すると、疲れにくくなり、活動しやすくなり、生活の質も高まります。
最後にふりかえりです。
今日の学びを思い出し、姿勢と生活の関係について気づいたことを一つ考えてみましょう。
時間があれば、その理由も考えてみてください。

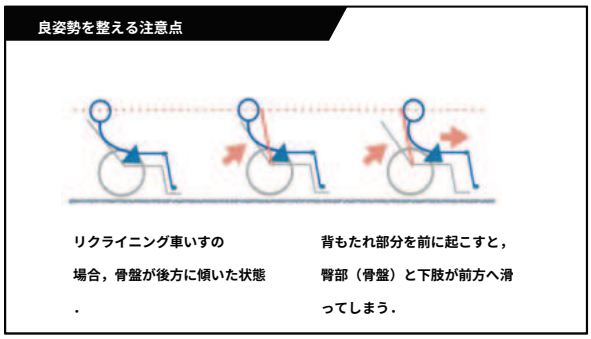




今回の講座の目次をご覧ください。
第２回は「車いすの不良姿勢の事例」と「良姿勢を考える」について解説します。



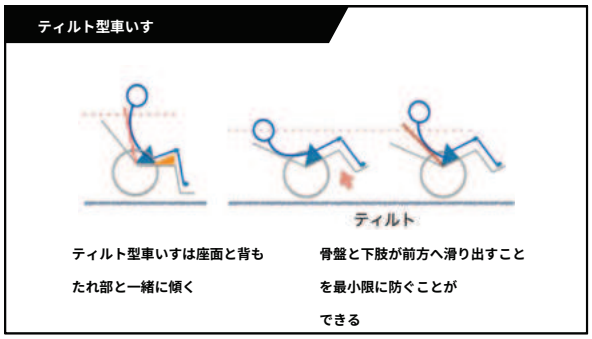
まずは、車いす不良姿勢の事例紹介です。



良姿勢を整える際の注意点は2つあります。

リクライニング車いすでは、骨盤が後方に傾きやすいため、適切なサポートが必要です。

背もたれを前に起こすと、臀部や下肢が前方へ滑りやすくなるため、クッションやフットサポートを活用し安定させましょう。



ティルト型車いすは、座面と背もたれが一緒に傾くため、骨盤や下肢の前方への滑りを最小限に防ぐことができます。

姿勢の安定を保ちやすく、長時間の座位でも負担を軽減できます。

適切な角度調整で、快適な姿勢をサポートします。



こちらはTさんの座り姿勢です。

まく体幹が保てていないのが分かりますね。



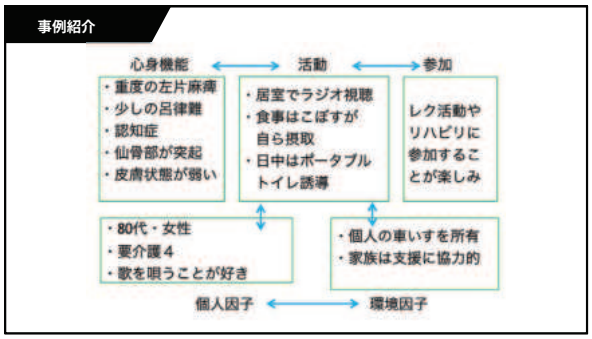
続いては、良姿勢について考えてみましょう。



前半のルールを説明します。

対象者の課題を知り、解決するために、車いすに座った学生は、立たずに自由に動いてみましょう。

その動きに注目し、どのような動きをするのか、またなぜそのような動きをするのかを考えましょう。

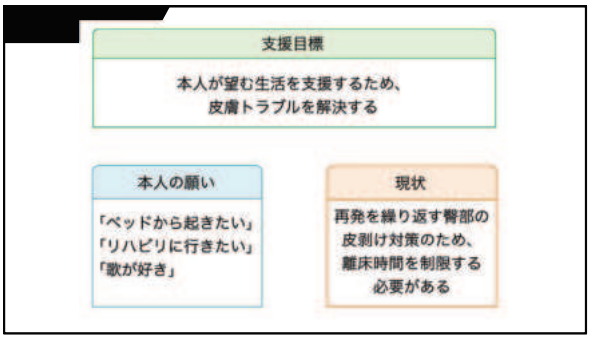


事例を見てみましょう。

対象者は、80代の女性で要介護４、歌うことが好きです。
車いすがあり、家族は支援に協力的です。

居室でラジオを聞き、食事はこぼすこともありますが、自分で摂取することができます。

心身機能を見ると、麻痺や呂律難、認知症などがありますが、レクレーションやリハビリに参加することを楽しみにしています。

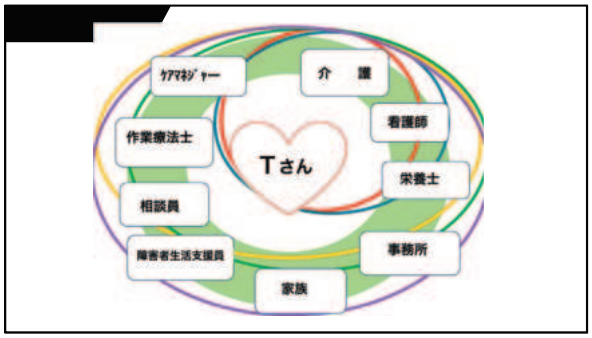


本人の願いと現状をふまえ、支援の目標を決めます。

大切なのは、本人が望む生活を理解することです。

このケースでは、再発を繰り返す臀部の皮剥けがあったため、皮膚トラブルの解決も目標としました。

適切なケアによって、快適に生活できるよう支援します。



Tさんの支援には、介護、看護師、栄養士、家族、障害生活支援員、相談員、作業療法士、ケアマネジャーなど、多くの職種が関わりました。

チームで協力し、それぞれの専門性を活かすことで、より良い生活支援を実現しました。



体幹の安定性を確保できない車いすを使用すると、麻痺側へ体幹を押し付ける症状が出ます。

体幹が傾くと体重が偏り、痛みが生じます。

その痛みを避けようとすることで、さらに体幹が傾く悪循環が生まれるため、適切な姿勢の保持が重要です。



体幹を安定させるために、Tさんは個人の車いすから、施設の車いすに変えました。

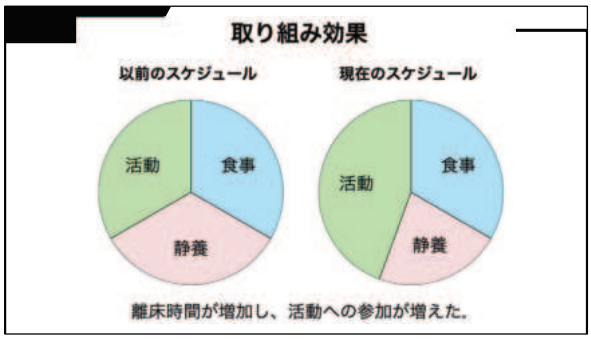


ご覧のとおり、個人の車いすと施設の車いすでは、サイズも違います。



車いすを変更しただけでなく、身体への負担を軽減するためにクッションも取り入れました。

適切なクッションを使用することで、姿勢の安定や圧力の分散が促され、痛みや不快感を軽減し、快適に過ごせるようになります。



取組の効果を見てみましょう。

Tさんは離床時間が増加し、活動への参加が増えました。適切な支援により、生活の幅が広がり、意欲も向上しました。

今後も継続的なサポートを行い、さらに充実した生活を目指します。

個人用車いすと施設車いすでは、体の動き方が変わります

グループワーク❶

車いすの違いで、体の動きにどのような違いがあるか？

進め方

・個人用車いすと施設車いすで、体の動きの違いに注目しよう

・例：体が傾く・前にすべる・姿勢が保てない・動きが少なくなる など

・グループで３つ以上出してみよう

・時間：5分

ここからグループワークです。
個人用車いすと施設車いすでは、体の動き方が変わります。車いすの違いで、どんな動きが見られそうかを考えてみましょう。
体の傾きや前へのすべり姿勢のくずれなど、体の変化に注目してみてください。
一人一つ考え、グループで三つ以上出してみましょう。

個人用車いすと施設車いすでは、体の動き方が変わります

グループワーク❷

車いすの違いによる体の動きは、なぜ起きていると思いますか？

進め方

・動き・原因・体への影響の3つを考えよう

・例：体幹が不安定・サイズが合っていない・支えが不足している

・グループで話し合ってみよう

ではグループワーク２つ目です。
車いすの違いによる体の動きは、なぜ起きていると思いますか。
動き・原因・体への影響の三つを考えてみましょう。
体幹が不安定やサイズが合っていない、支えが不足しているなどの視点から話し合ってみてください。
グループで出た意見をもとに、まとめてみましょう。

まとめ

人の動きには、必ず理由がある

ふりかえり

動きと理由の関係で、気づいたことを1つ考えてみよう

それでは、最後にまとめです。
人の動きには必ず理由があります。姿勢や支え方体の状態が変わることで、動きも変化します。
理由を知ることで困りごとに気づき、よりよい支援につなげることができます。
ふりかえりです。
今日の学びを思い出し、動きと理由の関係について、気づいたことを一つ考えてみましょう。時間があれば、その理由も考えてみてください。



目次

01. PT・OTの仕事
02. 車いす不良姿勢の事例
03. 良姿勢を考える
04. 観察ポイントと支援
05. 正しいシーティング



今回の講座の目次をご覧ください。
第３回は、４番目の「観察ポイントと支援」と５番目の「正しいシーティング」について解説します。

04

観察ポイント



車いすに正しく座ることができているか、観察のポイントを確認しましょう。

各部署紹介

骨盤の傾き
前後，左右の傾きを
調べて，原因を調べる

座クッション
固さがあり，前方が
高めになっている形状

背もたれのサポート
貼りの強さ調整と
高さ補助の道具を活用

フットレスト
高さ調整で坐骨への
圧力をきちんと分散

車いすの使用時に重要な確認ポイントをそれぞれの部署で確認しましょう。

まず、骨盤の傾きは前後や左右の傾きをチェックし、原因を調べます。

次に、座クッションは固さがあり、前方が高めになっている形状が理想です。

背もたれのサポートでは、貼りの強さを調整し、必要に応じて高さ補助の道具を使いましょう。

最後はフットレスです。フットレスの高さを調整し、坐骨への圧力を適切に分散させることが大切です。

これらのポイントを押さえ、快適な座位をサポートします。

05

正しい姿勢



身体に負担の少ない正しい姿勢を保つにはどのような点に注意すべきか、シチェーション毎に確認しましょう。

クッション

関節拘縮予防

拘縮した関節を元に戻すことは，
ほとんど不可能．
予防することが最重要．



クッションの活用は、関節拘縮の予防に重要です。

拘縮が進行すると元に戻すことはほぼ不可能なため、適切な姿勢を保つ￥ち、予防することが大切です。

クッションを使い、圧力を分散させながら関節の負担を軽減し、快適な座位を維持しましょう。

一番長く過ごす時間を正しい姿勢に改善する



ベッドは一日の中で最も長く過ごす場所です。

正しい姿勢に改善することで、体の負担を軽減し、関節拘縮や床ずれを防ぐことができます。

クッションやマットレスを適切に調整し、快適で安定した姿勢を保つことが大切です。

しっかり固定ができる素材で，支持する面を増やす



ベッドでの寝姿勢を整えるには、しっかり固定できる素材を使用し、体を支える面を増やすことが大切です。

適切なクッションやマットレスを活用することで、圧力を分散し、体の負担を軽減できます。

安定した姿勢が快適な睡眠につながります。

すき間があると，安定させようとして筋肉の緊張が高くなる．



寝姿勢で隙間があると、体を安定させようと筋肉が緊張し、疲れや不快感の原因になります。

クッションを適切に配置し、体をしっかり支えることで、リラックスしやすくなります。

快適な姿勢を保ち、質の良い睡眠を目指しましょう。

ベッド上も
車いすも
同じルール.
支持して
安定させること.



ベッド上でも車いすでも、体をしっかり支持し、安定させることが大切です。

適切なクッションやサポートを活用し、体の負担を軽減しましょう。

安定した姿勢を保つことで、快適さが向上し、長時間の使用でも疲れにくくなります。

グループワーク❶

姿勢を見るとき、どこに注目しますか？

進め方

・骨盤・背中・足の位置の3つの視点から考えよう

・例：骨盤の傾き・背もたれとの接触・足の高さや位置 など

・グループで3つ以上出してみよう

ここからグループワークです。
正しい姿勢をつくるためには、体のどこを見るとよいでしょうか。
骨盤や背中、足の位置に注目して、考えてみましょう。
一人一つ考え、グループで三つ以上出しあってみましょう。

グループワーク❷

その部分を支えるために、
どんな工夫ができそうですか？

進め方

・注目した部分・支え方・体への変化の3つを考えよう

・例：クッションを使う・背もたれを調整する・フットレストを合わせる など

・グループで話し合おう

では次のグループワークです。
姿勢に関して注目した部分を支えるために、どのような工夫ができそうでしょうか。
支える部分・支え方・体の変化の三つを考えてみましょう。
クッションを使う・背もたれを調整する・フットレストを合わせるなどの視点から、話し合ってみてください。
出た意見は、共有できるようにグループでまとめましょう。

まとめ

観察と支援が、安定した姿勢につながる

ふりかえり

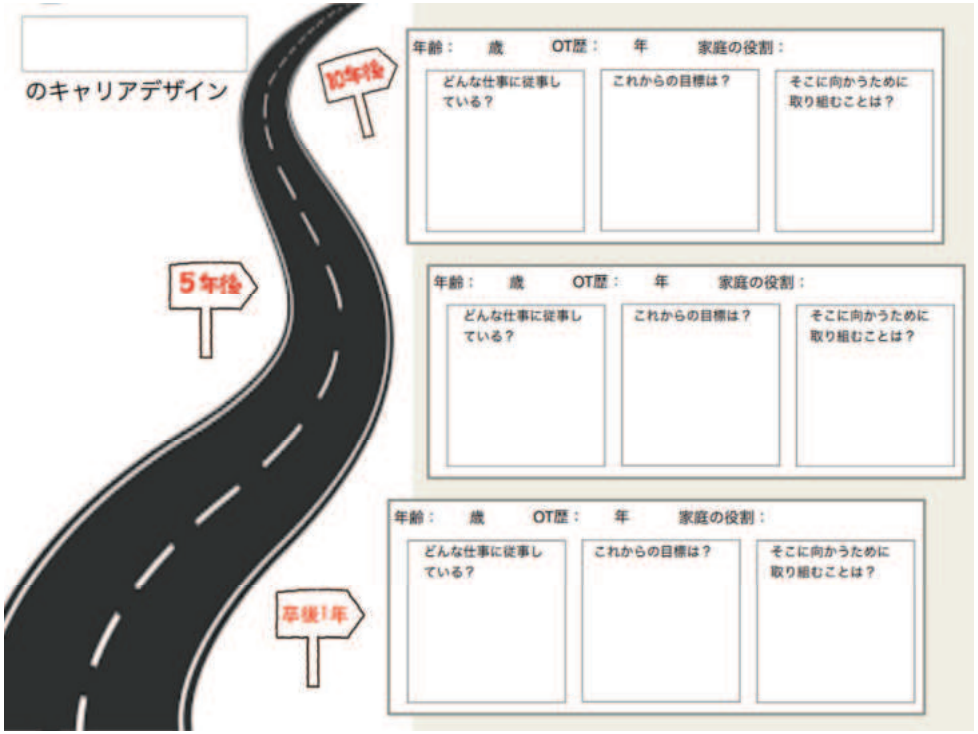
姿勢を安定させるために大切だと感じたことを、1つ考えてみよう

まとめです。
観察と支援が、安定した姿勢につながります。
体の状態をよく見て適切に支えることで、姿勢は整い、動きやすさや生活のしやすさも向上します。
小さな調整が大きな変化につながることもあります。
最後にふりかえりです。
今日の学びを思い出し、姿勢を安定させるために大切だと感じたことを一つ考えてみましょう。
時間があればその理由も考えてみてください。

先輩OTへのインタビューシート

学生名	
訪問施設	
作業療法士名	

項目	内容
①	
②	
③	
④	
⑤	
まとめ (感想など)	

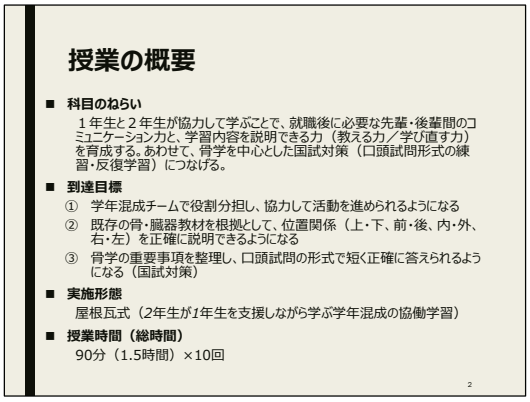


記録シートIII　（社会人基礎力）

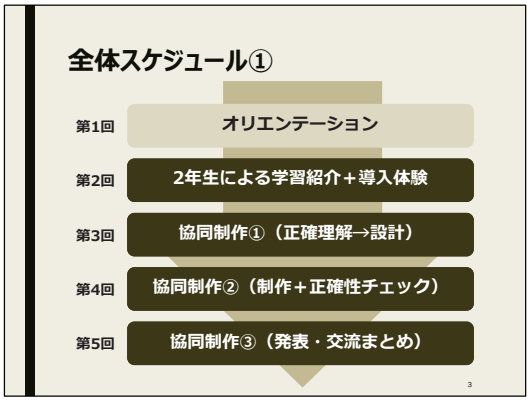
項目	内容
①前に踏み出す力（アクション）	～主体的に行動し、チャレンジする力～
□	「主体性」 … 目的を持って行動する
□	「働きかける力」 … 周囲を巻き込む
□	「実行力」 … 目標に向かってやり遂げる
②考え抜く力（シンキング）	～状況を分析し、論理的に考え、解決策を導く力～
□	「課題発見力」 … 問題点を見つける
□	「計画力」 … 目標に向けた道筋を立てる
□	「創造力」 … 新しいアイデアを生み出す
③チームで働く力（チームワーク）	～多様な人と協力し、成果を出す力～
□	「発信力」 … 自分の考えを伝える
□	「傾聴力」 … 相手の意見を尊重する
□	「柔軟性」 … 変化に適応する
□	「状況把握力」 … 周囲の状況を的確に判断する
□	「規律性」 … ルールや約束を守る
□	「ストレスコントロール力」 … プレッシャーに負けずに対応する



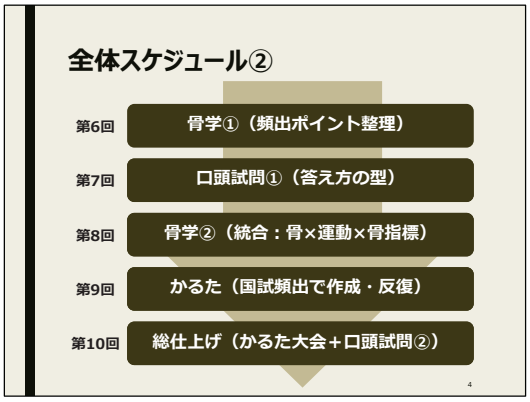
今日から「1年生＋2年生による協働学習」が始まります。この授業の目的は、骨を覚えることだけではありません。一緒に学ぶことで、説明できる力とコミュニケーション力を育てます。
知っているだけではなく、言葉で伝えられることを目指します。1年生は安心して質問を、2年生は支えながら理解を深めることを意識してください。10回を通して、学び方そのものも身につけていきましょう。



ここでは、この授業の全体像を説明します。まず、科目のねらいです。1年生と2年生が協力して学ぶことで、将来の現場で必要となる先輩・後輩間のコミュニケーション力、そして学習内容を説明できる力を育てることを目的としています。特に今回は、骨学を中心に、口頭試問形式で短く正確に答える力を養い、国試対策にもつなげていきます。次に到達目標です。3つあります。1つ目は、学年混成チームで役割分担し、協力して活動できること。2つ目は、教材を根拠として、位置関係を正確に説明できること。3つ目は、骨学の重要事項を整理し、短く正確に答えられることです。実施形態は「屋根瓦式」です。2年生が支援しながら学ぶ学年混成の協働学習です。授業は90分×10回。前半は関係づくりと理解の整理、後半は口頭試問や反復を通して定着を図ります。この10回で、「知識」だけでなく「説明できる力」まで高めていきます。



ここでは、前半5回の流れを説明します。第1回はオリエンテーション。授業の目的や進め方を理解し、チームをつくります。第2回は、2年生による学習紹介と導入体験です。先輩の経験を聞きながら、骨学の入り口を体験します。第3回からは協同制作に入ります。まずは「正確に理解すること」と「どう形にするか設計すること」がテーマです。第4回は実際に制作し、正確性をチェックします。ここでは“作ること”よりも“修正すること”が大切になります。第5回は発表と交流のまとめです。説明することで理解を固め、後半の国試対策フェーズへつなげます。このように、前半は理解 → 設計 → 制作 → 修正 → 説明という流れで進んでいきます。まずはこの5回で、「説明できる理解」の土台をつくります。



ここからは後半5回の流れです。第6回は、骨学の頻出ポイント整理。国試で問われやすい内容を絞り込み、重要事項を整理します。第7回は口頭試問①。「短く正確に答える型」を身につけます。知識を“言葉にして出せる状態”にしていきます。第8回は統合。骨だけでなく、運動や骨指標と結び付けて説明できるようにします。理解を一段深める回です。第9回は、かるた作成と反復。自分たちで問題を作ることで、弱点を可視化します。そして第10回は総仕上げ。かるた大会と最終口頭試問で、ここまでの学びを確認します。前半が「理解を固める期間」だとすると、後半は「答えられる力をつくる期間」です。この5回で、自信を持って説明できる状態を目指します。

学習項目

項目	時間配分	概要
第1回	90分	講義
第2回	90分	2年生によるミニ発表
第3回	90分	協同制作
第4回	90分	協同制作
第5回	90分	協同制作
第6回	90分	口頭試問対策
第7回	90分	口頭試問対策
第8回	90分	口頭試問対策
第9回	90分	かるた制作
第10回	90分	かるた大会
合計	90分×10	

5

こちらが全10回の学習項目です。第1回は講義形式で全体像を理解します。第2回は2年生によるミニ発表で、学習の見通しを持ちます。第3回から第5回までは協同制作です。理解し、設計し、制作し、発表することで土台をつくります。第6回から第8回は口頭試問対策。短く正確に答える力を養います。第9回はかるた制作。自分たちで問題を作ることで理解を深めます。第10回はかるた大会と総仕上げです。すべて90分×10回。段階的に「理解」から「答えられる力」へと進んでいきます。

5

第１回

オリエンテーション

6

それでは、第1回を始めます。今日はオリエンテーションです。この授業の目的、進め方、そして皆さんの役割を確認します。これから10回を通して、「覚える」だけではなく、説明できる理解を目指していきます。まずは、この授業がどんな時間になるのか、一緒に確認していきましょう。

6

学年を超えて学ぶ理由

この授業は、学年混成で学ぶ協働学習です。

知識を一方的に教わるのではなく、関わり合いながら学ぶことで、将来の現場につながる力を育てていきます。



7

この授業は、学年混成で行う協働学習です。なぜ、学年を分けずに学ぶのか。医療現場では、1年目も、2年目も、先輩も後輩も、常に「人と関わりながら」仕事をします。知識を一方的に覚えるだけでは、現場では通用しません。分からないことを聞く力。分かっていることを伝える力。相手の理解に合わせて説明する力。そうした力は、関わりの中でしか身につきません。この授業では、お互いに支え合いながら学ぶことで、将来の現場につながる力を育てていきます。

7

この科目で目指すこと

「覚える」から「説明できる」へ

- 骨学を「覚える」から「説明できる」理解へ
- 先輩・後輩間のコミュニケーション力の向上
- 学びを整理し直す力（教える力・学び直す力）
- 臨床・国家試験につながる基礎力の育成



8

この科目で目指すことは、「覚える」から「説明できる」への変化です。骨学をただ暗記するのではなく、位置関係や根拠をもとに、自分の言葉で説明できる理解へと高めていきます。その過程で、先輩・後輩間のコミュニケーション力を伸ばします。また、誰かに教えることで、自分の学びを整理し直す力も育ちます。そして最終的には、臨床や国家試験につながる基礎力を身につけることが目標です。この10回は、知識を増やす時間ではなく、理解の質を高める時間です。

8

屋根瓦式協働学習とは

学年混成チームで学ぶ

- 2年生：支援・助言・正確性チェック
- 1年生：質問・実践・発信

※ 教える側も理解が深まり、学ぶ側も安心して取り組める学習形態



屋根瓦式協働学習とは、学年混成チームで学ぶ形です。2年生は、支援・助言・正確性チェックの役割を担います。ただ答えを教えるのではなく、「なぜそうなるのか」を一緒に考える立場です。1年生は、質問・実践・発信が役割です。分からないことをそのままにせず、言葉にして出すことが大切です。教える側は理解が深まり、学ぶ側は安心して挑戦できる。それが屋根瓦式の学習です。この役割を意識しながら、チームで取り組んでいきましょう。

今日のゴール

学年を越えて安心して関わり合える学習の土台をつくること。

- 学年が違っても話せる
- 分からないと言える
- 間違えても大丈夫と思える
- 授業の雰囲気に慣れる



10

今日のゴールは、学年を越えて安心して関わり合える土台をつくることです。今日は、完璧に理解することが目的ではありません。まずは、学年が違っても話せること。分からないと素直に言えること。間違えても大丈夫だと思えること。そして、この授業の雰囲気に慣れること。それができれば、今日の目標は達成です。この場を、安心して挑戦できる場所にしていきましょう。

チーム編成と進め方

本授業は、学年混成チームで進めます。

役割は固定せず、状況に応じて柔軟に関わってください。困ったときは、まずチーム内で相談することを基本とします。



11

本授業は、学年混成チームで進めます。2年生が支える立場、1年生が実践する立場、という役割はありますが、固定的なものではありません。状況に応じて、お互いに柔軟に関わってください。分からないとき、迷ったときは、まずチーム内で相談することを基本とします。すぐに答えを求めるのではなく、まずは「チームで考える」。そのプロセス自体が学びになります。この授業では、チームで取り組む姿勢そのものも評価対象です。安心して話し合い、支え合いながら進めていきましょう。

アイスブレイク①：自己紹介

- 名前・学年
- 目指している職種
- 最近ちょっと頑張ったこと

※ 短く・気軽にでOK



12

それでは、まずはアイスブレイクです。今日は簡単な自己紹介をしてもらいます。お話ししてほしいのは、名前と学年、目指している職種、そして最近ちょっと頑張ったこと。長く話す必要はありません。短く、気軽にで大丈夫です。うまく話そうとしなくて大丈夫ですし、完璧である必要もありません。まずは、学年を越えて声を出すことから始めましょう。では、チームごとにお願いします。

アイスブレイク②：骨学との距離

骨学について、今感じていることを
共有します。

不安や苦手意識があっても構いません。
正直な気持ちを出すことが、これからの学び
の出発点になります。



13

次は、骨学との距離について共有します。今、骨学に対してどんな気持ちを持っていますか。「難しそう」「覚えきれない」「正直ちょっと苦手」そう思っていても大丈夫です。この時間は、不安や苦手意識も含めて共有する場です。無理に前向きなことを言わなくても構いません。正直な気持ちを出すことが、これからの学びの出発点になります。まずはチーム内で、今の率直な気持ちを話してみてください。

この授業の全体像

■ 前半（第1～5回）→ 協働制作・説明する練習・関係づくり

■ 後半（第6～10回）→ 骨学整理・口頭試問・反復学習（国試対策）



14

この授業は、大きく前半と後半に分かれています。前半、第1回から第5回までは、協働制作を通して理解を深め、説明する練習と関係づくりを行います。まずは「分かる」状態から、「説明できる」状態へと高める期間です。そして後半、第6回から第10回は、骨学を整理し、口頭試問や反復学習を通して、答えられる力をつくります。前半で土台をつくり、後半で実戦力に変えていく。この流れを意識しながら、10回を積み重ねていきます。

大切にしてほしい3つの姿勢

1. 「分からない」は言ってよい
2. 何となくではなく、根拠を大切にする
3. 間違いは、学習のチャンスと考える



この授業で、大切にしてほしい姿勢が3つあります。1つ目。「分からない」は言ってよい、ということ。分からないと口にできる人が、いちばん伸びます。2つ目。何となくではなく、根拠を大切にすること。位置関係や教材をもとに、理由を説明できるようにしましょう。3つ目。間違いは、学習のチャンスだと考えること。間違えた瞬間が、いちばん理解が深まるタイミングです。この3つを守ることで、安心して挑戦できる学習環境ができます。ぜひ、意識して取り組んでください。

チームルールづくり

1. チーム名を決める
2. 安心して学ぶための約束を決める
   - チームごとに3つ程度
   - 否定しない・話しやすい内容を意識



ここから、チームルールを決めていきます。まず1つ目。チーム名を決めましょう。名前があるだけで、チームはぐっと一体感が生まれます。2つ目。安心して学ぶための約束を決めます。ポイントは2つ。1つ、チームごとに3つ程度でOK。多すぎると守れません。もう1つ、「否定しない」「話しやすい雰囲気をつくる」など、安心につながる内容を意識してください。この時間は、正解を決める時間ではありません。これからの学びを支える“土台”をつくる時間です。しっかり話し合って決めていきましょう。

成果物：「協働学習スタートシート」

項目	内容
チーム名	
メンバー	1年生： 2年生：
大切にしたいルール	1． 2． 3．

17

17

全体発表

「協働学習スタートシート」に沿って発表

1. チーム名、メンバー紹介
2. 決めたルール
3. 話してみて感じたこと
（1チーム 約1分）



それでは、全体発表に入ります。「協働学習スタートシート」に沿って発表してください。発表内容は3つです。1つ目、チーム名とメンバー紹介。2つ目、みなさんで決めたルール。3つ目、話してみて感じたこと。1チーム約1分です。うまく話すことが目的ではありません。「自分たちの言葉で伝えること」が大切です。聞く側も、評価するのではなく、「どんなチームになりそうか」を感じながら聞きましょう。では、最初のチームからお願いします。

18

今日の振り返り

- 今日、自分がチームに貢献できたこと
- 分かったこと・気づいたこと
- 次回、意識したいこと



19

では、最後に今日の振り返りを行います。今日の授業で大切なのは、「何をやったか」よりも「自分はどう関わったか」です。振り返ってほしいのは3つです。1つ目、今日、自分がチームに貢献できたこと。小さなことでも構いません。2つ目、分かったこと・気づいたこと。内容だけでなく、関わり方でもOKです。3つ目、次回、意識したいこと。学びは“続き”があります。今日の気づきを、次回につなげてください。

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
今日できたこと・ 貢献できたこと	
今日分かったこと 理解が深まったこと	
今日分からなかったこと 迷っていこと	
次回に向けての一言	

20

20

次回は、２年生による
学習紹介と、
骨学の導入体験をします



21

次回は、2年生による学習紹介を行います。そして、いよいよ骨学の導入体験に入ります。今日つくった「安心して関われる土台」をもとに、少しずつ学びを深めていきましょう。

21

第２回

2年生による学習紹介
＋導入体験

22

今日は、2年生による学習紹介と導入体験です。これから皆さんが取り組んでいく骨学を、少し先を歩いている先輩たちがどう学んできたのかを聞きます。そして実際に、骨学に触れてみます。「難しそう」から「やってみよう」へ。今日はその一歩です。

22

今日のテーマ：学習の「見通し」を持つ

先輩の経験から、これからの学びを具体化します。

- 第2回の位置づけ
- 2年生の経験から学ぶ
- 骨学学習への導入



23

今日のテーマは「学習の見通しを持つ」です。いきなり骨学を本格的に始めるのではなく、まずは“これから何をどう学んでいくのか”を具体的にします。今日は、第2回の位置づけを確認し、2年生の経験から学び、そして骨学への第一歩を踏み出します。見通しがあると、不安は小さくなります。

23

なぜ先輩の話を聞くのか

経験は、これからの学習のヒントになります。

- 教科書には載っていない学習の工夫
- つまずきやすいポイント
- 乗り越え方の実例



24

なぜ、先輩の話を聞くのでしょうか。経験は、これからの学習のヒントになるからです。教科書には載っていない工夫や、実際につまずきやすいポイント、どうやって乗り越えたのか。そうした“リアルな声”を聞くことで、自分の学びの準備ができます。今日は、そのヒントを受け取る時間です。

24

それぞれの関わり方

■ **2年生**
- ✓ 教えるより、支える役割です。
  - 答えをすぐに言わない
  - 見方・考え方を伝える
  - 正確さをさりげなく確認

■ **1年生**
- ✓ 分からないを出すことが役割です。
  - 積極的に質問する
  - 気づいたことを言葉にする
  - 正確さを一緒に確認する



この授業では、学年によって役割が違います。2年生は、教える人ではありません。支える人です。答えをすぐに言うのではなく、どう考えたかを伝える。そして、正確さを一緒に確認する。一方で1年生は、「分からない」を出すことが役割です。遠慮は必要ありません。分からないと言うことが、この授業を前に進めます。

2年生ミニ発表①：学びの進め方

どのように勉強してきたのかを共有します。

■ 骨学の勉強方法
■ 授業・復習の工夫
■ 自分なりの習慣



今日は、2年生から「骨学をどうやって学んできたか」を共有してもらいます。教科書の内容そのものではなく、学び方の話を聞く時間です。骨学は、覚える量も多く、最初は戸惑う人がほとんどです。だからこそ大事なのは、「何を覚えるか」だけではなく、どう取り組むかです。今日のポイントは3つあります。1つ目は、骨学の勉強方法。どうやって理解しようとしてきたのか。2つ目は、授業や復習の工夫。うまくいかなかった時に、どう変えたのか。3つ目は、自分なりの習慣。続けるために何をしていたのか。大事なのは、「正解の方法を探す」ことではありません。それぞれに合ったやり方があります。今日の話を聞いて、「これならできそう」と思えるヒントを1つでも持ち帰ってください。では、2年生の皆さん、よろしくお願いします。

2年生ミニ発表②：つまずきと克服

誰もが悩んだ経験があります。

■ 苦手だった内容
■ 混乱しやすかった点
■ どう整理したか



ここからは、うまくいった話だけでなく、つまずいた経験を共有してもらいます。骨学は、誰でも一度は悩みます。混乱することもあります。大切なのは、・何が苦手だったのか・どこで混乱したのか・どう整理していったのかこの3つです。「できた話」よりも、どう乗り越えたかのほうが、後輩のヒントになります。完璧でなくて大丈夫です。正直な経験を、ぜひ聞かせてください。では、お願いします。

2年生　学習経験共有シート

項目	内容
1年生のときの正直な状況	• 当時、特に不安だった科目・内容 • 「ここがよく分からなかった」と感じていた点
骨学の学習でつまずいたポイント	• つまずいた内容 • 当時なぜ難しかったと思ったのか
それをどう乗り越えたか	• 実際にやって効果のあったこと • 「今思うと、これが大事だった」と感じること
学習のコツ（1年生に伝えたいこと）	• 勉強の進め方の工夫 • 骨学を見るときに意識していたこと
1年生へのメッセージ	• 気持ち面のサポート

質問タイム

気になったことをその場で聞きます。

- 分からなかった点
- もっと聞いてみたいこと

※学習面・気持ちの面どちらでもOK



29

ここからは質問タイムです。今の発表を聞いて、気になったことをその場で聞いてみましょう。「分からなかった点」でもいいですし、「もっと詳しく聞いてみたいこと」でも構いません。学習内容についてでも、勉強の気持ちの面についてでもOKです。遠慮しなくて大丈夫です。質問することも、学びの一部です。では、手を挙げてみましょう。

29

1年生　先輩の学び共有シート

項目	内容
印象に残った先輩の話	
自分の学習に取り入れてみたいこと	
骨学に対する気持ちの変化	該当するものに○＋一言 難しそう → □ 少し分かりそう □ まだ不安 □ 変わらない 理由：＿＿＿＿＿＿＿＿
2年生への感謝のメッセージ	

30

30

今日から始める骨学の導入体験

骨学を「触れて」「確かめる」時間です。

- 模型・図譜を使った確認
- 骨の位置・向きの把握

※安全に配慮して実施

31

ここからは、骨学の導入体験を行います。今日は「覚える」時間ではありません。骨を触れて、確かめる時間です。模型や図譜を使いながら、実際に位置や向きを確認していきます。「どこにあるのか」「どちらを向いているのか」を、自分の目と手で確かめてください。分からないところがあれば、そのままにせず声に出しましょう。安全に配慮しながら進めます。落とさない、ぶつけない、丁寧に扱うことを意識してください。それでは始めましょう。

31

今日のポイント整理

今日学んだことを整理します。

- 学習の進め方のヒント
- 骨学を見る視点
- 学年混成で学ぶ感覚

32

それでは、今日のポイントを整理します。今日はまず、「どう学ぶか」というヒントを共有しました。勉強は量だけではなく、見方や考え方が大切だということです。次に、骨学を見る視点。位置・向き・根拠を意識することが重要でした。そして、学年を超えて学ぶ感覚。教える側も学び、学ぶ側も考える。その中で理解が深まることを体験しました。今日の学びを、自分なりの言葉で整理してみてください。

32

今日の振り返り

- 今日、自分がチームに貢献できたこと
- 分かったこと・気づいたこと
- 次回、意識したいこと



では、最後に今日の振り返りを行います。今日の授業で大切なのは、「何をやったか」よりも「自分はどう関わったか」です。振り返ってほしいのは3つです。1つ目、今日、自分がチームに貢献できたこと。小さなことでも構いません。2つ目、分かったこと・気づいたこと。内容だけでなく、関わり方でもOKです。3つ目、次回、意識したいこと。学びは“続き”があります。今日の気づきを、次回につなげてください。

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
今日できたこと・ 貢献できたこと	
今日分かったこと 理解が深まったこと	
今日分からなかったこと 迷っていこと	
次回に向けての一言	



それでは最後にお知らせです。次回から、いよいよ協同制作が始まります。今日学んだ「見通しを持つこと」や「支え合う姿勢」を、実際の活動の中で活かしていきましょう。一人で頑張るのではなく、チームで考え、チームで形にしていきます。次回を楽しみにしていてください。

第3回

協同制作①
（正確理解→設計）

それでは、第3回が始まります。今日からいよいよ「協同制作」に入ります。テーマは、正確に理解し、設計することです。なんとなく分かった、ではなく、「本当に理解できているか」をチームで確かめます。そのうえで、どう形にしていくのかを設計していきます。理解があいまいなまま進めると、あとで大きなズレになります。今日はまず、正しく捉え、整理し、方向をそろえるところから始めましょう。

今日やることの流れ

理解 → 言語化 → 設計、の順で進めます。

① 参照教材を確認する
② 位置関係を言葉で説明する
③ 補助教材の形を決める
④ 設計シートにまとめる



今日の流れを確認します。今日は、理解 → 言語化 → 設計この順番で進めます。まず①参照教材を確認します。思い込みではなく、事実を押さえます。次に②位置関係を言葉で説明します。「分かっているつもり」を、言葉にして確かめます。そして③補助教材の形を決めます。誰にとって、どう分かりやすいかを考えます。最後に④設計シートにまとめます。考えを整理し、形にします。焦らず、一つずつ進めていきましょう。

①参照教材を確認する

必ず「根拠」を持って考えます。

■ 模型・図譜・教科書を使用
■ 記憶や感覚だけに頼らない
■ 出典を明確にする

まず最初に行うのは、参照教材の確認です。必ず「根拠」を持って考えます。なんとなくの記憶や感覚では進めません。模型・図譜・教科書を使い、事実を確認しながら理解します。そして、どこを根拠にしたのか、出典を明確にしましょう。正確さは、ここから始まります。

②位置関係を言葉で説明する

「見る」だけでなく「言う」ことで理解が深まります。

■ 上・下／前・後／内・外／右・左
■ 短い文章で分かりやすく説明
■ 間違ったら言い直す



次に行うのは、位置関係を言葉で説明することです。「見る」だけでなく、「言う」ことで理解は深まります。上・下、前・後、内・外、右・左。方向の言葉を正しく使い、短い文章で分かりやすく伝えましょう。もし間違えたら、すぐに言い直せば大丈夫です。言語化することが、正確な理解につながります。

ミニワーク：参照教材から出題チャレンジ

ミニワークの目的
- 参照教材を根拠に、正確に説明できるかを確かめる

進め方
- 2年生が参照教材（模型・図譜）を見て出題
- 1年生は言葉だけで答える
- 答えはすぐに教材で確認する

出題のポイント（2年生）
- 位置関係（上下・前後・内外・左右）を含める
- 用語を答えさせるだけにしない
- 1問20〜30秒で答えられる内容にする

答えるときのポイント（1年生）
- まず結論（名称・部位）を言う
- 位置関係を言葉で補足する
- 分からなければ「どこが曖昧か」を伝える



ここからミニワークに入ります。目的は、参照教材を根拠に、正確に説明できるかを確かめることです。進め方です。2年生は、模型や図譜を見て出題します。1年生は、見ずに「言葉だけ」で答えます。答えはすぐに教材で確認します。2年生は、位置関係――上・下、前後、内外、左右――を必ず含めてください。用語を当てるだけの問題にはしません。1問20〜30秒で答えられる内容にします。1年生は、まず結論、つまり名称や部位を言います。そのあと、位置関係を言葉で補足してください。もし曖昧な点があれば、「どこが分からないか」をはっきり伝えましょう。正確さは、根拠から生まれます。それでは始めましょう。

各学年の役割

2年生の役割（質問者）	1年生の役割（回答者）
答えを言わず、正確さを支えます	**分からないを言葉にする役です**
• すぐに正解を言わない • 見るポイントを示す • 用語・位置関係をチェック	• 分からない点を口に出す • 説明を試してみる • 間違いを恐れない
正解は言わずに、参照教材の該当ページを示してください	今自分が答えられる範囲で、頑張って言葉にしてみてください

41

ここで、もう一度それぞれの役割を確認します。まず、2年生の役割です。2年生は「質問者」です。答えを言う人ではありません。正確さを“支える人”です。すぐに正解を言わないでください。その代わりに、「どこを見るとよいか」を示します。そして、用語や位置関係が正しいかをチェックします。もし答えが違っていても、正解は言いません。参照教材の該当ページを示し、根拠に戻してあげてください。次に、1年生の役割です。1年生は「回答者」です。分からないことを、きちんと言葉にする役割です。分からない点を口に出してください。そして、自分なりに説明を試みてください。間違えても大丈夫です。大切なのは、考えたことを言葉にすることです。それぞれの役割を意識して、学年混成の学びを深めていきましょう。

41

補助教材の形を決める

自分にとって役に立つ方法を選びます。

- マップ／カード／誤り探し 等
- 覚えるのに向いているか
- 今後の対策にも使えるか

ここでは、完成度より「使いやすさ」を重視します。
覚えるときに役立つ形かどうかを基準に考えてください。

42

ここでは、補助教材の形を決めます。目的は、「きれいに作ること」ではありません。自分にとって役に立つ形を選ぶことです。例えば、全体像を整理するマップ形式、用語を確認するカード形式、理解度を試す誤り探し形式などがあります。大切なのは、それが“覚えるときに使いやすいか”どうか。そして、今後の復習や対策にも使えるかどうかです。ここでは、完成度よりも「使いやすさ」を重視します。自分が繰り返し見たくなる形かどうかを基準に、選んでください。

42

補助教材の形


マップ


カード


誤り探し

制作テーマは3種類
- マップ
- カード
- 誤り探し

共通ルール
- 必ず参照教材を根拠にする
- 正確さを最優先する
- 説明できる形にする

選び方のヒント
- 位置関係が不安 → マップ
- 用語が混同しやすい → カード
- 分かっているつもりが多い → 誤り探し

43

補助教材の形は、3種類から選びます。マップ、カード、誤り探しです。どの形式でも共通して大切なのは、必ず参照教材を根拠にすること。そして、正確さを最優先にすること。さらに、自分が説明できる形にすることです。選び方のヒントです。位置関係が不安な人は「マップ」。用語が混同しやすい人は「カード」。分かったつもりが多い人は「誤り探し」。自分の弱点に合った形を選んでください。目的は作品づくりではなく、理解を深めることです。

43

補助教材の制作設計シートを作る

考えたことを形に残します。

- 参照教材の明記
- 説明する際のポイント
- 内容の整理



44

最後に、補助教材の制作設計シートを作ります。考えたことを、きちんと形に残す時間です。まず、参照教材を明記します。どのページ・どの図を根拠にしたのかをはっきりさせましょう。次に、説明する際のポイントを書きます。どの位置関係を強調するのか、どの用語に注意するのかを整理します。そして、内容を簡潔にまとめます。結論 → 位置関係 → 補足、の順に整えると分かりやすくなります。設計シートは、制作のためだけでなく、自分の理解を確認するための道具です。丁寧にまとめていきましょう。

44

補助教材の制作設計シート

項目	内容
今回扱う骨・部位・範囲を明確にする	骨・部位名： 範囲（例：近位部のみ／関節周囲）：＿＿＿＿＿＿
参照教材（根拠の明示）	使用する教材（チェック） □ 骨模型 □ 図譜 □ 教科書 □ その他（＿＿＿＿） 教材名・ページ番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿
正確に説明したいポイント	※ 位置関係を中心に、言葉で書く 上・下：＿＿＿＿＿＿＿＿ 前・後：＿＿＿＿＿＿＿＿ 内・外：＿＿＿＿＿＿＿＿ 右・左：＿＿＿＿＿＿＿＿
説明の要点（30秒）	※ 短く・正確に ＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿＿＿
補助教材の形	教材形式（○をつける） マップ ／ カード ／ 誤り探し ／ その他（＿＿＿＿） この形を選んだ理由 ＿＿＿＿＿＿＿＿

45

今日の振り返り

- 今日のミニワークで感じたこと
- 「分かっているつもり」だったと気づいた点
- 今日あらためて「正確に理解できた」こと
- 制作設計で大切にしようと思ったこと
- 次回に向けて一言



46

最後に、今日の振り返りを行います。まず、今日のミニワークで感じたことを思い出してみましょう。うまくいったこと、難しかったこと、どちらも大切な気づきです。次に、「分かっているつもりだった」と気づいた点はありませんでしたか。言葉にしてみると、曖昧さが見えてきた人もいると思います。そして、今日あらためて正確に理解できたことは何でしょうか。参照教材を根拠に説明できた内容を振り返ってみてください。さらに、制作設計を通して、「これだけは大切にしよう」と思ったことも整理しましょう。正確さか、分かりやすさか、それとも使いやすさか。最後に、次回に向けて一言。自分は何を意識して取り組むのか、短く言葉にしてみましょう。振り返りは、次の成長の準備です。丁寧に、自分の学びを確認していきましょう。

振り返りシート

項目	内容
今日のミニワークで感じたこと	
「分かっているつもり」だったと気づいた点	
今日あらためて「正確に理解できた」こと	
制作設計で大切にしようと思ったこと	
次回に向けての一言	

47

次回は、
今日の設計をもとに、
実際の制作に入ります。



48

次回は、いよいよ実際の制作に入ります。今日みなさんが考えた設計――参照教材の根拠、説明のポイント、内容の整理。それらをもとに、形にしていきます。大切なのは、「なんとなく作る」のではなく、根拠のある設計をもとに作ることです。今日の設計シートを見直しながら、正確さと分かりやすさを意識して取り組みましょう。準備は整っています。次回から、本格的な協同制作が始まります。

第4回

協同制作②
（制作＋正確性チェック）

49

今日はいよいよ、制作を進めながら、正確性をチェックする回です。前回つくった設計をもとに、実際の形にしていきます。ただし、今日のポイントは「作ること」だけではありません。必ず、正確かどうかを確認しながら進めること。・参照教材を根拠にしているか・位置関係や用語は正しいか・説明として伝わる形になっているか協同制作では、作る人と、チェックする人の両方の視点が大切です。完成度よりも、根拠のある正確な内容を優先しましょう。今日も、理解 → 言語化 → 確認、この流れを意識して進めます。

正確さを確認しながら形にする

「作る」と「確かめる」を同時に行います。

- 補助教材を協同制作するフェーズ
- 設計 → 制作へ
- 正確性を意識しながら進める



ここからは、「作る」と「確かめる」を同時に行う時間です。ただ形を整えるのではなく、正しい内容になっているかを確認しながら進めます。今日は、補助教材を協同で制作するフェーズです。前回の設計をもとに、実際の制作へ入ります。そのとき大切なのは、・参照教材に根拠があるか・位置関係や用語は正確か・説明として伝わる内容かこの3点を意識することです。完成を急ぐよりも、正確さを優先すること。「これで合っているかな？」とお互いに問いかけながら進めていきましょう。

今日のゴール

- 設計内容を形にする
- 正確性を確認し、必要に応じて修正する
- 口頭試問で説明できる状態に近づける



51

今日は、この3つをゴールにします。まず一つ目。設計内容を、実際の形にすること。アイデアのままにせず、具体的な教材として仕上げます。二つ目。正確性を確認し、必要に応じて修正すること。参照教材を根拠に、用語や位置関係を丁寧にチェックします。そして三つ目。口頭試問で説明できる状態に近づけること。ただ作るのではなく、「自分の言葉で説明できるか」を基準に仕上げます。今日は、完成よりも説明できる完成度を目指して進めていきましょう。

制作の進め方

設計シートを必ず見ながら進めます。

- 制作設計シートを参照
- 形にしながら言葉で確認
- 迷ったら根拠に戻る

スクリプト制作中も、設計シートを常に横に置いてください。迷ったときは、「どうだったか」ではなく「どこに書いてあるか」を確認しましょう。

52

ここからは、制作の進め方です。必ず設計シートを見ながら進めます。思いつきで作らないことが大切です。まず、設計シートを参照します。次に、形にしながら、必ず言葉で確認します。「これで説明できるか？」を自分に問いかけてください。そして、迷ったら根拠に戻ります。感覚ではなく、参照教材や設計シートに立ち返りましょう。制作中も、設計シートは常に横に置いてください。迷ったときは、「どうだったか」ではなく、「どこに書いてあるか」を確認します。作ることと、確かめることを同時に進めていきましょう。

正確性チェックとは

「合っているか」を意識的に確認します。

- 用語は正しいか
- 位置関係は正確か
- 参照教材と一致しているか



スクリプト正確性チェックは、完成後にまとめて行うものではありません。作りながら、何度も確認することが大切です。

53

ここで確認するのが、正確性チェックです。正確性チェックとは、「合っているか」を意識的に確認することです。まず、用語は正しいか。言い慣れた言葉ではなく、教材に書かれている正式な名称かを確認します。次に、位置関係は正確か。上下・前後・内外・左右がずれていないかを見ます。そして、参照教材と一致しているか。自分の記憶ではなく、必ず根拠と照らし合わせます。大切なのは、完成してからまとめて確認するのではなく、作りながら何度も確かめることです。「作る」と「確かめる」を、同時に進めましょう。

各学年の役割

2年生の役割（支援者）	1年生の役割（説明者）
間違いを指摘する人ではありません。	**手を動かし、説明を試します。**
• 答えを押し付けない • 根拠を一緒に確認する • 表現のズレに気づかせる	• 実際に制作する • 説明を声に出す • 修正を恐れない
「どこを根拠にした？」と問い返しながら、一緒に確認してください。	どんどん作って、どんどん説明してみてください。

54

ここで、あらためて各学年の役割を確認します。まず、2年生は「支援者」です。間違いを指摘する人ではありません。大切なのは、答えを押し付けないこと。そして、必ず根拠を一緒に確認すること。さらに、表現のズレに気づかせることです。もし気になったら、「どこを根拠にした？」と問い返してください。正解を言うのではなく、一緒に確かめる姿勢が役割です。次に、1年生は「説明者」です。手を動かしながら、実際に制作します。そして、説明を声に出します。間違いを恐れなくて大丈夫です。修正は前進です。どんどん作り、どんどん説明してみてください。支援者と説明者、この関係が、学びを深めます。

説明台本をつくる

短く、正確に説明します。

- 30秒説明を意識
- 結論→位置関係→補足
- 説明台本シートを使用

作りながら、30秒でどう説明するかも考えてみましょう。言葉にできるかどうかが、理解の確認になります。

55

ここからは、説明台本をつくります。ポイントは、短く、正確に説明することです。まず意識するのは、30秒説明です。長く話すのではなく、30秒で伝え切ることを目標にします。構成はシンプルです。結論。位置関係。そして、必要な補足。この順番で話せるようにします。必ず説明台本シートを使ってください。頭の中だけで整理しないことが大切です。制作しながら、「これを30秒でどう説明するか？」を常に考えてみましょう。言葉にできるかどうか。それが、理解できているかの確認になります。

説明台本シート

項目	内容
結論（最初に伝えること）	「何の話か」がすぐ分かる一文
位置関係の説明	上・下／前・後／内・外／右・左 を意識
補足（特徴・注意点）	混同しやすい点・覚えるヒントなど

56

今日の振り返り

- 今日の制作で一番時間を使ったところ
- 正確性チェックで指摘された点
- 修正を通して気づいたこと
- 「正確に伝える」難しさについて
- 次回に向けて一言



最後に、今日の振り返りを行います。まず、今日の制作で一番時間を使ったところはどこだったか、考えてみましょう。次に、正確性チェックで指摘された点は何だったかを振り返ります。自分では気づけなかったズレがあったはずです。そして、修正を通して何に気づいたのか。「分かっている」と「正確に伝えられる」は違う、という実感もあったかもしれません。あらためて、「正確に伝える」ことの難しさについても考えてみましょう。最後に、次回に向けて一言。どんなことを意識して取り組みたいか、自分の言葉でまとめてみてください。

振り返りシート

項目	内容
今日の制作で一番時間を使ったところ	
正確性チェックで指摘された点	
修正を通して気づいたこと	
「正確に伝える」難しさについて	
次回に向けての一言	



次回は、「伝える」ことを通して、学びをさらに固めていきます。自分が分かっているつもりでも、実際に人に伝えようとすると、言葉に詰まることがあります。しかし、その瞬間こそが、理解を深めるチャンスです。伝えることで、曖昧な部分がはっきりし、根拠や位置関係をより正確に整理できるようになります。次回は、説明することを通して、本当に理解できている状態を目指します。準備してきた設計を土台に、自分の言葉で、確実に伝えられる力を磨いていきましょう。

第５回

協同制作③
（発表・交流まとめ）

第5回は、協同制作の最終段階です。これまで設計し、制作し、正確性を確認してきました。今回は、それを「発表」という形で外に出します。発表は、評価の場ではありません。自分たちの理解を、言葉で確かめる時間です。説明し、聞き、質問し合うことで、学びをさらに深めていきます。そして最後に、交流を通して気づいたことをまとめます。作って終わりではありません。伝えて、確かめて、整理する。それが今回のテーマです。第5回、発表と交流を通して、学びを完成させましょう。

説明して、学びを固める

伝えることで、理解が完成します。

- 協同制作フェーズ最終回
- 発表と相互フィードバック
- 学びを言葉で確定させる



61

ここからは、協同制作フェーズの最終回です。今日のテーマは、「説明して、学びを固める」こと。理解は、頭の中で分かっただけでは完成しません。伝えられてはじめて、完成します。これまで作ってきた補助教材を使って発表します。そして、相互にフィードバックを行います。・どこが分かりやすかったか・どこが曖昧だったか・どこを根拠に説明していたかそれを確認し合います。説明する人も、聞く人も、学びを言葉で確定させる時間です。発表はゴールではなく、理解を仕上げるプロセスです。伝えて、確かめて、整える。今日、学びを完成させましょう。

61

今日のゴール

「説明できる理解」を実感する。

- 30秒で説明できた
- 正確さを意識して伝えられた
- 人に伝えることで理解が深まった



今日は完璧な発表を目指す必要はありません。
「ここは説明できた」「ここはまだ怪しい」と気づければ、
それが成果です。

62

今日のゴールは、「説明できる理解」を実感することです。分かったつもりではなく、実際に言葉で説明できる状態を目指します。ポイントは3つです。まず、30秒で説明できたか。短くまとめられるということは、整理されているということです。次に、正確さを意識して伝えられたか。用語や位置関係を、根拠に基づいて話せたかを確認します。そして、人に伝えることで理解が深まったか。説明してみて初めて、「あれ？」と気づくことがあります。その気づきこそが学びです。今日は、完璧な発表を目指す必要はありません。「ここは説明できた」「ここはまだ怪しい」そう気づけたら、それが成果です。説明できる理解を、体で実感しましょう。

62

発表の進め方

短く、正確に、順番を守って。

- 1チームずつ発表
- 30秒説明が基本
- 教材＋説明台本を使用



発表は30秒を目安に行います。
説明台本を見ながらで構いません。
時間と順番を意識して進めましょう。

63

ここから発表に入ります。ポイントは、短く、正確に、順番を守って です。発表は、1チームずつ行います。時間は30秒が基本です。長く話すことよりも、30秒でまとめることを意識してください。発表のときは、教科書（参照教材）と説明台本を使って構いません。大切なのは、暗記ではなく、正しく説明できることです。結論 → 位置関係 → 補足、この順番を意識して話しましょう。時間と順番を守りながら、落ち着いて進めていきましょう。

63

聞く側の役割

聞くことも、学習です。

- 分かりやすかった点
- 分かりにくかった点
- 正確さが気になった点



発表を聞く側も大切な役割です。
「ここが分かった」「ここが少し分かりにくかった」という視点で
聞いてください。

64

ここからは、聞く側の役割についてです。聞くことも、立派な学習です。ただ聞き流すのではなく、考えながら聞いてください。ポイントは3つです。1つ目、分かりやすかった点。どこが理解しやすかったのかを意識します。2つ目、分かりにくかった点。少しでも引っかかったところがあれば、大事なヒントです。3つ目、正確さが気になった点。用語や位置関係が合っているかを考えながら聞きましょう。発表する人だけでなく、聞く人も学びを深める役割を持っています。「ここが分かった」「ここが少し曖昧かも」という視点で、集中して聞いてください。

64

フィードバックの視点

評価ではなく、改善のヒントを。

- 良かった点を先に伝える
- 正確性・表現の視点
- 具体的な一言コメント



フィードバックは、相手を評価するためではありません。
次にどうすればよくなるかを伝える意識で行いましょう。

65

ここでは、フィードバックの視点について確認します。フィードバックは、評価ではありません。目的は、より良くするためのヒントを伝えることです。ポイントは3つです。1つ目、良かった点を先に伝えること。相手の強みや工夫を具体的に言葉にしましょう。2つ目、正確性と表現の視点。用語は正しいか、位置関係は合っているか、説明は分かりやすかったかを確認します。3つ目、具体的な一言コメント。「ここをこうすると、もっと伝わりやすい」といった前向きな提案を意識しましょう。フィードバックは、相手を評価するためのものではありません。次にどうすれば良くなるかを一緒に考えるためのものです。改善のヒントを届ける意識で、伝えていきましょう。

65

各学年の役割

2年生の役割	1年生の役割
学びを支える立場に徹します。	**自分の言葉で伝えます。**
• 正確性の最終確認 • 表現の補足・言い換え • 先生への橋渡し	• 台本を見てOK • 詰まっても言い直す • 正確さを意識する
2年生は、必要に応じて補足してください。	1年生は、台本を見ながらで構いません。

66

ここでは、各学年の役割を確認します。まず、2年生の役割です。2年生は、学びを支える立場に徹します。・正確性の最終確認・表現の補足や言い換え・必要に応じて先生への橋渡し自分が前に出るのではなく、「より正確に伝わるように整える」ことが役割です。足りない部分があれば、さりげなく補足してください。次に、1年生の役割です。自分の言葉で伝えることが中心です。・台本を見ながらでOK・詰まっても言い直せば大丈夫・常に正確さを意識する完璧である必要はありません。伝えようとする姿勢が大切です。それぞれの立場を意識して、協力しながら進めていきましょう。

66

協同制作のまとめ

作って終わりではありません。

- 説明して理解が深まった
- ズレに気づけた
- チームで学ぶ感覚を得た



ここまでが協同制作の一区切りです。
作る→説明する→直す、という流れを経験できたこと自体が大きな成果です。

67

ここまでが、協同制作のまとめです。協同制作は、作って終わりではありません。・説明することで理解が深まったこと・説明してみてズレに気づけたこと・チームで学ぶ感覚を得られたことこれらが、今回の大きな成果です。特に大切なのは、「作る → 説明する → 直す」という流れを経験できたことです。説明できたところは、本当に理解できています。説明しづらかったところは、まだ伸びしろがあります。このプロセスそのものが、学びです。ここで一度区切りますが、この経験を次につなげていきましょう。

67

後半フェーズへの切り替え

次回から国試対策につながります。

- 骨学の整理
- 口頭試問への準備
- 反復学習が中心に



次回からは、骨学の整理や口頭試問など、国家試験を意識した内容に入ります。
今日の経験が、その土台になります。

68

ここから後半フェーズに入ります。次回からは、いよいよ国家試験対策につながる内容です。中心になるのは、・骨学の整理・口頭試問への準備・反復学習これまで行ってきた「説明する学び」は、ここで大きな意味を持ちます。国家試験では、“分かったつもり”ではなく、「正確に説明できる理解」が求められます。今日の経験は、その土台づくりでした。次回からは、より実践的に、試験を意識した形で取り組んでいきます。ここで一度気持ちを切り替えて、次のステップへ進みましょう。

68

今日の振り返り

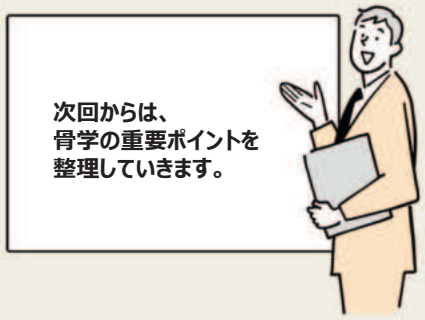
- 実際に「説明してみて」気づいたこと
- 伝わったと感じたポイント
- 伝わりにくかったと感じたポイント
- 他チームの発表から学んだこと
- 後半に向けて一言



最後に、今日の振り返りを行います。まず、実際に「説明してみて」気づいたことは何ですか。分かったつもりだった部分や、意外に言葉が出てこなかった部分はありませんでしたか。次に、「伝わった」と感じたポイント。どんな工夫をしたときに、相手の反応が良かったでしょうか。そして、「伝わりにくかった」と感じたポイント。順番、言葉選び、正確さなど、改善できそうな点は何でしょう。さらに、他チームの発表から学んだことも整理してみましょう。「この言い方は分かりやすい」「この構成は真似したい」と思った点を書き出してみてください。最後に、後半フェーズに向けて一言。今日の経験をどう次につなげるか、自分なりの目標を持って締めくくりましょう。

振り返りシート

項目	内容
実際に「説明してみて」気づいたこと	
伝わったと感じたポイント	
伝わりにくかったと感じたポイント	
他チームの発表から学んだこと	
次回に向けての一言	



ここから後半フェーズに入ります。次回からは、骨学の重要ポイントを整理していきます。これまでの「説明する練習」は、そのための土台でした。骨の名称や構造を、ただ覚えるのではなく、「自分の言葉で説明できる」レベルまで整理していきます。国家試験や口頭試問を意識しながら、重要なポイントを絞って、反復していきます。今日の経験を活かしながら、次回はより実践的に取り組んでいきましょう。

第６回

骨学①
（頻出ポイント整理）

第6回に入ります。今日から「骨学①」、頻出ポイントの整理です。これまでの協同制作では、“説明できる理解”を意識してきました。今回は、その力を使って、国家試験でよく問われる骨学の重要ポイントを整理していきます。ただ覚えるのではなく、・どこが問われやすいのか・どう説明すれば正確なのか・似ている構造との違いは何かこのあたりを意識しながら進めます。今日の目標は、「なんとなく知っている」から「30秒で説明できる」へ。では、骨学の整理を始めていきましょう。

骨学の重要ポイントを整理する

国試につながる「外せない所」を押さえます。



- 国試対策フェーズ開始
- 骨学の頻出ポイントに集中
- 正確さを最優先する

今日から、国家試験を意識した骨学の整理に入ります。
すべてを網羅するのではなく、「ここは必ず押さえる」というポイントに集中します。

73

ここから、骨学の重要ポイントを整理していきます。いよいよ、国試対策フェーズのスタートです。今日のテーマは、「全部覚える」ではありません。国試につながる“外せない所”を押さえることです。・どこが頻出なのか・どこが引っかけになりやすいのか・どこは絶対に間違えてはいけないのかこの視点で整理していきます。骨学は範囲が広いですが、すべてを網羅する必要はありません。「ここは必ず押さえる」この優先順位を明確にすることが大切です。そして何より、正確さを最優先します。あいまいな理解のまま進まないこと。今日から、国家試験を意識した骨学の整理に入ります。集中して取り組んでいきましょう。

なぜ「頻出」に絞るのか

量より、正確な理解が大切です。

- 出題されやすい箇所が決まっている
- 混同しやすい点で差がつく
- 正確に答えられることが重要

骨学は情報量が多く、全部を同じ重さで覚えるのは現実的ではありません。
頻出ポイントを正確に説明できることが、得点につながります。



74

では、なぜ「頻出」に絞るのかを説明します。理由はシンプルです。量よりも、正確な理解が大切だからです。国家試験では、出題されやすい箇所はある程度決まっています。そして、受験生の差がつくのは――混同しやすいポイントです。広く浅く覚えるより、「よく出るところを、正確に答えられる」ことの方が、得点につながります。骨学は情報量が非常に多い分野です。すべてを同じ重さで覚えるのは、現実的ではありません。だからこそ、・出題されやすい・混乱しやすい・必ず正確に答えるべきこの３つを軸に整理していきます。頻出ポイントを、自分の言葉で正確に説明できる。そこまで到達することが、合格への近道です。

今日扱う範囲

テーマを絞って進めます。



- 上肢 または 下肢（指定範囲）
- 特徴的な骨
- 国試で問われやすい部位

今日は、あらかじめ指定した範囲に絞って進めます。
広げすぎず、確実に理解することを意識してください。

75

では、今日扱う範囲を確認します。今日は、テーマを絞って進めます。広く浅くではなく、狭く深くです。扱うのは、・上肢、または下肢の指定範囲・その中でも特徴的な骨・さらに、国家試験で問われやすい部位この３つを軸に整理していきます。骨学は範囲が広いため、すべてを一度に理解しようとすると、どうしても曖昧になります。今日は、あらかじめ指定した範囲だけに集中します。横に広げるのではなく、「ここは確実に説明できる」という状態を作ることが目的です。量を増やすことよりも、確実に理解し、正確に説明できることを意識してください。

骨を見るときの基本視点

まずは「どこを見るか」をそろえます。

- 骨の向き（前後・左右）
- 特徴的な突起・窪み
- 他の骨との位置関係

骨学では、どこを見るかの視点がそろっていないと混乱します。
まずはこの3点を必ず確認する癖をつけましょう。



76

では、「骨を見るときの基本視点」を確認します。まず大切なのは、どこを見るかを全員でそろえることです。骨学で混乱する原因の多くは、見るポイントが人によってバラバラなことにあります。今日そろえるのは、この３つです。1つ目、骨の向き。前後・左右をまず確認します。向きを間違えると、その後の理解はすべてずれてしまいます。2つ目、特徴的な突起やくぼみ。出っ張りやへこみは、名称問題や機能理解の鍵になります。3つ目、他の骨との位置関係。単体で覚えるのではなく、「どの骨とどうつながるか」を必ず意識します。骨学では、見る視点がそろっていないと混乱します。まずは毎回、この3点を確認する癖をつけましょう。見る順番を固定することが、正確な理解への第一歩です。

骨学まとめシートを作る

要点を一枚に整理します。

- ■ 頻出ポイントの整理
- ■ 見分けのポイント
- ■ 混同注意点の記載

後で見返したときに、「ここを見れば思い出せる」形を意識してください。

77

では、「骨学まとめシート」を作っていきます。目的は、要点を一枚に整理することです。情報を増やすのではなく、「ここだけは押さえる」という形にまとめます。整理するポイントは３つです。1つ目、頻出ポイントの整理。国家試験で繰り返し問われる部分を明確にします。2つ目、見分けのポイント。似ている骨との違いを一言で説明できる形にします。3つ目、混同しやすい注意点。自分が間違えやすいところを、あえて書き出します。まとめシートは、あとで見返したときに「ここを見れば思い出せる」形になっていることが大切です。完璧な資料を作る必要はありません。思い出すための地図を作るという意識でまとめていきましょう。

各学年の役割

２年生の役割	１年生の役割
理解のズレを早めに修正します。 • 混同しやすい点を示す • 言葉の使い方を整える • 根拠教材に戻す支援 2年生は、「ここは間違えやすい」というポイントを共有してください。	**自分で説明して理解を確認します。** • 骨の特徴を言葉にする • 分からない点を質問する • 曖昧なままにしない 1年生は、理解したつもりで進まないことが大切です。

78

ここで、もう一度「各学年の役割」を確認します。まず、2年生の役割です。役目は、理解のズレを早めに修正することです。・混同しやすい点を示す・言葉の使い方を整える・根拠となる教材に戻す答えを与えるのではなく、「ここは間違えやすいよ」と方向を示してください。正しさに戻すサポートが役割です。次に、1年生の役割です。自分で説明して、理解を確認します。・骨の特徴を言葉にする・分からない点は質問する・曖昧なまま進めない大切なのは、「分かったつもり」で終わらないことです。2年生は支える立場、1年生は言葉にする立場。それぞれの役割を意識して、学びの質を高めていきましょう。

骨学まとめシート（1/2）

項目	内容
対象となる骨・部位	骨名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 範囲（例：近位部・遠位部・関節面）：＿＿＿＿＿＿
骨の向き・位置関係	上・下：＿＿＿＿＿＿＿＿ 前・後：＿＿＿＿＿＿＿＿ 内・外：＿＿＿＿＿＿＿＿ 右・左（左右差がある場合）：＿＿＿＿＿＿
特徴的な骨指標・ランドマーク	骨指標名①：＿＿＿＿＿＿＿＿ 特徴・位置：＿＿＿＿＿＿＿＿ 骨指標名②：＿＿＿＿＿＿＿＿ 特徴・位置：＿＿＿＿＿＿＿＿ ※必要に応じて追加

骨学まとめシート（2/2）

項目	内容
他の骨・関節との関係	関節をつくる骨：＿＿＿＿＿＿＿＿ 近くにある重要な骨・構造：＿＿＿＿＿＿＿＿
混同しやすいポイント	混同しやすい骨・部位：＿＿＿＿＿＿＿＿ 間違えやすい理由：＿＿＿＿＿＿＿＿ 見分けるポイント：＿＿＿＿＿＿＿＿
参照教材	使用教材：□ 骨模型 □ 図譜 □ 教科書 □ その他 教材名・ページ：＿＿＿＿＿＿＿＿

80

今日のまとめ

頻出ポイントを整理できました。

- 重要な骨の特徴
- 見る視点がそろった
- 正確さへの意識が高まった



今日扱ったポイントは、今後何度も出てきます。
今日の整理を、次回以降も使っていきましょう。

81

それでは、今日のまとめです。今日は、骨学の頻出ポイントを整理しました。まず、重要な骨の特徴を押さえました。ただ名前を覚えるのではなく、「どこが特徴なのか」を言葉で確認しましたね。次に、骨を見るときの視点をそろえました。向き、突起やくぼみ、位置関係。見るポイントが統一されると、混乱が減ります。そして何より、正確さを意識する姿勢が高まりました。今日扱ったポイントは、これから何度も出てきます。一度きりで終わらせず、今日の整理を、次回以降も使い続けてください。積み重ねが、確実な得点につながります。

今日の振り返り

- 理解がはっきりしたポイント
- 曖昧さに気づいたポイント
- 混同しやすいと感じたところ
- 言葉で説明してみて分かったこと
- 次回に向けて一言



それでは、今日の振り返りを行います。まず、理解がはっきりしたポイントは何でしょうか。「ここは自信を持って説明できる」と思えた部分を思い出してください。次に、曖昧さに気づいたポイントです。分かったつもりだったけれど、言葉にすると止まったところはありませんか。そして、混同しやすいと感じたところ。似ている構造や名称、左右や向きの判断など、迷った部分を整理しましょう。さらに、実際に言葉で説明してみて分かったこと。説明することで、理解が深まった点や、逆に抜けに気づいた点があったはずです。最後に、次回に向けて一言。「ここをもう一度確認する」「次はもっと正確に説明する」など、具体的な目標を持ちましょう。振り返りは、理解を定着させる時間です。今日の気づきを、次回につなげていきましょう。

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
理解がはっきりしたポイント	
曖昧さに気づいたポイント	
混同しやすいと感じたところ	
言葉で説明してみて分かったこと	
次回に向けての一言	

83

次回は、
口頭試問の
答え方の練習に入ります。



84

次回からは、口頭試問の答え方の練習に入ります。これまでは、骨学の重要ポイントを整理し、正確に理解することに集中してきました。次は、それを「言葉で正しく答える力」に変えていきます。口頭試問では、・短く・正確に・順序立てて答えることが求められます。知っているだけでは不十分です。相手に伝わる形で説明できて、初めて得点につながります。これまで整理してきた頻出ポイントが、そのまま武器になります。次回は、それを実践形式で練習していきましょう。

第７回

口頭試問①
（答え方の型）

85

第7回は、口頭試問①「答え方の型」です。これまで整理してきた骨学の知識を、いよいよ「試験で使える形」にしていきます。口頭試問では、知っているかどうか以上に、どう答えるかが評価されます。・結論から言う・順序立てて説明する・専門用語を正しく使うこの「型」を身につけることで、同じ知識でも得点力が大きく変わります。今日は、答え方の基本パターンを確認し、実践につなげていきましょう。

短く正確に答える力を身につける

「分かっている」を、言葉で示す。



- 口頭試問対策（基本フェーズ）
- 答え方の「型」を学ぶ
- 正確さ＋時間を意識

今日は、骨学の内容を「どう答えるか」に取り組みます。
知っているだけでなく、短く正確に言えることが目標です。

86

ここからは、短く正確に答える力を身につけていきます。口頭試問では、「分かっているつもり」ではなく、分かっていることを言葉で示せるかが評価されます。今日の位置づけは、口頭試問対策の基本フェーズです。まずは、答え方の「型」を学びます。・結論を先に言う・必要な特徴を押さえる・余計な説明を広げすぎないそしてもう一つ大切なのは、正確さと時間の意識です。長く話せば良いわけではありません。短く、的確に、専門用語を使って答えること。今日は、骨学の内容そのものではなく、「どう答えるか」に集中します。知識を、“使える形”に変えていきましょう。

なぜ口頭試問を行うのか

理解の曖昧さは、声に出すと分かります。



- 暗記と理解の違いが分かる
- 曖昧な点が可視化される
- 国試・臨床の説明力につながる

声に出して答えてみると、「分かったつもり」がすぐに見えてきます。
それに気づくことが、今日の一番の価値です。

87

では、なぜ口頭試問を行うのでしょうか。理解の曖昧さは、頭の中では気づきにくいものです。しかし、声に出した瞬間に明らかになります。まず、暗記と理解の違いがはっきりします。丸暗記は止まりやすく、言葉がつながりません。本当に理解していれば、自分の言葉で説明できます。次に、曖昧な点が可視化されます。「あれ、どう言えばいいんだろう？」その詰まりこそが、学習の伸びしろです。そして、これは国試だけでなく、将来の臨床での説明力にも直結します。患者さんや他職種に説明できる力は、今ここで養います。声に出してみると、「分かったつもり」がすぐに見えてきます。それに気づけること。それが、今日の一番の価値です。

今日のゴール

完璧さより「型」を身につける。



- 20～30秒で答えられた
- 答える順番を意識できた
- どこが曖昧か分かった

今日は満点を取る回ではありません。
「この順番で答えればいいんだ」と分かれば十分です。

88

では、今日のゴールを確認します。今日の目的は、完璧になることではありません。大事なのは、「答え方の型」を身につけることです。まず一つ目。20～30秒で答えられたか。長く話すのではなく、必要なことを短くまとめられたかを意識します。二つ目。答える順番を意識できたか。いきなり細かい話に入らず、全体 → 特徴 → 補足、という流れを守れたかを確認します。三つ目。どこが曖昧か分かったか。詰まった部分こそ、今日の収穫です。今日は満点を取る回ではありません。「この順番で答えればいいんだ」と分かれば、それで十分です。型ができれば、あとは中身を磨くだけです。今日はその土台をつくりましょう。

口頭試問の基本構造

答え方には型があります。

- 結論（何の話か）
- 理由・位置関係
- 補足（特徴・注意点）



いきなり細かい説明から入らず、
まず「何についての話か」を伝えることが大切です。

89

ここから、口頭試問の基本構造を確認します。答え方には「型」があります。思いつきで話すのではなく、順番を守ることが重要です。まず一つ目、結論。「何の話か」を最初に伝えます。相手にテーマを示すことが第一歩です。二つ目、理由・位置関係。なぜそう言えるのか。どこにあって、何とどう関係しているのか。ここで理解の深さが分かれます。三つ目、補足。特徴や注意点、混同しやすいポイントを簡潔に付け加えます。いきなり細かい説明から入らないこと。まず「何についての話か」をはっきりさせる。この順番を守るだけで、答えは格段に整理されます。今日から、この型を意識して話していきましょう。

20～30秒の時間感覚

長すぎても、短すぎても伝わりません。

- 目安は20～30秒
- 話しすぎない
- 必要最小限を選ぶ

国試の口頭試問では、だらだら話すと評価されません。
「何を言わないか」を選ぶことも重要です。

90

ここでは、20～30秒の時間感覚を身につけます。長すぎても、短すぎても伝わりません。目安は20～30秒です。まず意識することは三つ。一つ目、20～30秒に収めること。ダラダラ続けない。二つ目、話しすぎないこと。知っていることを全部言う必要はありません。三つ目、必要最小限を選ぶこと。「何を言うか」だけでなく、「何を言わないか」を選ぶ力が重要です。国試の口頭試問では、整理されていない長い説明は評価されません。短く、正確に、順番どおりに。この時間感覚を、今日から意識していきましょう。

各学年の役割

２年生の役割 （試験官役）	１年生の役割 （受験者役）
評価ではなく、確認役です。 • 質問を出す • 正確さを確認 • 答え方の型をフィードバック 答え方のどこが良くて、どこを直せばよいかを伝えてください。	**途中で止まっても大丈夫です。** • 型を意識して答える • 詰まったら言い直す • 分からない所を自覚する 詰まっても、途中で止まっても問題ありません。 「どこで止まったか」を自覚することが大切です。

91

ここでは、各学年の役割を確認します。まず2年生。今日は試験官役ですが、評価者ではありません。役割は「確認」です。・質問を出す・正確さを確認する・答え方の型をフィードバックするどこが良かったのか。どこを直せばもっと良くなるのか。具体的に伝えてください。次に1年生。今日は受験者役です。途中で止まっても大丈夫です。大切なのは、・型を意識して答えること・詰まったら言い直すこと・分からない所を自覚すること完璧に言うことが目的ではありません。「どこで止まったか」に気づくことが、成長につながります。お互いに、確認と練習の場として取り組みましょう。

口頭試問の進め方

短いサイクルで回します。

- 1人1問ずつ
- 2年生が質問し、1年生が回答
- その後、2年生からフィードバック
- 質問 → 回答 → フィードバック
- 口頭試問ログシートに記録



1問ずつ、テンポよく進めます。回答時を測りましょう。
答えた内容とフィードバックは、必ずログに残してください。

92

それでは、口頭試問の進め方を確認します。質問は1人1問ずつで行います。2年生が質問し、1年生が回答する流れです。1年生が回答した後に、2年生は1年生に回答についてのフィードバックをしてください。つまり、２年生の質問、1年生の回答、２年生によるフィードバックという流れです。テンポよく進め、質問に対する回答時間も測りましょう。最後に、答えた内容とフィーバックは、口頭試問ログシートに記録して残しておきましょう。

今日のまとめ

答え方の土台ができました。

- 型を意識できた
- 曖昧な点が分かった
- 練習すれば伸びる感覚を得た



今日感じた「難しさ」は、練習で必ず改善できます。
答え方の型を、これからも使っていきましょう。

93

今日のまとめです。今日は、答え方の土台を作りました。まず、答えには「型」があることを学びました。そして、実際に声に出してみることで、自分の曖昧な点にも気づけました。さらに、「練習すれば伸びる」という感覚を持てたことが、今日の大きな成果です。今日感じた難しさは、才能の問題ではありません。練習量の問題です。これからも、結論 → 理由 → 補足この型を意識して、繰り返し使っていきましょう。型が安定すれば、内容は必ず乗ってきます。次回も、この土台の上に積み重ねていきます。

93

口頭試問ログ（1/2）

項目	内容
出題内容	出題テーマ（骨名・部位）： 出題形式：　□ 位置関係　□ 骨指標　□ 関節・運動 □ その他（　　）
自分の回答	実際に話した内容を要点で書く 回答メモ： 回答時間：　□ 20秒以内　□ 20〜30秒　□ 30秒超
2年生からのフィードバック	良かった点： 修正ポイント：

94

94

口頭試問ログ（2/2）

項目	内容
言い直し	※フィードバックを踏まえて再回答 修正版メモ：
自己チェック	結論から答えられた　□ はい ／ □ まだ 位置関係を言えた　□ はい ／ □ まだ 用語は正確だった　□ はい ／ □ まだ 時間内に収まった　□ はい ／ □ まだ
気づき・次回への改善点	次に意識したいこと：

95

95

今日の振り返り

- 口頭で「答える立場」になって感じたこと
- 答えるときに自分がやりがちな癖
- 「型」を意識してみて気づいたこと
- 今後、意識したいこと
- 次回に向けて一言



では、今日の振り返りです。今日は「聞く側」ではなく、実際に口頭で答える立場になってもらいました。まず考えてみてください。口頭で「答える立場」になって、何を感じましたか？思ったより緊張しましたか？それとも、意外と話せましたか？次に、答えるときに自分がやりがちな癖はありませんでしたか？・いきなり細かい説明から入ってしまう・話が長くなる・結論が後回しになる・曖昧なまま話してしまうこうした癖に「気づけた」こと自体が、大きな成長です。そして、「型」を意識してみてどうでしたか？結論 → 理由 → 補足この順番を意識するだけで、頭の中が整理される感覚はありませんでしたか？完璧でなくて大丈夫です。大切なのは、「型に戻る」という意識です。では最後に、今後、何を意識していきたいですか？そして、次回に向けて一言。今日の振り返りを、次の一歩につなげましょう。

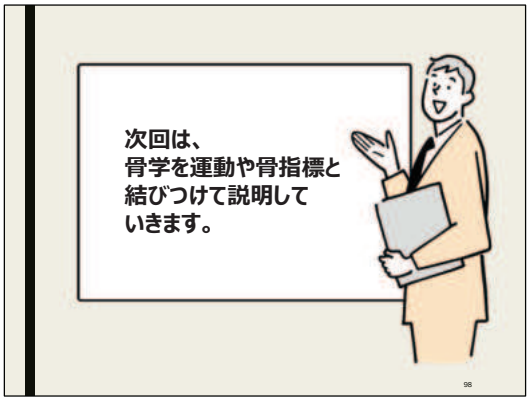
96

振り返りシート

項目	内容
口頭で「答える立場」になって感じたこと	
答えるときに自分がやりがちな癖	
「型」を意識してみて気づいたこと	
今後、意識したいこと	
次回に向けての一言	

97

97



98

最後に、次回の予告です。次回は、骨学を「運動」や「骨指標」と結びつけて説明する練習に入ります。これまでは、「骨の形」「特徴」「位置関係」を整理してきました。次のステップは――それを“動き”とつなげることです。例えば、・この骨がどう動くのか・どの筋が関わるのか・どの骨指標を触れれば確認できるのか単に名前を言えるだけではなく、臨床や評価につながる説明ができるようにしていきます。骨は「形」で覚える段階から、「機能」と結びついた理解へ進みます。今日までの整理が、次回の土台になります。骨を「立体」として、そして「動く構造」として説明できるようにしていきましょう。次回も、実践的に取り組んでいきます。

98

第８回

骨学②
（統合：骨×運動×骨指標）

99

第8回に入ります。今回は骨学② ― 統合：骨 × 運動 × 骨指標 です。これまで私たちは、・骨の形・頻出ポイント・答え方の型を整理してきました。今日はそこから一段階進みます。骨を「単体」で覚えるのではなく、運動と結びつける。さらに、触診できる骨指標と結びつける。つまり、▶どの骨が▶ どの方向に動き▶ どこを触れば確認できるのかここまで一つの流れで説明できることを目指します。国家試験だけでなく、臨床で本当に使える骨学にしていきます。今日は「統合」の回です。知識をバラバラにせず、一本の線でつなげていきましょう。

99

骨を「動き」と結びつけて理解する

骨は、動くために形があります。



- 口頭試問対策（統合フェーズ）
- 骨・骨指標・関節運動を関連づける
- 説明の精度を高める

今日は、骨の名前や位置だけでなく、
「なぜこの形なのか」「どんな動きと関係するのか」を考えます。
骨学を一段深く理解する回です。

100

ここからは、骨を「動き」と結びつけて理解する段階に入ります。骨は、ただ存在しているわけではありません。動くために、その形があります。丸いのか、平らなのか。出っ張っているのか、へこんでいるのか。それはすべて、関節運動と関係しています。今日は統合フェーズです。・骨・骨指標・関節運動この3つをバラバラに覚えるのではなく、一つのストーリーとして説明できることを目指します。「なぜこの形なのか」「どんな動きと関係するのか」ここまで言えるようになると、暗記ではなく理解になります。今日は、骨学を一段深くする回です。

100

なぜ「骨×運動」で考えるのか

つながると、忘れにくくなります。



- 丸暗記になりにくい
- 口頭試問で説明しやすい
- 臨床イメージにつながる

骨を単体で覚えると、すぐに混乱します。
運動や関節と結びつけることで、理解が安定します。

101

では、なぜ「骨×運動」で考えるのでしょうか。理由はシンプルです。つながると、忘れにくくなるからです。骨を単体で覚えると、形・名前・位置がバラバラになり、すぐに混乱します。しかし、・どんな関節をつくるのか・どんな動きを生むのか・どんな骨指標が関係するのかここまで結びつけると、理解が一本の線になります。すると――丸暗記になりにくい。口頭試問で説明しやすい。臨床の動きのイメージにつながる。骨は、動くための構造です。単なる名称暗記ではなく、「なぜこの形か」を語れる理解を目指しましょう。

今日扱う視点

3つをセットで考えます。



- 骨の形・位置
- 骨指標（ランドマーク）
- 関節運動（ROM）

今日は、この3つを常にセットで確認してください。
どれか1つが抜けると、説明が弱くなります。

102

では、今日扱う視点を確認します。今日は 3つをセットで考えます。1つずつではなく、必ず3点セットで整理することがポイントです。1つ目は、骨の形・位置。どこにあり、どういう形をしているのか。2つ目は、骨指標（ランドマーク）。触れられる突起や窪み、筋の付着部、関節面など、説明の根拠になる部分です。3つ目は、関節運動（ROM）。その骨は、どんな動きに関与するのか。屈曲なのか、外転なのか、回旋なのか。この3つがそろって、初めて説明が完成します。どれか1つでも抜けると、「知っているけれど弱い説明」になります。今日からは、形・ランドマーク・運動を必ずセットで確認する習慣をつけていきましょう。

骨指標に注目する

動きのヒントは、骨指標にあります。



- 筋・靭帯の付着部
- 動きの支点・制限
- 国試頻出ポイント

骨指標は、ただの名称ではありません。
「ここに付くから、こう動く」という視点で見てみましょう。

103

今日は、骨指標に注目します。動きのヒントは、骨指標にあります。骨指標というと、つい「名前を覚えるもの」と思いがちですが、それだけでは不十分です。まず一つ目。筋や靭帯の付着部。「ここに付くから、この方向に引かれる」という視点で見てください。二つ目。動きの支点や制限になる場所。出っ張りや関節面の形が、運動方向や可動域を決めています。三つ目。国試の頻出ポイント。臨床や機能と結びつけて問われます。骨指標は、ただの名称ではありません。「ここに付くから、こう動く」この因果関係で考えることが、理解を深め、説明力を高めます。

関節運動と結びつける

動きをイメージしながら確認します。



- 関節の種類
- 主な運動方向
- 制限される動き

模型や自分の体を使って、実際に「どの方向に動くか」
を確認しながら進めてください。

104

ここでは、関節運動と結びつけて考えます。骨を見たら、必ず「この関節はどう動くのか？」と考えてください。まず一つ目、関節の種類。蝶番関節なのか、球関節なのか。構造によって、できる動きは決まります。二つ目、主な運動方向。屈曲・伸展なのか、外転・内転なのか。まず"基本の動き"を押さえましょう。三つ目、制限される動き。靭帯や骨の形状が、どの方向を止めるのか。ここが説明の差になります。模型や自分の体を使って、実際に動かしながら確認してください。「どの方向に動くのか」をイメージできることが、理解の安定につながります。

各学年の役割

2年生の役割（総合支援）	1年生の役割（説明チャレンジ）
つながりを言葉にします。	**つなげて説明してみます。**
• 骨と運動の関係を補足	• 骨指標と運動を結びつける
• 説明の抜けを指摘	• 短く説明してみる
• 混同ポイントを共有	• 分からない点を言語化
2年生は、「骨→運動→意味」のつながりを補足してください。	「この骨指標があるから、この動きに関係する」と言ってみてください。

105

ここからは、各学年の役割を確認します。まず、2年生の役割です。皆さんは「総合支援」です。つながりを言葉にしてください。骨と運動の関係を補足する。説明の抜けを指摘する。混同しやすいポイントを共有する。大事なのは、「骨 → 運動 → 意味」 の流れを整えることです。次に、1年生の役割です。今日は「説明チャレンジ」です。骨指標と運動を結びつけて、まずは短く説明してみましょう。完璧でなくて大丈夫です。分からない点は、そのまま言語化してください。「この骨指標があるから、この動きに関係する」この一文を意識してみてください。2年生は支え、1年生は挑戦する。この役割で、理解を一段深めていきましょう。

105

ミニ口頭試問（統合編）

説明の質を確認します。

- 1人1問
- 骨＋骨指標＋運動
- 20〜30秒で回答



ここで、短い口頭試問を行います。
前回の「型」を意識しながら、統合的に答えてみましょう。

106

ここからは、ミニ口頭試問（統合編）を行います。今日は、説明の「質」を確認します。1人1問です。テーマは、骨＋骨指標＋運動。必ずこの3つをセットで入れてください。答える時間は、20〜30秒。長く話す必要はありません。むしろ、必要最小限でまとめることが大切です。ポイントは、前回までの「型」です。まず結論。何の骨で、どの運動と関係するのかを先に示します。次に理由。その骨指標があるから、なぜその動きに関係するのか。最後に補足。関節の種類や制限される動きなどを一言添えられると、説明の質が上がります。丸暗記ではなく、「つなげて話せているか」を意識してください。では、始めましょう。

106

今日のまとめ

骨学が「使える知識」になりました。

- 骨と運動がつながった
- 説明に厚みが出た
- 国試・臨床に近づいた



今日の理解は、そのまま国試対策につながります。
骨学が「説明できる知識」になってきています。

107

今日のまとめです。今日は、骨学が「覚える知識」から「使える知識」に変わりました。骨と運動がつながりましたね。骨の形や骨指標を見たときに、「だからこの動きに関係する」と考えられるようになりました。その結果、説明に厚みが出てきました。名前を並べるだけでなく、理由をつけて話せるようになっています。これは、そのまま国試対策につながります。さらに、臨床で患者さんを評価するときの視点にも近づいています。今日の理解は、すでに「説明できる知識」になっています。この感覚を忘れず、これからも骨と運動をセットで考えていきましょう。

107

骨指標チェックシート（1/2）

項目	内容
骨・関節の特定	骨名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 関連関節：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 参照教材：□ 骨模型 □ 図譜 □ 教科書（＿＿頁）

	骨指標名	位置の説明（上下・前後・内外・左右）	関連する構造（筋・靭帯・関節）	自信
1				○／△
2				○／△
3				○／△
4				○／△
5				○／△

108

108

骨指標チェックシート（2/2）

項目	内容
動きとの関連	この骨指標が関係する主な運動：＿＿＿＿＿＿ その理由（なぜその動きと関係するか）：＿＿＿＿＿＿
混同チェック	※ 間違えやすい点を明確化 混同しやすい骨指標：＿＿＿＿＿＿ 混同する理由：＿＿＿＿＿＿ 見分ける決め手（1つ）：＿＿＿＿＿＿
30秒説明チャレンジ	※ 口頭試問直結 ＿＿＿＿＿＿ （結論 → 骨指標の位置 → 動きとの関係）
自己精度チェック	指標名を即答できる　□ はい ／ □ まだ 位置関係を言葉で言える □ はい ／ □ まだ 動きと結びつけて説明可 □ はい ／ □ まだ

109

109

今日の振り返り

- 今日「つながった」と感じたこと
- 単体では分かっていたが、結びついていなかった点
- 説明する視点で気づいたこと
- 今日の学びで「重要だ」と感じた視点
- 次回に向けて一言



それでは、今日の振り返りを行います。まず一つ目。今日「つながった」と感じたことは何でしょうか。骨と運動、骨指標と動き、形と意味。どの瞬間に「なるほど」と思えたかを思い出してみてください。二つ目。単体では分かっていたけれど、結びついていなかった点は何でしたか。名前は知っていた。位置も覚えていた。でも、「だからどう動くのか」までは考えていなかった部分があったはずです。三つ目。説明する視点で気づいたことは何でしょう。自分が分かっているつもりでも、いざ言葉にすると曖昧になる部分があったと思います。そこが、次の伸びしろです。四つ目。今日の学びで「重要だ」と感じた視点は何ですか。骨を“形”ではなく“機能”で見ること。骨指標を“目印”ではなく“意味のある構造”として捉えること。どの視点が自分にとって大きかったでしょうか。最後に、次回に向けて一言。「次はここを意識したい」「もっと短く説明できるようにしたい」小さくても構いません。今日の振り返りを言葉にすることで、学びはさらに定着します。ぜひ、自分の言葉でまとめてみてください。

110

振り返りシート

項目	内容
今日「つながった」と感じたこと	
単体では分かっていたが、結びついていなかった点	
今日の学びで「重要だ」と感じた視点	
今日の学びで「重要だ」と感じた視点	
次回に向けての一言	

111

111

次回は、
今日までの内容を使って、
繰り返し学べる教材を
作ります。



112

それでは、次回の内容です。次回は、今日までに学んできた内容を使って、繰り返し学べる教材を自分たちで作ります。ただ覚えるのではなく、「説明できる形」に整理し直します。骨の形、骨指標、関節運動。それぞれをつなげて、短く、分かりやすくまとめられるか。教材を作るということは、理解を“受け身”から“能動”に変えることです。作る過程そのものが、最高の復習になります。次回は、これまでの学びを総動員していきましょう。

112

第９回

かるた
（国試頻出で作成･反復）

113

第9回です。今回のテーマは「かるた（国試頻出で作成・反復）」です。これまで学んできた骨の形・骨指標・関節運動。それらを「説明できる知識」にしてきました。今回はさらに一歩進めます。国試でよく出るポイントを使って、自分たちで“かるた形式”の教材を作ります。なぜ、かるたなのか。・短く・要点だけで・反復できるこの3つが自然に身につくからです。国試は、知識量だけではなく、瞬時に引き出せるかどうかが問われます。作ることが復習。繰り返すことが定着。今日は、「覚える」から「使いこなす」へステップを進めます。それでは始めていきましょう。

反復できる教材をつくる

覚えるより、思い出せるようにします。

- 国試対策フェーズ
- かるたで反復学習
- 弱点の可視化

今日は、これまで学んできた内容を「かるた」という形にします。目的は暗記ではなく、自然に思い出せる状態をつくることです。

114

今日は、「反復できる教材をつくる」ことがテーマです。ポイントは、覚えることではありません。思い出せる状態にすることです。国試対策フェーズでは、知識の量よりも「引き出せるかどうか」が重要になります。そこで使うのが、かるた形式です。・短い問い・即答・何度も繰り返すことによって、自然に思い出せる回路を作ります。そしてもう一つ大事なのが、弱点の可視化です。取れない札、詰まる問い、説明があいまいになる部分。そこが、今の課題です。今日は、これまでの学びを「かるた」という形に変え、暗記ではなく、自然に思い出せる状態を目指します。それでは、作成に入っていきましょう。

なぜ「かるた」なのか

遊びながら、差が見えます。



- 反復しやすい
- 理解不足がすぐ分かる
- チームで学べる

かるたは、できている所とできていない所がすぐに表れます。間違えた札こそ、今日の一番の教材です。

115

では、なぜ「かるた」なのか。理由はシンプルです。遊びながら、差が見えるからです。まず、反復しやすい。机に向かって黙々と覚えるより、テンポよく何度も繰り返せます。次に、理解不足がすぐ分かる。取れない札、迷う札、説明できない札。そこが今の弱点です。そして、チームで学べる。人の説明を聞くことで、自分に抜けていた視点に気づけます。かるたは、できている所と、できていない所をはっきり映し出します。だからこそ、間違えた札こそ、今日一番の教材です。楽しみながら、自分の差を見つけていきましょう。

今日のゴール

弱点を見つけることが成果です。



- 国試頻出語句でかるたを作る
- 遊びを通じて記憶する
- 弱点を見つける

今日は「全部取れる」ことがゴールではありません。「取れなかった理由」が分かれば、十分な成果です。

116

今日のゴールを確認します。弱点を見つけることが成果です。まず、国試頻出語句でかるたを作ります。ただ覚えるのではなく、「説明できる形」にしていきます。そして、遊びを通して繰り返します。取れるかどうかよりも、迷った所に注目してください。今日の目的は、全部取れることではありません。取れなかった理由が分かれば、十分な成果です。なぜ迷ったのか。どこが曖昧だったのか。そこが、これから伸びるポイントです。弱点が見えたら成功。その視点で取り組んでいきましょう。

かるたの基本構成

読み札と取り札をセットで作ります。

- 読み札：短い説明文
- 取り札：用語・名称
- 1セット1テーマ
- 10セット以上

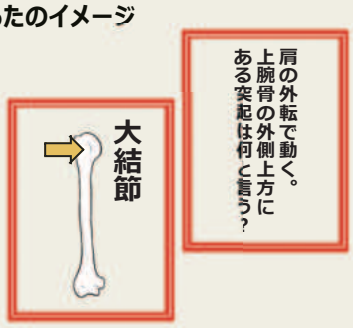


読み札は、説明台本の超要約版です。
聞いてすぐ分かるかどうかを意識してください。

117

ここからは、かるたの基本構成を確認します。かるたは、読み札と取り札をセットで作ります。読み札は、短い説明文です。いわば、説明台本の“超要約版”です。聞いてすぐ意味が分かるかどうかがポイントです。取り札は、用語や名称です。つまり、「答え」にあたるカードです。そして、1セット＝1テーマ。例えば、「骨＋骨指標＋運動」で1セット。これを10セット以上作ります。数を作ることで、自分が強い所と弱い所が見えてきます。大事なのは、難しい文章を書くことではありません。聞いて、すぐイメージできるか。その視点で、シンプルに、明確に作っていきましょう。

かるたのイメージ



118

これが、かるたの具体的なイメージです。右側が読み札。左側が取り札です。読み札には、短い説明文や問いを書きます。例えば、「肩の外転で動く。上腕骨の外側上方にある突起は何と言う？」このように、骨＋骨指標＋運動をつなげた文章にします。そして取り札には、答えとなる名称を書きます。この場合は、大結節ですね。ポイントは、単に「大結節とは何か」と問わないこと。「どの動きと関係するのか」「どこにあるのか」を一緒に問うことで、知識が“単語”ではなく“使える説明”になります。かるたは、覚えたかどうかを試す道具ではありません。つながっているかを確認する道具です。このイメージで、自分たちのオリジナルかるたを作っていきましょう。

かるた作成のポイント

読み札は、短く、正確な文で。

- 20～30字程度
- 位置関係・特徴を含める
- 曖昧な表現は使わない



「これを聞けば思い出せる」一文を目指しましょう。

119

では、かるた作成のポイントを確認します。まず大前提です。読み札は、短く、正確な文で書くこと。目安は、20～30字程度。長すぎると覚えにくく、短すぎるとヒントが足りません。次に、位置関係や特徴を必ず含めること。「どこにあるのか」「どの動きと関係するのか」「何が特徴なのか」この要素が入ると、一気に“使える問題”になります。そして重要なのが、曖昧な表現は使わないこと。「近くにある」「だいたい上」「大きいほう」こういった表現はNGです。かるたは、自分の理解の甘さをそのまま映します。目指すのは、「これを聞けば思い出せる」一文。暗記用の文章ではなく、思い出すためのトリガーを作る意識で書いてください。この質が、復習効果を大きく左右します。

各学年の役割

2年生の役割（かるた添削）	1年生の役割（かるた作成）
正確性を最後に担保します	**かるたを作り、実施し、弱点を見つける**
• 読み札の内容確認 • 用語・位置関係のチェック • 混同ポイントの指摘	• 読み札・取り札を考える • 位置関係を言葉にする • 思い出せるかを基準に考える
2年生は、作り直させる役ではありません。「ここがズレやすい」と一言添えるだけで十分です。	取れなかった札・迷った札を必ずメモする

120

では、各学年の役割を確認します。まず、1年生の役割です。テーマは「かるたを作り、実施し、弱点を見つける」こと。・読み札・取り札を自分で考える・位置関係を言葉にする・“思い出せるかどうか”を基準にするここがポイントです。そして何より大事なのは、取れなかった札、迷った札を必ずメモすること。今日は全部取ることが目的ではありません。「どこが曖昧か」を発見することが成果です。次に、2年生の役割です。テーマは「正確性を最後に担保する」こと。・読み札の内容確認・用語や位置関係のチェック・混同しやすいポイントの指摘2年生は、作り直させる役ではありません。「ここがズレやすいよ」「その表現だと誤解しやすいね」この一言を添えるだけで十分です。1年生は“作って気づく側”。2年生は“精度を上げる側”。この役割分担があるから、チームでの学びが深まります。お互いの役割を意識して、質の高いかるたを作っていきましょう。

かるたを制作しよう



では、ここから実際にかるたを制作します。これまで学んできた内容を、「覚える知識」から「思い出せる知識」に変えていきましょう。まずはテーマを一つ決めます。国試で頻出の内容から選びましょう。次に、・取り札（用語・名称）を決める・読み札（短い説明文）を作るこの順番で進めてください。ポイントは、聞いてすぐ思い出せるかどうか。長くしすぎない。曖昧にしない。位置関係や特徴を必ず入れる。作って終わりではありません。実際に読み上げて、取り合ってみます。取れなかった札、迷った札こそ、今日一番の学びです。では、制作を始めましょう。

かるたをやってみる

かるたで遊んでみましょう。



- チーム内で実施
- テンポよく進める
- 取れなかった札に注目

完成したら、すぐにやってみましょう。
止まった札・迷った札が、そのまま弱点です。

では、実際にかるたをやってみましょう。作ったら、すぐに実施します。考え込まず、テンポよく進めてください。ルールはシンプルです。読み札を読み、思い出せたら素早く取る。大事なのは勝ち負けではありません。・止まった札・迷った札・間違えた札そこに注目してください。それが、今の自分の弱点です。完成して満足するのではなく、やって初めて意味があります。では、チームで始めましょう。

弱点を記録する

次につなげるために残します。



- 取れなかった札
- 迷った理由
- 覚え直すポイント

「なぜ取れなかったか」を言葉にしてください。
それが、第10回の総仕上げにつながります。

最後に、弱点を記録します。かるたは、やって終わりではありません。次につなげるために、「残す」ことが大切です。記録してほしいのは、３つです。まず、取れなかった札。どのテーマが弱いのかをはっきりさせます。次に、迷った理由。知識不足なのか、位置関係が曖昧なのか、言葉が思い出せなかったのか。原因まで考えます。そして、覚え直すポイント。どこをどう直せばいいのか、一言でまとめてください。特に大切なのは、「なぜ取れなかったのか」を言葉にすることです。曖昧なままにしない。ここまでできて、初めて弱点が武器になります。この振り返りが、第10回の総仕上げにつながります。

かるたをやってみよう



それでは、かるたをやってみましょう。今からは、実践です。頭で考えるだけでなく、実際に動いてみます。チームで輪になってください。読み手を一人決め、テンポよく進めます。大事なのは、速さよりも「気づき」です。取れなかった札、迷った札、一瞬止まった札。そこに、あなたの弱点があります。間違えることは問題ではありません。むしろ、間違えた瞬間が一番の学びです。楽しみながら、でも真剣に。さあ、始めましょう。

今日のまとめ

反復で理解が浮き彫りになりました。

- 思い出せた点
- 思い出せなかった点
- 次にやるべきこと



今日見えた弱点は、とても価値があります。
残り1回で、そこを重点的に整えていきましょう。

125

それでは、今日のまとめです。今日は「覚える」ではなく、反復することで、理解を浮き彫りにしました。かるたを通して、・思い出せた点・思い出せなかった点・自分の中で曖昧だった点が、はっきり見えたはずです。取れた札は、理解できている証拠。迷った札は、まだ整理が必要な部分。取れなかった札は、これから伸びる部分です。大事なのは、弱点が見えたこと自体が成果だということです。今日見えた弱点は、あなたの成長ポイントです。残り1回で、そこを重点的に整えていきましょう。今日の気づきを、必ず次につなげます。お疲れさまでした。

125

弱点リスト（1/2）

	用語・骨名・骨指標	どの場面で詰まったか	自信
1		かるた／口頭試問／説明	○／△
2		かるた／口頭試問／説明	○／△
3		かるた／口頭試問／説明	○／△
4		かるた／口頭試問／説明	○／△
5		かるた／口頭試問／説明	○／△

126

126

弱点リスト（2/2）

項目	内容
なぜ弱点になったか	理由（該当するものに○） □ 名前と位置が結びついていない □ 位置関係（前後・内外・左右）が曖昧 □ 似た用語と混同した □ 動き・関節と結びついていない □ 説明の順番が分からない □ その他（＿＿＿＿＿＿）
正しく整理し直す	正しい位置・特徴（簡潔に）＿＿＿＿＿＿ 見分ける決め手（1つ）＿＿＿＿＿＿
30秒で言い直すとしたら	※ 口頭試問直結 ＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿ （結論 → 骨指標の位置 → 動きとの関係）

127

127

今日の振り返り

- 取れた理由
- 取れなかった理由
- 次回への準備
- 次回に向け一言



それでは、今日の振り返りを行います。まずは、なぜ取れたのか。たまたまではなく、どの知識がつながっていたのかを言葉にしてください。次に、なぜ取れなかったのか。知識不足なのか。位置関係が曖昧だったのか。説明が思い出せなかったのか。原因を具体的に考えましょう。そして、次回への準備。今日見えた弱点を、どのように整えるのかを決めてください。最後に、次回に向けて一言。「ここを必ず仕上げる」そんな宣言ができれば十分です。振り返りが、次の成長をつくります。

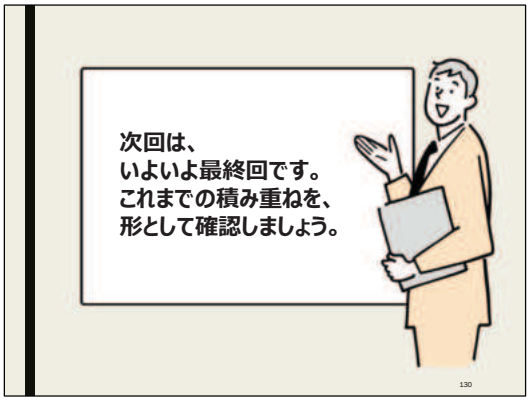
128

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
取れた理由	
取れなかった理由	
次回への準備	
次回に向けての一言	

129

129



130

次回はいよいよ最終回です。ここまで積み重ねてきた内容を、ただ思い出すのではなく、「形」として確認します。知識がつながっているか。説明できる状態になっているか。弱点は整理できているか。最後は、自分の現在地をはっきりさせる回です。これまでの努力を、確かな成果として確認しましょう。

130

第10回

総仕上げ
（かるた大会＋口頭試問②）

131

第10回、いよいよ総仕上げです。今日はかるた大会と口頭試問②を行います。これまで積み重ねてきた知識を、「思い出せるか」「説明できるか」で確認します。かるたでは、瞬時に思い出せるか。口頭試問では、構造的に説明できるか。ここが最終チェックです。できる・できないをはっきりさせ、自信を持って次のステージへ進みましょう。

131

学びを総仕上げし、成果を確かめる

ここまでの積み重ねを、形にします。

- 最終回
- かるた大会
- 最終口頭試問

今日は最終回です。
ここまでやってきたことを、かるたと口頭試問で確認します。
評価よりも「成長の確認」を大切にします。

132

今日は最終回です。ここまで積み重ねてきた学びを、いよいよ形にします。行うのはかるた大会、そして最終口頭試問です。目的は「評価」ではありません。自分がどれだけ成長したかを確認することです。思い出せるか。説明できるか。つながっているか。この3点を意識しながら、これまでの積み重ねを確かめていきましょう。

132

今日のゴール

できるようになったことを自覚する。

- 思い出せる項目が増えた
- 安定して説明できた
- 弱点を言葉で言えた



今日は新しいことは増やしません。
「できるようになったこと」を、はっきりさせる回です。

133

今日のゴールは、「できるようになったこと」を自覚することです。思い出せる項目は、確実に増えています。説明も、以前より安定してきています。そして、弱点も自分の言葉で言えるようになりました。今日は新しい知識は増やしません。これまで積み重ねてきたことを、「自分はここまでできる」と、はっきりさせる回です。成長を確認しながら、自信を持って締めくくりましょう。

133

全体の流れ

前半、後半で進めます。

- 前半：かるた大会
- 後半：最終口頭試問
- 最後：振り返り・共有



前半はかるたでウォームアップ、
後半は口頭試問で仕上げます。

134

今日は、この流れで進めます。前半と後半に分けて取り組みます。まず前半は、かるた大会です。ここでしっかり思い出し、頭と体を温めます。後半は、最終口頭試問。一人ずつ、説明できるかを確認します。そして最後に、振り返りと共有。できたこと、課題、次につなげるポイントを整理します。前半でウォームアップ、後半で仕上げ。これまでの積み重ねを、形にしていきましょう。

134

かるた大会の目的

勝敗より、知識の定着を確認します。

- 記憶の最終確認
- 迷いが減っているか
- 弱点が減ったか



かるた大会は、勝ち負けを競う場ではありません。
「前より迷わなくなったか」を感じてください。

135

ここからは、かるた大会です。目的は、勝つことではありません。知識がどれだけ定着しているかを確認することです。今日見るポイントは三つです。一つ目、記憶の最終確認。二つ目、迷いが減っているか。三つ目、弱点が減ったか。かるた大会は、勝ち負けを競う場ではありません。「前より迷わなくなったか」を感じてください。自分の成長を、確かめる時間にしましょう。

135

かるた大会の進め方

- 2チーム対抗戦（1,2年生混成）
- 読みは相手チームが行う
- 読むのは２年生、取るのは１年生
- 取れなかった札を記録

テンポよく進めていきます。
取れなかった札は、その場でメモしておきましょう。

136

それでは、かるた大会の進め方を説明します。まず、2チーム対抗戦です。1年生と2年生を混ぜたチームで行います。読みは、相手チームが担当します。そして、読むのは2年生、取るのは1年生です。2年生は、正確に読み上げること。1年生は、思い出して素早く取ることを意識してください。取れなかった札は、そのままにしません。必ずその場でメモを取りましょう。今日は勝敗よりも、「どこで止まったか」「どこで迷ったか」が大切です。テンポよく進めます。集中して、楽しみながら取り組みましょう。

136

かるた大会スタート



137

それでは――かるた大会、スタートします。まずは深呼吸。楽しみながら、全力でいきましょう。読む人は、はっきり・ゆっくり・正確に。取る人は、最後まで聞いてから動きます。迷っても大丈夫です。止まった札こそ、今日の宝です。勝ち負けよりも、「前より思い出せるか」に注目してください。では、1枚目いきます。準備はいいですか？――スタート！

弱点リストを確認する

残り時間は、復習に使います。

- 第9回の弱点リストを確認
- 修正できた点の洗い出し
- まだ不安な点の洗い出し

第9回で作った弱点リストを見返してください。
「もう大丈夫」と言える項目が増えていればOKです。

138

それでは、弱点リストを確認します。残り時間は、新しいことを増やす時間ではありません。ここまでの復習に使います。まず、第9回で作った弱点リストを開いてください。一つひとつ見ながら、「もう大丈夫」と言えるものにチェックを入れていきましょう。次に、修正できた点を整理します。どこが改善できたのか、具体的に言葉にしてください。そして最後に、まだ少し不安が残る点を洗い出します。不安がゼロでなくても大丈夫です。「どこが不安か」をはっきりさせることが大切です。弱点が減っていれば、それは確実に前進しています。では、静かに確認を始めましょう。

最終口頭試問の位置づけ

完成度を確認します。

- 1人2問
- ２年生が質問し、１年生が回答
- 20～30秒
- 型＋正確さを重視



最終口頭試問では、「型を守って、安定して答えられるか」を見ます。

139

それでは、最終口頭試問の位置づけを確認します。ここでは、完成度を確認します。1人2問。2年生が質問し、1年生が回答します。時間は20～30秒です。大切なのは、速さよりも「型」と「正確さ」です。内容が分かっていても、型が崩れると不安定に見えます。逆に、型を守れていれば、落ち着いて見えます。今回見るのは、「型を守って、安定して答えられるか」です。知識があるかどうかだけでなく、安定して再現できるかを確認します。では、落ち着いて取り組みましょう。

各学年の役割

２年生の役割（最終試験官）	１年生の役割（最終チャレンジ）
評価ではなく、確認です。	**落ち着いて答えます。**
• 正確性の最終確認 • 一言フィードバック • 成長ポイントを伝える	• 結論から話す • 詰まったら言い直す • 型を信じる
2年生は、できていない点より「ここが良くなった」を必ず伝えてください。	これまでやってきた「型」を信じて答えてください。

140

では、各学年の役割を確認します。まず、2年生。今日は「最終試験官」です。ただし、評価ではありません。確認です。・正確に答えられているか・型が守れているか・前より成長しているかこの3点を見てください。そして必ず、「できていない点」よりも「ここが良くなった」を伝えてください。次に、1年生。今日は最終チャレンジです。大切なのは、落ち着くこと。・結論から話す・詰まったら言い直す・型を信じるこれまでやってきた「型」を信じてください。完璧でなくて構いません。安定して、型通りに話せればOKです。お互いに、成長を確認する時間にしましょう。

簡易ルーブリックで確認

成長を見える化します。



- 正確さ
- 説明の順序
- 安定感

点数ではなく、「最初よりどう変わったか」を見ていきます。

141

141

簡易ルーブリック（1/2）

評価観点と到達レベル

※ 各観点について、最も近いレベルに○をつける
※ 点数化せず、**段階評価のみ**で使用可能

	項目	レベル
1	骨学の理解・正確さ	3：骨・骨指標・位置関係を正確に説明できる 2：大枠は理解しているが、一部曖昧な点がある 1：用語や位置関係に混乱が残っている
2	説明力（口頭試問・発表）	3：結論から話し、20〜30秒で安定して説明できる 2：説明はできるが、順序や時間にばらつきがある 1：説明が途中で止まる、または要点が伝わらない
3	統合的理解（骨 × 運動 × 骨指標）	3：骨の形と運動・機能を結びつけて説明できる 2：一部は結びつくが、説明が断片的 1：骨を単体でしか捉えられていない

142

142

簡易ルーブリック（2/2）

	項目	レベル
4	協働・関わり方（屋根瓦式）	3：学年を越えて主体的に関わり、学びを支えた 2：指示があれば関わり、協働に参加していた 1：関わりが限定的で、受け身が多かった
5	学びの姿勢・振り返り	3：弱点を把握し、改善につなげようとしている 2：振り返りは行っているが、改善が曖昧 1：振り返りが表面的、または記載が少ない
6	総合所見（短文でOK）	できるようになったこと：＿＿＿＿ 今後の課題・伸ばしたい点：＿＿＿＿
7	本人コメント（自己評価）	自分が一番成長したと感じる点：＿＿＿＿
8	2年生コメント（任意）	コメント：＿＿＿＿

143

143

10回の学びを振り返る

ここまでの変化を言葉にします。

- 最初と比べてできるようになったこと
- 印象に残った学び方
- 今後に活かしたい点

最初の頃を思い出しながら、自分の変化を書いてみてください。

144

144

では最後に、10回の学びを振り返ります。ここまでの変化を、ぜひ言葉にしてみましょう。「なんとなく成長した」ではなく、具体的に振り返ることが大切です。まず一つ目。最初と比べて、できるようになったことは何ですか？思い出せる項目の数、説明の安定感、迷いの少なさ。小さな変化でも構いません。二つ目。印象に残っている学び方は何ですか？かるた、弱点リスト、口頭試問…。どの方法が、自分にとって効果的でしたか？三つ目。これから活かしたいことは何ですか？今回身につけた「型」や「振り返る力」を、次にどう使いますか？最初の頃の自分を思い出しながら、今の自分との違いを書いてみてください。変化に気づけること自体が、成長です。

協働学習で学んだこと

学年を越えて学ぶ意味。

- 教えると理解が深まる
- 支え合う学び
- 説明する力の重要性



この学び方は、就職後の現場にもつながります。
先輩・後輩として学ぶ感覚を、忘れないでください。

145

最後に、協働学習で学んだことを振り返ります。今回の学びは、学年を越えて取り組んできました。その意味は、とても大きいものです。まず一つ目。「教えると理解が深まる」ということ。説明する立場になることで、自分の曖昧さに気づき、理解がより確かなものになりました。二つ目。支え合う学び。一人で完璧を目指すのではなく、互いに補い合うことで、全体の力が高まります。三つ目。説明する力の重要性。分かっていることと、伝えられることは違います。言葉にできて初めて、本当に身についたと言えます。この学び方は、就職後の現場にもつながります。先輩になれば教える立場に、後輩になれば学ぶ立場になります。どちらの立場でも成長できる感覚を、忘れないでください。

145

今日の振り返り

- この授業で一番「できるようになったこと」
- 最初（第1回）と比べて変わったこと
- 印象に残っている学習場面
- この学びをこれからどう活かすか
- 一緒に学んだメンバーへ一言



それでは、今日の振り返りを行います。まず一つ目。この授業で一番「できるようになったこと」は何ですか。知識でも、説明の仕方でも、落ち着きでも構いません。自分の中で一番の成長を言葉にしてみましょう。二つ目。第1回と比べて、何が変わりましたか。最初は不安だったこと、うまくいかなかったことを思い出してください。今の自分と比べることで、変化がはっきり見えてきます。三つ目。印象に残っている学習場面は何ですか。かるた大会、口頭試問、仲間とのやり取り。どの場面が、自分を成長させましたか。四つ目。この学びを、これからどう活かしますか。授業で終わらせず、次の場面につなげることが大切です。最後に。一緒に学んだメンバーへ、一言メッセージを書いてみましょう。共に取り組んだからこそ、ここまで来られました。自分の成長と、仲間への感謝。その両方を、しっかり言葉にして締めくくりましょう。

146

振り返りシート

項目	内容
この授業で一番「できるようになったこと」	
最初（第1回）と比べて変わったこと	
印象に残っている学習場面	
この学びをこれからどう活かすか	
一緒に学んだメンバーへ一言	

147

147

10回、
本当によく取り組みました。
今日の自分を、
ぜひ誇ってください。



148

皆さん、全10回、本当にお疲れさまでした。ここまで継続して取り組んできたこと自体が、まず素晴らしい成果です。忙しい中でも時間をつくり、考え、実践し、振り返ってきました。今日の自分は、10回目の前の自分と同じでしょうか。きっと、視点や言葉の選び方、相手への向き合い方が、少しずつ変わっているはずです。成長は劇的な変化ではなく、こうした小さな積み重ねの中にあります。どうか今日の自分を、しっかりと認め、誇ってください。そして、この学びをこれからの現場で活かし続けていきましょう。本当に、よく取り組みました。ありがとうございました。

148

指導ガイド



協働学習

- 【講師】：OOOOOO
- 【日付】：yyyy年mm月dd日
- 【授業目標】：1年生と2年生が協力して学ぶことで、就職後に必要な先輩・後輩間のコミュニケーション力と、学習内容を説明できる力を育成する。

授業の概要

- **科目のねらい**
  １年生と２年生が協力して学ぶことで、就職後に必要な先輩・後輩間のコミュニケーション力と、学習内容を説明できる力（教える力／学び直す力）を育成する。あわせて、骨学を中心とした国試対策（口頭試問形式の練習・反復学習）につなげる。
- **到達目標**
  ① 学年混成チームで役割分担し、協力して活動を進められるようになる
  ② 既存の骨・臓器教材を根拠として、位置関係（上・下、前・後、内・外、右・左）を正確に説明できるようになる
  ③ 骨学の重要事項を整理し、口頭試問の形式で短く正確に答えられるようになる（国試対策）
- **実施形態**
  屋根瓦式（*2*年生が*1*年生を支援しながら学ぶ学年混成の協働学習）
- **授業時間（総時間）**
  90分（1.5時間）×10回

全体スケジュール①

第1回	オリエンテーション
第2回	2年生による学習紹介＋導入体験
第3回	協同制作①（正確理解→設計）
第4回	協同制作②（制作＋正確性チェック）
第5回	協同制作③（発表・交流まとめ）

全体スケジュール②

第6回	骨学①（頻出ポイント整理）
第7回	口頭試問①（答え方の型）
第8回	骨学②（統合：骨×運動×骨指標）
第9回	かるた（国試頻出で作成・反復）
第10回	総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

学習項目

項目	時間配分	概要
第1回	90分	講義
第2回	90分	2年生によるミニ発表
第3回	90分	協同制作
第4回	90分	協同制作
第5回	90分	協同制作
第6回	90分	口頭試問対策
第7回	90分	口頭試問対策
第8回	90分	口頭試問対策
第9回	90分	かるた制作
第10回	90分	かるた大会
合計	90分×10	

5

各回の指導ガイドの内容

- 指導目標
- 指導内容
- 成果物の制作における指導のポイント
- 成果物の評価方法とポイント
- グループワークの手順

6

第1回　オリエンテーション

■ 指導目標

- 協働学習の目的と意義を理解する
- 学年を超えて安心して関われる雰囲気をつくる
- チームで基本ルールを決め、スタートシートを完成させる

■ 指導内容

- 授業趣旨・目標説明
- アイスブレイク
- チームづくり
- 全体発表・振り返り

7

第1回　オリエンテーション

■ 成果物の制作における指導のポイント

- ルールは「行動レベル」で具体的に書かせる
- 抽象語のみで終わらせない
- 学年差を意識した内容にする
- 全員が意見を出すことを重視

■ 成果物の評価方法とポイント

- 数値評価は行わず、形成的評価とする
- 観点：主体性・具体性・協働性・目的理解
- 良い例を全体共有し、承認する

8

第1回　オリエンテーション

■ グループワークの手順

1. チーム編成（学年混成）
2. 自己紹介（短時間で全員発言）
3. 骨学への気持ち共有
4. チーム名決定
5. ルール3つ決定
6. シート記入
7. 発表
8. 振り返り

9

第2回　2年生による学習紹介＋導入体験

■ 指導目標

- 先輩の経験から学習の「見通し」を持つ
- 骨学学習への不安を言語化し、軽減する
- 学年混成で学ぶ意義を体感する

■ 指導内容

- 導入・本時の目的共有
- 2年生ミニ発表（学びの進め方、つまずきと克服）
- 質問タイム
- 導入体験
- ポイント整理・振り返り

10

第2回　2年生による学習紹介＋導入体験

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 2年生側
  - 成功談だけでなく「正直なつまずき」を書かせる
  - 行動レベルで具体化させる
  - 1年生へのメッセージを必ず含める
- 1年生側
  - 印象に残った点を具体的に書かせる
  - 自分に取り入れたい行動を明確にさせる
  - 気持ちの変化を言語化させる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 体験や行動が具体的か
- 気づきが言語化できているか
- 質問・対話への参加しているか

11

第2回　2年生による学習紹介＋導入体験

■ グループワークの手順

1. 2年生発表準備（簡潔に要点整理）
2. 2年生発表（学びの進め方／つまずき克服）
3. 1年生メモ取りグループ内
4. 質問タイム
5. 骨学導入体験（2年生は支援役）
6. 振り返り

12

第3回　協同制作①（正確理解→設計）

■ 指導目標

- 参照教材を根拠に正確に理解する姿勢を身につける
- 位置関係を言葉で説明できるようにする
- 補助教材の形式を目的に応じて選択できるようにする

■ 指導内容

- 授業の流れ確認
- 参照教材の確認
- 位置関係の言語化
- 補助教材の形式選択

第3回　協同制作①（正確理解→設計）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 扱う骨・部位・範囲を明確にさせる
- 参照教材とページ番号を必ず明記させる
- 30秒で説明できる要点に整理させる
- 「使いやすさ」を基準に形式を選ばせる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 根拠が明示されているか
- 位置関係が適切に言語化されているか
- 内容が整理されているか
- 教材形式の選択理由が明確か

第3回　協同制作①（正確理解→設計）

■ グループワークの手順

1. 扱う骨・範囲の決定
2. 参照教材で確認
3. 位置関係を言語化
4. ミニ出題練習
5. 教材形式を選択
6. 制作設計シート記入
7. グループ内最終確認
8. 振り返り

第4回　協同制作②（制作＋正確性チェック）

■ 指導目標

- 設計内容をもとに、補助教材を具体的な成果物として形にできるようにする。
- 「作る」と「確かめる」を同時に行う姿勢を身につける。
- 正確性を意識しながら説明できる状態に近づける
- 30秒で要点を説明できるよう言語化する

■ 指導内容

- 制作と正確性チェックの同時進行
- 正確性チェックの
- 説明台本の作成
- 学年別役割の確認

第4回　協同制作②（制作＋正確性チェック）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 設計シートから離れさせない
- 言語化させながら制作させる
- 誤りを“学習素材”にする
- 30秒説明を制作の途中から考えさせる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 制作物を見ながら口頭説明させる
- 支援者が根拠確認質問を行う
- 教員は「正誤」だけでなく「確認プロセス」を観察する
- 振り返りシートで自己評価させる

17

第4回　協同制作②（制作＋正確性チェック）

■ グループワークの手順

1. 役割確認
2. 制作開始
3. 30秒説明練習
4. 相互確認
5. 振り返り

18

第5回　協同制作③（発表・交流まとめ）

■ 指導目標

- 30秒で正確に説明できる力を身につける
- 説明を通して理解を確かなものにする
- 他者の発表から学びを深める姿勢を育てる

■ 指導内容

- 30秒発表と相互フィードバックを行う
- 聞き手視点で分かりやすさを確認する
- 振り返りを通して学びを言語化する

19

第5回　協同制作③（発表・交流まとめ）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 結論→位置関係→補足の順で話す
- 30秒を意識する
- 台本を見ながらでも可
- 正確性を意識して説明する
- 完璧より「気づき」を重視

■ 成果物の評価方法とポイント

- 30秒で要点が伝わったか
- 用語や位置関係が正確か
- 順序立てて説明できたか

20

第5回　協同制作③（発表・交流まとめ）

■ グループワークの手順

1. チーム内で最終確認
2. 1チームずつ30秒発表
3. 聞き手がコメント
4. 2年生が補足・整理
5. 振り返り

第6回　骨学①（頻出ポイント整理）

■ 指導目標

- 国家試験を意識した学習へ移行する
- 頻出部位を正確に説明できるようにする
- 骨を見る視点を統一する
- 正確性を最優先する姿勢を育てる

■ 指導内容

- 骨学の頻出ポイントを整理する
- 範囲を限定して重点的に扱う
- 骨を見る基本視点を確認する（向き・特徴・位置関係）
- 骨学まとめシートを作成する
- 学年別役割を明確にして進める

第6回　骨学①（頻出ポイント整理）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 指定範囲のみを確実に整理させる
- 「向き→特徴→関係」の順で整理する
- 混同ポイントを必ず書かせる
- 根拠教材を明示させる
- 後で見返せる構造にする

■ 成果物の評価方法とポイント

- 用語が正しいか、位置関係が明確か
- 向き→特徴→関係で構造化されているか
- そのシートだけで説明できるか
- 間違えやすい点が明記されているか

第6回　骨学①（頻出ポイント整理）

■ グループワークの手順

1. 扱う範囲の確認
2. 骨の向き・位置関係を確認
3. 特徴的ランドマークを整理
4. 他の骨・関節との関係を確認
5. 混同ポイントを抽出
6. まとめシート記入
7. 口頭説明で相互確認
8. 振り返り

第7回　口頭試問①（答え方の型）

■ 指導目標
- 短く正確に答える力を養う
- 答え方の「型」を身につける
- 曖昧な理解を自覚できるようにする
- 20～30秒で要点を伝えられるようにする

■ 指導内容
- 口頭試問の目的を理解する
- 答え方の基本構造を学ぶ　（結論→理由・位置関係→補足）
- 20～30秒の時間感覚を意識する
- 1問ずつ短いサイクルで実施する・口頭試問ログを記録する

25

第7回　口頭試問①（答え方の型）

■ 成果物の制作における指導のポイント
- 何の話かを最初に明確にさせる。
- 位置関係を必ず入れさせる
- 必要最小限を選ばせる。
- 「良かった点」と「修正点」を分けて書かせる
- 再回答を必ず行わせる

■ 成果物の評価方法とポイント
- 結論から話せているか、順序が整理されているか
- 用語は正確か、位置関係は明確か
- 20～30秒に収まっているか
- フィードバックを反映できたか

26

第7回　口頭試問①（答え方の型）

■ グループワークの手順
1. 2年生が出題
2. 1年生が20～30秒で回答
3. 回答時間をチェック
4. 2年生がフィードバック
5. ログシート記入
6. 修正版で再回答
7. 自己チェック欄記入
8. 振り返り

27

第8回　骨学②（統合：骨×運動×骨指標）

■ 指導目標
- 骨・骨指標・関節運動を関連づけて説明できる
- 形態と運動の因果関係を言語化できる
- 口頭試問を想定し簡潔に説明できる

■ 指導内容
- 骨の形態と骨指標の整理
- 関節構造と運動方向の確認
- 骨・指標・運動の統合演習

28

第8回　骨学②（統合：骨×運動×骨指標）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 「3点セット」で整理させる
- 「なぜその動きか」を必ず言語化させる
- 30秒説明を前提に作らせる
- 混同ポイントを必ず記載させる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 骨・指標・運動が結びついているか
- 「なぜその動きと関係するか」を言えているか
- 上下・前後・内外・左右を明確に表現できているか
- 20～30秒で説明可能か

第8回　骨学②（統合：骨×運動×骨指標）

■ グループワークの手順

1. テーマ提示
2. 個人整理
3. ペア説明
4. ミニ口頭試問（統合編）
5. 全体共有
6. 振り返り

第9回　かるた（国試頻出で作成・反復）

■ 指導目標

- 国試頻出語句を反復できる
- 教材を作成する思い出せる状態かどうかを確認する
- 弱点を可視化し次回へつなげる

■ 指導内容

- 読み札・取り札の作成
- チームでのかるた実施
- 弱点リストへの記録と整理

第9回　かるた（国試頻出で作成・反復）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 読み札は20～30字で作らせる
- 1テーマ1セットで整理させる
- 間違いを価値化する
- 30秒説明につなげる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 用語が正しいか、位置関係が明確か
- 読み札を聞いて即答できるか
- なぜ取れなかったかが明確か
- 正しい位置・特徴を言い直せるか

第9回　かるた（国試頻出で作成・反復）

■ グループワークの手順

1. 国試頻出語句の選定
2. 読み札・取り札作成（10セット以上）
3. 2年生が内容確認（正確性チェック）
4. チーム内でかるた実施
5. 取れなかった札を記録
6. 弱点リスト記入
7. 30秒説明で再整理
8. 全体共有
9. 振り返り

33

第10回　総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

■ 指導目標

- これまでの学習成果を確認する
- 安定して型に沿って説明できるようにする
- 自身の成長と課題を言語化できるようにする

■ 指導内容

- かるた大会による知識定着の確認
- 最終口頭試問（1人2問）
- 簡易ルーブリックと振り返りによる成長確認

34

第10回　総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 「できたこと」に焦点を当てさせる
- 型の安定を重視させる
- 成長と課題を分けて整理させる
- 協働の振り返りを入れる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 用語・位置関係・骨指標が正確か
- 結論から話せているか、時間内に安定しているか
- 骨×運動×骨指標を関連づけているか
- 学年を越えて支援・挑戦できたか

35

第10回　総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

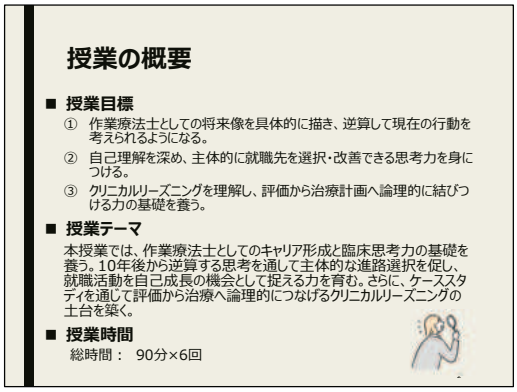
■ グループワークの手順

1. かるた大会（混成チーム対抗）
2. 弱点リスト確認
3. 最終口頭試問（1人2問）
4. 簡易ルーブリック記入
5. 最終振り返りシート記入
6. 全体共有

36

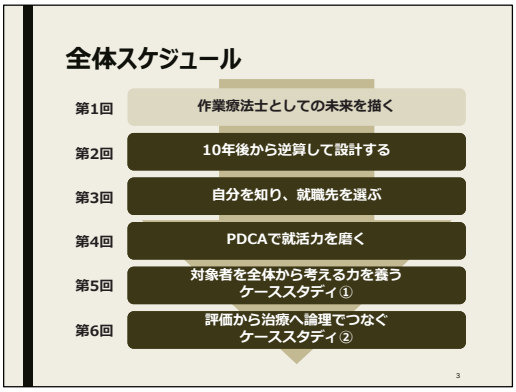


皆さん、作業療法科2年生向けキャリア教育へようこそ！この授業では、作業療法士としてのキャリアをどのように築いていくかを考え、自分の未来をデザインする力を身につけていきます。作業療法士の働き方は多様で、さまざまな道があります。今のうちからキャリアについて考えることで、将来の選択肢を広げることができます。一緒に学びながら、自分らしいキャリアを見つけていきましょう！



「この授業は、単なる“就活対策”ではありません。作業療法士としてどう成長していくのか。どう考える専門職になるのか。その土台をつくる授業です。90分×6回という短い時間ですが、考え方の“型”を身につけることを目的としています。この6回が、皆さんの10年後に確実につながります。」

「この授業には3つの目標があります。1つ目。将来像を具体的に描き、逆算して今を考えられるようになること。“なんとなく頑張る”ではなく、“設計して動く”思考を身につけます。2つ目。自己理解を深め、主体的に就職先を選び、改善できる力をつけること。環境は選べます。しかし、選ぶ力がなければ活かせません。3つ目。クリニカルリーズニングの基礎を養うこと。評価から治療へ、論理でつなげる力を身につけます。キャリアと思考力は別々ではありません。どちらも目標 → 現状把握 → ギャップ → 行動という同じ構造で動いています。この6回で、その構造を体験してもらいます。」



「この授業は、一本のストーリーで構成されています。第1回　未来を描く第2回　10年後から逆算する第3回　自分を知り、就職先を選ぶ第4回　PDCAで就活力を磨く第5回　対象者を全体で考える第6回　評価から治療へつなぐ描く設計する選ぶ磨く考えるつなぐこれは、作業療法士として成長する流れそのものです。最初はキャリアの話から始まりますが、最後は臨床推論まで進みます。キャリアと臨床は、別物ではありません。“考える力”という一本の軸でつながっています。この6回で、その軸をつくります。」



「各回90分。すべて、講義とワークを組み合わせます。聞くだけでは身につきません。考えて、書いて、共有する。その繰り返しで、思考の型を体に覚えさせます。90分×6回は短いですが、本気で取り組めば、大きく変わります。大事なのは、この授業の時間だけで終わらせないこと。日常の実習、日々の学び、これからの就職活動。すべてにつなげてください。」

第１回

作業療法士としての未来を描く

5

5

本日の目標

【今日の到達点】

- OTのキャリアの広がりを理解する
- 成長するOTの特徴を知る
- 理想のOT像を言語化する



6

「今日は“未来を描く”回です。皆さんは“作業療法士になりたい”とは思っていると思います。でも、“どんなOTになりたいか”まで具体的に言えますか？今日の到達点は3つです。OTのキャリアの広がりを理解すること。成長するOTの特徴を知ること。そして、自分の理想像を言語化すること。言語化できない目標は、実現しません。今日は、将来を少し本気で考える時間にしてください。」

6

OTのキャリアは一本道ではない

作業療法士のキャリアは最初の就職先だけで決まらない

- 急性期
- 回復期
- 生活期
- 小児訪問
- 地域包括
- 教育・管理職



7

「作業療法士のキャリアは、最初の就職先だけで決まりません。急性期、回復期、生活期、小児、訪問、地域包括、教育、管理職…。ここで考えてほしいのは、“どこで働くか”は、“何ができるOTになるか”を左右する、ということです。例えば、急性期で3年過ごしたOTと、訪問で3年過ごしたOT。同じ3年でも、身につく力はまったく違います。キャリアは一本道ではない。でも、選択は未来に影響します。」

7

臨床分野の広がり

現場ごとに求められる力は違う

- 急性期：迅速な評価力
- 回復期：計画立案力
- 生活期：生活再建支援力
- 訪問：環境調整力
- 小児：発達理解と家族支援

「どこで働くか」で伸びる力は変わる



8

「各現場で求められる力は違います。急性期では、迅速な評価力。回復期では、長期的な治療設計力。生活期では、生活再建の視点。訪問では、環境調整力。小児では、発達理解と家族支援。ここで重要なのは、“自分はどんな力を磨きたいか？”環境は成長速度を決めます。」

8

10年目OTモデル例

10年後を想像する
- 1〜3年目：評価力を徹底的に磨く
- 4〜6年目：治療設計力を高める
- 7〜10年目：専門性確立＋後輩指導

積み重ねが未来をつくる



9

「10年後を想像してください。1〜3年目で評価力を磨く。4〜6年目で治療設計力を高める。7〜10年目で専門性を確立し、後輩指導も担う。これは一例です。でも、何も考えずに10年経つのと、設計して10年過ごすのとでは、到達点は大きく変わります。“10年後の自分”を想像できていますか？」

9

成長するOTの特徴

伸びる人の共通点
- 症例ごとに振り返る
- 質問を恐れない
- 対象者を「疾患」ではなく「人」で見る
- 学びを継続する

成長は偶然ではない



10

「成長するOTの共通点は何か。症例ごとに振り返る。質問を恐れない。対象者を“疾患”ではなく“人”で見る。学び続ける。特別な才能ではありません。違いは“習慣”です。1症例ごとに3分振り返る人と、振り返らない人。1年後には差が生まれます。」

10

キャリア停滞例

止まる人の特徴
- 業務をこなすだけ
- 忙しさを言い訳にする
- 他責思考になる
- 振り返らない

差は小さな習慣から生まれる



11

「止まる人の特徴もあります。業務をこなすだけ。忙しさを言い訳にする。他責思考。振り返らない。能力の問題ではありません。小さな習慣の差が、3年後に大きな差になります。」

11

問い

あなたはどうなりたい？
- どんなOTでありたいか
- 患者からどう見られたいか
- 同僚からどう評価されたいか

理想像を考える



12

「ここで問いです。あなたはどうなりたいですか？“優しいOT”では足りません。患者さんからどう見られたい？同僚からどう評価されたい？具体的に考えてください。3分間、静かに考えましょう。」

12

ワークシート（理想のOT像）

項目	内容
①理想のOT像を書いてみよう	
②なぜそのOTになりたいのか？	
③その理想像に必要な力は？	□ 評価力□ 治療設計力□ コミュニケーション力□ チーム連携力□ 説明力□ 継続学習力□ その他（　　）
④今の自分との差を考える	■自分の強み ■自分の課題 ■理想と現実の差
⑤行動に落とし込む	■ 今からできることを３つ書こう ① ② ③

13

「理想のOT像を書いてください。そして“なぜそうなりたいのか”。さらに、その理想に必要な力は何か。今の自分の強みは？課題は？理想と現実の差が、成長のスタート地点です。そして最後に、“今からできること”を3つ。小さくていい。今日からできること。」（十分な記入時間を確保）

13

グループ共有

<u>他者から学ぶ</u>

- 3人1組
- 1人2分発表
- 質問を1つする

「なぜそう思ったのか？」を深掘る



14

「3人1組になってください。1人2分発表。必ず質問を1つ。“なぜそう思ったのか？”深掘ることで、自分の思考も深まります。」

14

まとめ

- 偶然ではなく設計
- キャリアは「今日の選択」の積み重ね
- 理想像を持つ人ほど成長は早い



15

「今日のまとめです。キャリアは偶然ではありません。今日の選択の積み重ねが、未来をつくります。理想像を持っている人ほど、成長は早い。今日書いた内容は、次回“設計”に進みます。」

15

次回は、
「10年後のキャリア設計」
あなたの未来を、具体化します。



16

「次回は“10年後のキャリア設計”。理想を具体的な設計図に落とします。未来は描くだけでは変わりません。設計します。」

16

第２回

10年後から逆算して設計する

17

17

本日の目標

【今日の到達点】

- 10年後の自分を具体化する
- 逆算思考を理解する
- 今やるべき行動を明確にする



18

「前回は、理想のOT像を描きました。今日は、その理想を“設計図”にします。今日の到達点は3つ。10年後の自分を具体化すること。逆算思考を理解すること。そして、今やるべき行動を明確にすること。未来は“願う”ものではありません。“設計する”ものです。」

18

10年後の自分は何歳？

具体的に想像する

- 10年後、あなたは何歳？
- どんな立場？
- どんな専門性？
- どんな働き方？
- どんな生活？

曖昧な未来は実現しない



19

「10年後、皆さんは何歳ですか？何歳かを答えるのは簡単です。でも、そのとき――どんな立場にいますか？どんな専門性を持っていますか？どんな働き方をしていますか？どんな生活をしていますか？ここまで具体的に考えたことはありますか？“なんとなく成長している”では実現しません。未来が曖昧だと、今の行動も曖昧になります。」

19

逆算思考とは

未来→現在へ



未来を決めると
今の行動が見えてくる

20

「逆算思考とは、未来から現在を見ることです。多くの人は“今”から考えます。“とりあえず就職して…”“働きながら考えよう…”それでは流されます。未来 → 5年後 → 1年後 → 今。未来を決めると、“今何をすべきか”が具体化します。例えば、10年後に回復期のリーダーOTになりたいなら、新人の3年で何を磨くべきか？自然と見えてきます。」

20

なぜ逆算が必要か

人はなんとなくで成長しない

日々の忙しさに流されると目の前の業務だけで終わる

目的がある人だけが成長を加速させる



「人は“なんとなく”では成長しません。日々の忙しさに流されると、目の前の業務だけで1年が終わります。気づけば3年。目的がある人だけが、成長を加速させます。差は“思考の順番”です。」

キャリア設計3軸

考える3つの視点

① 専門性（何ができるOTになるか）
② 働き方（どんな環境で働くか）
③ 人間的成長（どんな人間でありたいか）

3つがそろって初めて納得できるキャリアになる



「キャリア設計には3つの軸があります。① 専門性何ができるOTになるか。② 働き方どんな環境で働くか。③ 人間的成長どんな人間でありたいか。専門性だけ高くても、人間的信頼がなければリーダーにはなれません。3つがそろって、納得できるキャリアになります。」

モデル例

具体例を見てみる

- **目標**：回復期のリーダーOT
  - **5年後**：症例担当数を増やす
  - **3年後**：評価・計画立案力を強化
  - **今**：実習で仮説思考を意識する

未来が行動を決める



「具体例を見てみましょう。10年後：回復期のリーダーOT。5年後：症例担当数を増やす。3年後：評価・計画立案力を強化。今：実習で仮説思考を意識する。未来が決まると、“今日の実習態度”まで変わります。未来は、今を変える力があります。」

問い

就活に向けた設計図を書いてみよう

■ 理想像 → 未来設定 → 逆算 → 行動
という構造で設計



「では、皆さんの設計図を作ります。理想像 → 未来設定 → 逆算 → 行動。この順番で考えてください。“とりあえず頑張る”は禁止です。」

ワークシート（10年後、あなたはどんな作業療法士になっていますか？）

項目	内容
①基本情報	年齢：＿＿＿歳 担当している対象：＿＿＿＿＿＿＿＿ 立場（役割）：＿＿＿＿＿＿＿＿
②専門性	どのような力を持っているOTですか？
③人間的成長	どんな人間として周囲から見られたいですか？
④5年後の自分	10年後に近づくための中間地点 働いている環境：＿＿＿＿＿＿＿＿ 身につけている能力：＿＿＿＿＿＿＿＿ 挑戦していること：＿＿＿＿＿＿＿＿
⑤3年後の自分 （新人期を終える頃）	どんなOTになっていたいか？＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ そのために必要な経験は？＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
⑥今やるべきこと	■ 今から1年以内にやること ①＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ②＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ③＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

25

「まず10年後を書きます。年齢、担当対象、立場、専門性、人間的成長。次に5年後。次に3年後。そして最後に“今やること”。ここで大事なのは、“具体的に書くこと”。『頑張る』ではなく、『月に1冊専門書を読む』のように。設計は具体性が命です。」（20分ワーク時間）

25

ペア共有

<u>他者の未来から学ぶ</u>

- ペアで発表
  質問を1つする
- 「なぜその未来なのか？」を深掘る



26

「ペアで共有してください。質問は必ず1つ。『なぜその未来なのか？』理由を深掘ると、設計がリアルになります。他者の未来は、自分の刺激になります。」

26

まとめ

- 未来は今日決まる
- 10年後は突然やってこない
- 今日の行動の積み重ねが未来をつくる
- 設計した人だけが望む場所に立てる



27

「今日のまとめです。未来は今日決まります。10年後は突然やってきません。今日の行動の積み重ねです。設計した人だけが、望む場所に立てます。」

27

次回は、
「就職活動準備」就活を
“内定獲得”ではなく
“未来を選ぶ行動”に変えます。



28

「次回は“就職活動準備”。就活を“内定を取る活動”から、“未来を選ぶ行動”へ変えます。環境は成長速度を決めます。皆さんの未来に合う場所を考えます。」

28

第３回

自分を知り、就職先を選ぶ

29

29

本日の目標

【今日の到達点】

- OT就職市場の特徴を理解する
- 病院選びの視点を知る
- 自己分析を深める



30

「前回は、10年後から逆算しました。今日は、その未来を実現できる“環境”を選ぶ力を考えます。今日の到達点は3つ。OT就職市場の特徴を理解すること。病院選びの視点を知ること。そして自己分析を深めること。就活は、内定を取る活動ではありません。未来を選ぶ活動です。」

30

OT就職市場の特徴

市場を知る

- 求人数は比較的多い
- しかしミスマッチも多い
- 最初の3年が成長を左右する

「入れる場所」ではなく「育つ場所」を選ぶ



32

「OTは、比較的求人が多い職種です。“どこかには入れる”可能性は高い。しかし問題はそこではありません。ミスマッチが多い、という現実があります。“入れたけど育たない”“忙しすぎて振り返れない”“指導がない”最初の3年は、基礎を作る期間です。“入れる場所”ではなく、“育つ場所”を選ぶ。これが今日のキーワードです。」

31

なぜ環境が重要か

環境は成長速度を決める

- 症例数
- 指導体制
- OT人数
- 教育文化
- チームの雰囲気

同じ3年でも差は大きく開く



32

「環境は成長速度を決めます。症例数が少なければ、経験値は上がりません。指導体制がなければ、自己流になります。OT人数が少なければ、相談できません。教育文化がなければ、学ぶ空気がありません。同じ3年でも、圧倒的な差が生まれます。未来設計と一致しているかを常に考えてください。」

32

病院選びの視点

何を見るべきか
- OTの人数
- 新人教育体制
- 勉強会の有無
- 症例の幅
- 相談できる雰囲気

条件だけで決めない



33

「何を見るべきか。OTの人数。新人教育体制。勉強会の有無。症例の幅。相談できる雰囲気。ここで質問です。“給料”や“家から近い”は悪い基準ですか？悪くはありません。でも、それだけで決めると、未来との整合性が取れなくなります。」

33

失敗する就活例

なんとなく選ばない
- 有名だから
- 実習先だから安心
- 通いやすいから
- とりあえず内定が欲しい

未来設計とつながっているか？



34

「ありがちな例。有名だから。実習先だから安心。通いやすいから。とりあえず内定が欲しい。問いです。それはあなたの10年後につながっていますか？選択の基準が曖昧だと、後悔します。」

34

自己分析の重要性

自分を知らずに選ぶな
- 強みは何か
- 苦手は何か
- どんな環境で伸びるか
- どんな価値観を大切にするか

自己理解が判断基準になる



35

「環境を選ぶ前に必要なのは、自己理解です。強みは何か。苦手は何か。どんな環境で伸びるタイプか。どんな価値観を大切にするか。例えば、“忙しい環境で鍛えられるタイプ”もいれば、“丁寧な指導で伸びるタイプ”もいます。正解はありません。自分を知らないと、環境は選べません。」

35

問い

就活に向けた自分の考えを整理する

■ 未来像→自己理解→環境選択
の流れで設計



36

「流れを整理します。未来像↓自己理解↓環境選択逆にしないこと。“とりあえず内定”↓“なんとなく働く”ではありません。」

36

ワークシート（就職活動準備）

項目	内容
①あなたの10年後の姿	第2回のワークの再確認
②必要な環境	どんな職場であれば近づけるか？
③自分の強みと弱み	■自分の強み ■自分の弱み
④実習で評価された点	10年後に近づくための中間地点 働いている環境：＿＿＿＿＿＿＿＿ 身につけている能力：＿＿＿＿＿＿＿＿ 挑戦していること：＿＿＿＿＿＿＿＿
⑤実習で課題と感じた点	どんなOTになっていたいか？＿＿＿＿＿＿＿＿ そのために必要な経験は？＿＿＿＿＿＿＿＿
⑥病院を見る視点チェック	見学時に確認したいこと □ OT人数□ 新人教育体制□ 勉強会の有無□ 症例の幅□ 残業状況□ チームの雰囲気□ 相談しやすさ

「第2回で書いた10年後を見返してください。その未来に近づける環境は？自分の強みと弱みは？実習で何を評価されましたか？何を課題と言われましたか？ここが、環境選択のヒントです。」（十分なワーク時間を確保）

実習の学び整理

経験を言語化する
- 関わりで学んだこと
- 失敗から学んだこと
- 評価で学んだこと

経験を成長に変える



38

「実習の学びを“感想”で終わらせない。“緊張した”ではなく、“なぜ緊張したか”。“うまくいかなかった”ではなく、“何が足りなかったか”。経験を言語化できる人が伸びます。」

働きたい環境整理

どんな場所で伸びる？
- 忙しい環境
- 丁寧な指導環境
- 専門特化型
- 幅広く経験できる環境

未来設計と一致しているか



39

「自分はどんな場所で伸びるか。忙しい環境。丁寧な指導環境。専門特化型。幅広く経験できる環境。未来設計と一致していますか？ここがずれると、努力が分散します。」

まとめ

- 就活＝自己理解
- 内定を取ることが目的ではない
- 未来を実現する環境を選ぶことが目的
- 選択が、10年後を決める



40

「今日のまとめです。就活＝自己理解。内定を取ることが目的ではありません。未来を実現する環境を選ぶことが目的です。今日の選択が、10年後を決めます。」

次回は、
「就活PDCA」成長を加速させる
思考法を学びます。



41

「次回は“就活PDCA”。選んだだけでは足りません。振り返る力を持った人だけが伸びます。成長を加速させる思考法を学びます。」

41

第４回

PDCAで就活力を磨く

42

42

本日の目標

【今日の到達点】

- PDCAの意味を理解する
- 就活にPDCAを活用できる
- 振り返りの重要性を理解する



43

「前回は“環境を選ぶ”話をしました。しかし、どれだけ良い環境を選んでも、伸びる人と止まる人がいます。今日はその違いをつくる力、“磨く力”について考えます。今日の到達点は3つ。PDCAの意味を理解すること。就活にPDCAを活用できること。振り返りの重要性を理解すること。選択だけでは足りません。“回す力”が必要です。」

43

PDCAとは

<u>成長の基本構造</u>

- Plan（計画）
- Do（実行）
- Check（評価）
- Action（改善）

回すほど成長する



「PDCAは成長の基本構造です。Plan（計画）Do（実行）Check（評価）Action（改善）これは企業だけの話ではありません。OTの成長にもそのまま当てはまります。症例対応も、就活も、実習も、この構造で考えると成長が加速します。」

44

なぜPDCAが必要か

差は振り返りで生まれる
- 同じ環境
- 同じ面接
- 同じ見学

伸びる人と止まる人の違いは
振り返りの質と回数



45

「同じ面接を受けても、伸びる人と止まる人がいます。同じ実習を経験しても、伸びる人と止まる人がいます。差はどこで生まれるのか。“振り返りの質と回数”です。感情で終わる人と、分析する人。その差が3年後に出ます。」

45

就活でのPDCA例

具体例で考える
- Plan：志望理由を準備
- Do：見学・面接に行く
- Check：質問にうまく答えられたか？
- Action：改善点を整理し次に活かす

失敗は材料



46

「具体例を見てみましょう。Plan：志望理由を準備するDo：面接に行くCheck：質問にうまく答えられたか？Action：改善点を整理するここで重要なのは、失敗＝ダメではないこと。失敗＝材料です。落ち込むだけで終わるか、改善材料にするか。ここが分岐点です。」

46

問い

自分の就活PDCAを書く
- 最近の経験を1つ選ぶ
- 例：実習・見学・面接練習

PDCAを整理する



47

「最近の経験を1つ思い出してください。実習。面接練習。病院見学。グループワーク。その出来事をPDCAで整理します。“感想”ではなく“分析”です。」

47

ワークシート（就活PDCA）

項目	内容
①最近の出来事を1つ選びましょう	□ 病院見学□ 面接練習□ 実習□ グループワーク□ その他（ ） 具体的な内容：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
②PDCAで整理する	PLAN：その時の目標は何でしたか？＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ DO：実際に何をしましたか？＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ CHECK：うまくいった点＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ CHECK：うまくいかなかった点＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ACTION：次に改善することは？＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
③振り返りの質を高める	感情だけで終わっていないか？ □ 緊張した□ うまくいかなかった□ 難しかった 原因：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
④次の行動を明確にする	次回、必ず実行すること １つに絞る＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 実行期限：＿＿＿＿＿

48

「まず出来事を1つ選びます。その時の目標は何でしたか？実際に何をしましたか？うまくいった点。うまくいかなかった点。ここで大事なのは、“緊張した”で終わらないこと。なぜ緊張したのか？準備不足か？想定外の質問か？原因まで書きます。そして次に改善することを1つに絞る。全部変えようとしない。1つに集中する。」（十分なワーク時間を確保）

48

成長する人の特徴

伸びる人の共通点
- 振り返りが具体的
- 感情だけで終わらない
- 改善を次に活かす
- 失敗を恐れない

回数が力になる



49

「伸びる人の共通点。振り返りが具体的。感情だけで終わらない。改善を次に活かす。失敗を恐れない。そして何より、“回数”。PDCAは1回で終わりません。回すほど差が広がります。」

49

今日からできること

すぐに実践する
- 面接後30分以内に振り返る
- 必ず改善点を1つ書く
- 次回で試す

小さな改善が未来を変える



50

「今日からできること。面接後30分以内に振り返る。改善点を必ず1つ書く。次回で試す。小さな改善が未来を変えます。10年後の差は、今日の小さな改善の積み重ねです。」

50

まとめ

- 磨く力を持て
- 環境だけでは成長しない
- 振り返る人だけが伸びる
- PDCAを回す習慣が10年後をつくる



51

「今日のまとめ。環境だけでは成長しません。振り返る人だけが伸びます。PDCAを回す習慣が、10年後をつくります。“磨く力”を持ってください。」

51

次回
「10年後のキャリア設計」
あなたの未来を、具体化します。



52

「次回は“10年後のキャリア設計”。これまで描き、設計し、選び、磨いてきました。次は、さらに具体化します。あなたの未来を、よりリアルにします。」

52

第５回

対象者を全体から考える力を養う
ケーススタディ①

53

53

本日の目標

【今日の到達点】

- クリニカルリーズニングの流れを理解する
- 対象者を「疾患」ではなく「生活する人」として捉える
- 評価の視点を広げる



54

54

「これまでキャリアについて考えてきました。今日は、臨床思考に入ります。今日の到達点は3つ。クリニカルリーズニングの流れを理解すること。対象者を“疾患”ではなく“生活する人”として捉えること。評価の視点を広げること。作業療法士の専門性は、“考える力”です。」

クリニカルリーズニング全体図

<u>考える力の構造</u>

情報収集→仮説立案→評価
→解釈→方針決定

感覚ではなく論理で考える



55

「臨床は感覚ではありません。情報収集→ 仮説立案→ 評価→ 解釈→ 方針決定この構造で考えます。“なんとなくこの訓練”ではなく、“なぜそれをするのか”を説明できること。それが専門職です。」

ICFモデル

<u>人を全体で見る</u>

- 心身機能
- 活動
- 参加
- 環境因子
- 個人因子

問題は一部分だけではない



56

「ICFモデルを思い出してください。心身機能活動参加環境因子個人因子問題は一部分だけではありません。例えば“右片麻痺”は心身機能の問題。でも、その人の人生は“麻痺”ではありません。ICFは、“人を全体で見る視点”です。」

症例提示① 基本情報

全体像
- 年齢：78歳
- 性別：男性
- 診断名：脳梗塞（右片麻痺）
- 発症：3週間前
- 現在：回復期病棟入院中



57

「78歳男性、脳梗塞、右片麻痺。発症3週間、回復期病棟入院中。ここで止まらないでください。“78歳男性”という情報の中に、生活歴や価値観が隠れています。」

症例提示② 医学情報

身体機能
- 右上肢BrsⅢ
- 右下肢BrsⅣ
- 立位保持不安定
- 高次脳機能障害なし

ADL：更衣・入浴に介助あり



58

「BrsⅢ、Ⅳ、立位不安定。ADLは更衣・入浴に介助あり。ここで多くの学生は、“立位訓練”“更衣練習”と考えます。でも、それは“部分”です。生活はもっと広い。」

症例提示③ 生活背景

生活歴
- 元会社員
- 妻と2人暮らし
- 趣味：家庭菜園
- 退院後は自宅復帰希望

「何がその人にとって大事か？」



59

「元会社員、妻と2人暮らし。趣味は家庭菜園。退院後は自宅復帰希望。ここが重要です。“家庭菜園”。この一言で、目標の方向性が変わります。その人にとって何が大事か？これを外すと、OTではありません。」

評価検討指示

何を評価する？
- 身体機能だけで十分か？
- 活動レベルは？
- 参加の視点は？
- 環境因子は？

ICFを意識する



60

「何を評価しますか？身体機能だけで十分ですか？活動レベルは？参加は？環境因子は？ICFを意識して、“抜け漏れ”がないか考えます。」

ワークシート（対象者全体像の把握）1/2

項目	内容
①この方はどんな人ですか？	一言で
②本人にとって大切そうなことは？	
③振身機能・構造	現時点で考えられる問題は？ ① ② ③
④活動（ADL・IADL）	困っている可能性のあることは？ ① ② ③
⑤参加（社会・役割）	制限されている可能性は？ ① ②

61

「この方はどんな人か、一言で。“脳梗塞患者”ではなく。本人にとって大切そうなことは？考えられる問題は？心身機能、活動、参加。書きながら、視点が偏っていないか確認してください。」

61

ワークシート（対象者全体像の把握）2/2

項目	内容
⑥環境因子	自宅・家族・物理的環境で気になる点は？
⑦仮説を立てる	この方の生活を妨げている主な要因は何か？ なぜそう考えたか？（理由）
⑧評価項目を選ぶ	① 評価項目：　理由： ② 評価項目：　理由： ③ 評価項目：　理由： ④ 評価項目：　理由：
⑨評価の目的を明確にする	その評価で何を明らかにしたいか？

62

「環境因子は？自宅に段差は？妻の介護力は？家庭菜園はどんな場所か？生活を妨げている主な要因は何か？そして仮説を立てます。評価項目を選び、その理由を書く。評価は“目的”を持って行います。“とりあえずFIM”ではありません。」

62

評価結果提示（例）

評価例

- 立位バランス低下
- 更衣動作に時間がかかる
- 家庭菜園再開への意欲高い
- 自宅は段差あり

身体＋生活＋環境を統合する



63

「例として、立位バランス低下更衣に時間がかかる家庭菜園への意欲が高い自宅に段差あり身体＋生活＋環境を統合して考えます。ここでようやく“方針”が見えてきます。」

63

治療方針の方向性

どこを目指す？

- 短期：更衣自立度向上
- 中期：屋外歩行安定
- 長期：家庭菜園再開

目標は「生活」に向ける



64

「目標は“生活”に向けます。短期：更衣自立度向上中期：屋外歩行安定長期：家庭菜園再開“Brs改善”は目標ではありません。生活がゴールです。」

64

まとめ

- 考える力が差をつくる
- 疾患を見るのではなく生活を見る
- 評価は目的ではない
- 生活を再建するための手段



65

「今日のまとめ。考える力が差をつくります。疾患を見るのではなく、生活を見る。評価は目的ではありません。生活再建のための手段です。ここからが、OTの本質です。」

65

次回は、
評価から治療計画へ。
「なぜその介入なのか」を説明できるOTになるために。
考える力を、一段階引き上げます。



66

「次回は、評価から治療計画へ。“なぜその介入なのか？”説明できるOTになるために。思考をもう一段、引き上げます。」

66

第６回

評価から治療へ論理でつなぐケーススタディ②

67

本日のテーマは「作業療法士のキャリアを聴く①」です。作業療法士としてのキャリアは多様であり、病院や福祉施設、訪問リハビリ、教育、研究、企業など、さまざまな道があります。現場で活躍する作業療法士の話を聞くことで、自分のキャリアの可能性を広げるヒントが得られるはずです。

67

本日の目標

【今日の到達点】前回振り返り

- 評価は何のため？
  - 全体像を捉える
  - 仮説を立てる
  - 生活の課題を明らかにする
- 今日はそこから「計画」へ進む



68

「前回、評価を行いました。評価は何のためでしたか？全体像を捉えるため。仮説を立てるため。生活の課題を明らかにするため。しかし、評価はゴールではありません。今日はそこから“計画”へ進みます。評価 → 治療へ。この“論理の橋渡し”ができるOTになることが今日の目的です。」

68

SMART目標

目標は具体的に
- Specific（具体的）
- Measurable（測定可能）
- Achievable（達成可能）
- Relevant（生活に関連）
- Time-bound（期限設定）

曖昧な目標は機能しない



「目標は具体的でなければ機能しません。SMART。Specific（具体的）Measurable（測定可能）Achievable（達成可能）Relevant（生活に関連）Time-bound（期限設定）“歩行能力向上”は目標ではありません。“3か月以内に屋外歩行を見守りで20m可能にする”ここまで具体化します。曖昧な目標は、曖昧な介入を生みます。」

治療計画の構造

論理で組み立てる

評価結果→問題抽出→目標設定
→介入方法→根拠

順番が大事



「治療計画は順番が大事です。評価結果→ 問題抽出→ 目標設定→ 介入方法→ 根拠いきなり“訓練内容”に飛ばない。“なぜその介入なのか”を説明できる構造にします。」

計画検討指示

考えてみよう
- この方の最優先課題は何か？

生活のどこを変える？



「問いです。この方の最優先課題は何か？生活のどこを変えるのか？“立位バランス低下”は課題の一部です。生活に置き換えると何になりますか？」

ワークシート（長期目標）

項目	内容
①評価の再確認	この方の主な生活上の課題は何か？
②目指す生活像を明確にする	退院後、どのような生活を実現したいか？
③SMARTで長期目標を書く	（例）「3か月以内に○○を△△レベルで実施できる」 あなたの目標： 期限：
④なぜこの目標か（根拠）	評価結果との関連を書く
⑤自己チェック	□ 具体的か□ 測定可能か□ 生活に直結しているか□ 期限があるか

「まず長期目標。退院後、どんな生活を実現したいのか。家庭菜園を再開する？自立して更衣できる？生活を主語にします。そして評価結果と結びつける。“なぜこの目標なのか”を必ず書く。」

ワークシート（短期目標）

項目	内容
①長期目標の確認	
②今の状態を整理	現在できていること： できていないこと：
③短期目標を設定する	4週間以内の目標 ①　②
④長期目標とのつながり	この短期目標はどのように長期目標につながるか？
⑤自己チェック	□ 達成可能か□ 具体的か□ 評価可能か□ 長期目標と一致しているかか

73

「長期目標だけでは遠すぎます。4週間以内に何を達成するか。短期目標は“段階”。長期目標とのつながりを明確にします。“この短期目標は何に向かっているのか？”必ず自分に問いかけてください。」

ワークシート（具体的介入）

項目	内容
①目標の確認	長期目標： 短期目標：
②介入内容を書く	介入① 内容：　目的： 根拠（評価との関連）： 介入② 内容：　目的： 根拠（評価との関連）：
③優先順位を決める	最も優先する介入は？ 理由：
④最終確認	□ 評価とつながっているか□ 目標と一致しているか□ 生活に意味があるか □ 説明できるか

74

「ここでようやく介入です。介入①目的は何か？評価とどうつながっているか？“なんとなく立位訓練”ではありません。“家庭菜園再開に必要な屋外歩行安定のための立位バランス訓練”ここまで論理をつなげます。最優先の介入は何か？理由を説明できることが重要です。」

根拠を書く重要性

なぜそれを行うのか

- 「なんとなく」ではなく
- 評価結果とつながっているか？
- 目標と一致しているか？

説明できることが専門性



75

「なぜそれを行うのか。これを説明できないと、専門職ではなく“作業の人”になります。評価と一致しているか。目標と一致しているか。説明できることが専門性です。」

グループ共有

論理を説明する

- なぜその目標？
- なぜその介入？
- 評価と一致しているか？

他者から学ぶ



76

「グループで共有します。なぜその目標？なぜその介入？他者の視点は、自分の盲点を教えてくれます。論理が弱い部分に気づいてください。」

講師フィードバック視点

見るポイント
- 目標が生活に向いているか
- 評価との整合性
- 介入の具体性
- 根拠の明確さ



77

「見るポイントは4つ。目標が生活に向いているか。評価との整合性。介入の具体性。根拠の明確さ。この4つがそろえば、論理的な計画になります。」

77

クリニカルリーズニング再確認

臨床力＝将来の武器
- 論理的に考える力
- 説明できる力
- 改善できる力

これが成長を加速させる



78

「臨床力は将来の武器です。論理的に考える力。説明できる力。改善できる力。これはキャリアにも共通しています。描く設計する選ぶ磨く考えるつなぐ今日、“つなぐ”まで来ました。」

78

最終まとめ

6回の学び
- 描く
- 設計する
- 選ぶ
- 磨く
- 考える
- つなぐ

未来をつくるのはあなた自身



79

「6回を通して、皆さんは描き設計し選び磨き考えつなぎました。この構造は、作業療法士としての成長そのものです。」

79

作業療法士は、
「技術職」ではありません。
考え続ける専門職です。

未来をつくるのは、
あなた自身です。



80

「作業療法士は技術職ではありません。考え続ける専門職です。環境のせいにもできる。忙しさのせいにもできる。でも未来をつくるのは、あなた自身です。今日学んだ“考える型”を、現場で回し続けてください。」

80

指導ガイド



2年生向け
キャリア教育

1

授業の概要

■ **授業目標**

① 作業療法士としての将来像を具体的に描き、逆算して現在の行動を考えられるようになる。

② 自己理解を深め、主体的に就職先を選択・改善できる思考力を身につける。

③ クリニカルリーズニングを理解し、評価から治療計画へ論理的に結びつける力の基礎を養う。

■ **授業テーマ**

本授業では、作業療法士としてのキャリア形成と臨床思考力の基礎を養う。10年後から逆算する思考を通して主体的な進路選択を促し、就職活動を自己成長の機会として捉える力を育む。さらに、ケーススタディを通じて評価から治療へ論理的につなげるクリニカルリーズニングの土台を築く。

■ **授業時間**

総時間： 90分×6回



2

全体スケジュール

第1回	作業療法士としての未来を描く
第2回	10年後から逆算して設計する
第3回	自分を知り、就職先を選ぶ
第4回	PDCAで就活力を磨く
第5回	対象者を全体から考える力を養う ケーススタディ①
第6回	評価から治療へ論理でつなぐ ケーススタディ②

3

学習項目

項目	時間配分	概要
第1回	90分	講義、ワーク
第2回	90分	講義、ワーク
第3回	90分	講義、ワーク
第4回	90分	講義、ワーク
第5回	90分	講義、ワーク
第6回	90分	講義、ワーク
合計	90分×6回	

4

各回の指導ガイドの内容

- 指導目標
- 指導内容
- 成果物の制作における指導のポイント
- 成果物の評価方法とポイント
- グループワークの手順

5

第1回　オリエンテーション

■ 指導目標

- OTのキャリアの広がりを理解する
- 理想のOT像を具体的に言語化できる
- 理想と現実の差を自覚する

■ 指導内容

- OTの多様なキャリアパスの紹介
- 成長するOTの特徴と停滞例の比較
- 理想像の具体化ワーク
- 理想と現状のギャップ分析

6

第1回　オリエンテーション

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 抽象語（優しい・頑張る）で終わらせない
- 「誰からどう見られたいか」まで具体化させる
- 理由を書かせる（Whyを明確に）
- 行動レベルに落とし込ませる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 評価観点：
  ①具体性
  ②内省の深さ
  ③行動への落とし込み

形式評価ではなく、思考の質を評価する

7

第1回　オリエンテーション

■ グループワークの手順

1. ワークシート記入
2. 3人1組を作る
3. 1人2分発表
4. 必ず「なぜ？」の質問を1つ行う
5. フィードバックは肯定→深掘りの順

8

第2回　10年後から逆算して設計する

■ 指導目標

- 逆算思考を理解する
- 10年後→現在の設計図を作成できる
- 今やるべき行動を明確化できる

■ 指導内容

- 逆算思考の理論説明
- キャリア設計3軸（専門性・働き方・人間性）
- モデル例提示
- 未来→5年→3年→今のワーク

9

第2回　10年後から逆算して設計する

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 年齢・役割・能力を具体化させる
- 「今やること」を具体行動にさせる
- 抽象的未来像に留めない
- 時間軸を必ず入れさせる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 評価観点：
  ①未来像の具体性
  ②逆算の論理性
  ③今への接続の明確さ

未来と現在が論理的につながっているかを確認

10

第2回　10年後から逆算して設計する

■ グループワークの手順

1. ワークシート記入
2. ペア共有
3. 相手は「なぜその未来か？」を質問
4. 未来と現在の整合性を確認
5. 気づきを全体共有

11

第3回　自分を知り、就職先を選ぶ

■ 指導目標

- OT就職市場の特徴を理解する
- 自己理解を深める
- 未来と一致する環境を選ぶ視点を持つ

■ 指導内容

- 就職市場の現状説明
- 環境が成長速度に与える影響
- 病院選びの視点整理
- 自己分析ワーク

12

第3回　自分を知り、就職先を選ぶ

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 実習経験を具体的に言語化させる
- 強みと弱みを客観的に書かせる
- 未来設計との一致を確認させる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 評価観点：
  ①自己分析の深さ
  ②未来との整合性
  ③環境選択の論理性

第3回　自分を知り、就職先を選ぶ

■ グループワークの手順

1. ワークシート記入
2. 未来像確認
3. 自己理解共有
4. 「その環境で本当に伸びるか？」相互質問
5. 気づきを記録

第4回　PDCAで就活力を磨く

■ 指導目標

- PDCAの意味を理解する
- 振り返りを具体化できる
- 改善行動を設定できる

■ 指導内容

- PDCA理論説明
- 就活具体例提示
- 自己経験のPDCA整理
- 改善行動設定

第4回　PDCAで就活力を磨く

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 感情で終わらせない
- 原因まで書かせる
- 改善は1つに絞らせる
- 期限を設定させる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 評価観点：
  ①分析の具体性
  ②原因の明確さ
  ③改善行動の実効性

第4回　PDCAで就活力を磨く

■ グループワークの手順

1. ワークシート記入
2. 出来事を共有
3. 原因分析を深掘る
4. 改善案の妥当性を検討
5. 次回行動宣言

17

第5回　対象者を全体から考える力を養う ケーススタディ①

■ 指導目標

- ICF視点を理解する
- 全体像から仮説を立てられる
- 評価項目を目的を持って選べる

■ 指導内容

- クリニカルリーズニングの流れ
- ICFモデル解説
- 症例提示
- 仮説立案ワーク

18

第5回　対象者を全体から考える力を養う ケーススタディ①

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 疾患中心思考に偏らせない
- 生活を主語にさせる
- 評価理由を書かせる
- 仮説を明確にさせる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 評価観点：
  ①全体性
  ②ICFの活用
  ③仮説の妥当性
  ④評価理由の明確さ

19

第5回　対象者を全体から考える力を養う ケーススタディ①

■ グループワークの手順

1. ワークシート記入
2. 全体像整理
3. 仮説共有
4. 評価項目の妥当性を議論
5. 講師フィードバック

20

第6回　評価から治療へ論理でつなぐ ケーススタディ②

■ 指導目標

- SMART目標を設定できる
- 評価→目標→介入を論理的につなげられる
- 根拠を説明できる

■ 指導内容

- SMART目標解説
- 治療計画構造説明
- 長期・短期目標設定
- 介入と根拠作成

21

第6回　評価から治療へ論理でつなぐ ケーススタディ②

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 生活目標を主語にする
- 目標と介入を一致させる
- 根拠を必ず書かせる
- 優先順位を明確にする

■ 成果物の評価方法とポイント

- 評価観点：
  ①生活志向性
  ②論理の一貫性
  ③介入の具体性
  ④説明可能性

22

第6回　評価から治療へ論理でつなぐ ケーススタディ②

■ グループワークの手順

1. ワークシート記入
2. 目標共有
3. 介入の妥当性検討
4. 根拠の明確性確認
5. 全体講評

23



みなさん、今日から国家試験に向けた学習方法の“土台”を整えていきます。この教材は、特別な勉強テクニックを一気に増やすものではなく、「どう学べば、知識が定着して、問題が解けるようになるか」という考え方を確認する内容です。理学療法士・作業療法士の国家試験は、暗記だけで押し切れません。理解して、つなげて、使える形にする。そのための学び方を、ここから一緒に整理していきましょう。

オリエンテーション

国家試験の考え方	勉強方法の違い	意識してほしいこと
どんな試験かを正しく理解する	これまでと何が変わるのか	今日から始められる学び方

今日のゴールは、学習の「考え方」を整えることです。完璧を目指す必要はありません。

このオリエンテーションでは、三つを扱います。
まず「国家試験の考え方」。どんな試験なのかを正しく理解します。
次に「勉強方法の違い」。高校までのテストと何が変わるのかを整理します。
そして最後に「意識してほしいこと」。今日から始められる学び方のコツを紹介します。
今日のゴールは、学習の“考え方”を整えることです。すぐに完璧を目指さなくて大丈夫です。まずは方向性を揃えて、これからの学習が楽になる土台を作りましょう。

国家試験とはどんな試験か

- 国家資格取得のための試験
- 卒業・就職に直結する大切な関門
- 知識だけでなく、理解力も必要



国家試験は、国家資格を取得するための試験で、卒業や就職にも直結する大切な関門です。だからこそ、点数だけではなく「現場で使える理解」が求められます。ここで大事なのは、知識を知っているだけでは足りないということです。用語の意味を説明できるか、状況に合わせて選択肢を選べるか、根拠を持って判断できるか。
こうした理解力が問われます。今日の内容は、その理解力を育てる学び方につながっています。

高校の試験と国家試験の違い



高校の試験	国家試験
・範囲が狭く限定的	・全科目の統合的な理解
・直前の暗記で対応可能	・積み重ねた学習が必要
・授業内容の確認が中心	・応用力・判断力が求められる

これまでの試験とは準備の仕方が違います。
新しい学習スタイルを身につけましょう。

高校の試験は、範囲が比較的狭く、直前の暗記でも対応できることが多いですよね。授業内容の確認が中心になりやすい。一方、国家試験は全科目を統合して理解する必要があります。単元ごとの知識が、別の科目や臨床場面とつながって出題されるので、積み重ねが前提です。さらに応用力や判断力が求められます。つまり準備の仕方が根本的に違うということ。これまでのやり方を少しずつ“国試仕様”に変えていきましょう。

一夜漬け学習の特徴

試験前に一気に覚える
短期間で詰め込む学習

試験後すぐ忘れる
長期記憶に残りにくい

分かったつもりになりやすい
表面的な理解に留まる



一夜漬けは、試験前に一気に覚える、短期間で詰め込む学習です。短期的には点につながることもありますが、試験後すぐ忘れやすく、長期記憶に残りにくいのが弱点です。そして一番怖いのは「分かったつもり」になりやすいこと。表面的に用語が言えるだけで、意味やつながりが理解できていないまま進んでしまいます。国家試験に必要なのは、積み上げて使える知識。まずは一夜漬けのクセが残っていないか、自分の学習を振り返ってみましょう。

なぜ一夜漬けでは受かりにくいのか

用語理解
単なる暗記ではなく、意味の深い理解が必要です

選択肢の違い
似た選択肢の微妙な違いを見極める力

状況判断
実際の場面を想定した応用力

国家試験では、暗記だけでは太刀打ちできない問題が多く出題されます。

なぜ一夜漬けだと受かりにくいのか。理由は大きく三つです。
第一に用語理解。単なる暗記ではなく、意味を深く理解しているかが問われます。
第二に選択肢の違い。似た選択肢の“微妙な差”を見極める力が必要です。
第三に状況判断。実際の場面を想定して、知識をどう使うかが問われます。
国家試験は「覚えたか」より「理解して使えるか」。だからこそ、日々の積み重ねと、理解中心の学び方が大切になります。

国家試験までの学習の流れ



国家試験までの学習は、段階があります。
1年次は基礎理解。まず土台となる知識を作る段階です。
2年次は整理と関連づけ。バラバラの知識をつなぎ合わせて、理解を深めていく段階です。
そして直前期は確認と定着。最終確認をしながら、弱点をつぶして定着させます。

日々の授業が国試につながる理由

1 **授業内容が土台**
すべての基礎となる知識

2 **小テスト・課題で確認**
理解度のチェックポイント

3 **今の学習が後で効く**
積み重ねが実を結ぶ



日々の授業が国試につながる理由を整理します。
まず授業内容は、すべての基礎になる土台です。
次に小テストや課題は、理解度のチェックポイントになります。「できた・できない」を早めに把握できるのが強み。
そして三つ目が、今の学習が後で効くということ。積み重ねは、直前期の負担を大きく減らします。
逆に、授業が“その場だけ”になってしまうと、後で取り返す量が膨大になります。
授業を国試の準備として捉えるだけで、学習の質は変わります。

積み上げ型学習のイメージ

知識は積み木のように、日々積み上げていくことが大切

- 一つひとつ積み上げる
- 抜けがあると崩れやすい
- 早めの整理が重要

基礎がしっかりしていれば、上に積み上げやすくなります。



知識は積み木のように、日々積み上げていくことが大切です。一つひとつ積み上げれば安定しますが、抜けがあると崩れやすい。だから早めの整理が重要になります。ここで言う整理とは、きれいにまとめることではありません。「この用語は何と関係するのか」「どの場面で使うのか」をつなげることです。基礎がしっかりしていれば、上に積み上げるのも楽になります。積み上げ型を意識すると、勉強は“苦行”より“設計”に変わっていきます。

学習方法を早く整えるメリット

焦らなくて済む

余裕を持って学習できる

実習・専門科目が楽

応用がスムーズに

国試直前が楽になる

確認作業に集中できる

学習方法を早く整えるメリットは三つです。
まず焦らなくて済むこと。余裕を持って学習でき、気持ちも安定します。
次に実習や専門科目が楽になること。基礎があると応用がスムーズで、理解に時間がかかりにくい。
そして最後に国試直前が楽になります。直前期は新しいことを増やすより、確認作業に集中できるのが理想です。
つまり、今のうちに学び方を整えるほど、後半の自分が助かる。未来の自分に投資するつもりで、今日から少しずつ変えていきましょう。

ノートは何のために書くのか

- **理解する**
  書くことで頭の中を整理する
- **整理する**
  バラバラの情報をまとめる
- **振り返る**
  後で見返して確認する



ノートは何のために書くのか。目的は三つです。
第一に理解すること。書くことで頭の中を整理し、わかったつもりを減らします。
第二に整理すること。バラバラの情報をまとめて、つながりを見える化します。
第三に振り返ること。後で見返して確認できる状態にする。ここで大事なのは、ノートは“作品”ではなく“道具”だということです。
書いた瞬間に満足するのではなく、見返して理解が深まるか、問題演習で使えるかを基準にして、ノートの書き方を選んでいきましょう。

きれいなノート＝良いノートではない

▼大切なこと

- ・見返して分かるかどうか
- ・理解できているかどうか

▼注意点

- 書くことが目的にならない
- きれいに書きすぎない
- 時間をかけすぎない



きれいなノートが、必ずしも良いノートとは限りません。
大切なのは、見返して分かるかどうか、理解できているかどうかです。
注意したいのは、書くことが目的になってしまうこと。丁寧に色分けして満足しても、内容が説明できなければ学習効果は薄いです。
きれいに書きすぎない、時間をかけすぎない、これもポイントです。
ノートは勉強を助けるツールなので、完成度より“使えるか”を優先しましょう。自分が復習するときに役立つ形が、あなたにとっての正解です。

書きすぎないノートの考え方

板書を全部写さない
重要なポイントだけをメモ

キーワード中心にする
文章ではなく単語で記録

後から書き足す
授業後に補足を追加

書きすぎないノートの考え方です。
まず板書を全部写さない。重要なポイントだけをメモします。
次にキーワード中心にする。文章で長々と書くより、単語で記録して、説明は口頭で言える状態を目指します。
そして最後に後から書き足す。授業中は最低限、授業後に補足を追加する方が効率的です。
ノートは「授業中に完結させるもの」ではなく「復習で育てるもの」。この考え方に変えると、ノート作りに追われず、理解に時間を回せるようになります。

理解を深めるノートのまとめ方

図・表・矢印を使う

視覚的に理解しやすくする

用語の関係性を示す



つながりを見える化する

「なぜ？」を残す



疑問点を書き留める

理解を深めるノートのまとめ方のコツは三つです。
まず図・表・矢印を使って、視覚的に整理すること。
次に用語の関係性を示すこと。例えば原因と結果、構造と機能、疾患と症状などの“つながり”を見える化します。
そして三つ目が「なぜ？」を残すこと。疑問点を書き留めておけば、復習の出発点になります。
ノートは情報を写す場ではなく、理解の地図を作る場です。つながりと疑問を残すことで、ただの暗記から一段上の学習に進めます。

復習しやすいノートとは

余白がある



後から書き込めるスペースを残す

見返しやすい



どこに何があるか分かりやすい

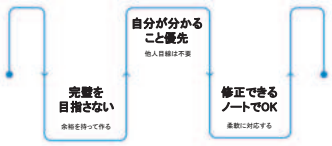
テスト前に使える



確認ツールとして機能する

復習しやすいノートの条件は、余白があること、見返しやすいこと、テスト前に使えることです。
余白があると、後から書き込めるので学びが更新できます。
見返しやすいとは、どこに何があるか分かる状態。見出し、番号、囲みなどで整理しておくと探しやすくなります。
そしてテスト前に使えるとは、確認ツールとして機能するということ。
つまり、問題演習の前後で見て「何が弱いか」が分かるノートが理想です。きれいさより、復習で使える設計を意識しましょう。

ノートまとめのポイント整理



覚えておいてほしいこと

ノート作りに時間をかけすぎないようにしましょう。
あくまで学習を助けるツールです。

自分なりの工夫を少しずつ加えていけば大丈夫です。

ノートまとめのポイントを整理します。
まず完璧を目指さない。余裕を持って作ることが大事です。
次に修正できるノートでOK。最初から完成形にしようとせず、理解が進むたびに書き換える前提で作ります。
そして自分が分かること優先。他人目線は不要です。覚えておいてほしいのは、ノート作りに時間をかけすぎないこと。
ノートはあくまで学習を助けるツールです。少しずつ自分なりの工夫を加えながら、使いやすい形に育てていきましょう。



自己調整学習とは

自分で学習を管理する力

何を・いつ・どう学ぶかを自分で決める

受け身からの脱却

指示待ちではなく主体的に動く

これからは、自分で考えて学習を進める力が求められます。

ここから自己調整学習です。自己調整学習とは、自分で学習を管理する力のこと。
何を、いつ、どう学ぶかを自分で決めて進めます。
ポイントは「受け身からの脱却」。指示待ちではなく、主体的に動くことです。
国家試験に向けた学習は、誰かが完璧に管理してくれるわけではありません。だからこそ、自分の弱点を把握し、計画を立て、振り返って改善する力が必要になります。
この後のスライドで、受け身学習との違いと、基本サイクルを確認していきます。

受け身の学習との違い

受け身学習	自己調整学習
	
・言われたことだけやる	・自分で計画を立てる
・課題をこなすだけ	・目的を持って取り組む
・振り返らない	・定期的に振り返る
・分からなくても放置	・分からないことを確認する

受け身学習は、言われたことだけやる、課題をこなすだけ、振り返らない、分からなくても放置しがち、という特徴があります。これだと“やった感”は出ても、伸びにくい。
一方、自己調整学習は、自分で計画を立て、目的を持って取り組み、定期的に振り返り、分からないことを確認します。
つまり、学習を自分で運転するイメージです。国家試験では、この差が直前期に大きく出ます。今日からは、課題やテストを「こなすもの」ではなく、「改善の材料」として扱う意識に変えていきましょう。

学習の基本サイクル

目標
何を学ぶか決める

学習
実際に取り組む

次に活かす
改善点を見つける

振り返り
できたか確認する



このサイクルを回すことで、学習の質が少しずつ高まります。

学習の基本サイクルは、目標→学習→振り返り→次に活かす、です。
まず目標で「何を学ぶか」を決めます。
次に学習で実際に取り組む。
そして振り返りで「できたか」を確認し、最後に次に活かすで改善点を見つけます。
このサイクルを回すことで、学習の質は少しずつ高まります。大切なのは、振り返りを省略しないこと。やりっぱなしは成長しにくいです。
小さくても良いので、毎週、毎単元でサイクルを回す習慣を作ると、国試対策が安定していきます。

テスト・課題の活かし方

- **点数だけで終わらせない**
  結果の背景を考える
- **間違えた理由を見る**
  なぜ間違えたかを分析する
- **次につなげる**
  同じミスを繰り返さない工夫



テストや課題は、点数だけで終わらせないことが重要です。結果の背景を考えて、「なぜこの点数だったのか」を言語化しましょう。
次に、間違えた理由を見る。単に答えを覚えるのではなく、なぜ間違えたかを分析します。知識不足なのか、理解不足なのか、問題文の読み違いなのかをしっかりと整理することが重要です。
最後に次につなげる。同じミスを繰り返さない工夫を考えます。例えば、弱点一覧を作る、ノートに「引っかかった理由」を残す、似た問題を追加で解く、など。
テストは評価ではなく、成長のためのデータです。

メンタルブロックとは

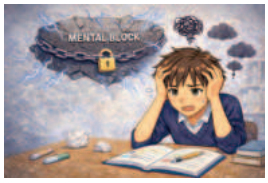
勉強を止める考え方

学習を妨げる心の壁のこと。

「もうダメだ」「無理だ」という思い込みが、実際の能力以上に行動を制限してしまう。

▼大切なこと

- 誰にでも起こり得ることであること。
- 完全に無くすことは難しい。
- 対処法はある。



メンタルブロックとは、勉強を止めてしまう考え方、学習を妨げる心の壁のことです。「もうダメだ」「無理だ」という思い込みが、実際の能力以上に行動を制限してしまいます。
ここで大切なのは三点。
まず、誰にでも起こり得ることだということ。
次に、完全になくすのは難しいこと。
そして、対処法はあることです。
つまり、メンタルブロックが出たら自分を責めるのではなく、「今はブロックが出てるな」と気づいて対処する。これが学習を継続するコツになります。



メンタルブロック例

覚えられない	時間がない	自分には無理
記憶力に自信がない	忙しくて手が回らない	能力不足だと感じる

こうした考えは多くの人が経験します。あなただけではありません。

メンタルブロックの例を見てみます。
「覚えられない、記憶力に自信がない」「時間がない、忙しくて手が回らない」「自分には無理、能力不足だと感じる」。
こうした考えは、多くの人が経験します。あなただけではありません。重要なのは、この考えが出たときに学習が止まることです。
つまり問題は“気持ち”というより“行動が止まる”こと。だから、ブロックが出たら、今できる最小の行動に落とし込む工夫が必要になります。次のスライドで具体的な対処を紹介します。

メンタルブロックへの対処

完璧を目指さない	小さく進める	続けること重視
60点でOKという気持ち	5分だけ、1ページだけでも	毎日少しずつが大切

大きな目標ではなく、小さな一歩を積み重ねましょう。

メンタルブロックへの対処は、三つの方針です。
まず完璧を目指さない。「60点でOK」という気持ちで始めます。
次に小さく進める。5分だけ、1ページだけでもいい。ハードルを下げると着手できます。
そして続けること重視。毎日少しずつが大切です。
大きな目標は立派ですが、ブロックが強いときは逆に重くなります。だから「今日はここまでできた」を積み重ねる。学習は、気合より仕組みです。小さな一歩を積み重ねることで、結果的に大きく前に進めます。

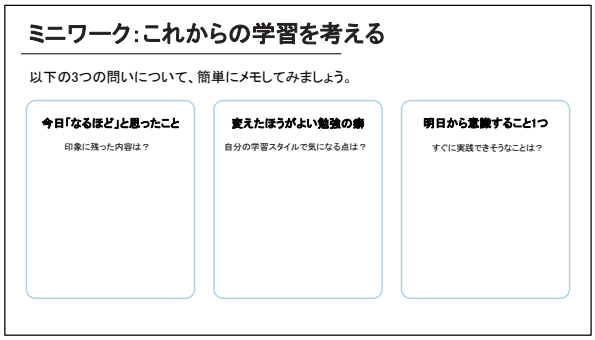
振り返り

1	2	3
一夜漬けに頼らない	ノートは理解のため	自分で調整する
		
積み上げ型学習で確実に	きれいさより使いやすさ	主体的に学習を管理

ここまでの振り返りです。
第一に、一夜漬けに頼らない。積み上げ型学習で確実に力をつける。
第二に、ノートは理解のため。きれいさより使いやすさを優先する。
第三に、自分で調整する。主体的に学習を管理する自己調整学習の考え方です。
どれも特別な才能が必要な話ではなく、今日から少しずつ実践できます。まずは一つでいいので「これならできそう」を選んでください。次のスライドでは、今日から意識してほしいスタンスをまとめます。



今日から意識してほしいことは三つです。
まず、完璧でなくていい。少しずつ改善していけば大丈夫です。
次に、まずは知っているだけでOK。今日学んだことを覚えておくだけでも前進です。
そして、少しずつ変える。急に全部変える必要はありません。学習は生活習慣に近いので、一気に変えようとすると続きにくいです。例えば、ノートをキーワード中心にする、テストの見直しを5分だけやる、毎週振り返りを一回入れる。
こうした"小さな変更"を積み重ねるのが、最短で安定する方法です。



ここでミニワークです。これからの学習を考えるために、三つの問いに答えてください。
1つ目、今日「なるほど」と思ったこと。印象に残った内容は何でしたか。
2つ目、変えたほうがよい勉強の癖。自分の学習スタイルで気になる点はどこですか。
3つ目、明日から意識すること1つ。すぐ実践できそうなことを一つ決めましょう。
ポイントは、立派な目標ではなく、実行できる一歩にすることです。メモは短くてOK。自分の行動に落とし込みましょう。



ミニワークのまとめです。全部できなくて大丈夫。無理に全てを変える必要はありません。大事なのは、1つ意識するだけでOKということです。小さな変化から始めましょう。
そして次の授業につなげる。今日学んだことを、少しずつ実践してみてください。例えば、授業後に疑問点を一つ書く、課題のミス理由を一言残す、復習ノートに余白を作る。
こうした小さな工夫が、積み上げ型学習を現実にしてくれます。継続できる形に整えることが、合格への近道です。



最後です。今日学んだ学習方法の基礎は、これから始まる長い道のりの第一歩です。暗記より理解を優先し、つながりを作っていきましょう。そして継続する。小さな積み重ねが大きな力になります。
さらに助け合う。仲間と一緒に学ぶことで、続けやすくなり、理解も深まります。国家試験は一人で戦うように見えて、実はチームの力も大きい試験です。みなさんの合格を心から応援しています。
一緒に、今日の一歩を明日に、そして合格につなげていきましょう。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人学校法人智帆学園琉球リハビリテーション学院が実施した令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和７年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

医療福祉分野における専門学校と高等学校の先端技術を活用したキャリア教育連携プログラムの開発に関する実証研究事業

事業成果報告書

令和８年３月

学校法人智帆学園　琉球リハビリテーション学院
